

団体調査

I. 企業向け調査

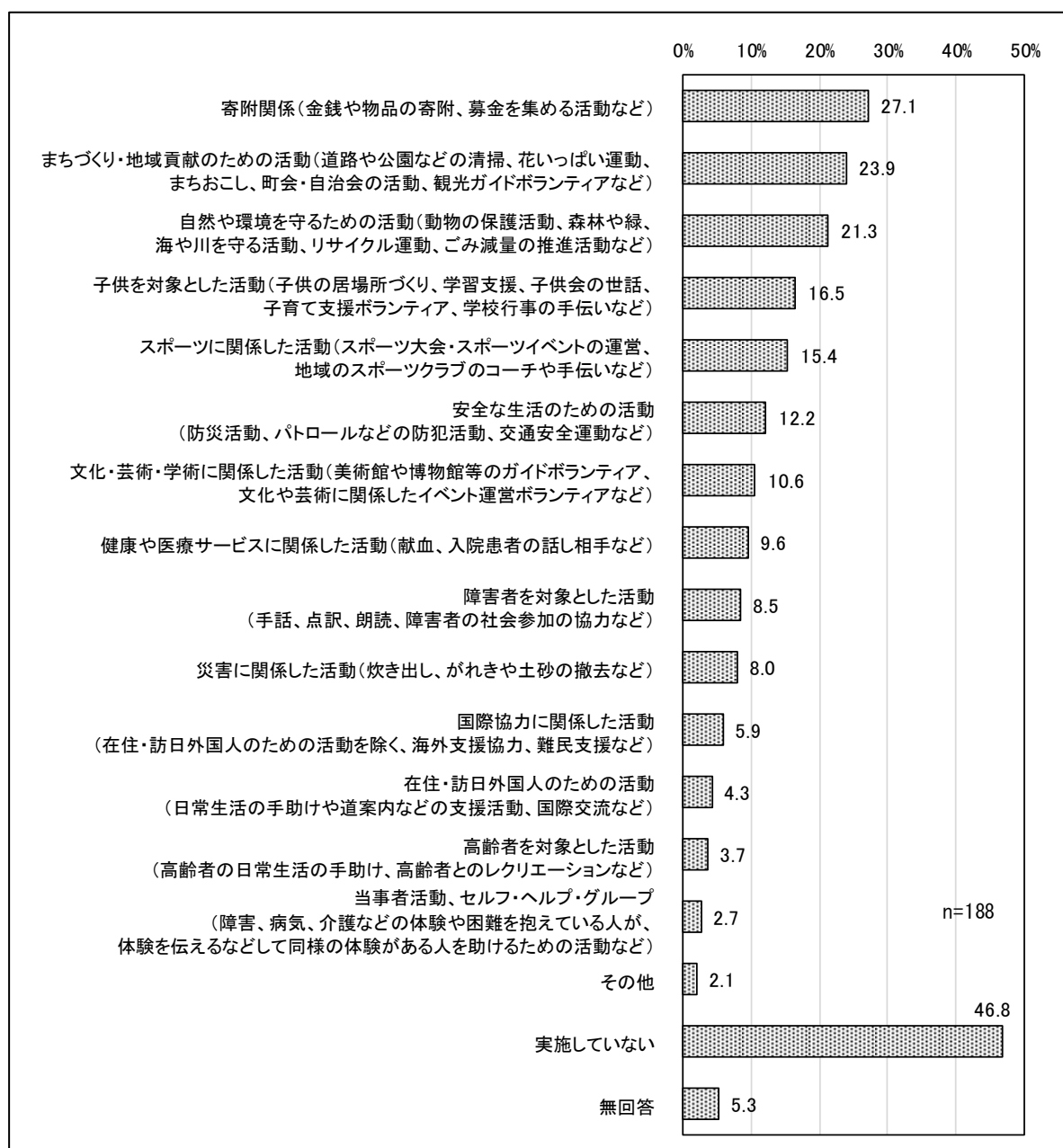
1 ボランティア活動について

1-1 実施しているボランティア活動

Q1 貴社が社会貢献活動として実施しているボランティア活動等※で、当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

※名称にかかわらず、報酬を目的としない社会貢献活動と考えてください

図表 I-1. 実施しているボランティア活動

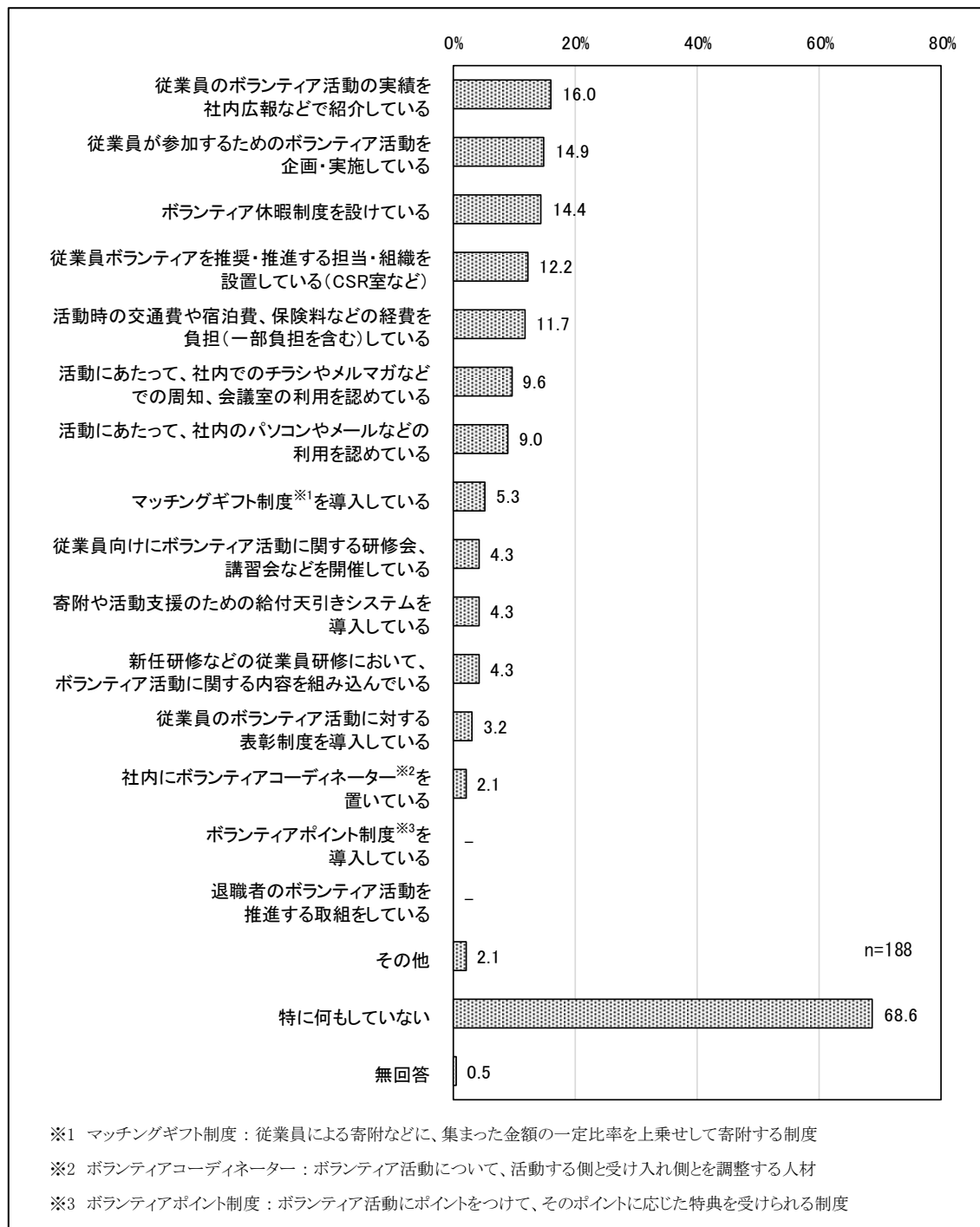


実施しているボランティア活動のうち、「寄附関係」が27.1%で最も高かった。次いで、「まちづくり・地域貢献のための活動」が23.9%、「自然や環境を守るための活動」が21.3%であった。また、「実施していない」は46.8%であった。

1-2 ボランティア活動の推奨・推進のためにやっているもの

Q2 従業員（常勤に限る）のボランティア活動を推奨・推進するためにやっているもので、当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表 I-2. ボランティア活動の推奨・推進のためにやっているもの



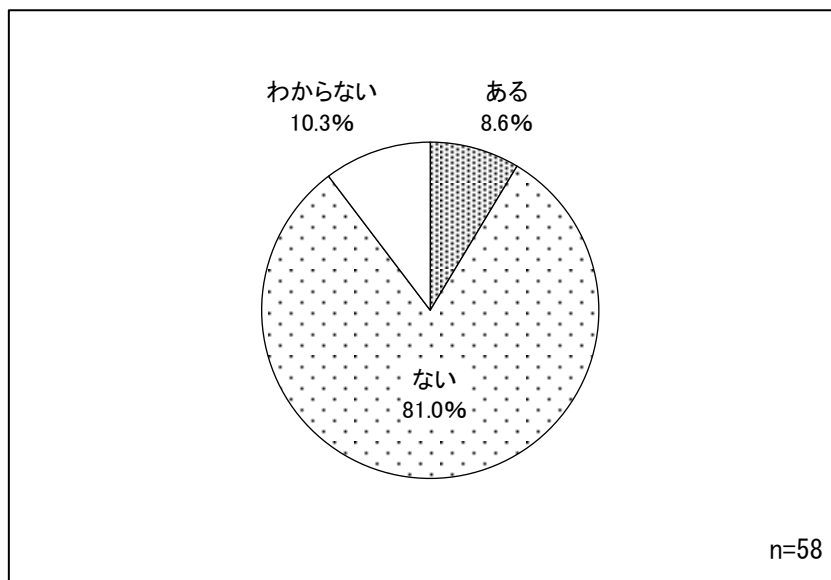
従業員のボランティア活動の推奨・推進のためにやっているもののうち、「従業員のボランティア活動の実績を社内広報などで紹介している」が16.0%で最も高かった。次いで、「従業員が参加するためのボランティア活動を企画・実施している」が14.9%、「ボランティア休暇制度を設けている」が14.4%であった。また、「特に何もしていない」は68.6%であった。

1-3 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の波及効果

(Q2 で 1～16 と答えた方)

Q3 選択した取組のうち、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、新たに開始もしくは充実したものはありますか。(単一回答)

図表 I-3. 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の波及効果



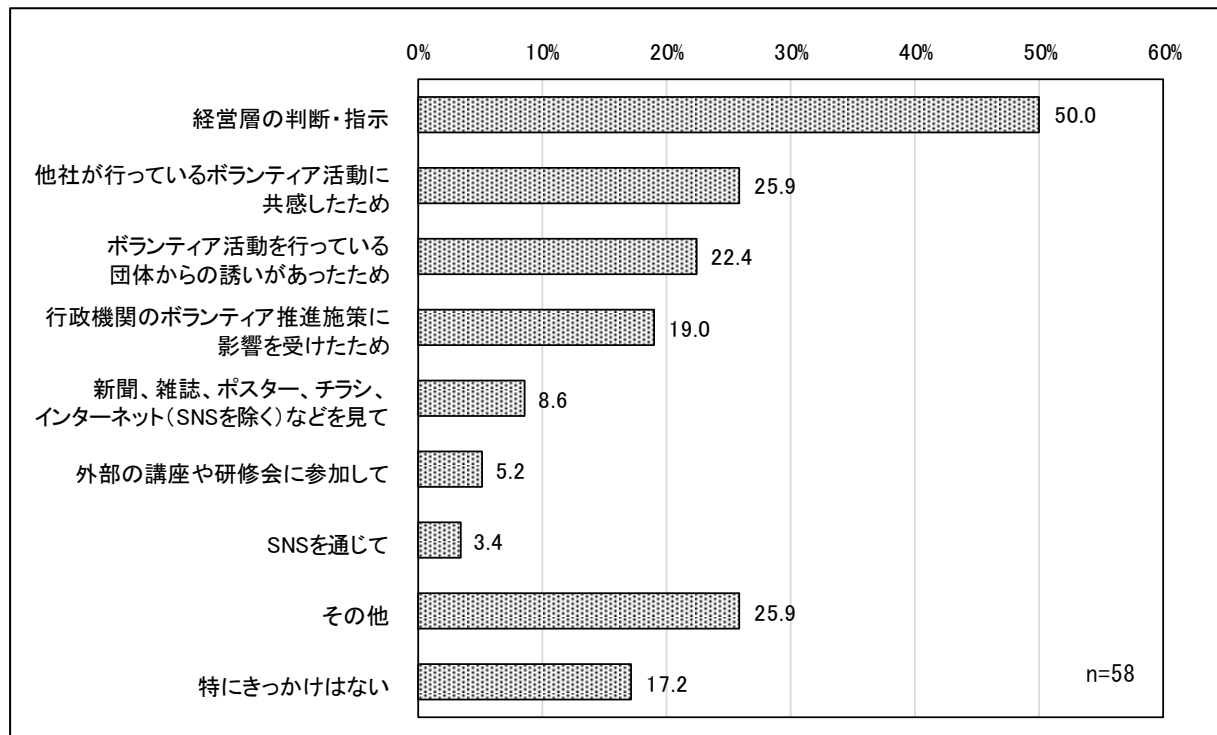
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、新たに開始もしくは充実したものは、「ある」が8.6%、「ない」が81.0%であった。

1-4 ボランティア活動の推奨・推進の取組を始めたきっかけ

(Q2 で 1～16 と答えた方)

Q4 従業員のボランティア活動を推奨・推進する取組を始めたきっかけについて、当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

図表 I-4. ボランティア活動の推奨・推進の取組を始めたきっかけ



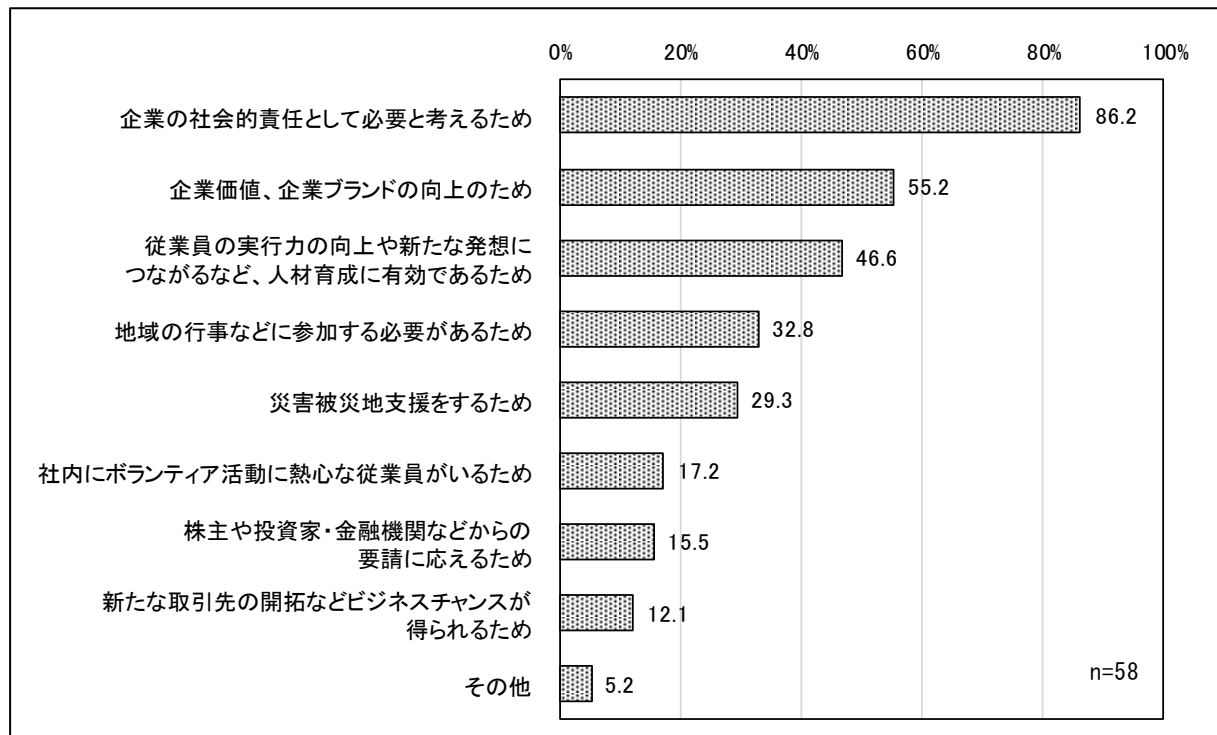
ボランティア活動の推奨・推進の取組を始めたきっかけは、「経営層の判断・指示」が 50.0% で最も高かった。次いで、「他社が行っているボランティア活動に共感したため」が 25.9%、「ボランティア活動を行っている団体からの誘いがあったため」が 22.4%であった。

1-5 ボランティア活動の推奨・推進に取り組む理由

(Q2 で 1～16 と答えた方)

Q5 従業員のボランティア活動の推奨・推進に取り組んでいる理由について、当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

図表 I-5. ボランティア活動の推奨・推進に取り組む理由



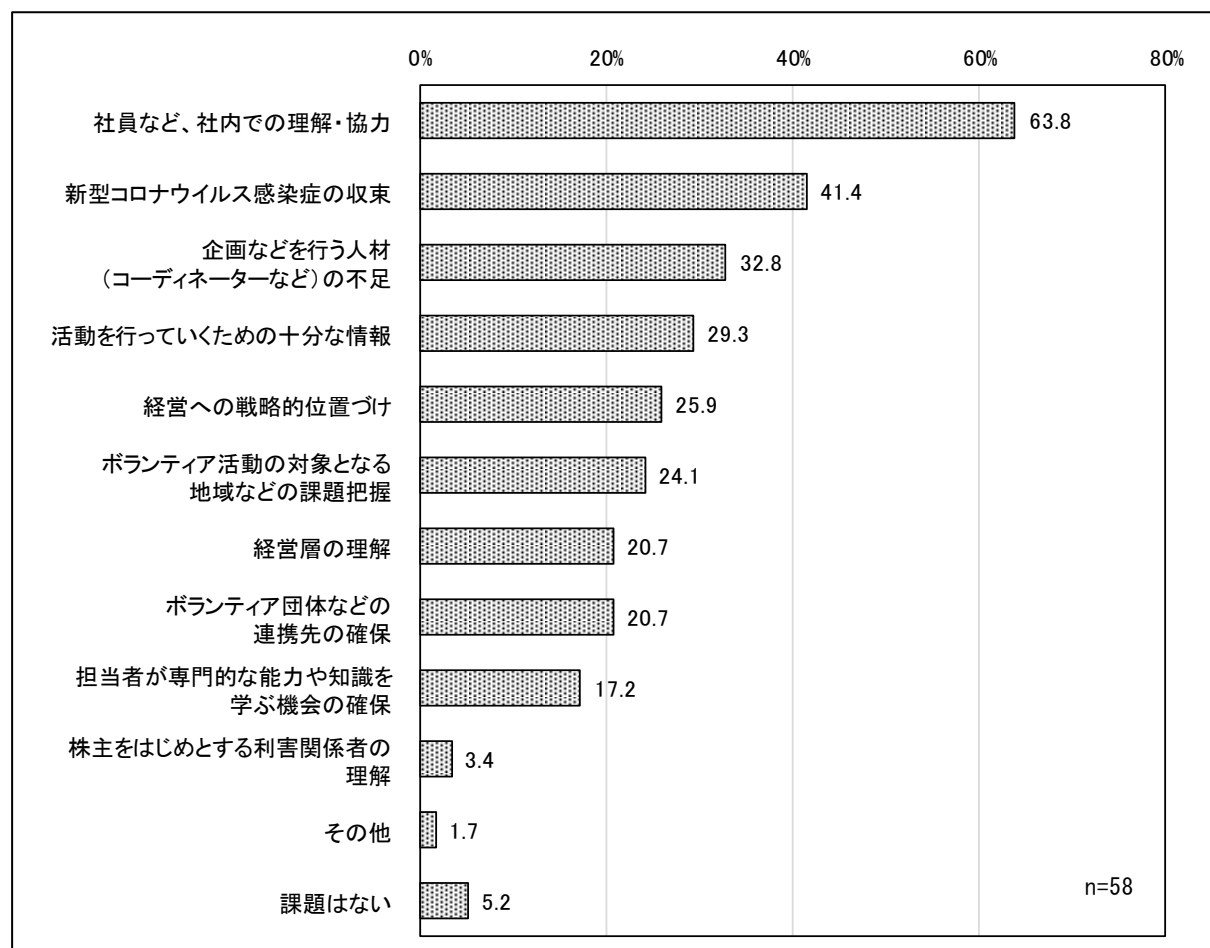
ボランティア活動の推奨・推進に取り組む理由は、「企業の社会的責任として必要と考えるため」が 86.2% で最も高かった。次いで、「企業価値、企業ブランドの向上のため」が 55.2%、「従業員の実行力の向上や新たな発想につながるなど、人材育成に有効であるため」が 46.6% であった。

1-6 ボランティア活動を進める上での課題

(Q2 で 1～16 と答えた方)

Q6 今後、従業員のボランティア活動を進めていくにあたり、課題と考えていることはありますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

図表 I-6. ボランティア活動を進める上での課題



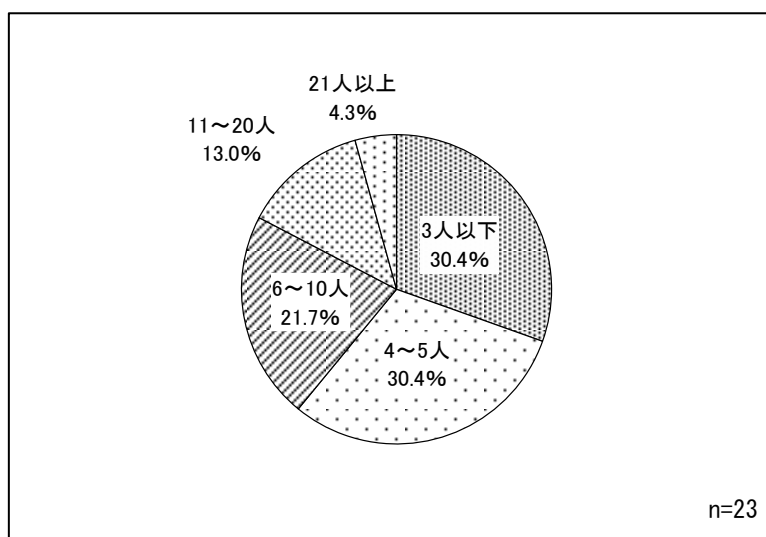
ボランティア活動を進める上での課題は、「社員など、社内での理解・協力」が 63.8% で最も高かった。次いで、「新型コロナウイルス感染症の収束」が 41.4%、「企画などを行う人材の不足」が 32.8% であった。

1-7 ボランティア活動を推奨・推進する組織の構成人数、経営層の関与

(Q2で「1. 従業員ボランティアを推奨・推進する担当・組織を設置している（CSR室など）」と答えた方）

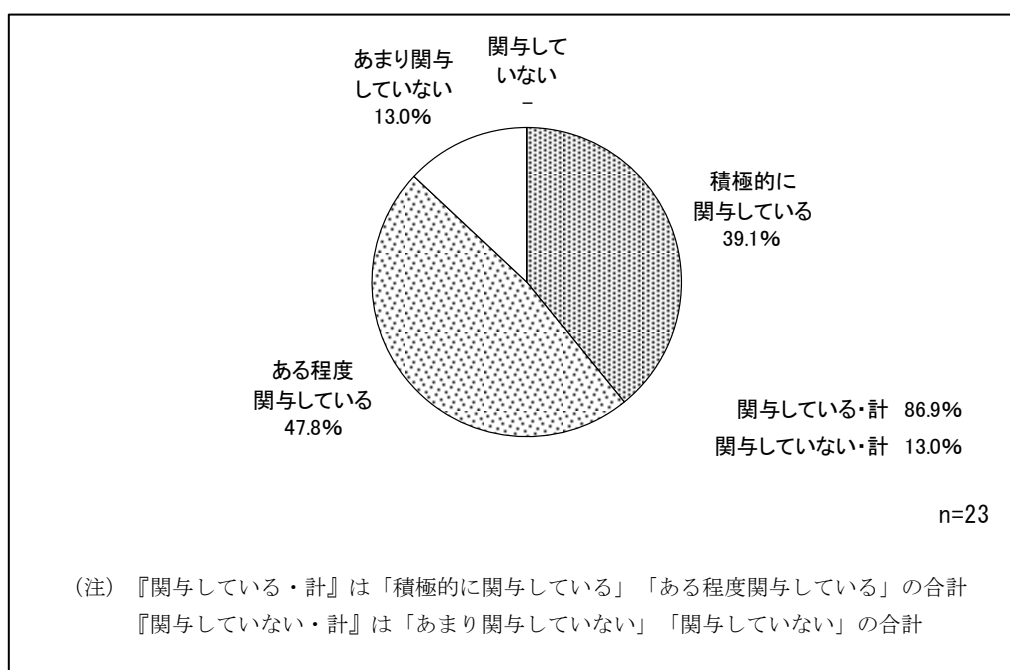
Q7 従業員のボランティア活動を推奨・推進する組織の構成人数と、当該組織などへの経営層（担当役員など）の関与についてお答えください。（各単一回答）

図表 I-7. ボランティア活動を推奨・推進する組織の構成人数



ボランティア活動を推奨・推進する組織の構成人数は、「3人以下」と「4～5人」がいずれも30.4%、「6～10人」が21.7%、「11～20人」が13.0%、「21人以上」が4.3%であった。

図表 I-8. ボランティア活動を推奨・推進する組織への経営層の関与



ボランティア活動を推奨・推進する組織への経営層の関与は、「積極的に関与している」が39.1%、「ある程度関与している」が47.8%、「あまり関与していない」が13.0%であった。

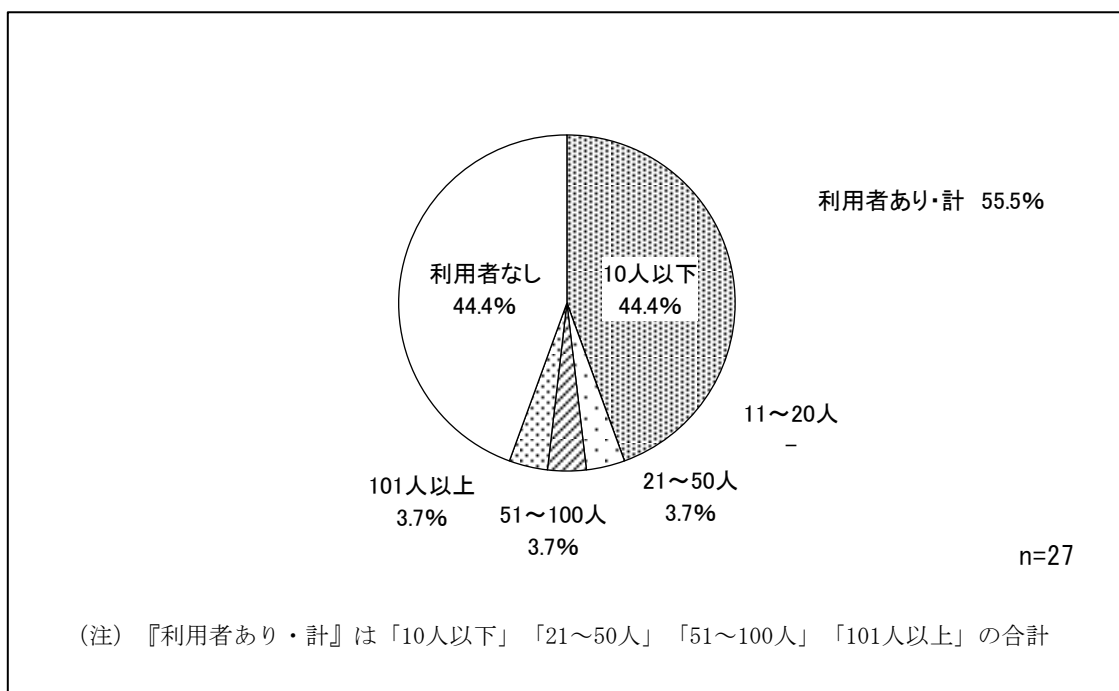
1－8 ボランティア休暇制度を利用した従業員数

(Q2 で「2. ボランティア休暇制度を設けている」と答えた方)

Q8 ボランティア休暇制度を直近の 1 年間で利用したことがある従業員は何人ですか。(単一回答)

注：直近で取りまとめた 1 年間の休暇利用状況であれば、期間はいつでも結構です。

図表 I-9. ボランティア休暇制度を利用した従業員数



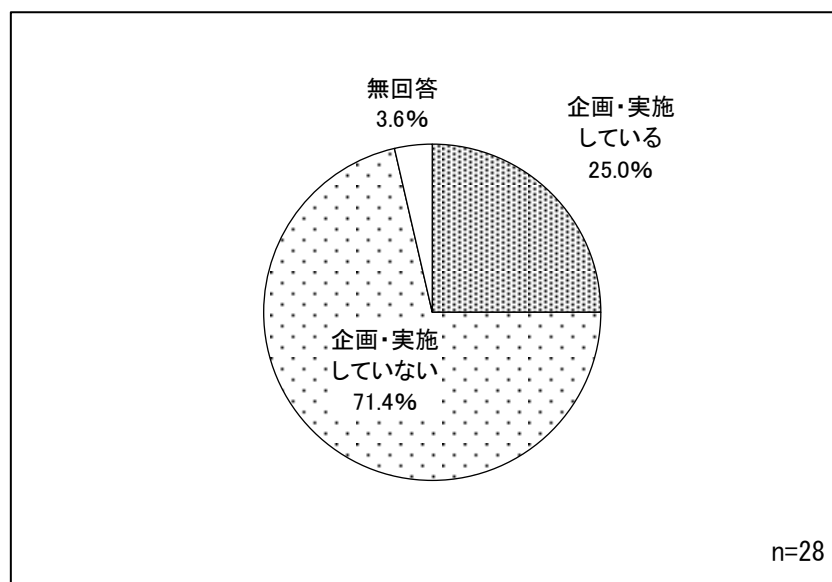
直近 1 年間でボランティア休暇制度を利用した従業員数は、「10 人以下」が 44.4%、「21～50 人」と「51～100 人」と「101 人以上」がいずれも 3.7%、「利用者なし」が 44.4%であった。

1-9 プロボノの企画・実施の有無と実施している専門性

(Q2で「5. 従業員が参加するためのボランティア活動を企画・実施している」と答えた方)

Q9 従業員の専門性（職業を通じて培った技能や知識、経験など）を活かしたボランティア活動（プロボノ）を企画・実施していますか。（単一回答）

図表 I-10. プロボノの企画・実施の有無



プロボノの企画・実施の有無は、「企画・実施している」が25.0%、「企画・実施していない」が71.4%であった。実施している団体の具体的な専門性は以下のとおり。

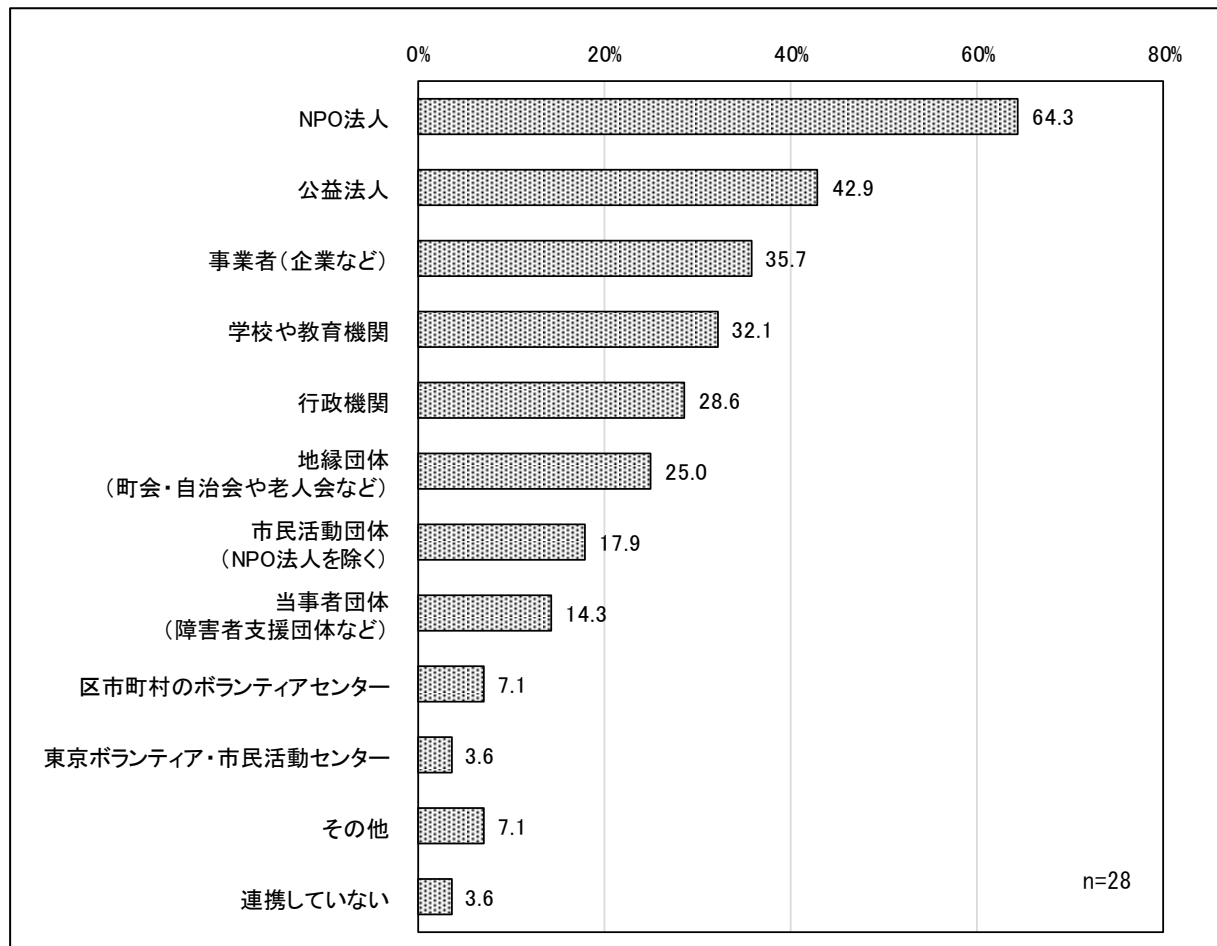
記述内容
組織運営、課題解決など
ICTスキル・ネットリテラシー
子供達へ税について教えている。
・当社に多く在籍している理美容師のスキル ・事業と一体となり推進しているCSR経営の考え方（外部講義の実施等。）
近隣の小学生の事業所訪問受け入れ
健康・栄養に関する知識

1-10 連携団体

(Q2で「5. 従業員が参加するためのボランティア活動を企画・実施している」と答えた方)

Q10 ボランティア活動の企画・実施にあたって、連携して行っている団体があれば、当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

図表 I-11. 連携団体



ボランティア活動の企画・実施にあたって連携している団体は、「NPO 法人」が 64.3%で最も高かった。次いで、「公益法人」が 42.9%、「事業者（企業など）」が 35.7%であった。

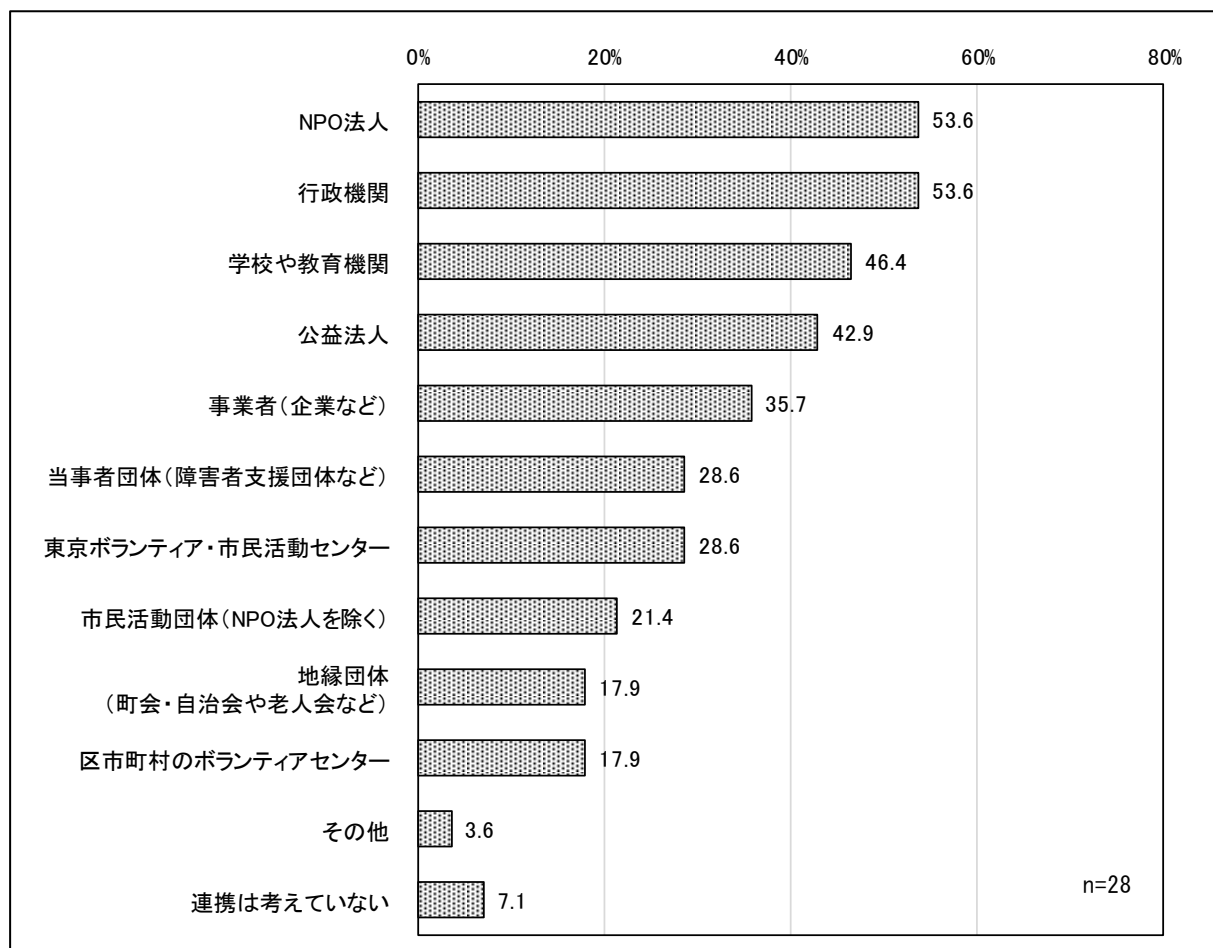
1-11 今後連携したい団体

(Q2で「5.従業員が参加するためのボランティア活動を企画・実施している」と答えた方)

Q11 ボランティア活動の企画・実施にあたって、今後連携したい団体があれば、当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

注：現在、既に連携していて、今後も引き続き連携したい場合も含めてお答えください。

図表 I-12. 今後連携したい団体



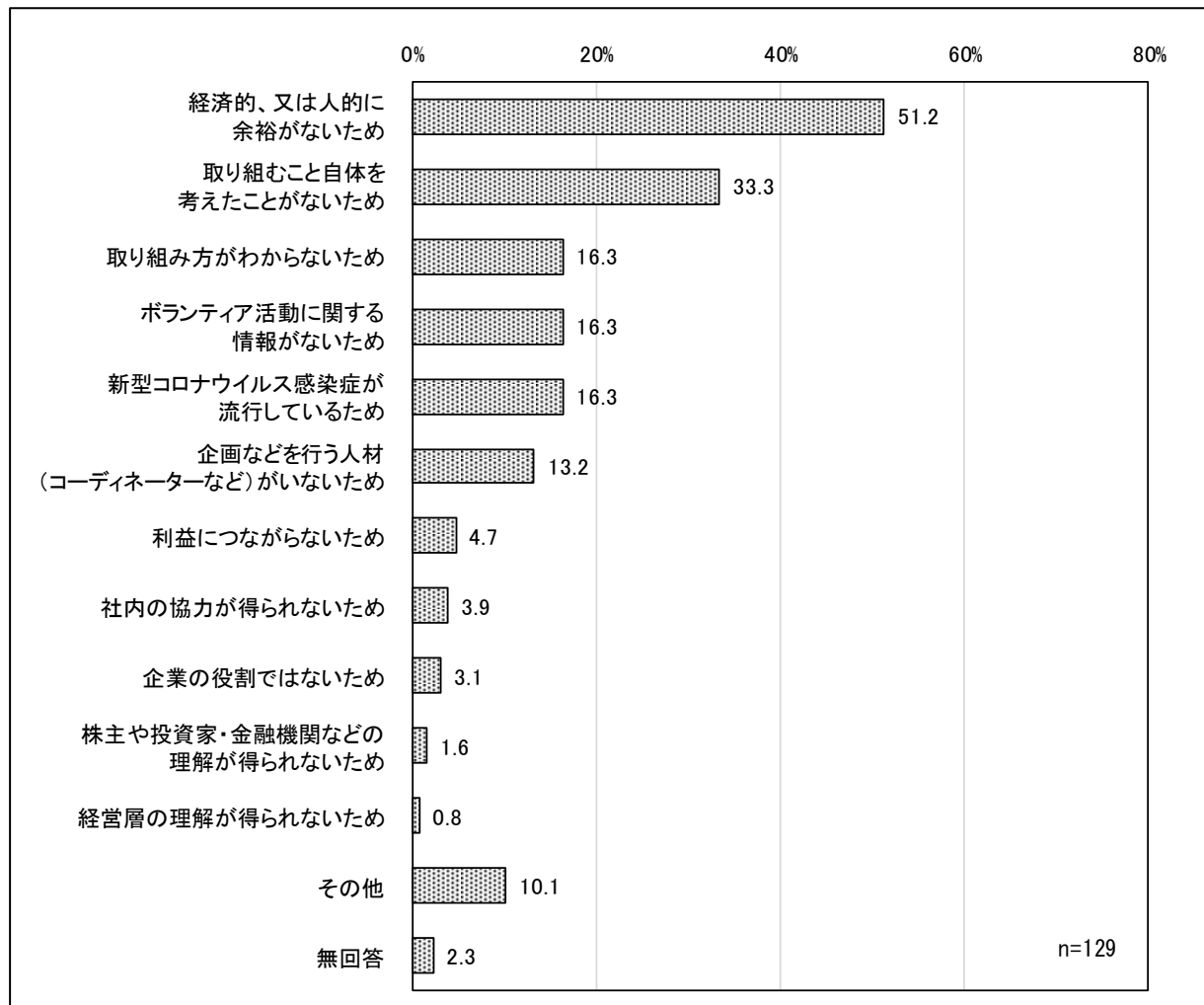
ボランティア活動の企画・実施にあたって、今後連携したい団体は、「NPO法人」と「行政機関」がいずれも53.6%、「学校や教育機関」が46.4%であった。

1-12 ボランティア活動の推奨・推進に取り組んでいない理由

(Q2 で「17. 特に何もしていない」と答えた方)

Q12 従業員のボランティア活動の推奨・推進に取り組んでいない理由について、当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

図表 I-13. ボランティア活動の推奨・推進に取り組んでいない理由



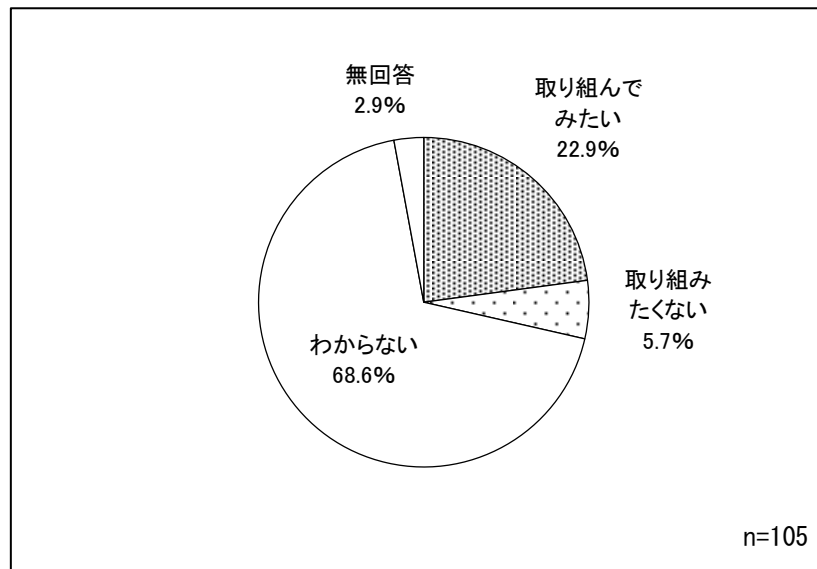
ボランティア活動の推奨・推進に取り組んでいない理由は、「経済的、又は人的に余裕がないため」が51.2%で最も高かった。次いで、「取り組むこと自体を考えたことがないため」が33.3%であった。

1-13 取り組んでいない理由が解決されたときの取組意向

(Q12 で 3～12 と答えた方)

Q13 Q12 で回答した理由が解決されれば、従業員のボランティア活動の推奨・推進に取り組んでみたいと思いますか。(単一回答)

図表 I-14. 取り組まない理由が解決されたときの取組意向

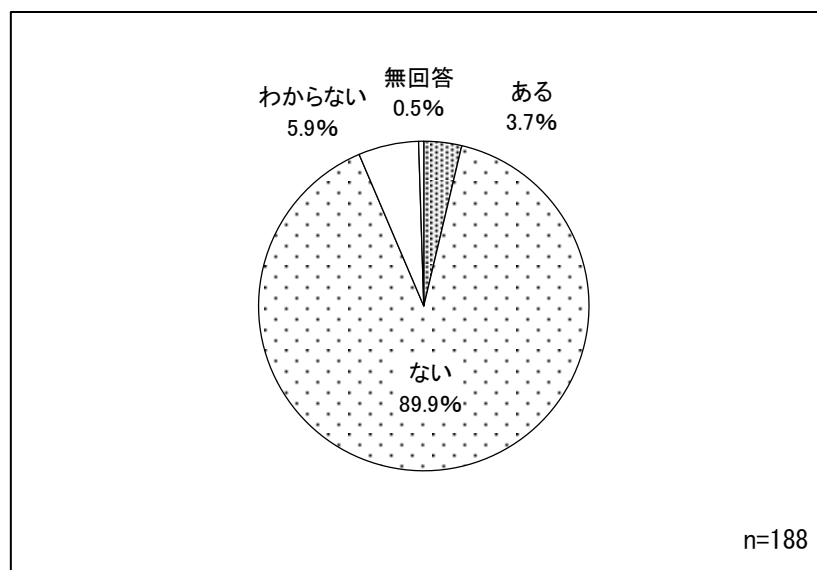


取り組んでいない理由が解決されたときの取組意向は、「取り組んでみたい」が 22.9%、「取り組みたくない」が 5.7%、「わからない」が 68.6%であった。

1-14 従業員によるボランティア活動組織の有無

Q14 貴社には、従業員によって設立・運営されているボランティア活動を行うための組織（サークルなど）がありますか。(単一回答)

図表 I-15. 従業員によるボランティア活動組織の有無



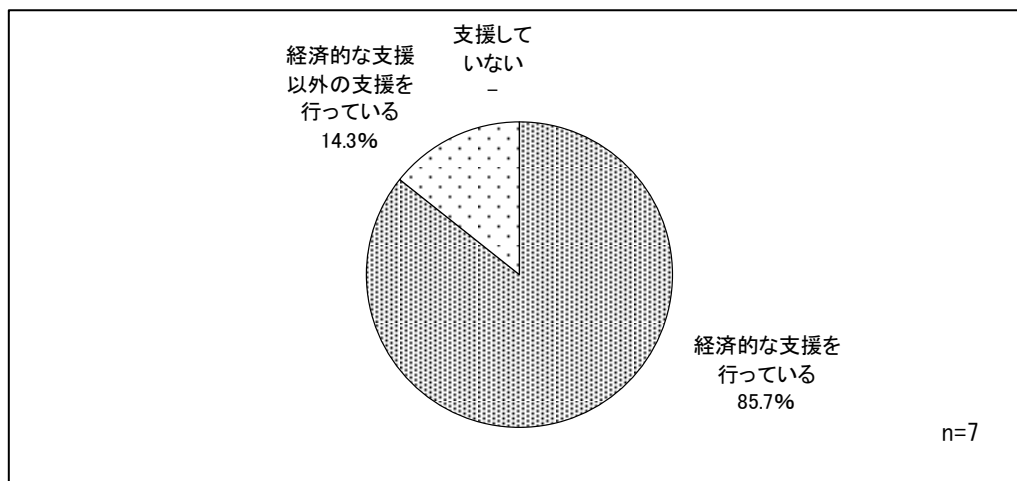
従業員によるボランティア活動組織の有無は、「ある」が 3.7%、「ない」が 89.9%であった。

1-15 従業員によるボランティア活動組織への支援

(Q14 で 1 と答えた方)

Q15 貴社は、従業員によって設立・運営されているボランティア活動を行うための組織（サークルなど）の活動を支援していますか。（単一回答）

図表 I-16. 従業員によるボランティア活動組織への支援

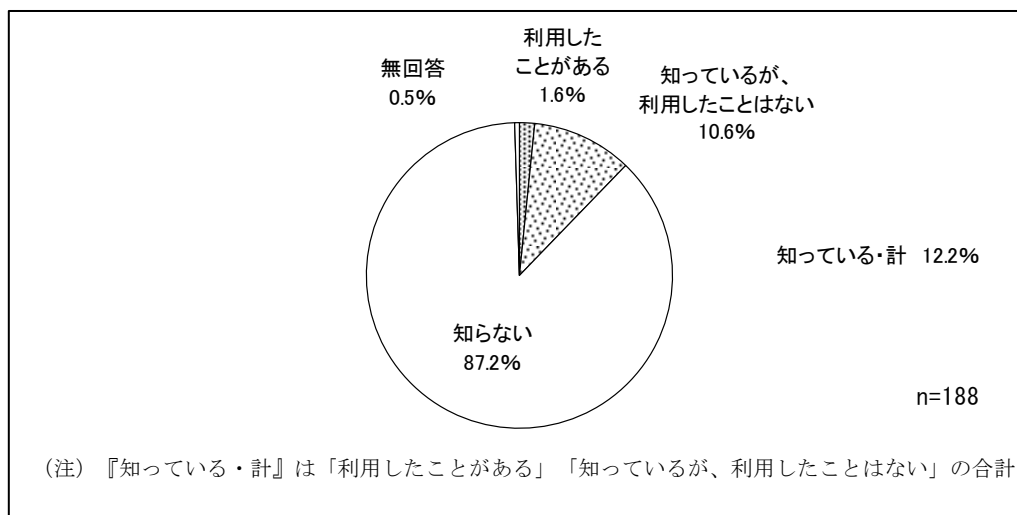


従業員によるボランティア活動組織への支援は、「経済的な支援を行っている」が 85.7%、「経済的な支援以外の支援を行っている」が 14.3%であった。

1-16 東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験

Q16 東京ボランティア・市民活動センター（飯田橋セントラルプラザ内）をご存じですか。また、利用したことはありますか。（単一回答）

図表 I-17. 東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験

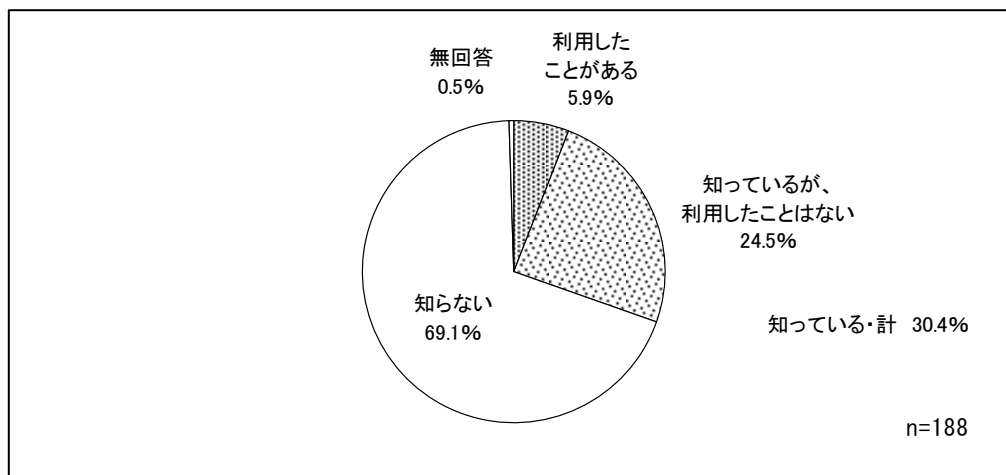


東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験は、「利用したことがある」が 1.6%、「知っているが、利用したことはない」が 10.6%で、この 2 項目を合わせた『知っている・計』は 12.2%であった。一方、「知らない」は 87.2%であった。

1-17 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験

Q17 区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。(単一回答)

図表 I-18. 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験

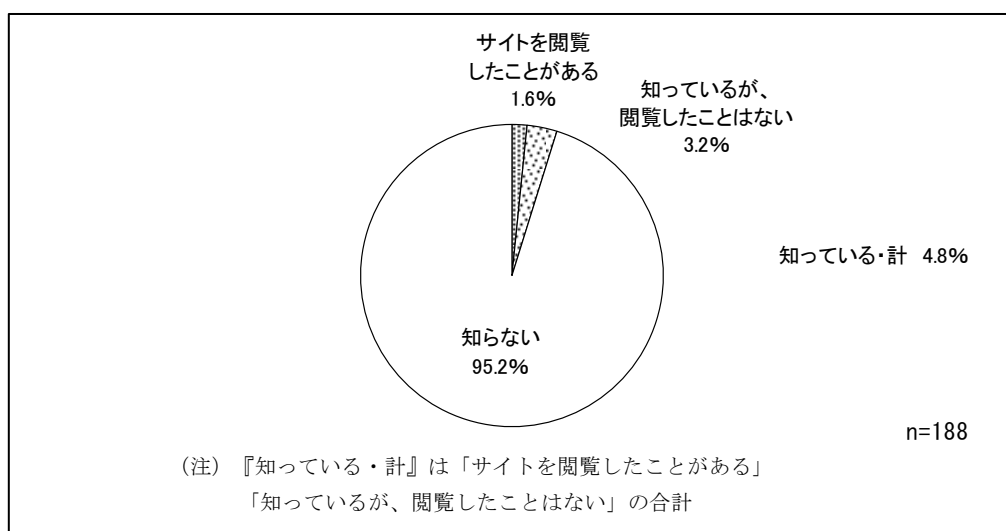


社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験は、「利用したことがある」が 5.9%、「知っているが、利用したことはない」が 24.5%で、この 2 項目を合わせた『知っている・計』は 30.4%であった。一方、「知らない」は 69.1%であった。

1-18 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験

Q18 東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存じですか。また、閲覧したことはありますか。(単一回答)

図表 I-19. 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験



「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験は、「サイトを閲覧したことがある」が 1.6%、「知っているが、閲覧したことはない」が 3.2%で、この 2 項目を合わせた『知っている・計』は 4.8%であった。一方、「知らない」は 95.2%であった。

1-19 今後の取組意向

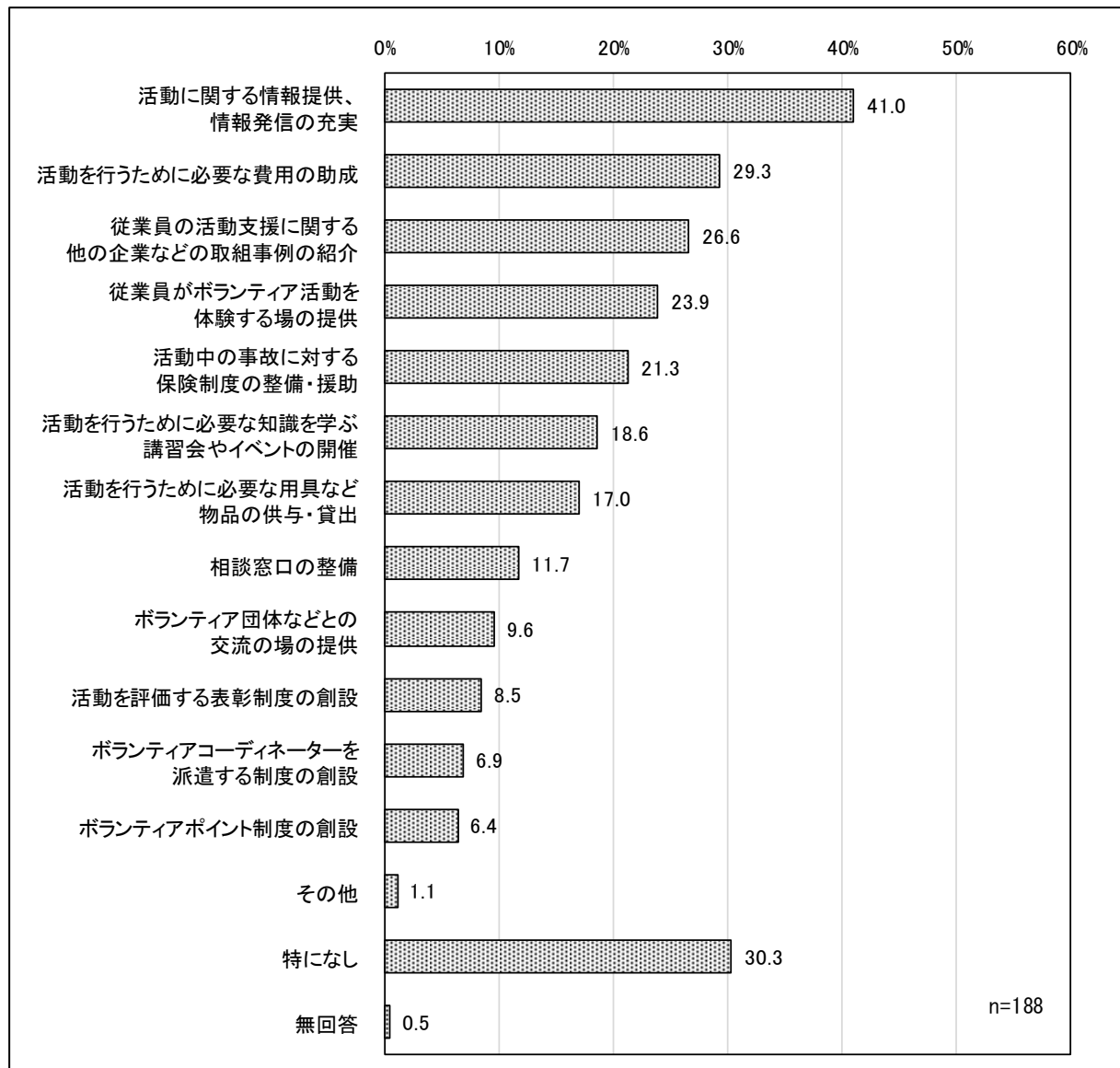
Q19 ボランティア活動に対する今後の取組の意向があれば、ご自由にお書きください。

記述内容
社員参加の裾野を拡げる活動の充実
お金や物資を送って終わり、ではなく、弊社では人と人との気持ちが目に見えて通じる活動に重きを置いているので、今後も本当に困っている方の力になれるような活動に取り組みたいと考えています。
・ 職員のボランティア活動参加に関する啓発活動 ・ 職員に意欲的にボランティア活動に参加してもらうための方法検討 ・ ボランティア活動推進に向けた役員への協力依頼
弊社のCSR活動は、「社会的価値を持った活動」をさらに深め、広げていくことで、お客様や社会からの信頼に基づいた、健全で永続的な企業成長を目指すものです。こうした活動を「事業と一体化した価値共創型CSR」として進めています。グローバルに事業を展開する企業として、SDGsで掲げられる、世界が直面するさまざまな課題と真摯に向き合い、事業を通じた社会課題の解決を図ることで、持続可能な社会の実現に寄与し、持続的な成長を目指していきます。
ボランティア活動に関して、現段階では社員個人の意識に任せている部分が強く、会社としてより社会貢献できるような取り組みを検討していきたい。
町の清掃活動などは、引き続き継続していく予定。
社会的にボランティア活動の認知度が上がれば、社内での取組もしやすくなる。
会社が支援しているスポーツ団体の試合運営に係わるボランティア活動。
SDGs活動の一環として継続していく。
従業員が参加できるボランティア活動のメニューを増加させたい。
従業員教育を経て、社会貢献を中心に組み込んでいけるよう進めたい。
自身が保有する技術と知識を、途上国のために役立てたい。

1-20 ボランティア活動に関して望む支援

Q20 従業員のボランティア活動を推奨・推進するために、どのような支援があったらよいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表 I-20. ボランティア活動に関して望む支援



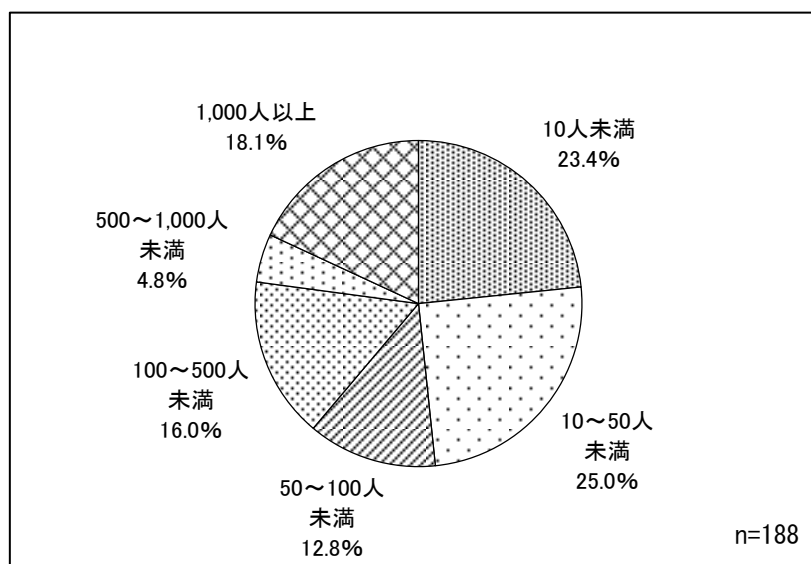
ボランティア活動に関して望む支援のうち、「活動に関する情報提供、情報発信の充実」が41.0%で最も高かった。次いで、「活動を行うために必要な費用の助成」が29.3%、「従業員の活動支援に関する他の企業などの取組事例の紹介」が26.6%であった。また、「特になし」は30.3%であった。

2 会社の概要について

2-1 総従業員数

Q21 貴社の総従業員数は何人ですか。(単一回答)

図表 I-21. 総従業員数

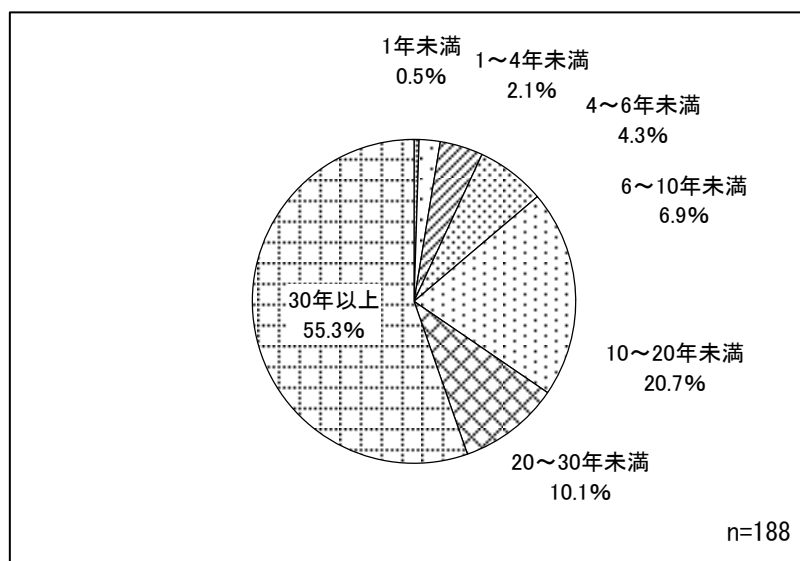


総従業員数は、「10人未満」が23.4%、「10～50人未満」が25.0%、「50～100人未満」が12.8%、「100～500人未満」が16.0%、「500～1,000人未満」が4.8%、「1,000人以上」が18.1%であった。

2-2 設立からの経過年数

Q22 貴社は設立から何年経っていますか。(単一回答)

図表 I-22. 設立からの経過年数

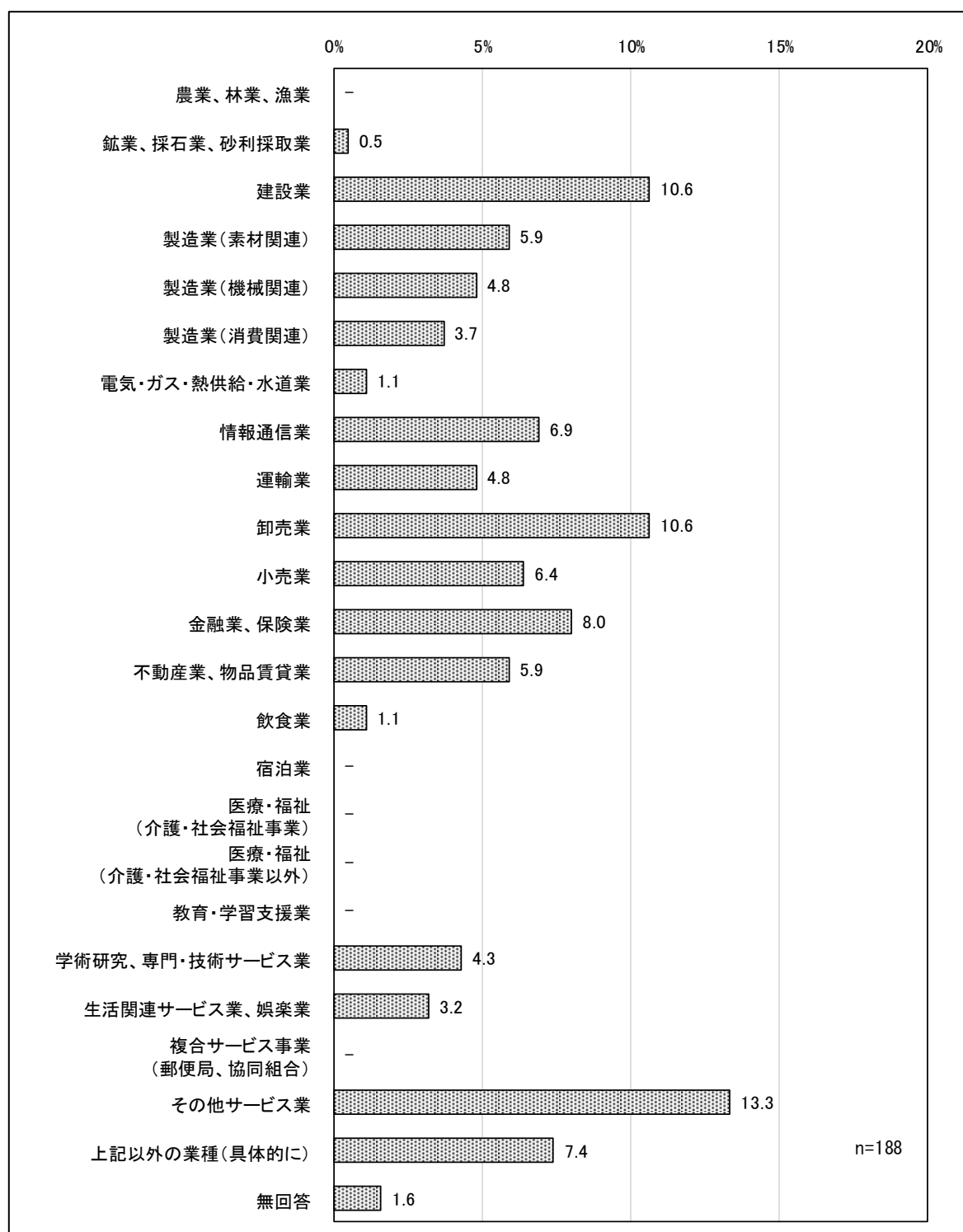


設立からの経過年数は、「1年未満」が0.5%、「1～4年未満」が2.1%、「4～6年未満」が4.3%、「6～10年未満」が6.9%、「10～20年未満」が20.7%、「20～30年未満」が10.1%、「30年以上」が55.3%であった。

2-3 業種

Q23 貴社の業種は何ですか。複数該当する場合は、最も売上高が大きいものについてお答えください。(単一回答)

図表 I-23. 業種

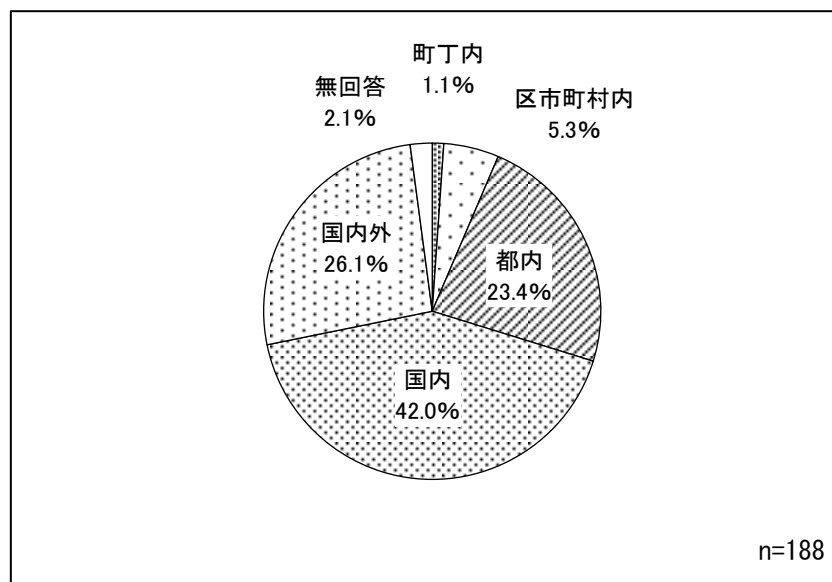


業種は、「建設業」と「卸売業」がいずれも 10.6%で、「その他サービス業」が 13.3%であった。

2-4 事業を行っている地域

Q24 貴社が事業を行っている地域についてお答えください。(単一回答)

図表 I-24. 事業を行っている地域

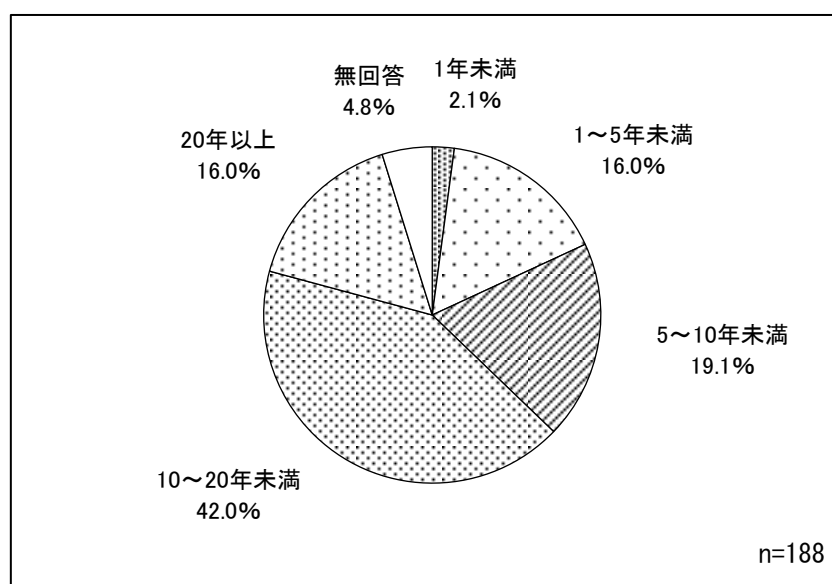


事業を行っている地域は、「町丁内」が 1.1%、「区市町村内」が 5.3%、「都内」が 23.4%、「国内」が 42.0%、「国内外」が 26.1%であった。

2-5 従業員の平均勤続年数

Q25 貴社の従業員の平均勤続年数は何年ですか。(単一回答)

図表 I-25. 従業員の平均勤続年数

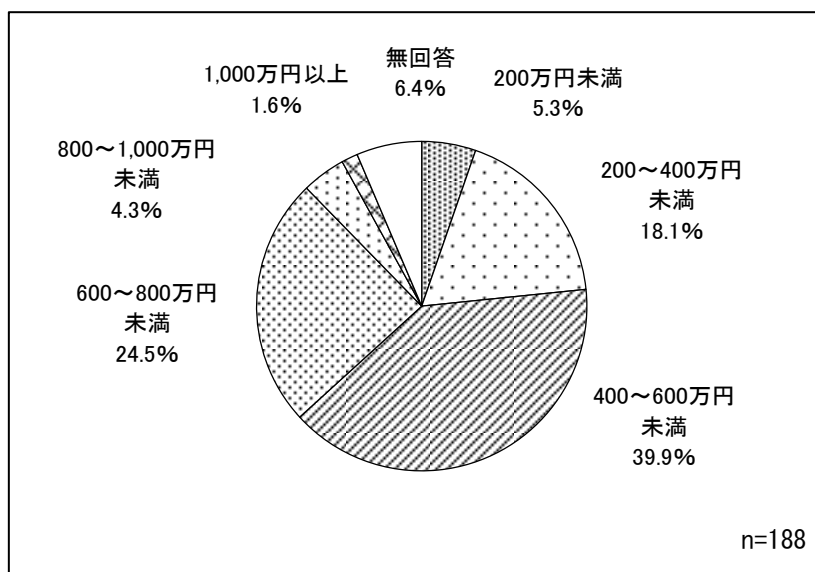


従業員の平均勤続年数は、「1年未満」が 2.1%、「1～5年未満」が 16.0%、「5～10年未満」が 19.1%、「10～20年未満」が 42.0%、「20年以上」が 16.0%であった。

2-6 従業員の平均賃金

Q26 貴社の従業員の平均賃金はいくらですか。(単一回答)

図表 I-26. 従業員の平均賃金

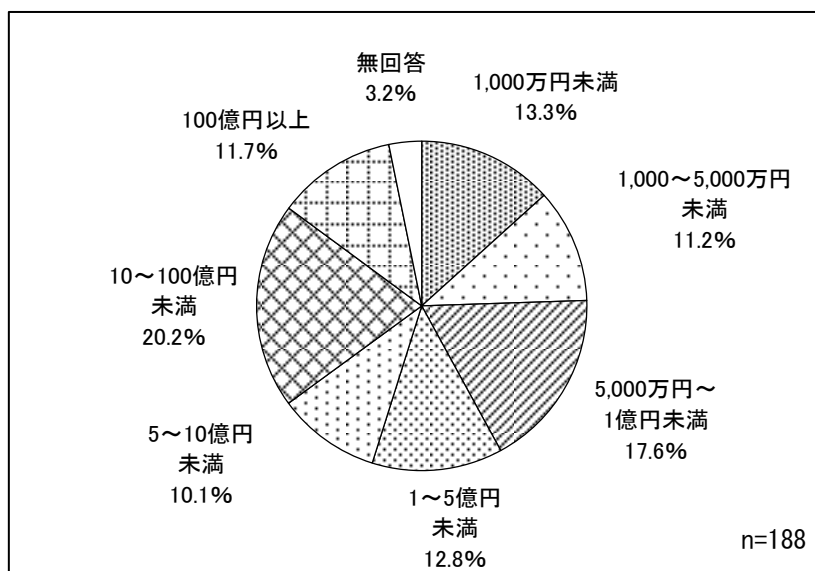


従業員の平均賃金は、「200 万円未満」が 5.3%、「200～400 万円未満」が 18.1%、「400～600 万円未満」が 39.9%、「600～800 万円未満」が 24.5%、「800～1,000 万円未満」が 4.3%、「1,000 万円以上」が 1.6%であった。

2-7 資本金

Q27 貴社の資本金をお答えください。(単一回答)

図表 I-27. 資本金



資本金は、「1000 万円未満」が 13.3%、「1000～5000 万円未満」が 11.2%、「5000 万円～1 億円未満」が 17.6%、「1～5 億円未満」が 12.8%、「5～10 億円未満」が 10.1%、「10～100 億円未満」が 20.2%、「100 億円以上」が 11.7%であった。

II. NPO 法人向け調査

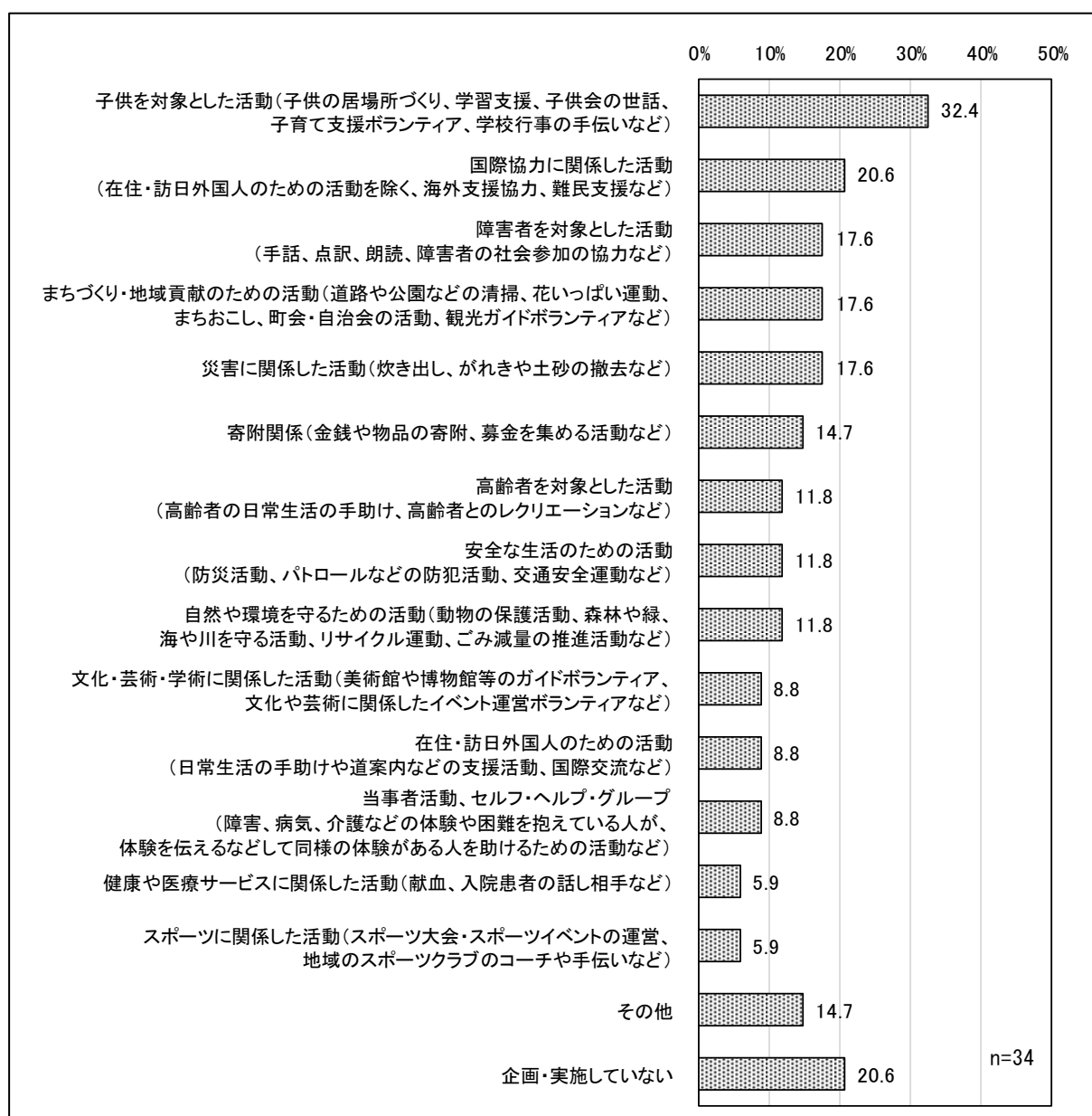
1 ボランティア活動について

1-1 企画・実施しているボランティア活動

Q1 貴団体が団体として企画・実施しているボランティア活動※で、当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

※名称にかかわらず、報酬を目的としない社会貢献活動と考えてください

図表 II-1. 企画・実施しているボランティア活動



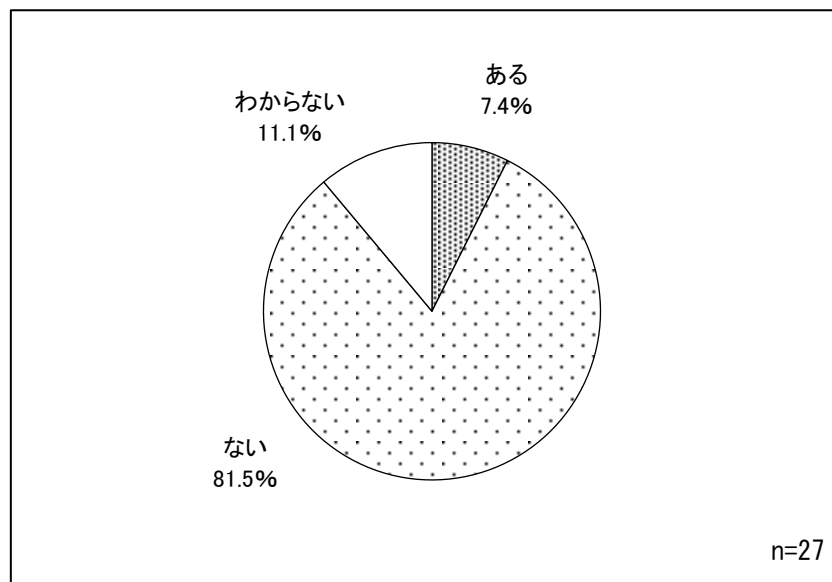
企画・実施しているボランティア活動のうち、「子供を対象とした活動」が32.4%で最も高かった。次いで、「国際協力に関係した活動」が20.6%であった。また、「企画・実施していない」は20.6%であった。

1-2 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の波及効果

(Q1 で 1～15 と答えた方)

Q2 選択した活動のうち、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、新たに開始もしくは充実したものはありますか。(単一回答)

図表Ⅱ-2. 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の波及効果



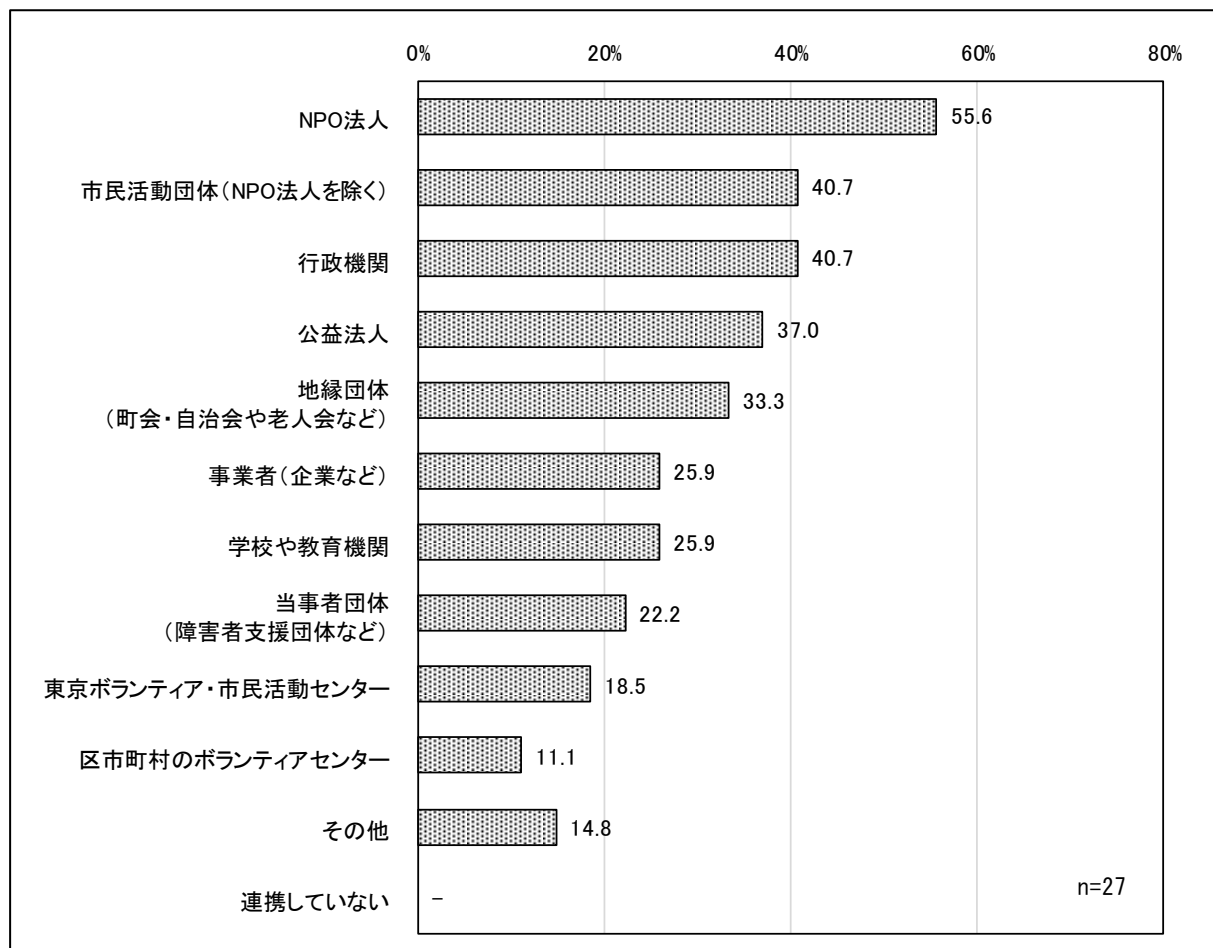
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、新たに開始もしくは充実したものは、「ある」が7.4%、「ない」が81.5%であった。

1-3 連携団体

(Q1 で 1～15 と答えた方)

Q3 ボランティア活動（社会貢献活動）の企画・実施にあたって、連携している団体がありますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅱ-3. 連携団体



ボランティア活動の企画・実施にあたって連携している団体は、「NPO 法人」が 55.6%で最も高かった。次いで、「市民活動団体（NPO 法人を除く）」と「行政機関」がいずれも 40.7%であった。

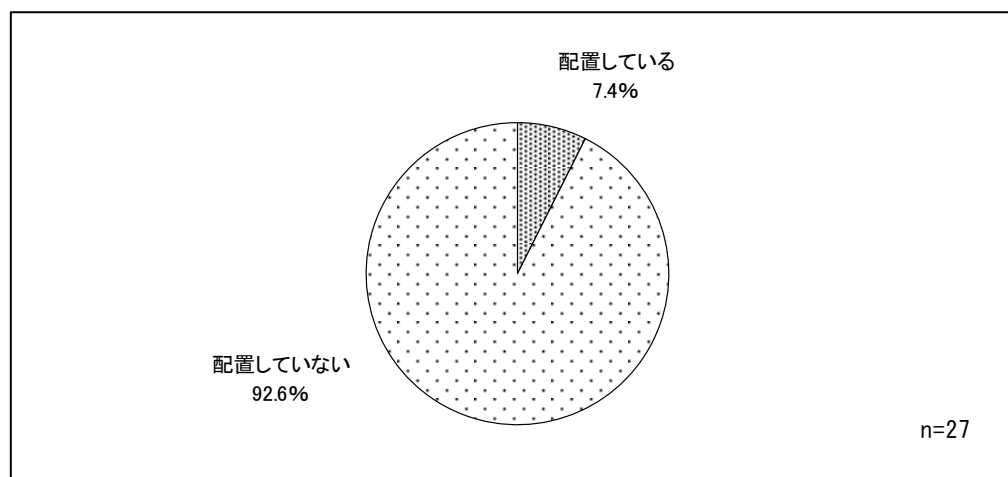
1-4 ボランティアコーディネーター配置の有無

(Q1 で 1～15 と答えた方)

Q4 ボランティアコーディネーター※を配置していますか。

※ボランティアコーディネーター：ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側とを調整する人材

図表Ⅱ-4. ボランティアコーディネーター配置の有無



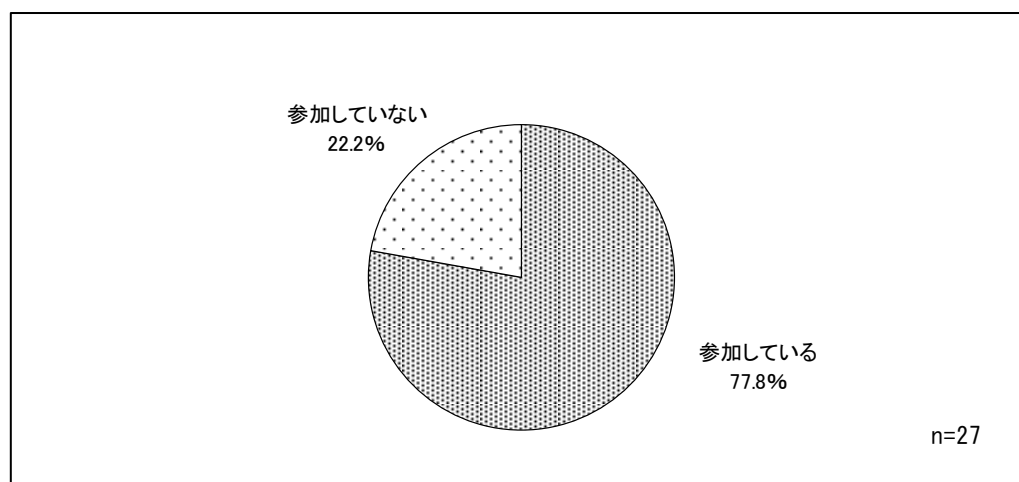
ボランティアコーディネーターの配置の有無は、「配置している」が 7.4%、「配置していない」が 92.6%であった。

1-5 ボランティア参加の有無

(Q1 で 1～15 と答えた方)

Q5 貴団体のボランティア活動（社会貢献活動）を企画・実施する際に、ボランティアは参加していますか。現場でボランティア活動をしている方（管理、運営、総務、庶務等に係るものは除く。）についてお答えください。

図表Ⅱ-5. ボランティア参加の有無



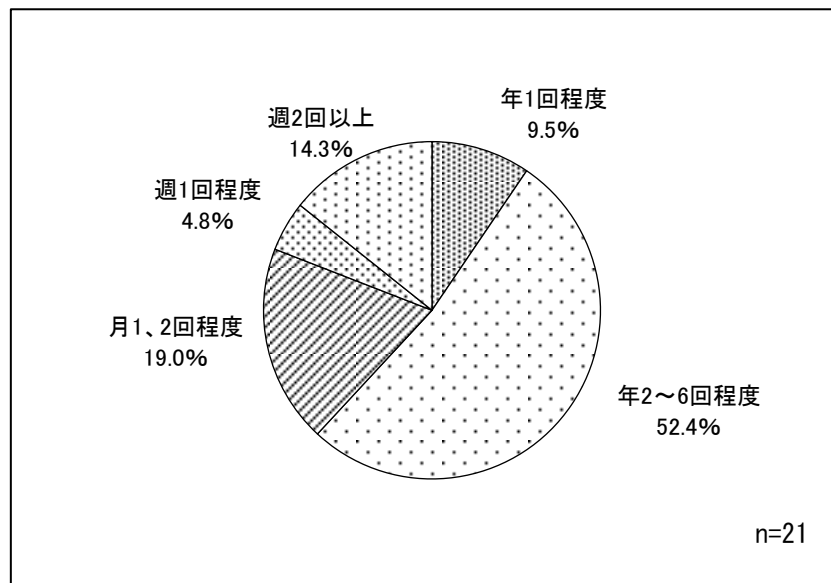
ボランティア参加の有無は、「参加している」が 77.8%、「参加していない」が 22.2%であった。

1－6 ボランティアの年間活動頻度、1 回あたりの活動人数・平均活動時間

(Q5 で 1 と答えた方)

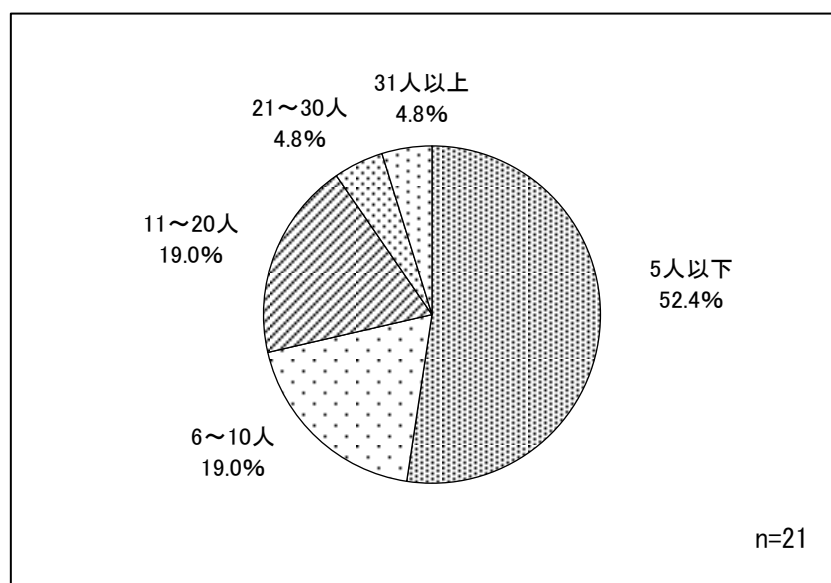
Q6 ボランティアが参加する活動について、年間の活動頻度及び 1 回あたりのボランティア活動人数・時間をお答えください。(複数の活動を企画・実施している場合は、そのうち中心的に行っている活動についてお答えください。)(各単一回答)

図表Ⅱ-6. ボランティアの年間活動頻度



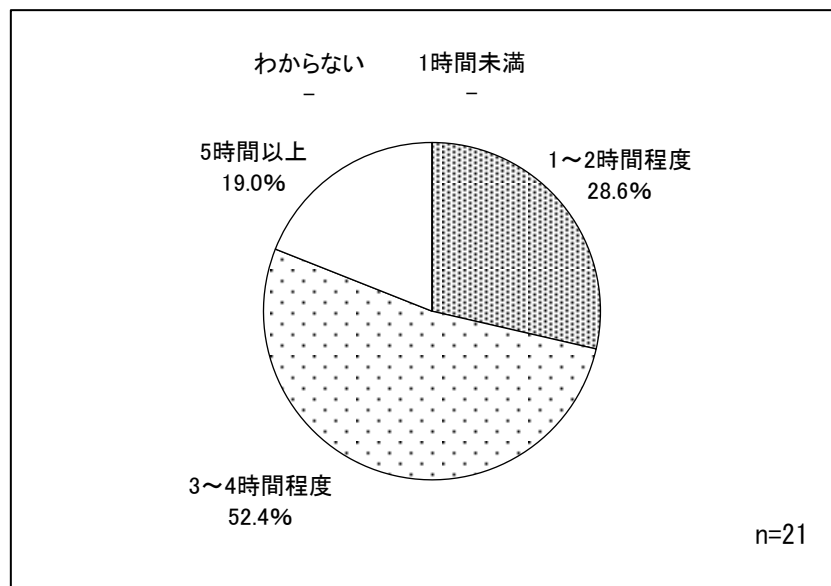
ボランティアの年間活動頻度は、「年 1 回程度」が 9.5%、「年 2～6 回程度」が 52.4%、「月 1、2 回程度」が 19.0%、「週 1 回程度」が 4.8%、「週 2 回以上」が 14.3%であった。

図表Ⅱ-7. ボランティアの 1 回あたりの活動人数



ボランティアの 1 回あたりの活動人数は、「5 人以下」が 52.4%、「6～10 人」と「11～20 人」がいずれも 19.0%、「21～30 人」と「31 人以上」がいずれも 4.8%であった。

図表Ⅱ-8. ボランティアの1回あたりの平均活動時間



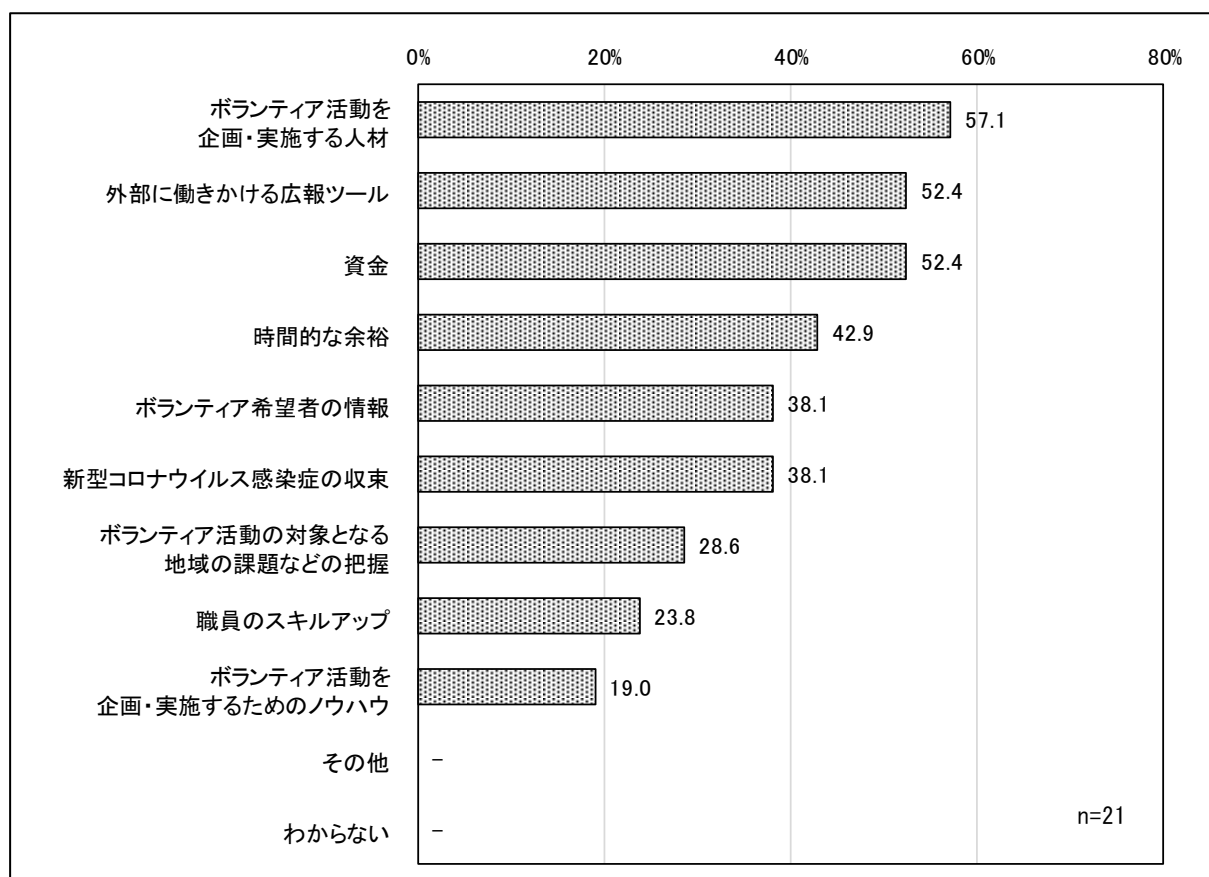
ボランティアの1回あたりの平均活動時間は、「1～2 時間程度」が 28.6%、「3～4 時間程度」が 52.4%、「5 時間以上」が 19.0%であった。

1-7 参加人数を増やすために必要なこと

(Q5 で 1 と答えた方)

Q7 ボランティアの参加人数を増やしていくためにはどのようなことが必要ですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

図表 II-9. 参加人数を増やすために必要なこと



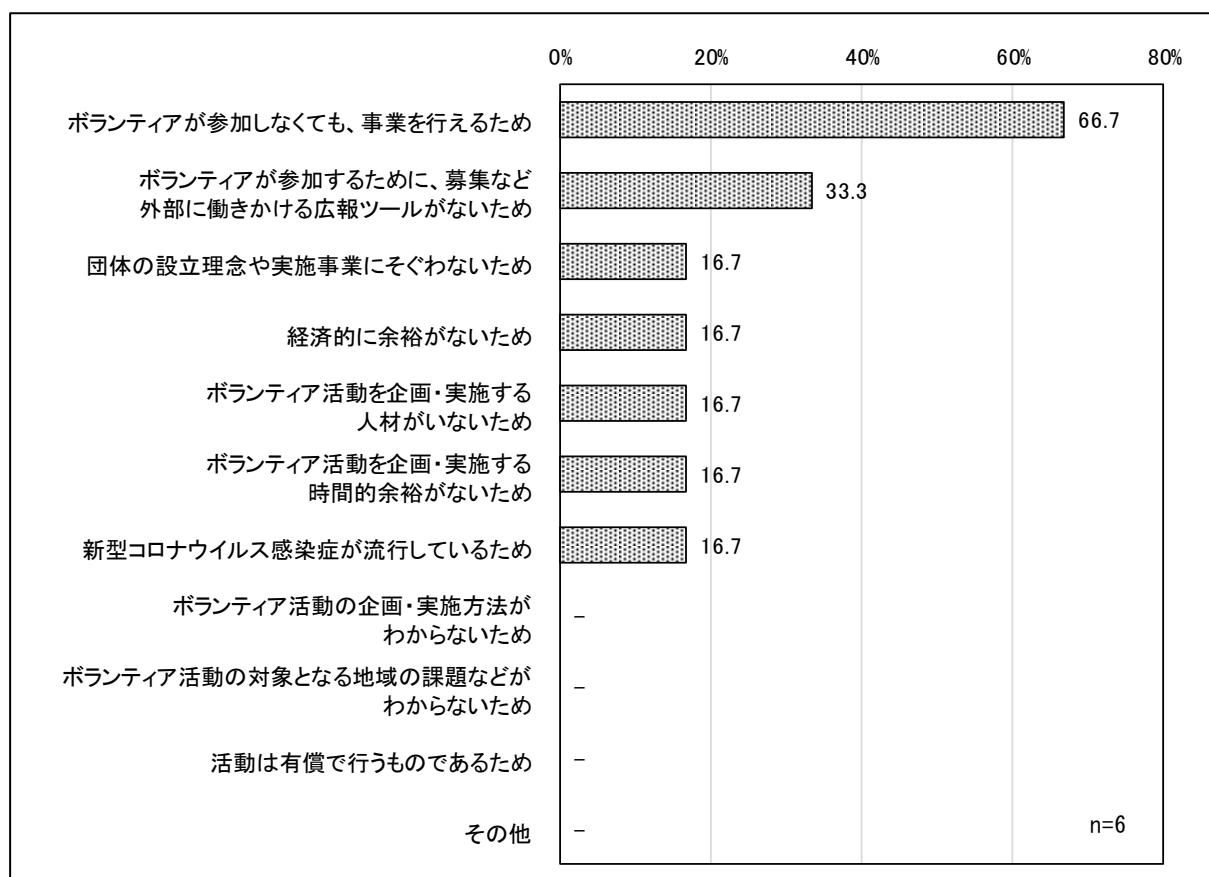
参加人数を増やすために必要なことは、「ボランティア活動を企画・実施する人材」が 57.1%で最も高かった。次いで、「外部に働きかける広報ツール」と「資金」がいずれも 52.4%であった。

1-8 ボランティアが参加していない理由

(Q5 で 2 と答えた方)

Q8 ボランティアが参加していない理由について、当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

図表Ⅱ-10. ボランティアが参加していない理由

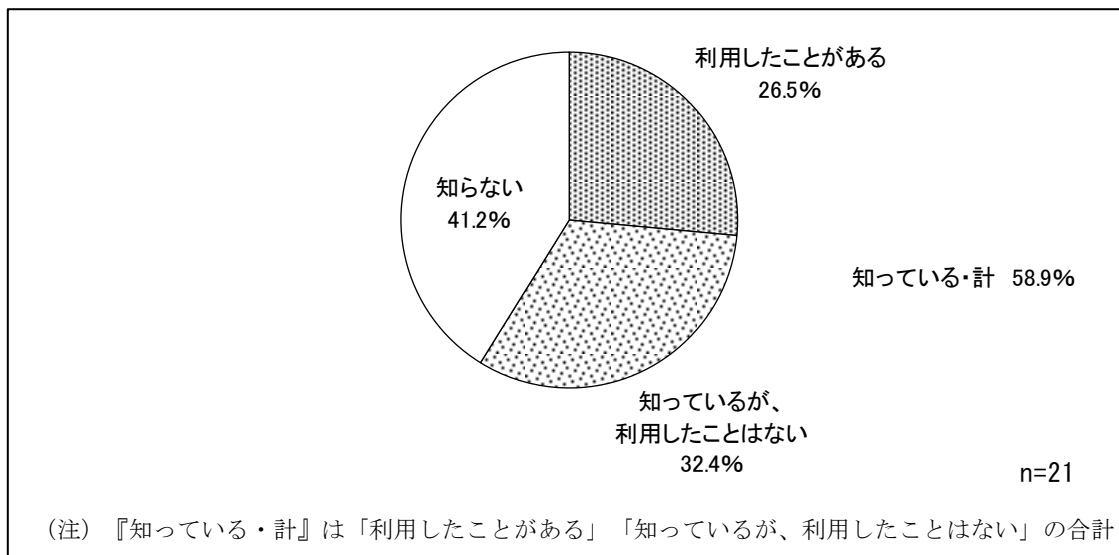


ボランティアが参加していない理由は、「ボランティアが参加しなくても、事業を行えるため」が 66.7% で最も高かった。次いで、「ボランティアが参加するために、募集など外部に働きかける広報ツールがないため」が 33.3% であった。

1-9 東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験

Q9 東京ボランティア・市民活動センター（飯田橋セントラルプラザ内）をご存じですか。また、利用したことはありますか。（単一回答）

図表Ⅱ-11. 東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験

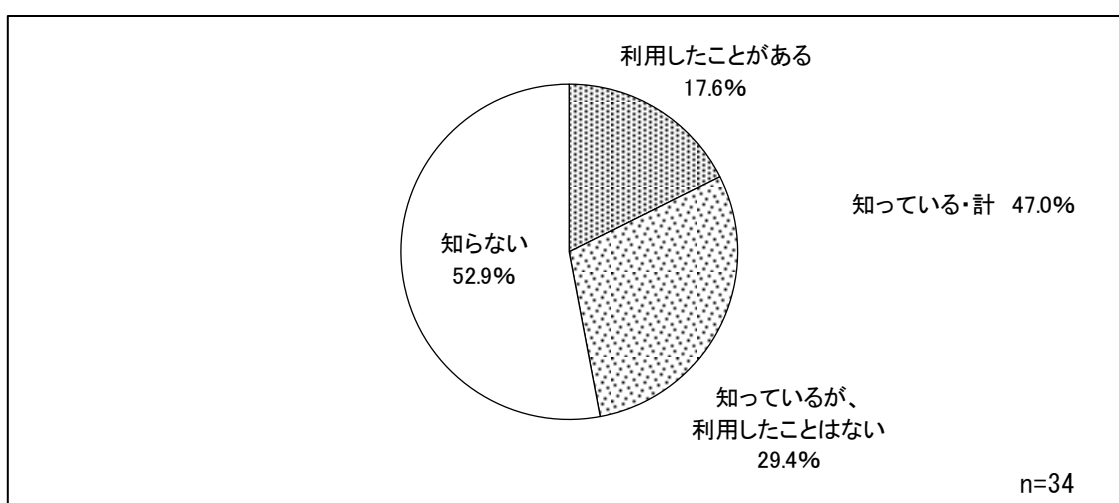


東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験は、「利用したことがある」が26.5%、「知っているが、利用したことはない」が32.4%で、この2項目を合わせた『知っている・計』は58.9%であった。一方、「知らない」は41.2%であった。

1-10 「ボラ市民ウェブ」の認知度及び利用経験

Q10 東京ボランティア・市民活動センターのウェブサイト「ボラ市民ウェブ」をご存じですか。また、利用したことはありますか。（単一回答）

図表Ⅱ-12. 「ボラ市民ウェブ」の認知度及び利用経験



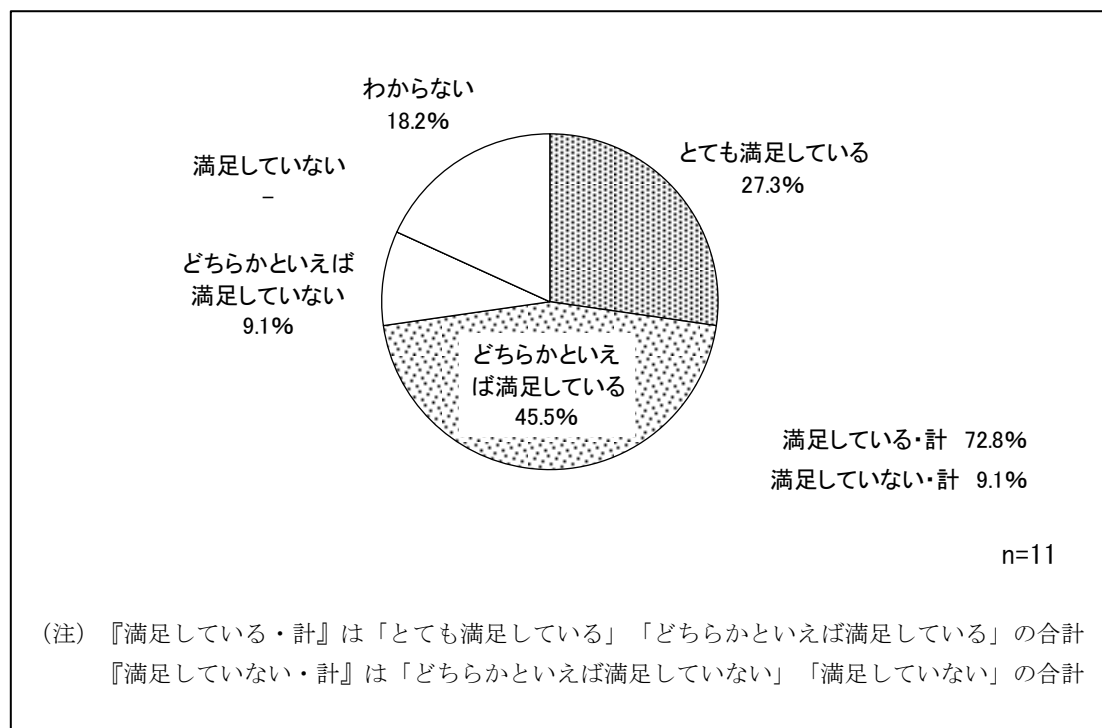
「ボラ市民ウェブ」の認知度及び利用経験は、「利用したことがある」が17.6%、「知っているが、利用したことはない」が29.4%で、この2項目を合わせた『知っている・計』は47.0%であった。一方、「知らない」は52.9%であった。

1-11 東京ボランティア・市民活動センターもしくは「ボラ市民ウェブ」の満足度

(Q9 または Q10 で 1 と答えた方)

Q11 利用して、満足されましたか。(単一回答)

図表Ⅱ-13. 東京ボランティア・市民活動センターもしくは「ボラ市民ウェブ」の満足度

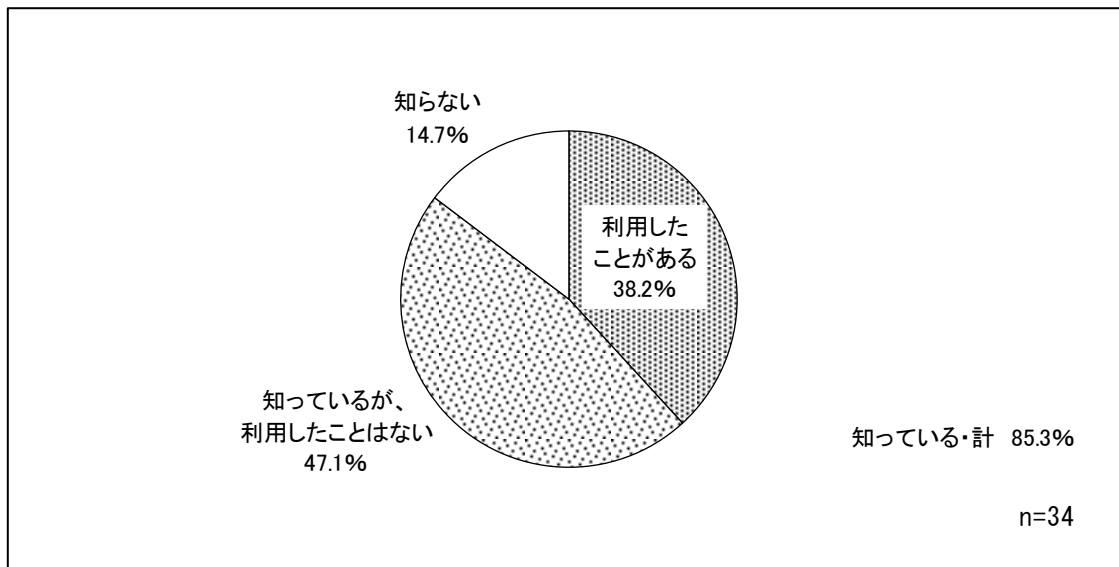


東京ボランティア・市民活動センターもしくは「ボラ市民ウェブ」の満足度は、「とても満足している」が27.3%、「どちらかといえば満足している」が45.5%、「どちらかといえば満足していない」が9.1%であった。

1-12 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験

Q12 区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。(単一回答)

図表Ⅱ-14. 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験

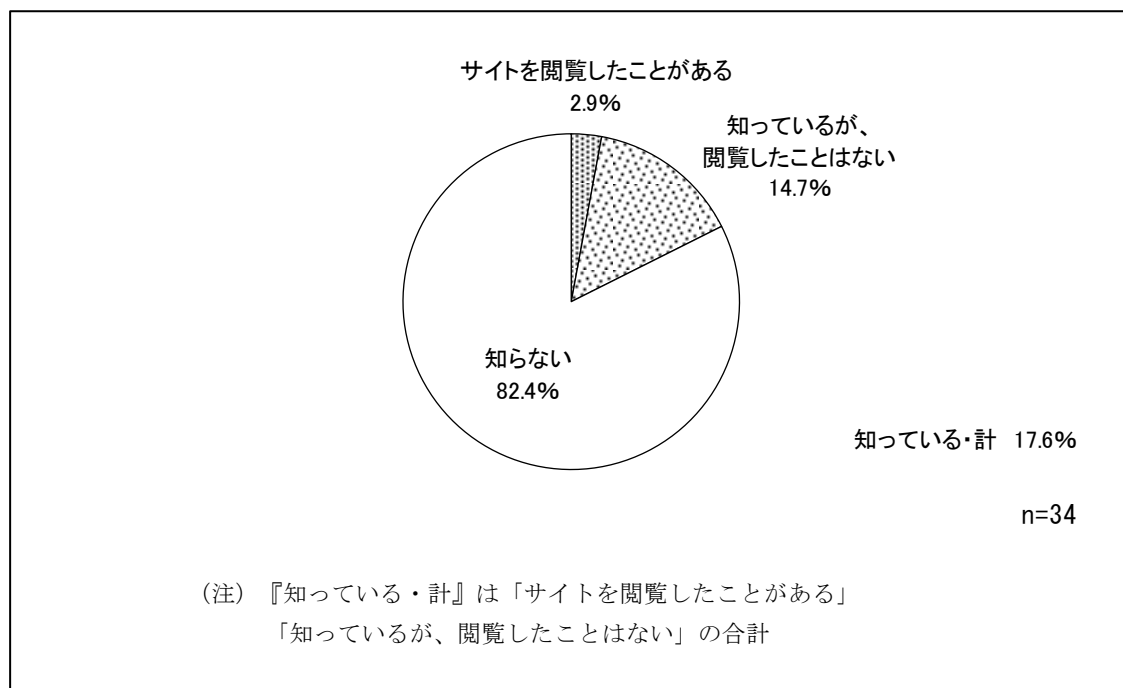


社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験は、「利用したことがある」が38.2%、「知っているが、利用したことはない」が47.1%で、この2項目を合わせた『知っている・計』は85.3%であった。一方、「知らない」は14.7%であった。

1-13 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験

Q13 東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存じですか。また、閲覧したことはありますか。(単一回答)

図表Ⅱ-15. 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験



「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験は、「サイトを閲覧したことがある」が2.9%、「知っているが、閲覧したことはない」が14.7%で、この2項目を合わせた『知っている・計』は17.6%であった。一方、「知らない」は82.4%であった。

1-14 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の満足度

(Q13 で1と答えた方)

Q14 「東京ボランティアレガシーネットワーク」を利用して満足されましたか。(単一回答)

「東京ボランティアレガシーネットワーク」のサイトを閲覧したことがある1団体に満足度を聞いたところ、「どちらかといえば満足している」との回答であった。

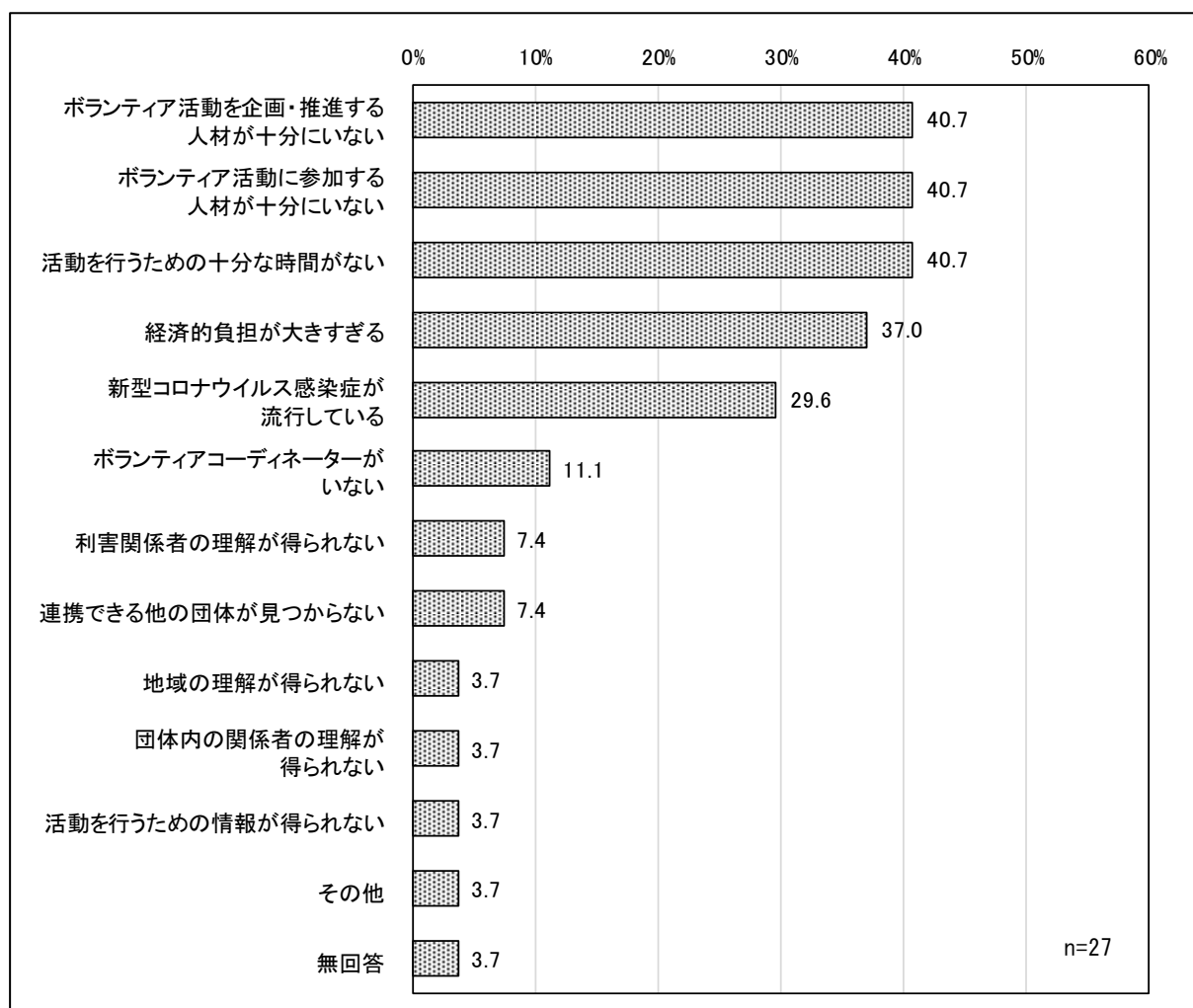
※本質問は対象が1団体のみのため、図は省略。選択肢は「とても満足している」「どちらかといえば満足している」「どちらかといえば満足していない」「満足していない」「わからない」の5つであった

1-15 ボランティア活動を推進するにあたっての課題

(Q1 で 1～15 と答えた方)

Q15 貴団体のボランティア活動（社会貢献活動）を推進するにあたっての課題をすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅱ-16. ボランティア活動を推進するにあたっての課題



ボランティア活動を推進するにあたっての課題は、「ボランティア活動を企画・推進する人材が十分にいない」と「ボランティア活動に参加する人材が十分にいない」と「活動を行うための十分な時間がない」がいずれも 40.7%であった。

1-16 今後の取組意向

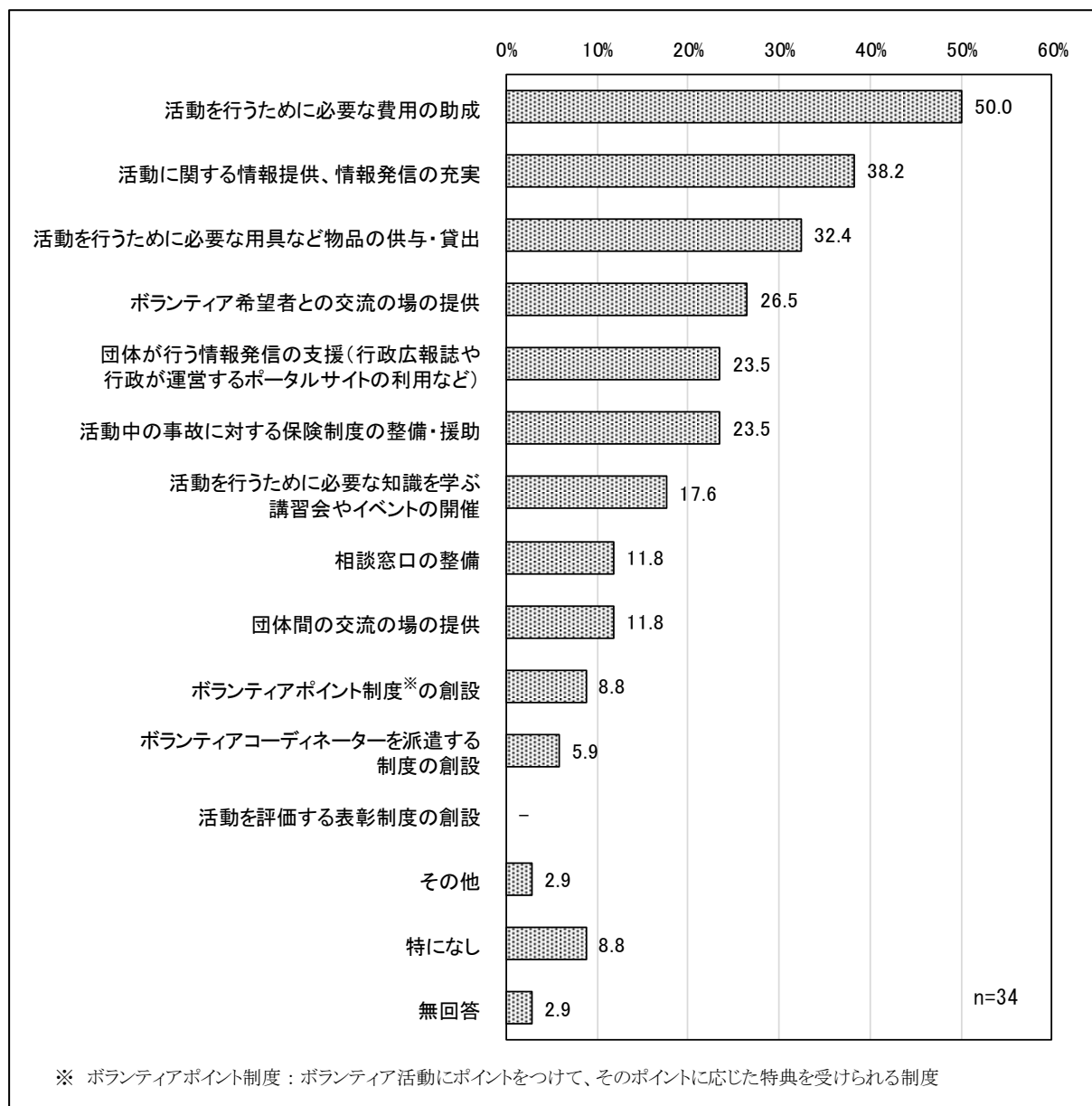
Q16 ボランティア活動に対する今後の取組の意向があれば、ご自由にお書きください。

記述内容
ボランティア活動のための、企業・団体の休暇取得促進制度等
ボランティア活動等に施設が必要であるが、東京オリンピックやコロナ禍の影響により施設確保が難しくなり活動に大きく影響しています。
現在の活動を維持するのにも、人材不足気味なので、必要な人材の確保を進めていきたい。
活動に関わる方々（実行委員会）が、就労、学生の為、時間がない、調整が難しいなど。又、活動場所についても、時間に限りがあり、又、自由に使用できない。（区の施設を主に使用している為）
講演会などの開催が地域貢献活動であることが市民等に理解されにくい。
ボランティアとして活動する人材を安定的に育成する必要性を感じている。育成の仕組みをつくりたい。

1-17 ボランティア活動に関して望む支援

Q17 ボランティア活動に関して、どのような支援があったらよいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅱ-17. ボランティア活動に関して望む支援



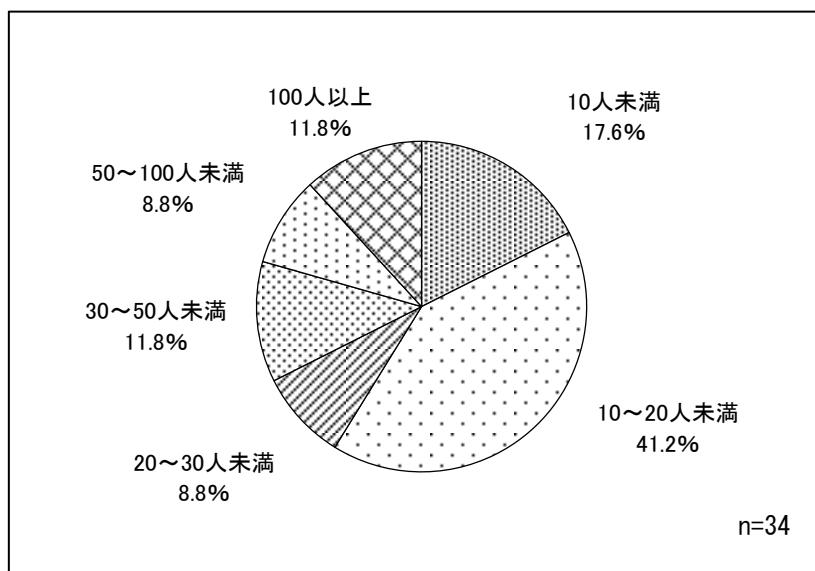
ボランティア活動に関して望む支援は、「活動を行うために必要な費用の助成」が 50.0%で最も高かった。次いで、「活動に関する情報提供、情報発信の充実」が 38.2%、「活動を行うために必要な用具など物品の供与・貸出」が 32.4%であった。

2 団体の概要について

2-1 団体構成員の総数

Q18 貴団体の団体構成員の総数は何人になりますか。(単一回答)

図表Ⅱ-18. 団体構成員の総数

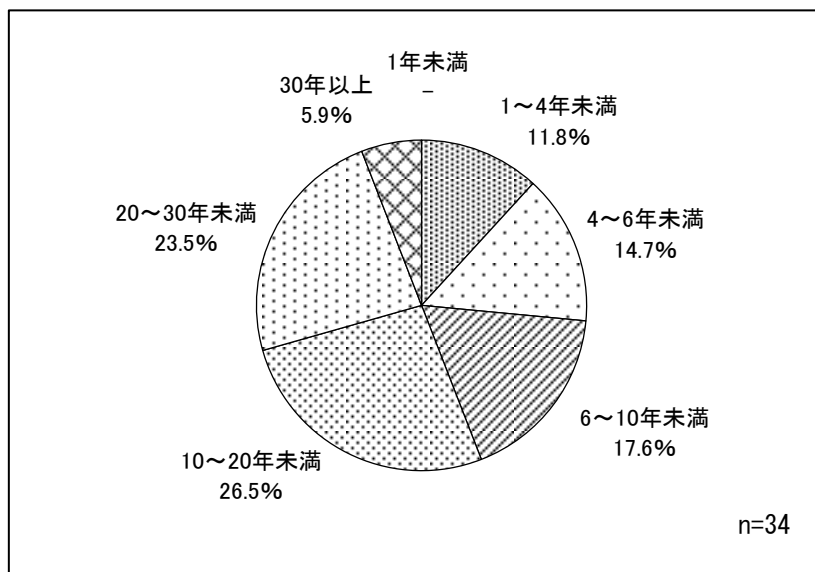


団体構成員の総数は、「10人未満」が17.6%、「10~20人未満」が41.2%、「20~30人未満」が8.8%、「30~50人未満」が11.8%、「50~100人未満」が8.8%、「100人以上」が11.8%であった。

2-2 設立からの経過年数

Q19 貴団体は設立から何年経っていますか。(単一回答)

図表Ⅱ-19. 設立からの経過年数

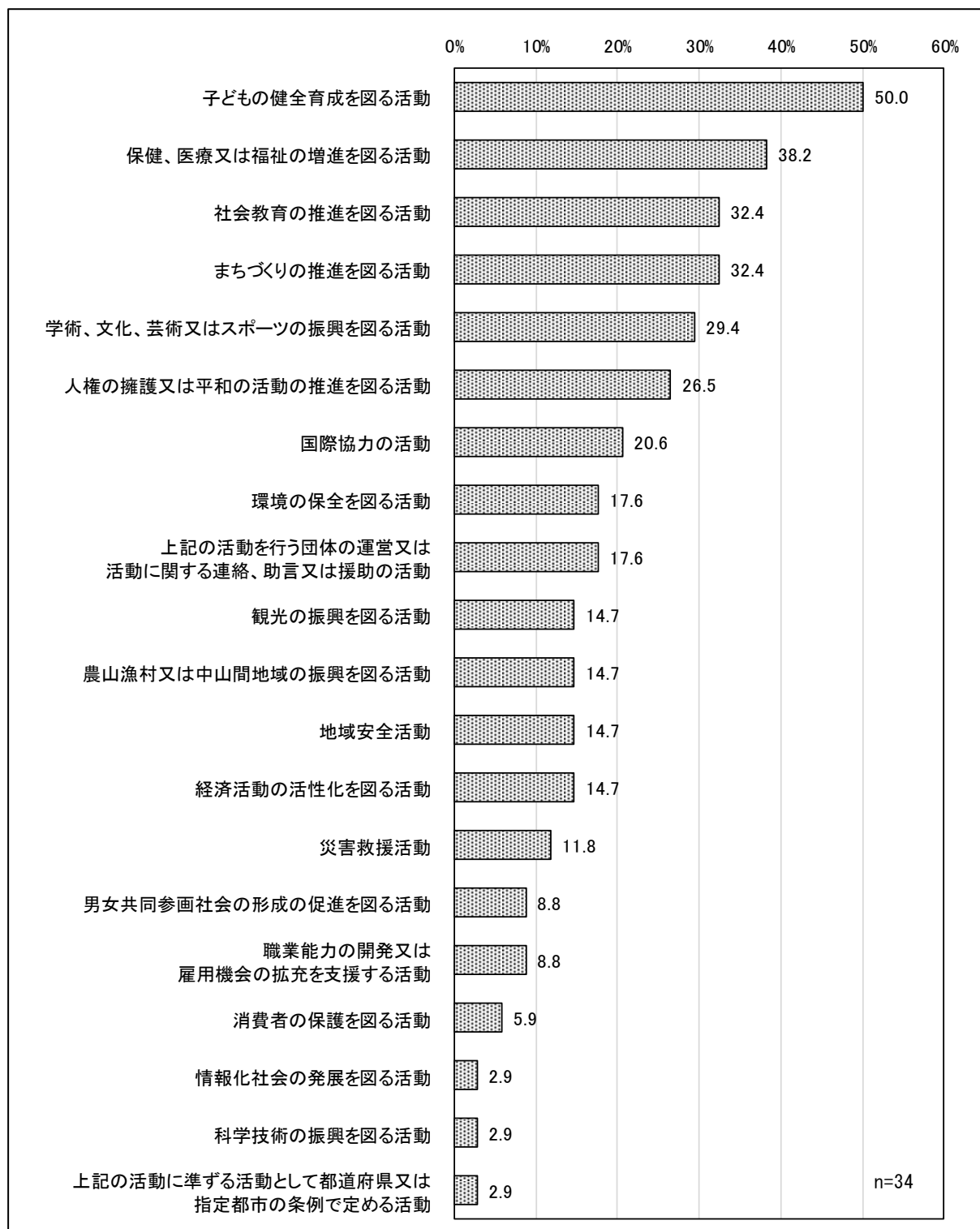


設立からの経過年数は、「1~4年未満」が11.8%、「4~6年未満」が14.7%、「6~10年未満」が17.6%、「10~20年未満」が26.5%、「20~30年未満」が23.5%、「30年以上」が5.9%であった。

2-3 活動分野

Q20 貴団体の活動分野は次のどれに当たりますか。(複数回答)

図表Ⅱ-20. 活動分野

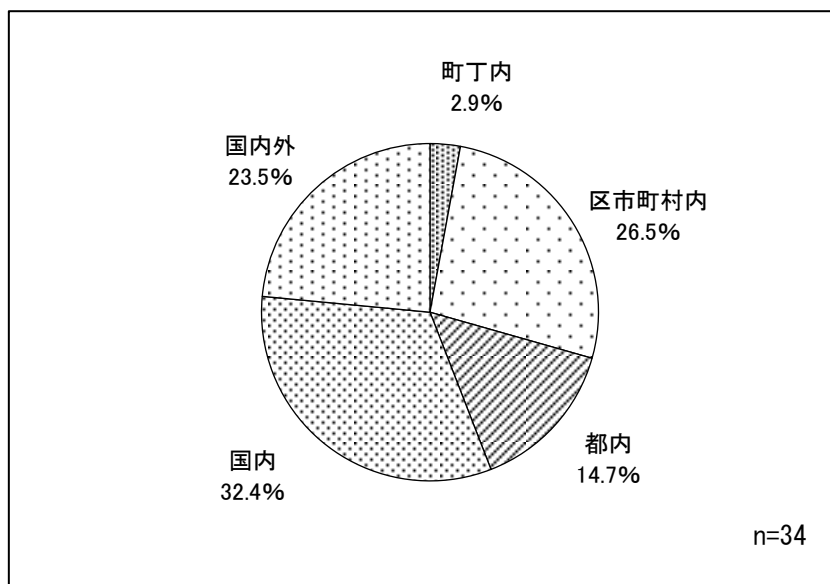


活動分野は、「子どもの健全育成を図る活動」が 50.0% で最も高かった。次いで、「保健、医療又は福祉の増進を図る活動」が 38.2% であった。

2-4 活動地域

Q21 貴団体の活動地域はどの程度の範囲ですか。(単一回答)

図表Ⅱ-21. 活動地域

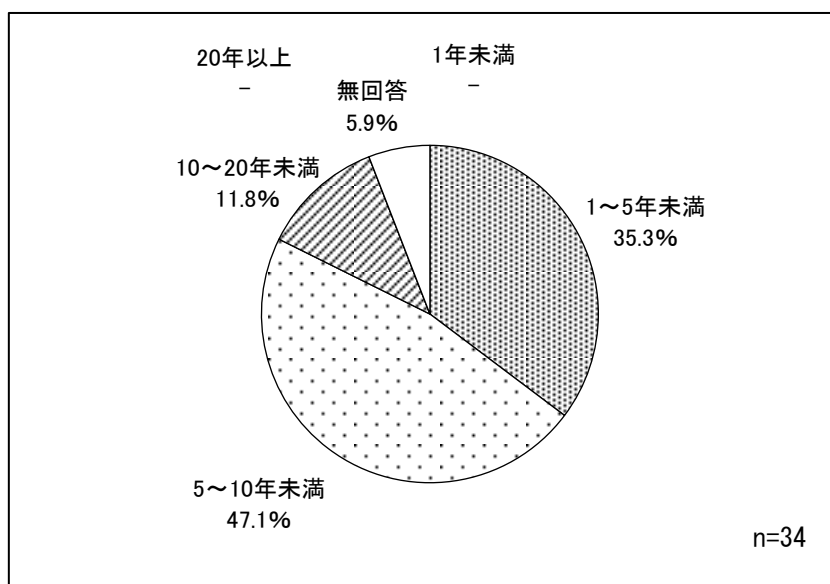


活動地域は、「町丁内」が2.9%、「区市町村内」が26.5%、「都内」が14.7%、「国内」が32.4%、「国内外」が23.5%であった。

2-5 構成員の平均勤続年数

Q22 貴団体の構成員の平均勤続年数は何年ですか。(単一回答)

図表Ⅱ-22. 構成員の平均勤続年数

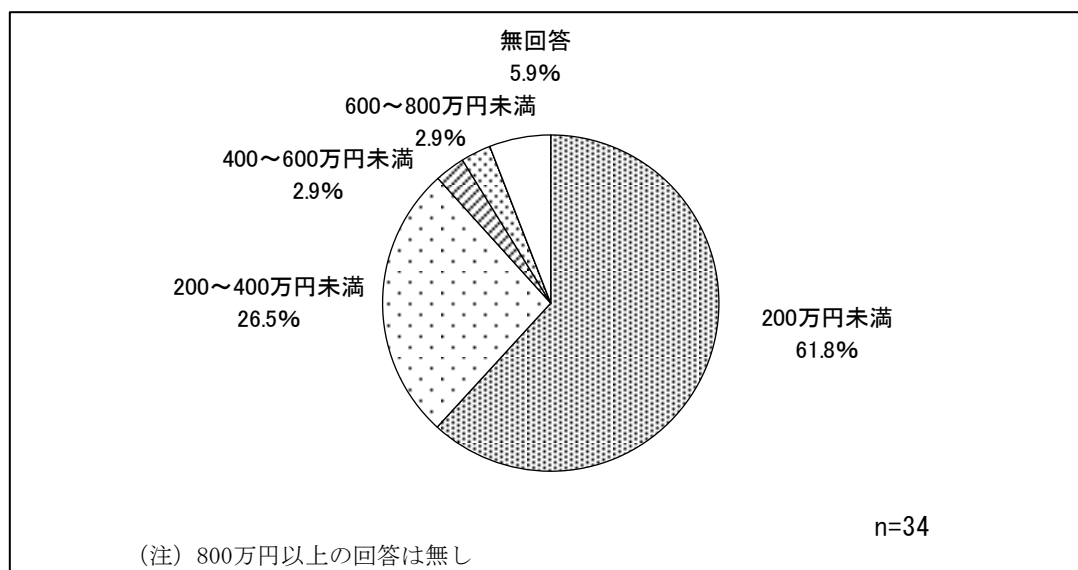


構成員の平均勤続年数は、「1~5年未満」が35.3%、「5~10年未満」が47.1%、「10~20年未満」が11.8%であった。

2-6 構成員の平均賃金

Q23 貴団体の構成員の平均賃金はいくらですか。(単一回答)

図表Ⅱ-23. 構成員の平均賃金

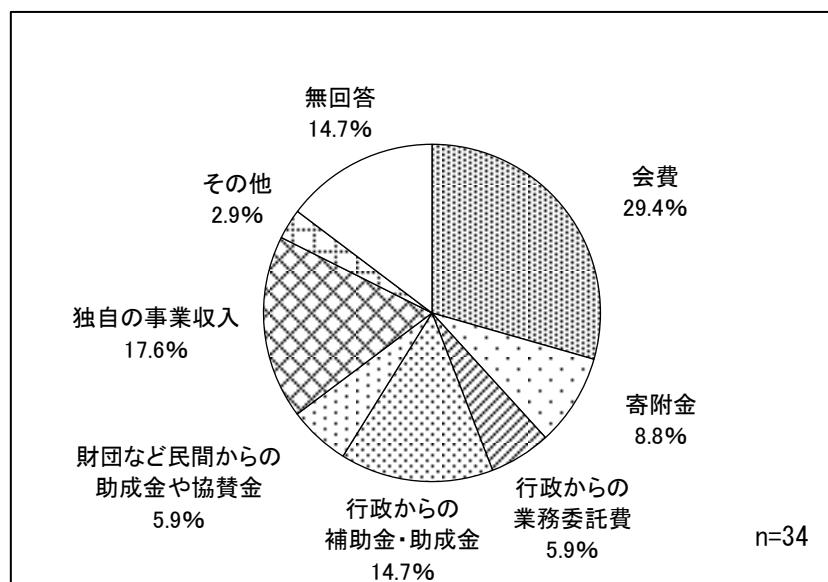


構成員の平均賃金は、「200 万円未満」が 61.8%、「200～400 万円未満」が 26.5%、「400～600 万円未満」と「600～800 万円未満」がいずれも 2.9%であった。

2-7 主な収入源

Q24 貴団体の主な収入源は何ですか。(単一回答)

図表Ⅱ-24. 主な収入源

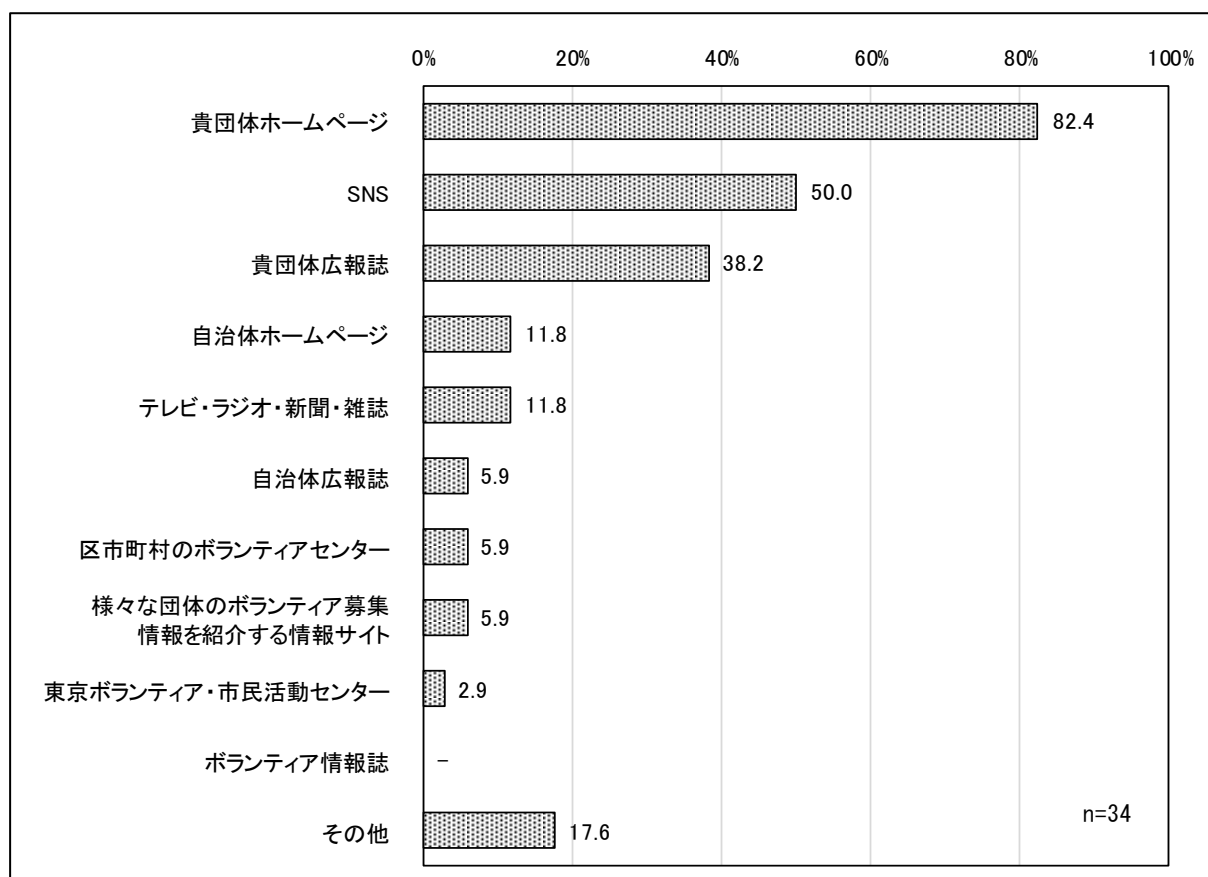


主な収入源は、「会費」が 29.4%、「寄附金」が 8.8%、「行政からの業務委託費」が 5.9%、「行政からの補助金・助成金」が 14.7%、「財団など民間からの助成金や協賛金」が 5.9%、「独自の事業収入」が 17.6%であった。

2-8 情報発信の利用媒体

Q25 貴団体の活動内容について情報発信する際に利用しているものとして、当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

図表Ⅱ-25. 情報発信の利用媒体



情報発信の利用媒体は、「貴団体ホームページ」が82.4%で最も高かった。次いで、「SNS」が50.0%、「貴団体広報誌」が38.2%であった。

III. 大学向け調査

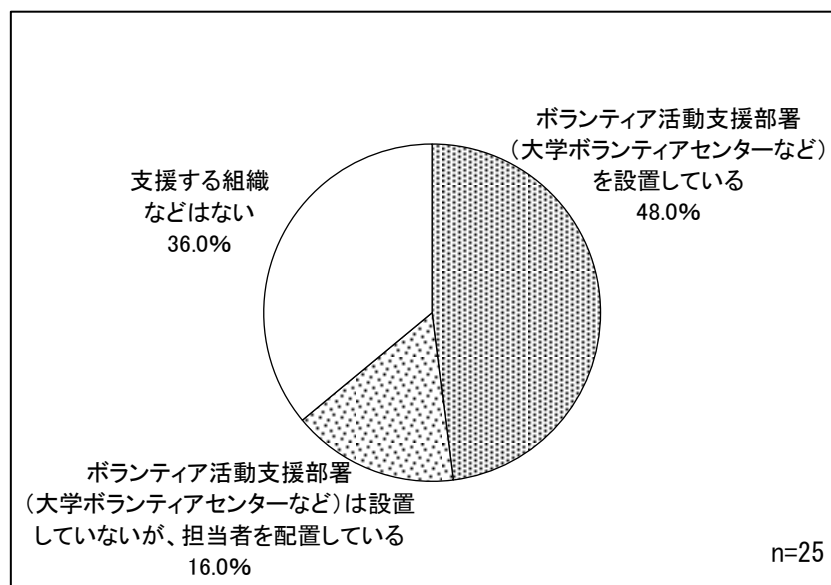
1 ボランティア活動について

1-1 学生のボランティア活動の支援組織の有無

Q1 貴学には、学生のボランティア活動※を支援する組織などがありますか。(単一回答)

※名称にかかわらず、報酬を目的としない社会貢献活動と考えてください

図表Ⅲ-1. 学生のボランティア活動の支援組織の有無



学生のボランティア活動の支援組織の有無は、「ボランティア活動支援部署を設置している」が 48.0%、「ボランティア活動支援部署は設置していないが、担当者を配置している」が 16.0%、「支援する組織などはない」が 36.0%であった。

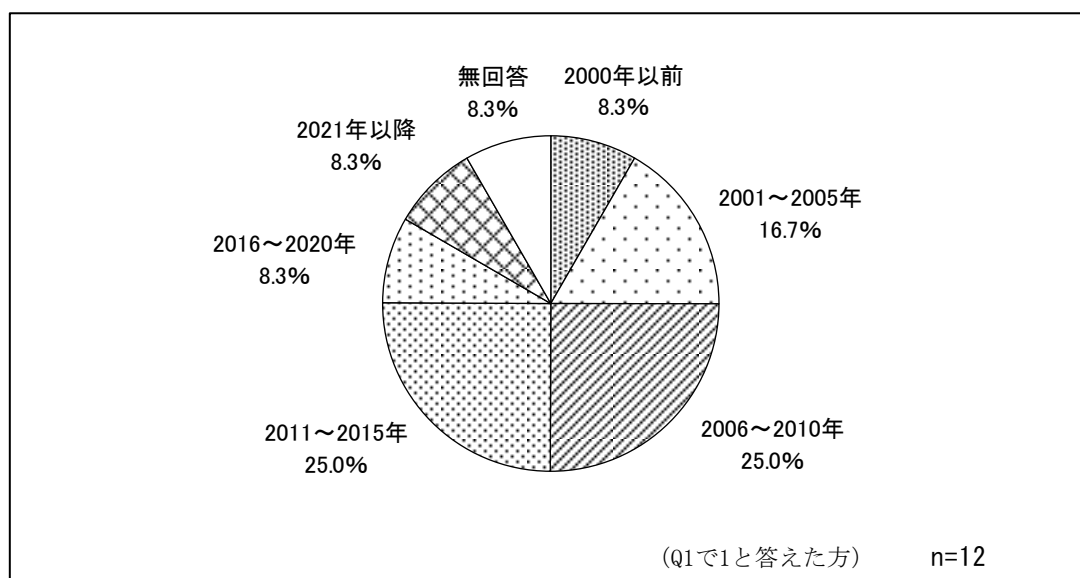
1-2 ボランティア活動支援部署などの名称・設置年度・職員数・設置のきっかけ

(Q1 で 1、2 と答えた方)

Q2 設置しているボランティア活動支援部署（大学ボランティアセンター）などの名称・設置年度・職員数・設置したきっかけをお答えください。

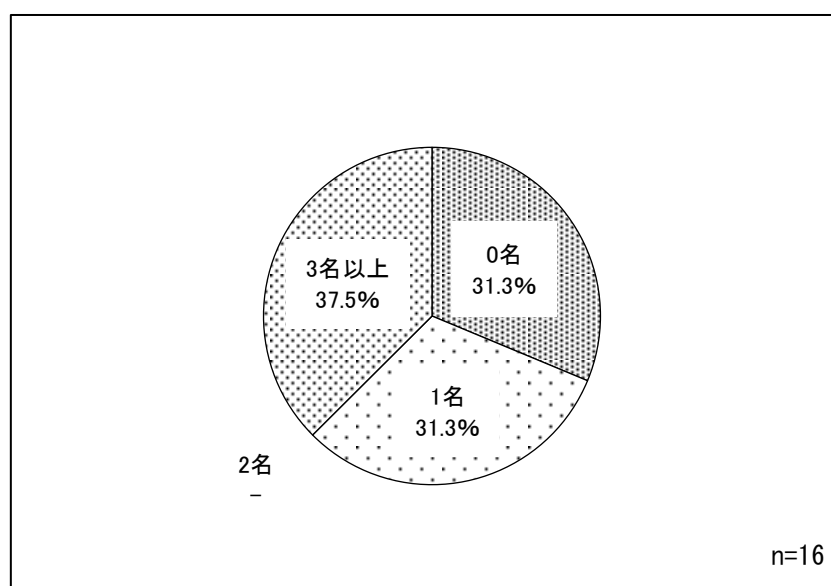
(Q1 で 2 と答えた方は、職員数と配置したきっかけをお答えください。)

図表Ⅲ-2. ボランティア活動支援部署などの設置年度



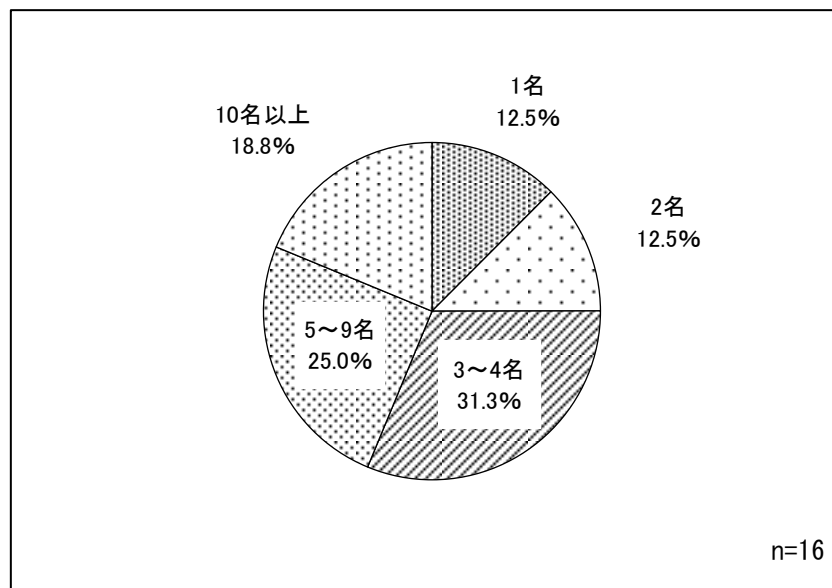
ボランティア活動支援部署などの設置年度は、「2000 年以前」が 8.3%、「2001～2005 年」が 16.7%、「2006～2010 年」と「2011～2015 年」がいずれも 25.0%であった。

図表Ⅲ-3. ボランティア活動支援部署などの教員数



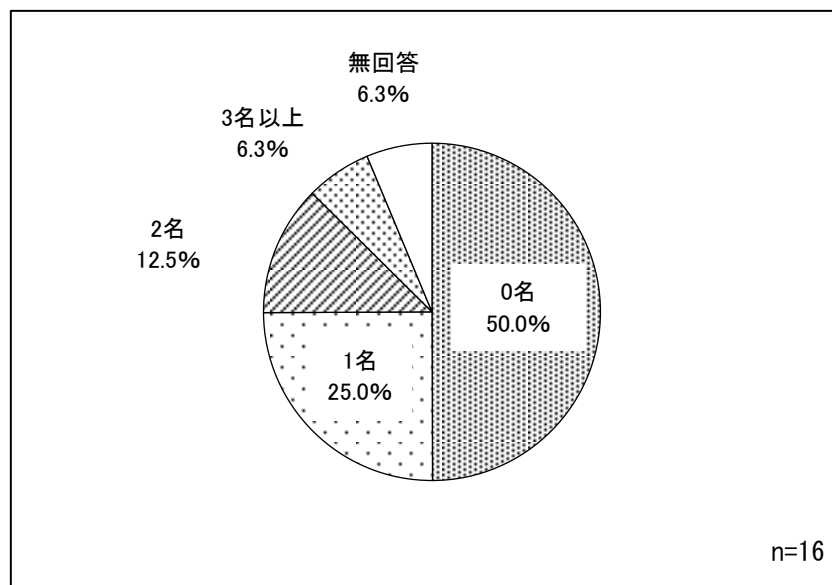
ボランティア活動支援部署などの教員数は、「0 名」と「1 名」がいずれも 31.3%、「3 名以上」が 37.5%であった。

図表Ⅲ-4. ボランティア活動支援部署などの事務職員数



ボランティア活動支援部署などの事務職員数は、「1名」と「2名」がいずれも12.5%、「3～4名」が31.3%、「5～9名」が25.0%、「10名以上」が18.8%であった。

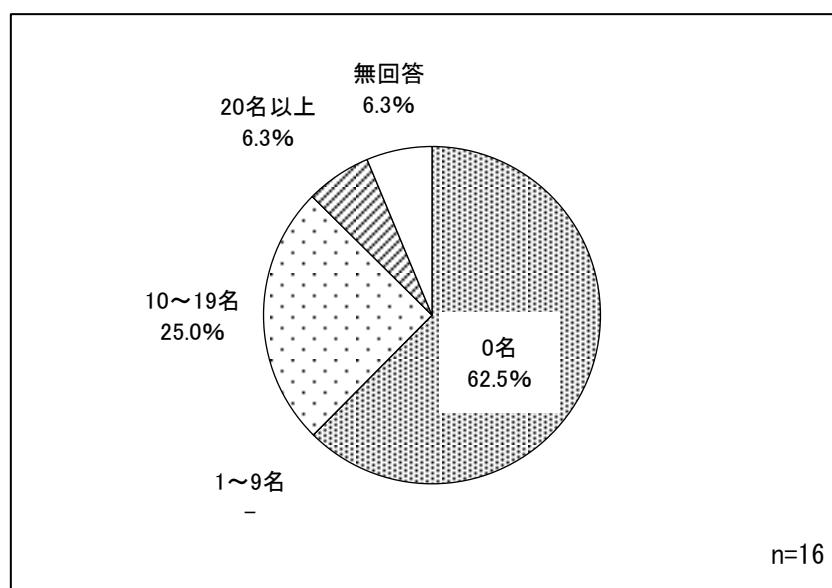
図表Ⅲ-5. ボランティア活動支援部署などのボランティアコーディネーター※数



ボランティア活動支援部署などのボランティアコーディネーター※数は、「0名」が50.0%、「1名」が25.0%、「2名」が12.5%、「3名以上」が6.3%であった。

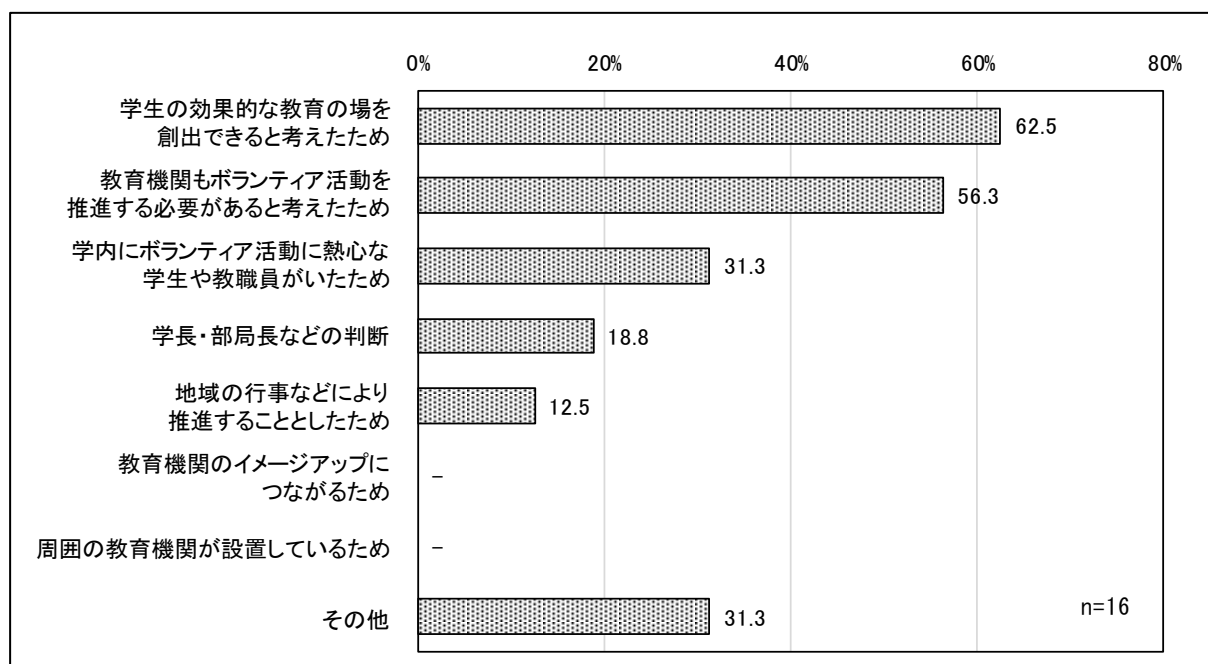
※ボランティアコーディネーター：ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側とを調整する人材

図表Ⅲ-6. ボランティア活動支援部署などの学生スタッフ数



ボランティア活動支援部署などの学生スタッフ数は、「0名」が62.5%、「10～19名」が25.0%、「20名以上」が6.3%であった。

図表Ⅲ-7. ボランティア活動支援部署などの設置のきっかけ



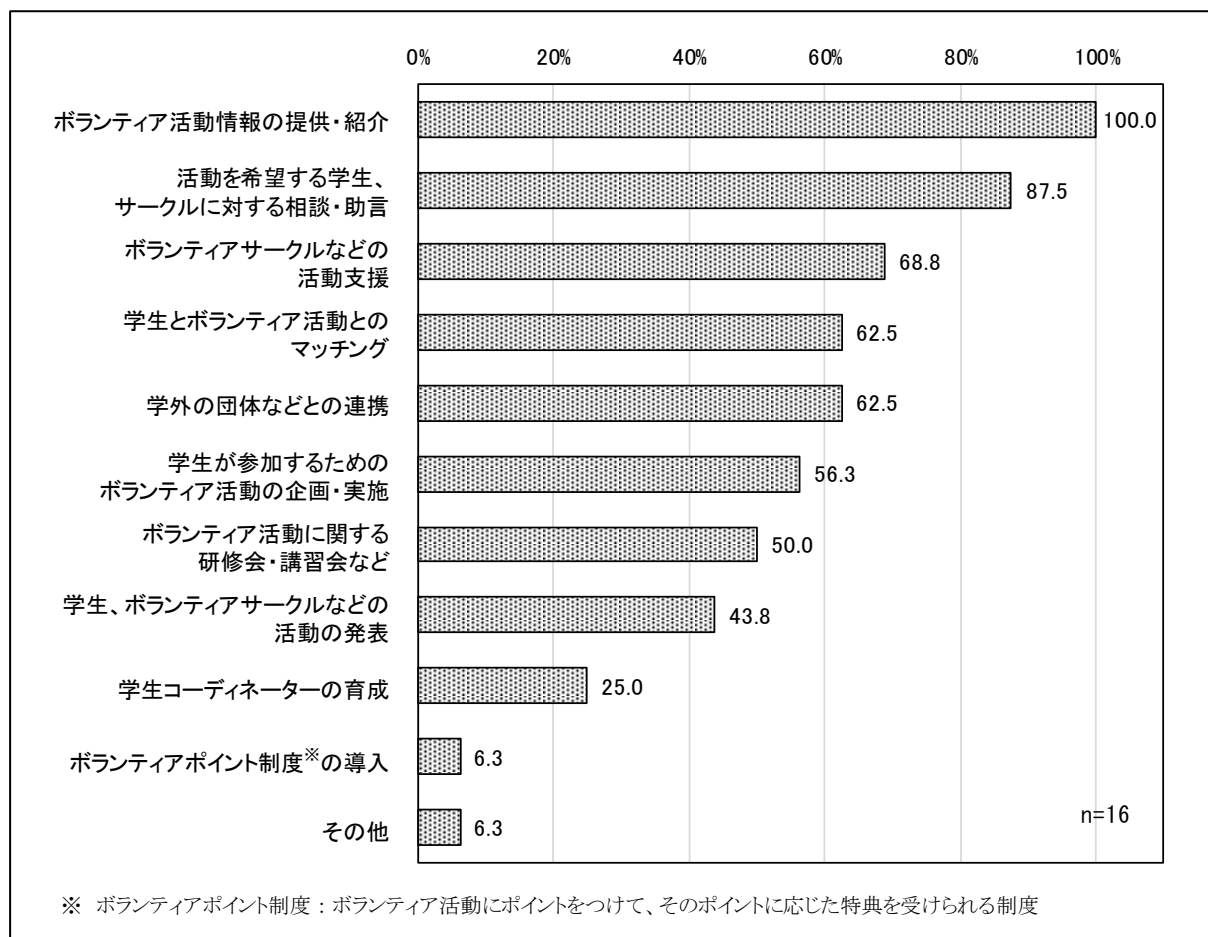
ボランティア活動支援部署などの設置のきっかけは、「学生の効果的な教育の場を創出できると考えたため」が62.5%で最も高かった。次いで、「教育機関もボランティア活動を推進する必要があると考えたため」が56.3%、「学内にボランティア活動に熱心な学生や教職員がいたため」が31.3%であった。

1-3 ボランティア活動支援部署などで行っている取組

(Q1 で 1、2 と答えた方)

Q3 貴学のボランティア活動支援部署（大学ボランティアセンター）などで行っている取組のうち、当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅲ-8. ボランティア活動支援部署などで行っている取組



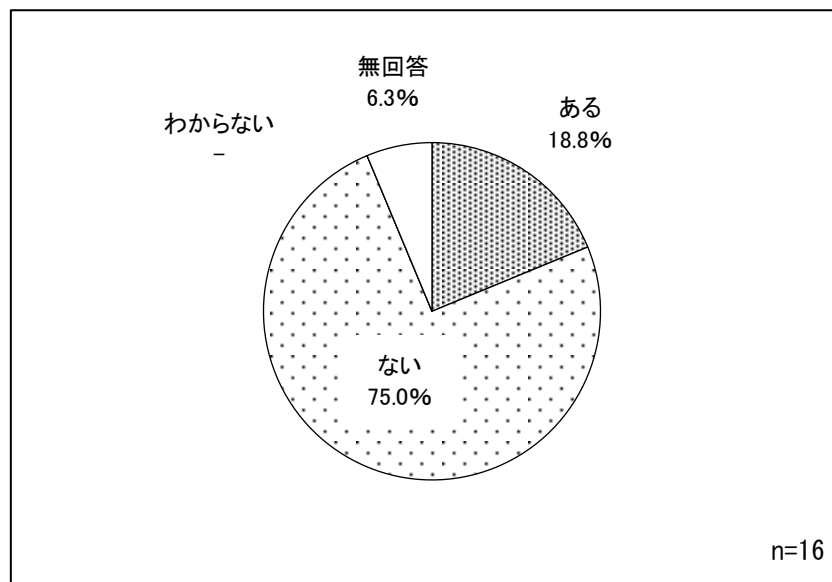
ボランティア活動支援部署などで行っている取組は、「ボランティア活動情報の提供・紹介」が 100.0%で最も高かった。次いで、「活動を希望する学生、サークルに対する相談・助言」が 87.5%、「ボランティアサークルなどの活動支援」が 68.8%であった。

1-4 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の波及効果

(Q1 で 1、2 と答えた方)

Q4 Q3 で選択した取組のうち、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、新たに開始もしくは充実したものはありますか。(単一回答)

図表Ⅲ-9. 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の波及効果



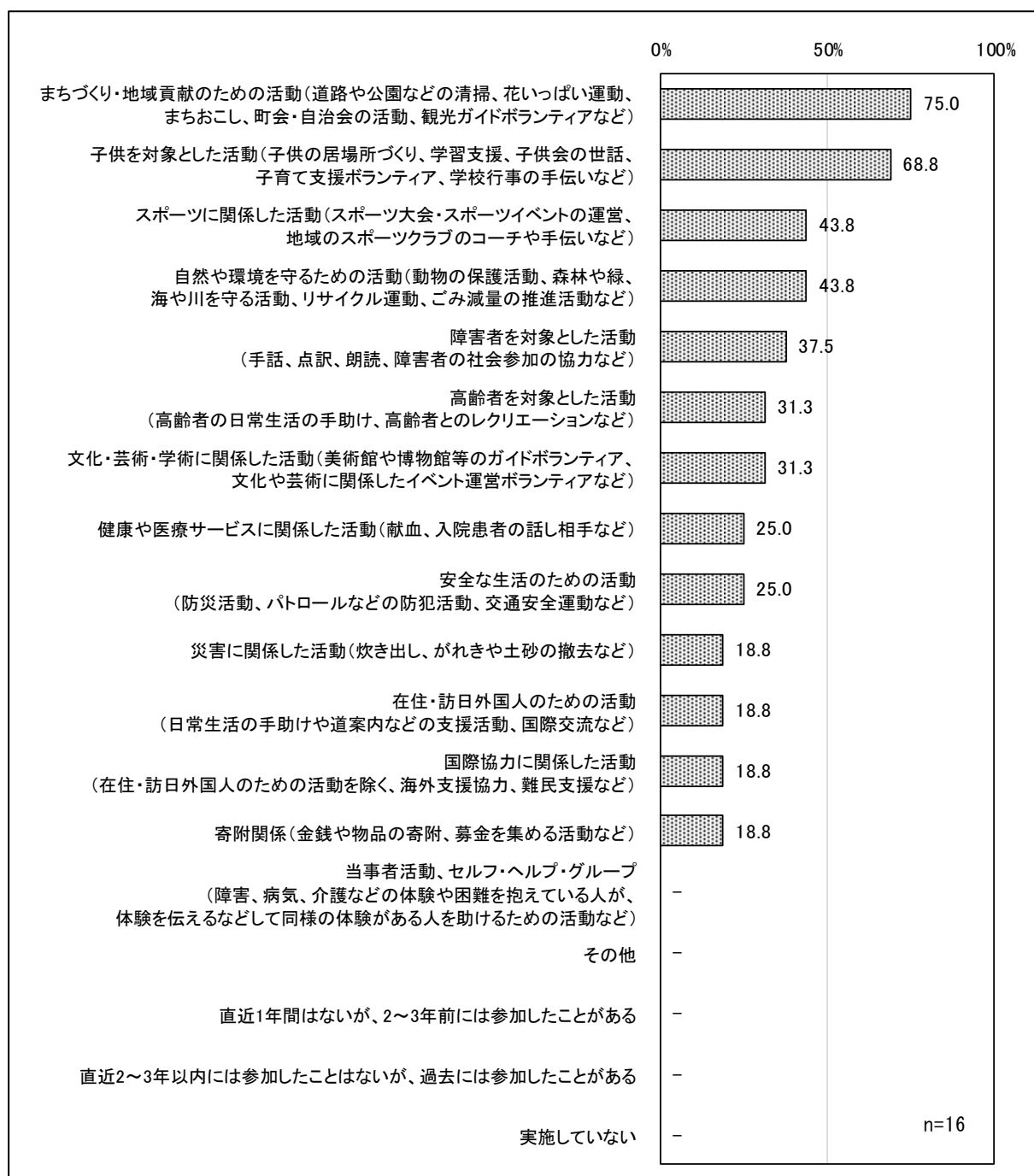
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、新たに開始もしくは充実したものは、「ある」が18.8%、「ない」が75.0%であった。

1-5 学生が参加したボランティア活動

(Q1 で 1、2 と答えた方)

Q5 貴学で直近 1 年間（令和 3 年 11 月 1 日から令和 4 年 10 月 31 日まで）にボランティア活動支援部署（大学ボランティアセンター）などが紹介・実施をして、実際に学生が参加したボランティア活動について、当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅲ-10. 学生が参加したボランティア活動



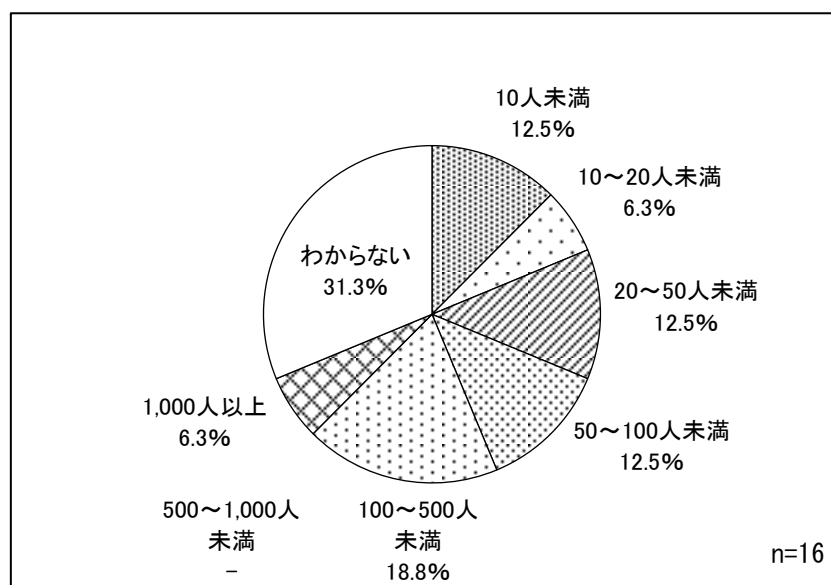
直近 1 年間に学生が参加したボランティア活動は、「まちづくり・地域貢献のための活動」が 75.0% で最も高かった。次いで、「子供を対象とした活動」が 68.8% であった。

1－6 ボランティア活動に参加した学生数

(Q5 で 1～15 と答えた方)

Q6 貴学のボランティア活動支援部署（大学ボランティアセンター）などが紹介・実施したボランティア活動（寄附関係を含まない）に直近 1 年間（令和 3 年 11 月 1 日から令和 4 年 10 月 31 日まで）で参加した学生数（延べ人数）は何人ですか。（単一回答）

図表Ⅲ-11. ボランティア活動に参加した学生数



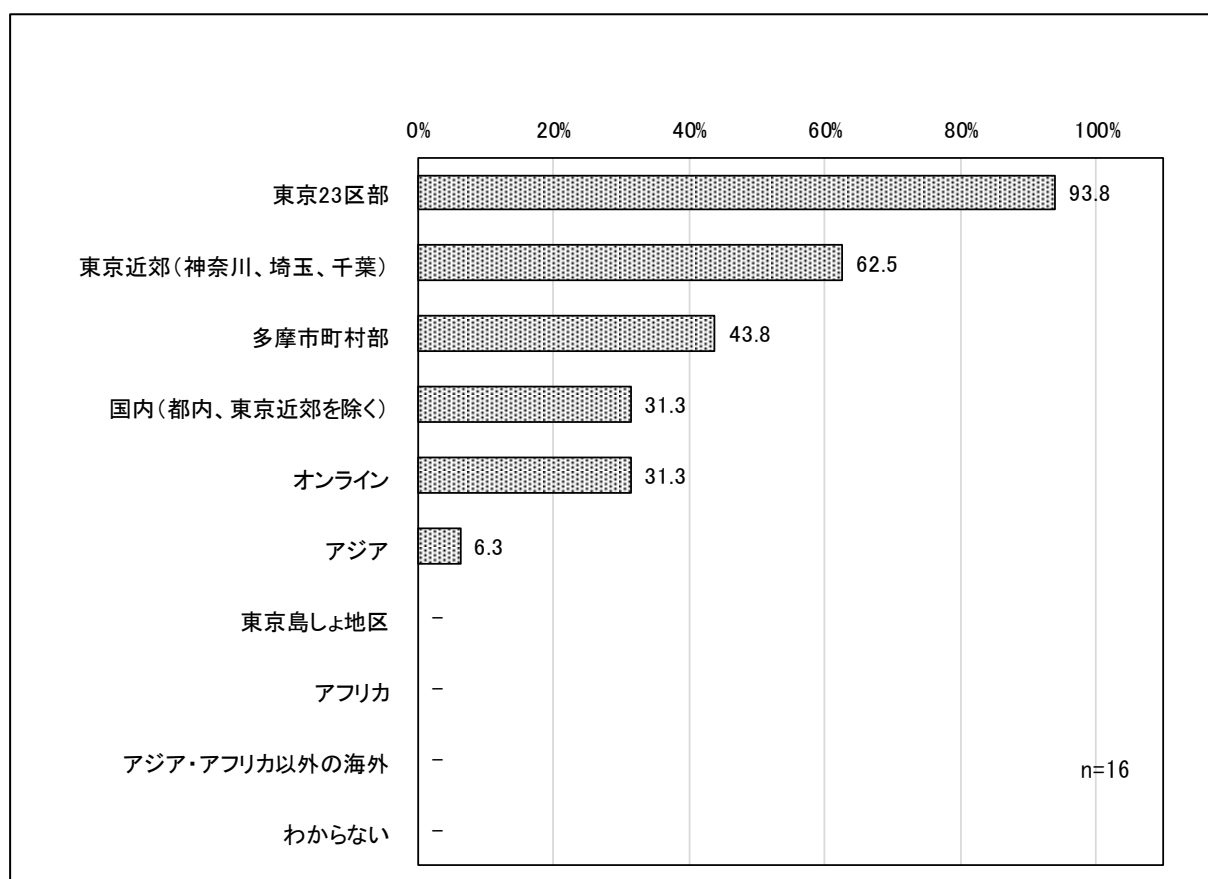
直近 1 年間でボランティア活動に参加した学生数は、「10 人未満」が 12.5%、「10～20 人未満」が 6.3%、「20～50 人未満」と「50～100 人未満」がいずれも 12.5%、「100～500 人未満」が 18.8%、「1,000 人以上」が 6.3%であった。

1-7 学生が参加したボランティア活動の地域

(Q5 で 1～15 と答えた方)

Q7 貴学のボランティア活動支援部署（大学ボランティアセンター）などが紹介・実施して実際に学生が参加したボランティア活動について、活動した地域はどこですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅲ-12. 学生が参加したボランティア活動の地域



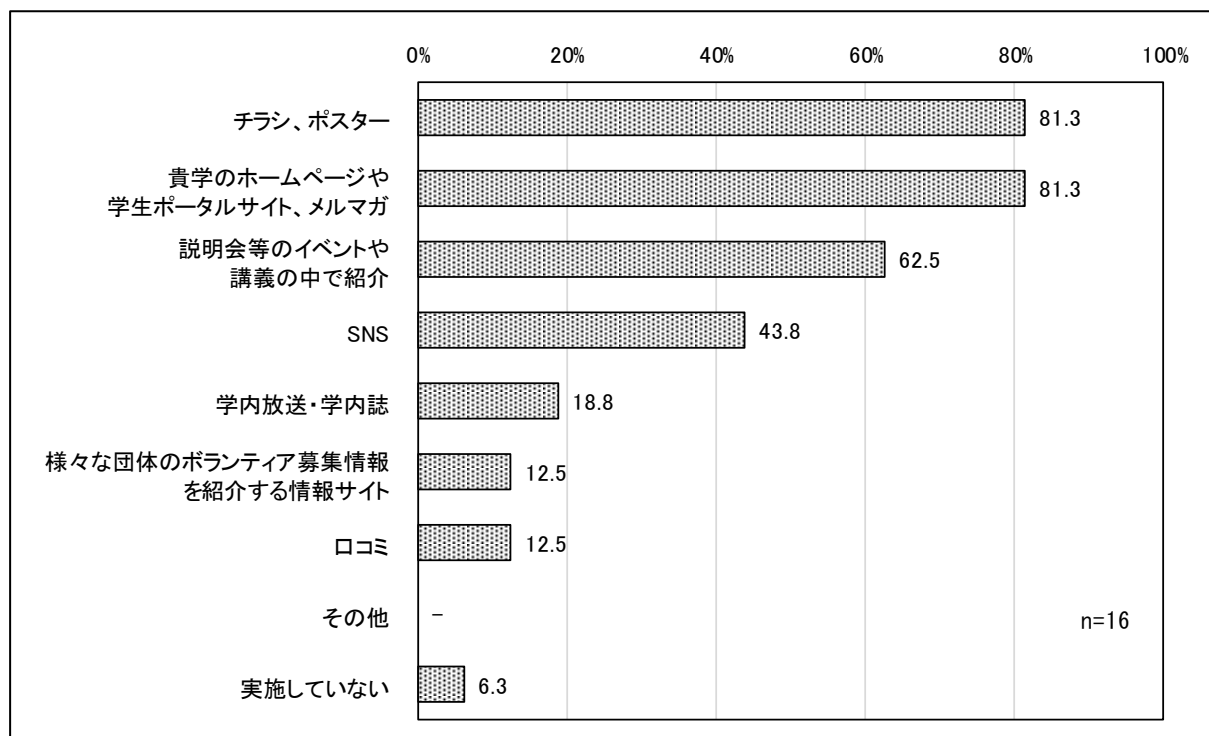
学生が参加したボランティア活動の地域は、「東京 23 区部」が 93.8%で最も高かった。次いで、「東京近郊（神奈川、埼玉、千葉）」が 62.5%、「多摩市町村部」が 43.8%であった。

1－8 学生へのボランティア活動の周知方法

(Q1 で 1、2 と答えた方)

Q8 学生へのボランティア情報の周知方法について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

図表Ⅲ-13. 学生へのボランティア活動の周知方法



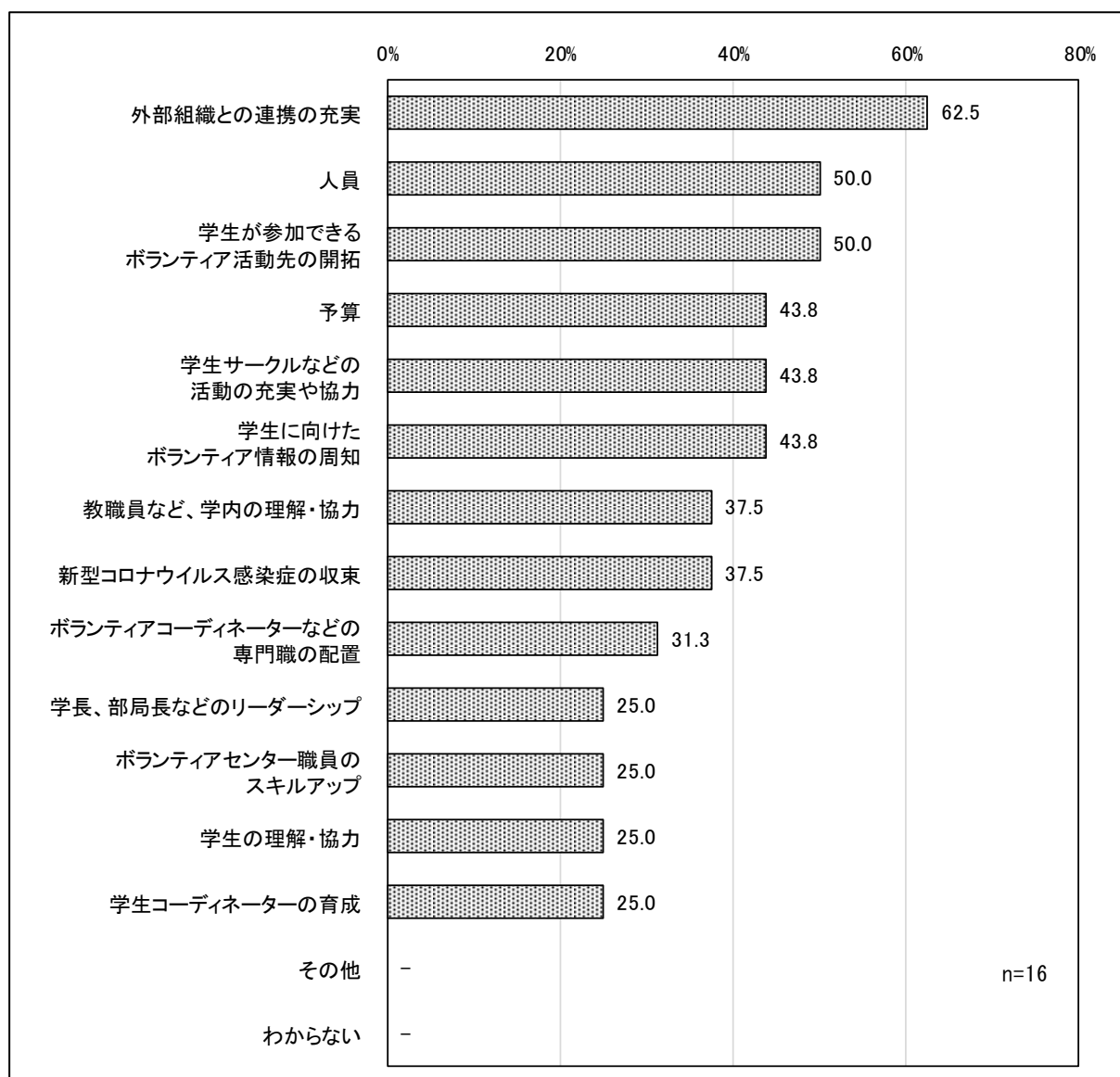
学生へのボランティア活動の周知方法は、「チラシ、ポスター」と「貴学のホームページや学生ポータルサイト、メルマガ」がいずれも 81.3%、「説明会等のイベントや講義の中で紹介」が 62.5%であった。

1-9 学内ボランティア活動を充実させていくための課題

(Q1 で 1、2 と答えた方)

Q9 学内のボランティア活動を充実させていくための課題は何ですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

図表Ⅲ-14. 学内ボランティア活動を充実させていくための課題



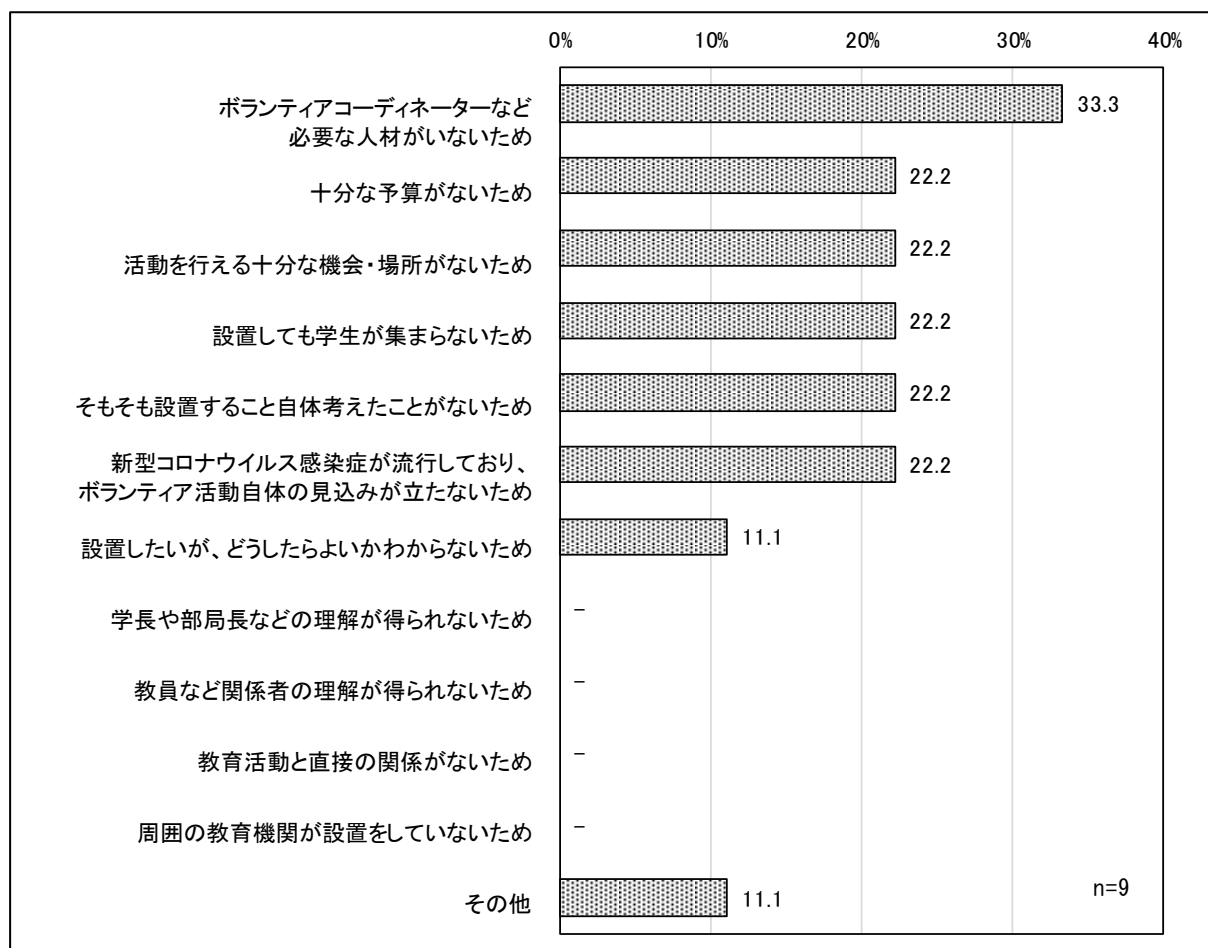
学内ボランティア活動を充実させていくための課題は、「外部組織との連携の充実」が 62.5% で最も高かった。次いで、「人員」と「学生が参加できるボランティア活動先の開拓」がいずれも 50.0% であった。

1-10 ボランティア活動支援部署などを設置していない理由

(Q1 で 3 と答えた方)

Q10 ボランティア活動支援部署（大学ボランティアセンター）などを設置していない理由について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅲ-15. ボランティア活動支援部署などを設置していない理由



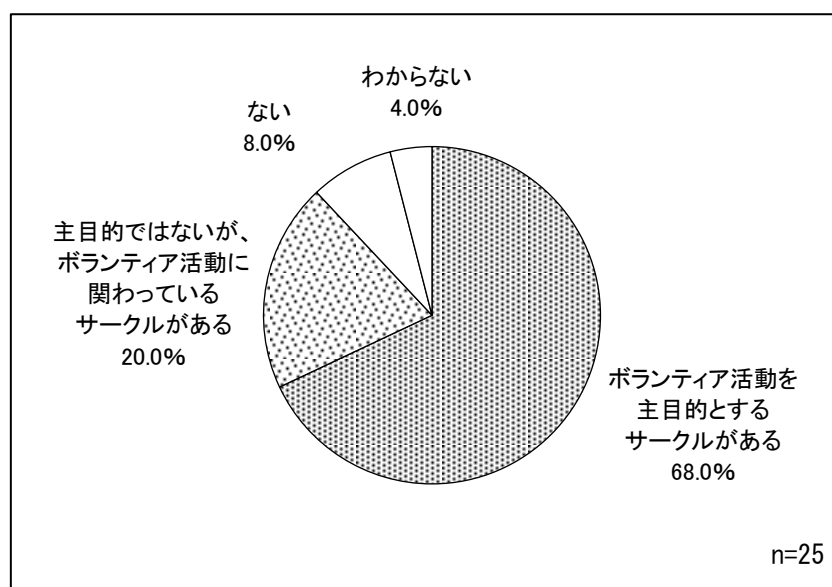
ボランティア活動支援部署などを設置していない理由は、「ボランティアコーディネーターなど必要な人材がないため」が 33.3%で最も高かった。

1-11 学生ボランティアサークルの有無

(すべてと答えた方)

Q11 貴学に学生のボランティアサークルなどがありますか。(単一回答)

図表Ⅲ-16. 学生ボランティアサークルの有無



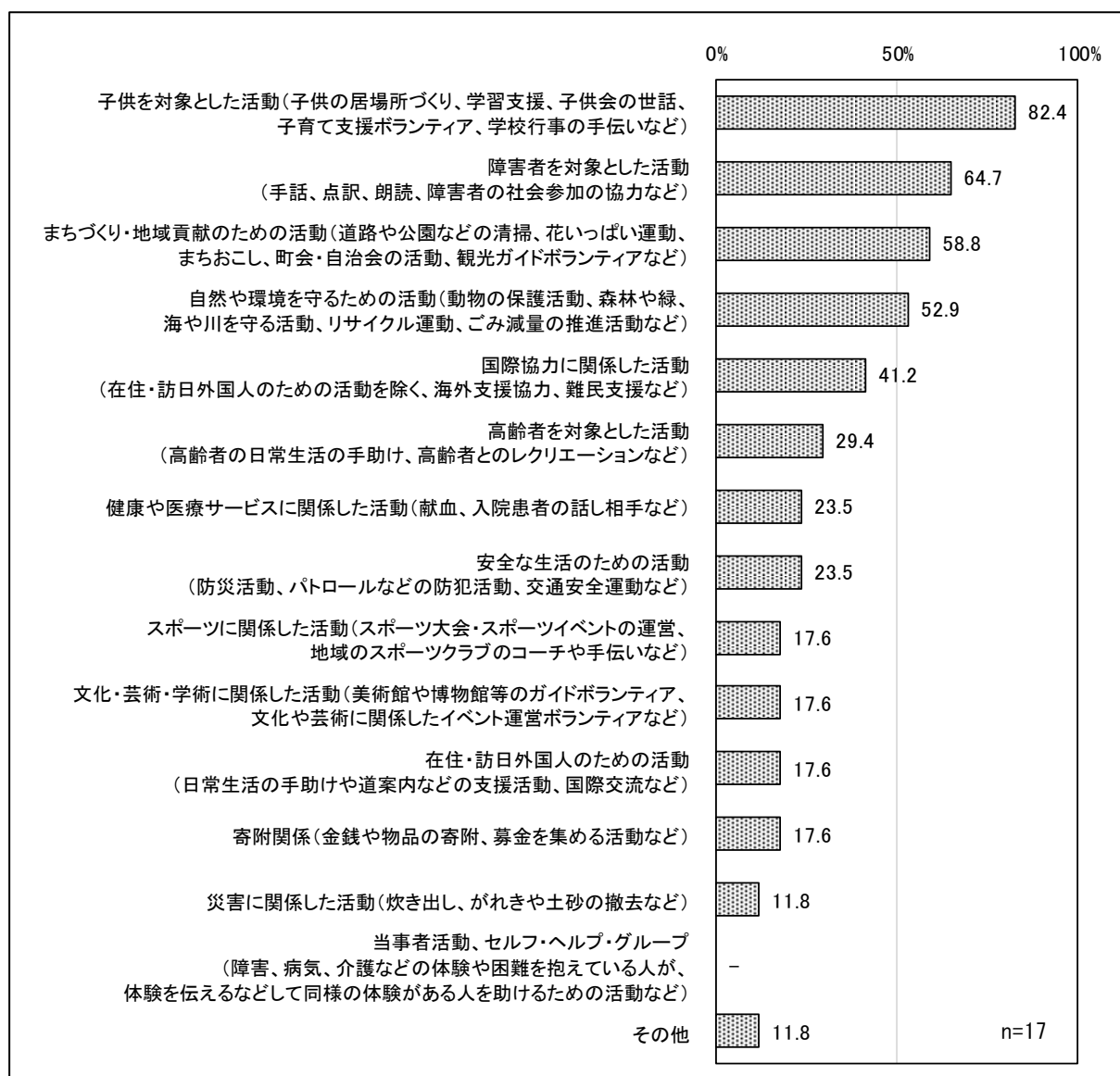
学生ボランティアサークルの有無は、「ボランティア活動を主目的とするサークルがある」が68.0%、「主目的ではないが、ボランティア活動に関わっているサークルがある」が20.0%、「ない」が8.0%であった。

1-12 ボランティア活動を主目的とするサークルなどの活動内容、団体数、学生数

(Q11で1と答えた方)

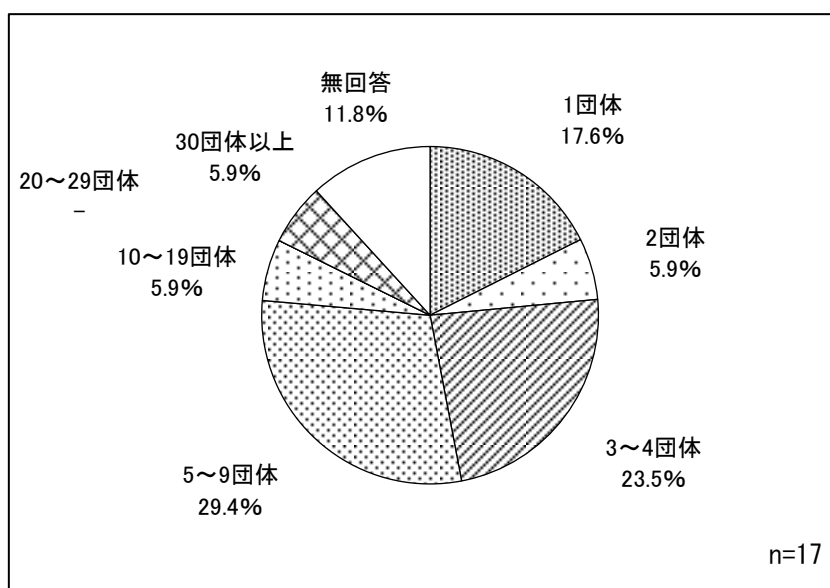
Q12 ボランティア活動を主目的とするサークルなどの活動内容、団体数、学生数をお答えください。

図表Ⅲ-17. ボランティア活動を主目的とするサークルなどの活動内容



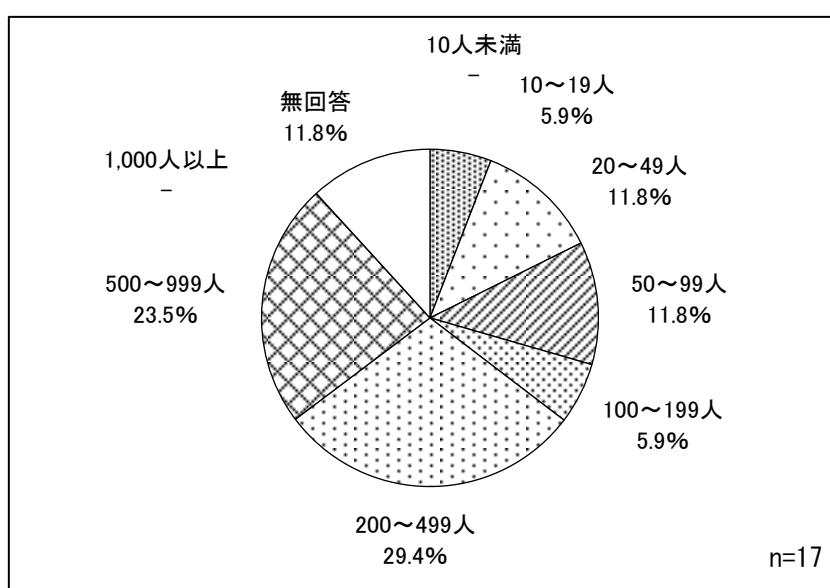
ボランティア活動を主目的とするサークルなどの活動内容は、「子供を対象とした活動」が82.4%で最も高かった。次いで、「障害者を対象とした活動」が64.7%、「まちづくり・地域貢献のための活動」が58.8%であった。

図表Ⅲ-18. ボランティア活動を主目的とするサークルなどの団体数



ボランティア活動を主目的とするサークルなどの団体数は、「1 団体」が 17.6%、「2 団体」が 5.9%、「3～4 団体」が 23.5%、「5～9 団体」が 29.4%、「10～19 団体」が 5.9%、「30 団体以上」が 5.9%であった。

図表Ⅲ-19. ボランティア活動を主目的とするサークルなどの学生数

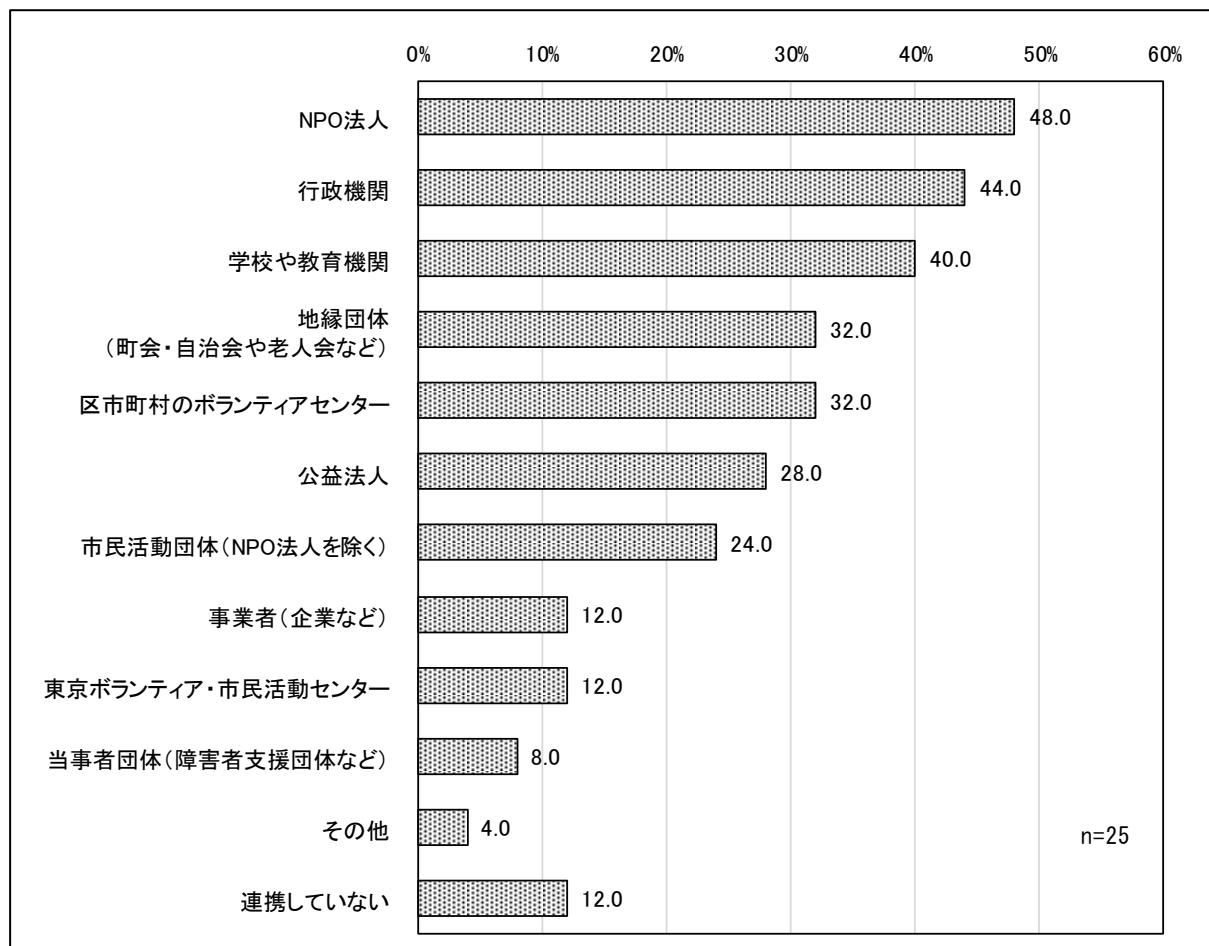


ボランティア活動を主目的とするサークルなどの学生数は、「10～19 人」が 5.9%、「20～49 人」と「50～99 人」がいずれも 11.8%、「100～199 人」が 5.9%、「200～499 人」が 29.4%、「500～999 人」が 23.5%であった。

1-13 連携団体

Q13 ボランティア活動の企画・実施にあたって、連携している団体はありますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

図表Ⅲ-20. 連携団体

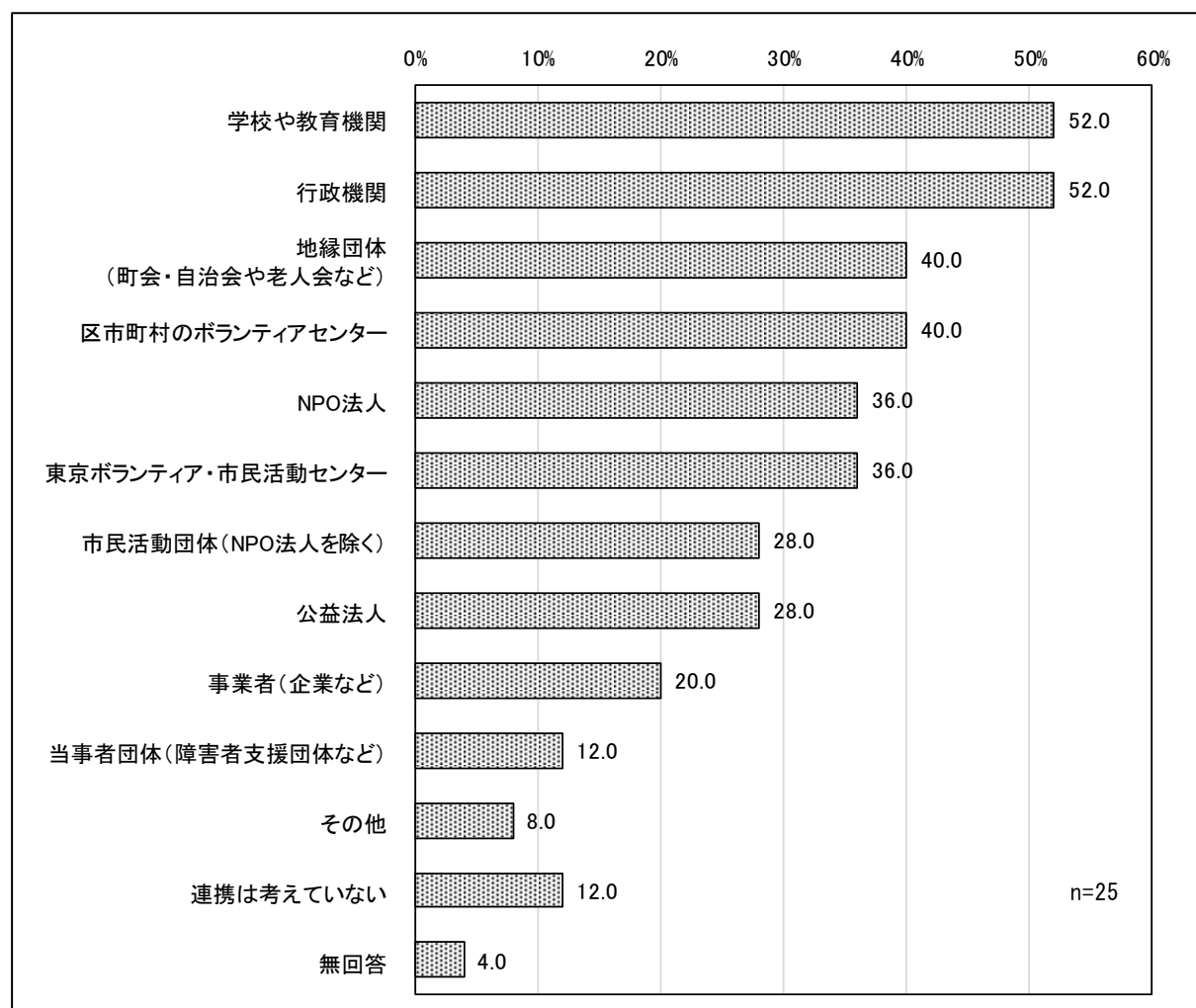


ボランティア活動の企画・実施にあたって連携している団体は、「NPO法人」が48.0%で最も高かった。次いで、「行政機関」が44.0%、「学校や教育機関」が40.0%であった。

1-14 今後連携したい団体

Q14 ボランティア活動の企画・実施にあたって、今後連携したい団体があれば、当てはまるものをすべてお答えください。現在、既に連携していて、今後も引き続き連携したい場合も含めてお答えください。（複数回答）

図表Ⅲ-21. 今後連携したい団体

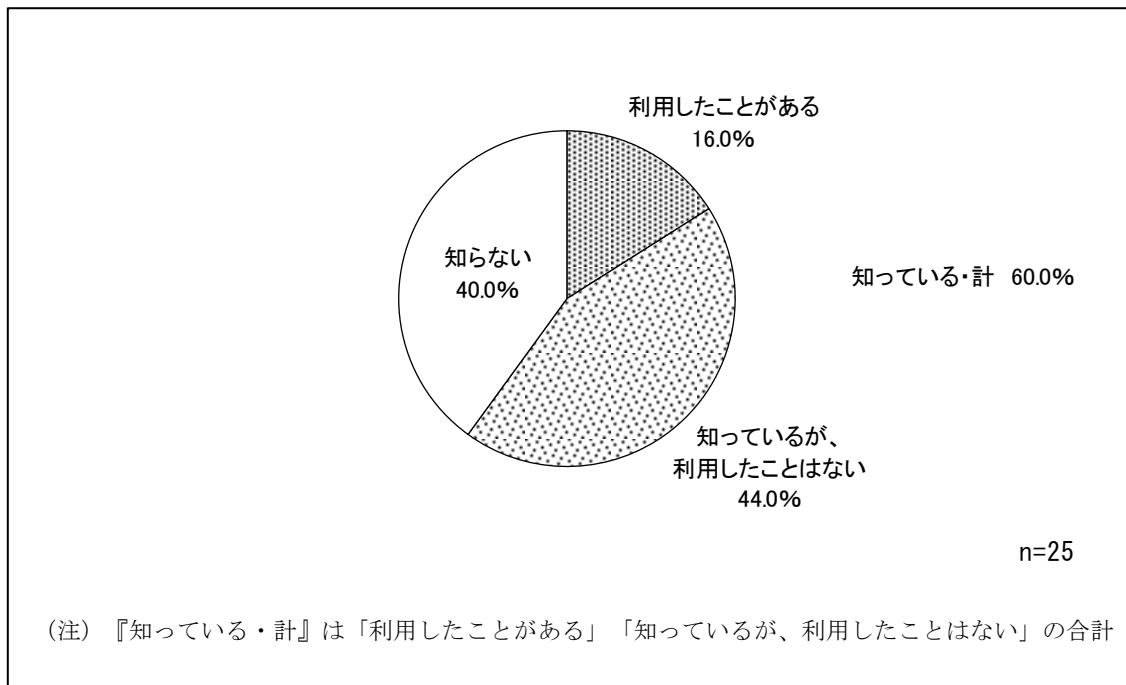


今後連携したい団体は、「学校や教育機関」と「行政機関」がいずれも52.0%、「地縁団体（町会・自治会や老人会など）」と「区市町村のボランティアセンター」がいずれも40.0%であった。

1-15 東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験

Q15 東京ボランティア・市民活動センター（飯田橋セントラルプラザ内）をご存じですか。また、利用したことはありますか。（単一回答）

図表Ⅲ-22. 東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験

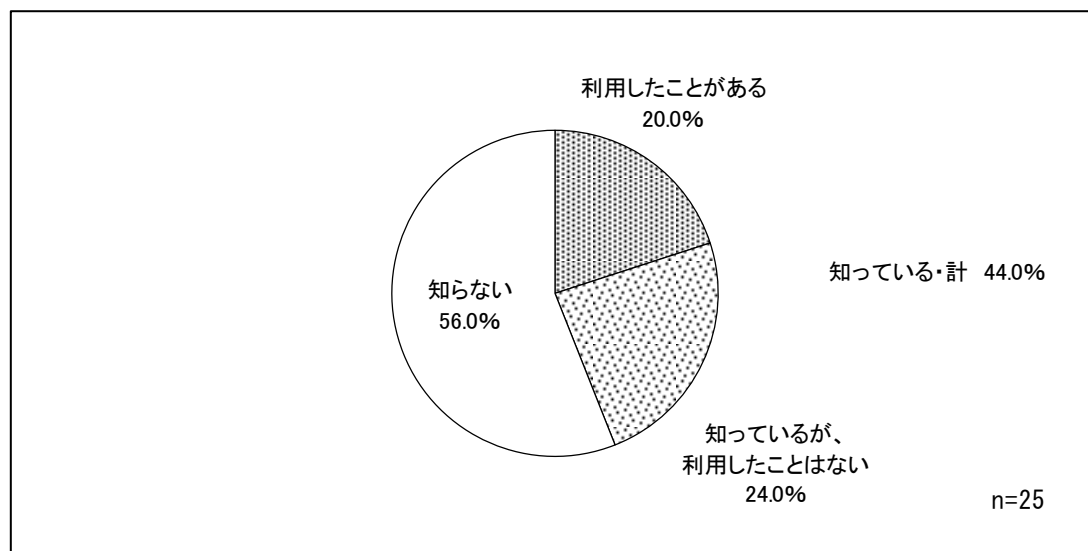


東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験は、「利用したことがある」が16.0%、「知っているが、利用したことはない」が44.0%で、この2項目を合わせた『知っている・計』は60.0%であった。一方、「知らない」は40.0%であった。

1-16 「ボラ市民ウェブ」の認知度及び利用経験

Q16 東京ボランティア・市民活動センターのウェブサイト「ボラ市民ウェブ」はご存じですか。また、利用したことはありますか。(単一回答)

図表Ⅲ-23. 「ボラ市民ウェブ」の認知度及び利用経験

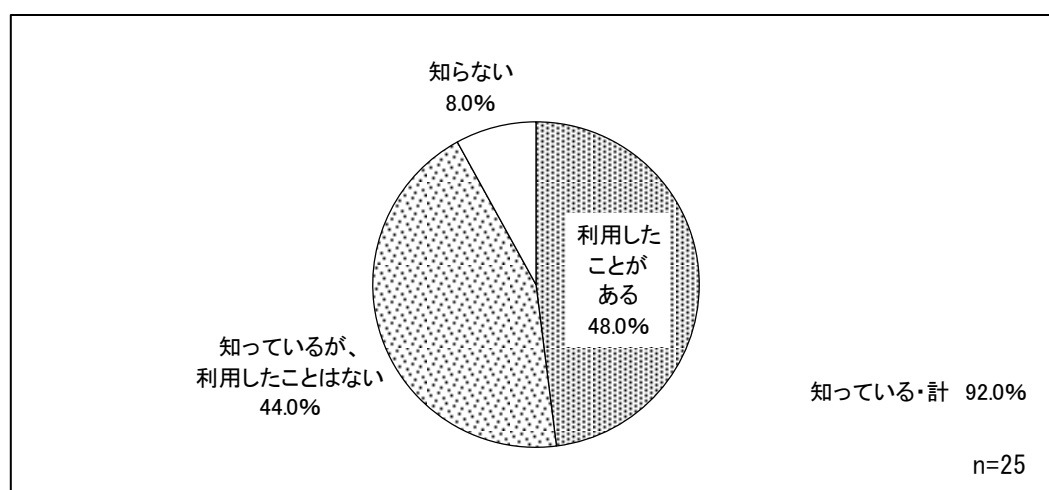


「ボラ市民ウェブ」の認知度及び利用経験は、「利用したことがある」が20.0%、「知っているが、利用したことはない」が24.0%で、この2項目を合わせた『知っている・計』は44.0%であった。一方、「知らない」は56.0%であった。

1-17 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験

Q17 区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。(単一回答)

図表Ⅲ-24. 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験

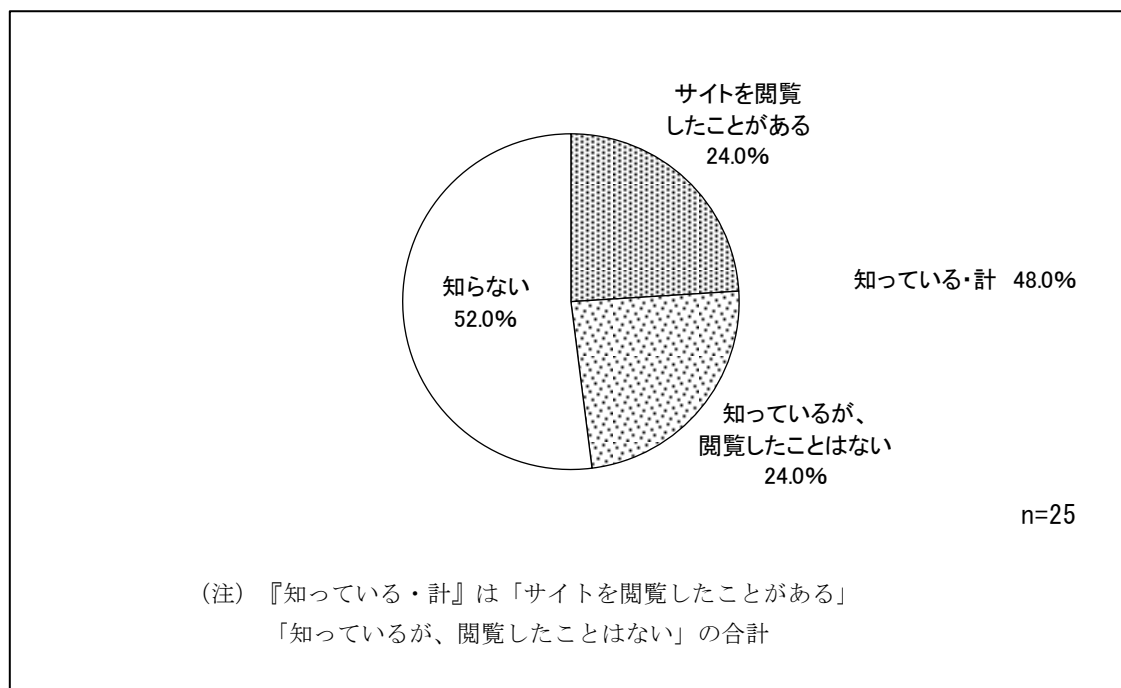


社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験は、「利用したことがある」が48.0%、「知っているが、利用したことはない」が44.0%で、この2項目を合わせた『知っている・計』は92.0%であった。一方、「知らない」は8.0%であった。

1-18 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験

Q18 東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア活動情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存じですか。また、閲覧したことはありますか。(単一回答)

図表Ⅲ-25. 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験



「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験は、「サイトを閲覧したことがある」と「知っているが、閲覧したことはない」がいずれも24.0%で、この2項目を合わせた『知っている・計』は48.0%であった。一方、「知らない」は52.0%であった。

1-19 今後の取組意向

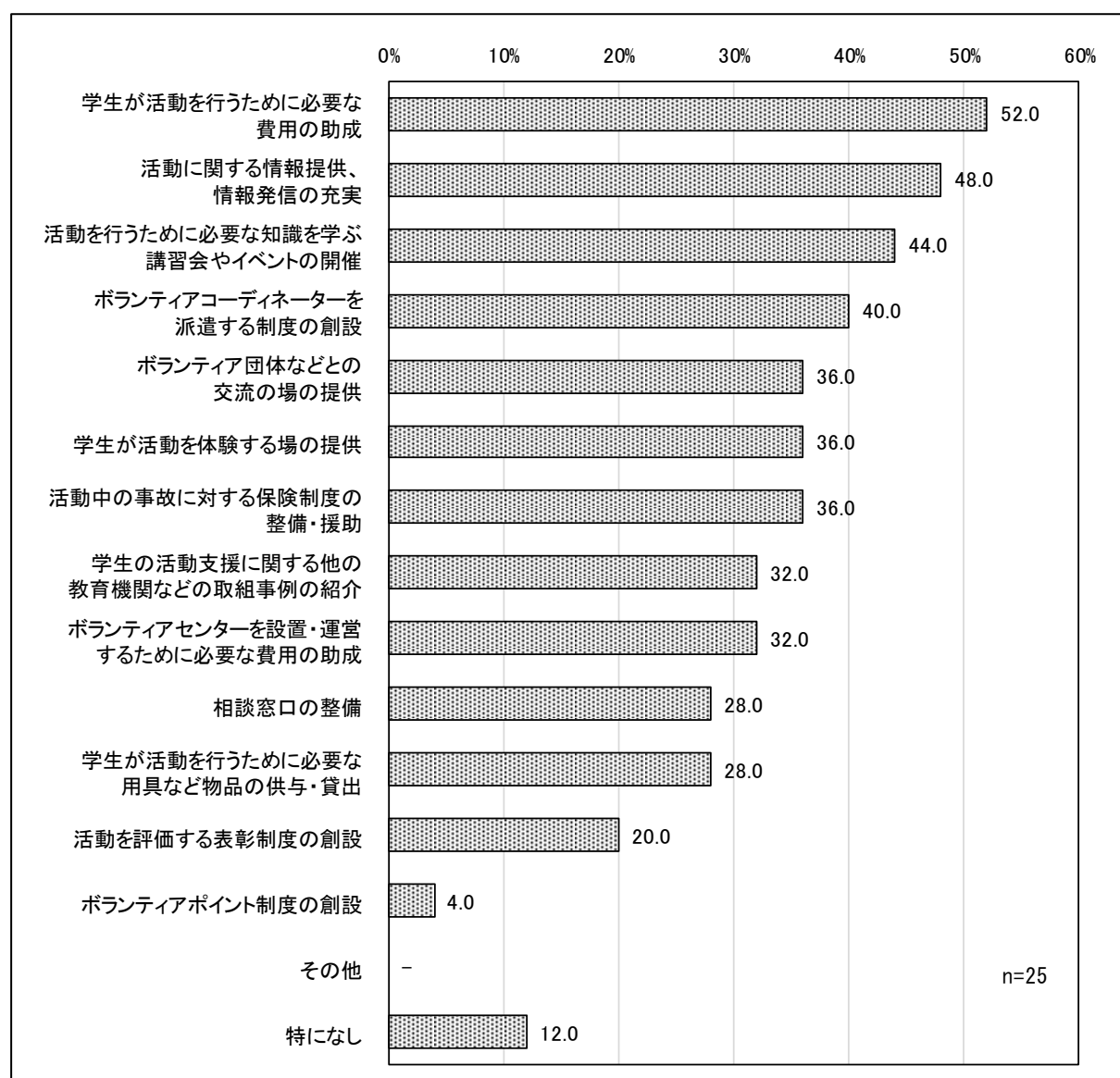
Q19 ボランティア活動に対する今後の取組の意向があれば、ご自由にお書きください。

記述内容
2022年度から2024年度まで、東京2020大会のレガシーとしてDiversity&Inclusionに関する事業を実施している。
今後もサークル活動の一環として学生のやる気があれば支援していく予定。

1-20 ボランティア活動に関して望む支援

Q20 ボランティア活動に関して、どのような支援があったらよいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅲ-26. ボランティア活動に関して望む支援



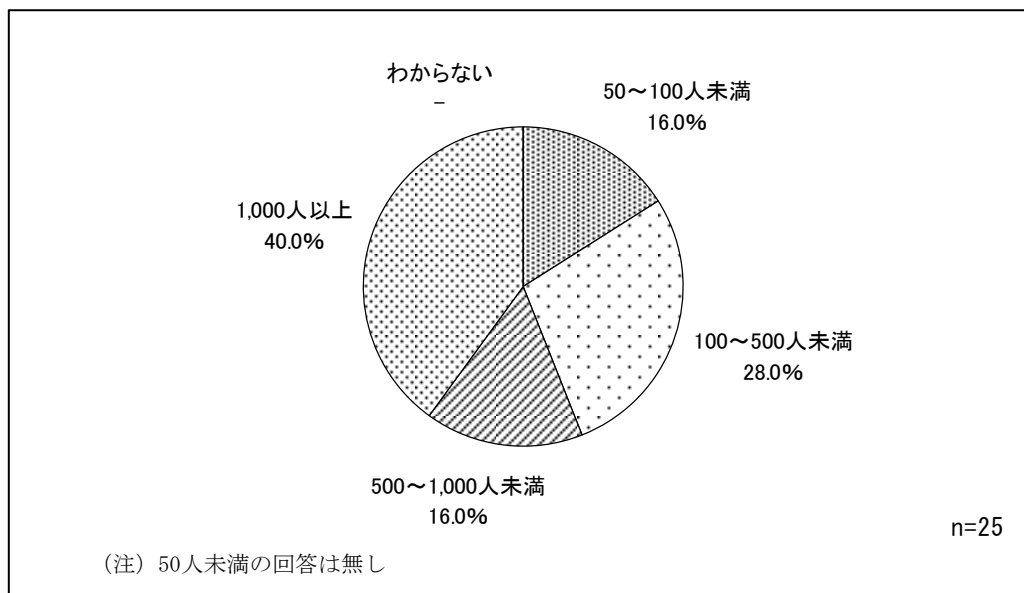
ボランティア活動に関して望む支援は、「学生が活動を行うために必要な費用の助成」が 52.0%で最も高かった。次いで、「活動に関する情報提供、情報発信の充実」が 48.0%、「活動を行うために必要な知識を学ぶ講習会やイベントの開催」が 44.0%であった。

2 学校の概要について

2-1 総職員数

Q21 貴学の職員（教授など含む）の総数は何人ですか。（単一回答）

図表Ⅲ-27. 総職員数

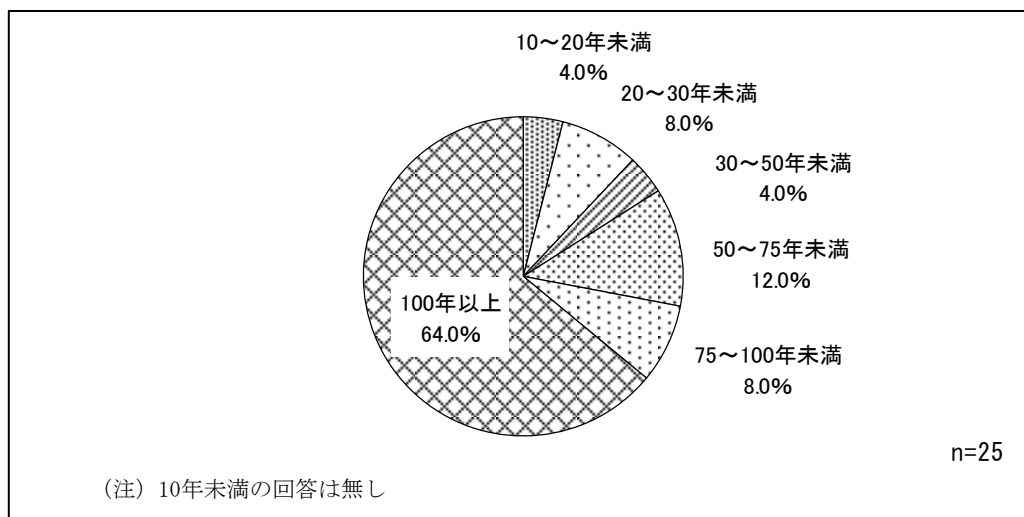


総職員数は、「50～100人未満」が16.0%、「100～500人未満」が28.0%、「500～1,000人未満」が16.0%、「1,000人以上」が40.0%であった。

2-2 設立からの経過年数

Q22 貴学は設立から何年経っていますか。（単一回答）

図表Ⅲ-28. 設立からの経過年数

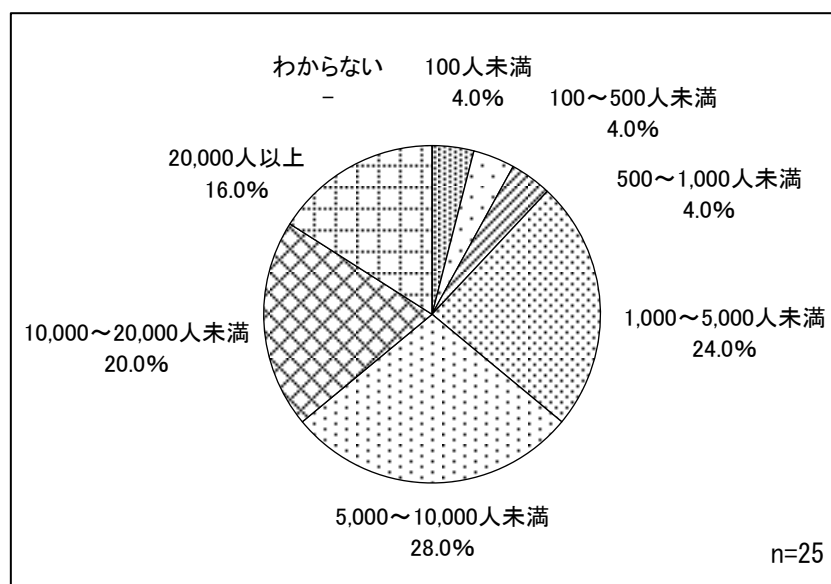


設立からの経過年数は、「10～20年未満」が4.0%、「20～30年未満」が8.0%、「30～50年未満」が4.0%、「50～75年未満」が12.0%、「75～100年未満」が8.0%、「100年以上」が64.0%であった。

2-3 学生数

Q23 貴学の学生数は何人ですか。(単一回答)

図表Ⅲ-29. 学生数



学生数は「100人未満」と「100～500人未満」と「500～1,000人未満」がいずれも4.0%、「1,000人～5,000人未満」が24.0%、「5,000～10,000人未満」が28.0%、「10,000～20,000人未満」が20.0%、「20,000人以上」が16.0%であった。

IV. 中学高校向け調査

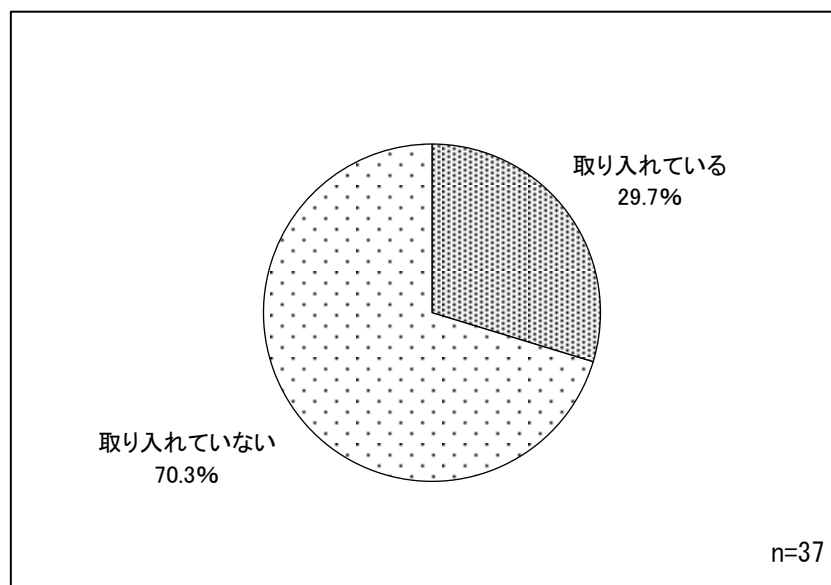
1 ボランティア活動について

1-1 授業でのボランティア活動の取り入れ状況

Q1 授業にボランティア活動※を取り入れていますか。

※名称にかかわらず、報酬を目的としない社会貢献活動と考えてください

図表IV-1. 授業でのボランティア活動の取り入れ状況



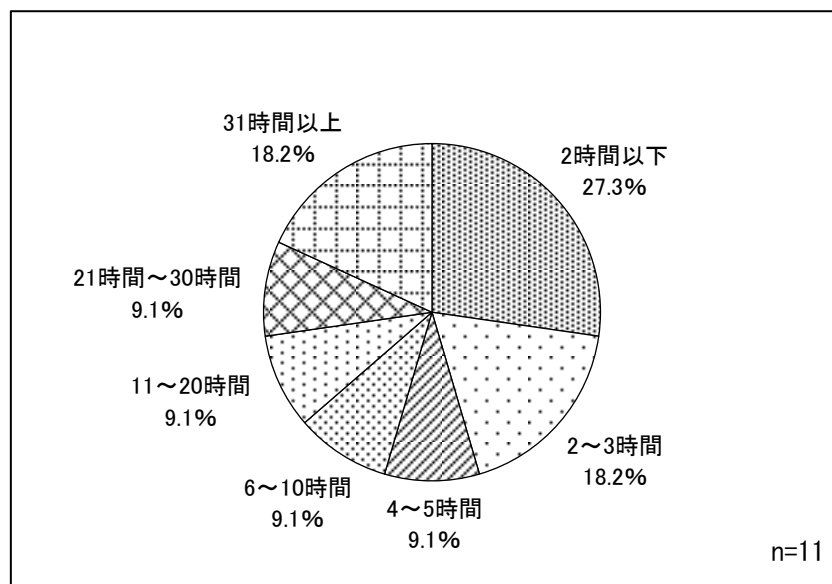
授業でのボランティア活動の取り入れ状況は、「取り入れている」が29.7%、「取り入れていない」が70.3%であった。

1－2 授業に取り入れたボランティア活動の年間時間数及び教科名

(Q1 で 1 と答えた方)

Q2 授業に取り入れたボランティア活動の年間時間数及び教科名をお答えください。

図表Ⅳ-2. 授業に取り入れたボランティア活動の年間時間数



授業に取り入れたボランティア活動の年間時間数は、「2 時間以下」が 27.3%、「2～3 時間」が 18.2%、「4～5 時間」と「6～10 時間」と「11～20 時間」と「21 時間～30 時間」がいずれも 9.1%、「31 時間以上」が 18.2%であった。

授業に取り入れたボランティア活動の教科名
総合的な探求の時間
人間と社会
介護総合演習
総合的な学習の時間
探求活動
宗教科（福祉演習）、総合的な学習の時間
総合的な学習の時間
人間と社会
総合的な学習の時間
道徳
学級活動

1-3 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の波及効果

(Q1 で 1 と答えた方)

Q3 授業に取り入れたボランティア活動のうち、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、新たに開始もしくは充実したものはありますか。(単一回答)

授業にボランティア活動を取り入れている11校に、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、新たに開始もしくは充実したものの有無を聞いたところ、11校全てが「ない」との回答であった。

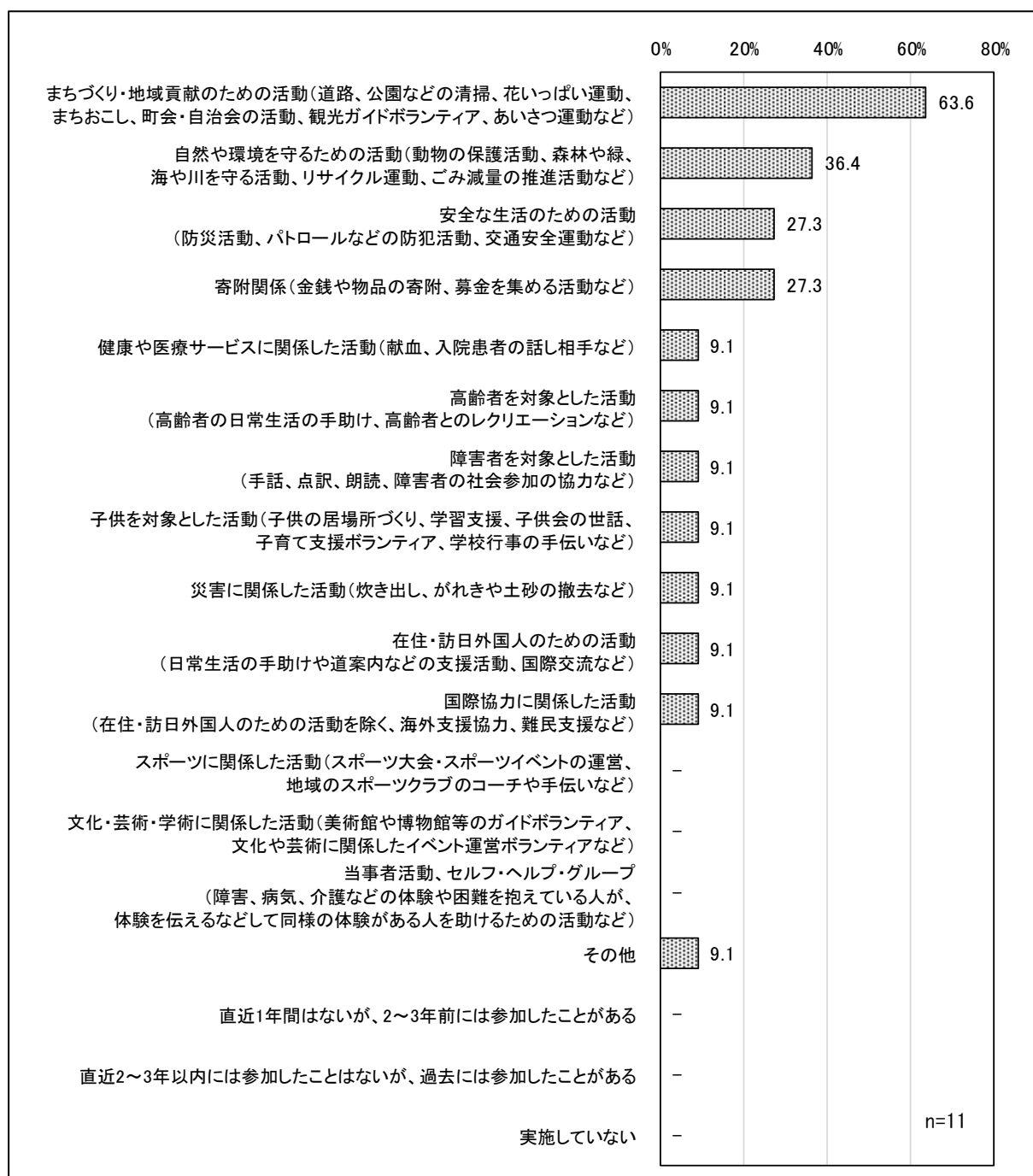
※本質問は「ある」「ない」「わからない」の選択肢のうち、回答は「ない」のみであったため、図は省略

1-4 授業で生徒が参加したボランティア活動

(Q1 で 1 と答えた方)

Q4 直近 1 年間（令和 3 年 11 月 1 日から令和 4 年 10 月 31 日まで）に授業で実際に生徒が参加したボランティア活動がある場合、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表IV-3. 授業で生徒が参加したボランティア活動



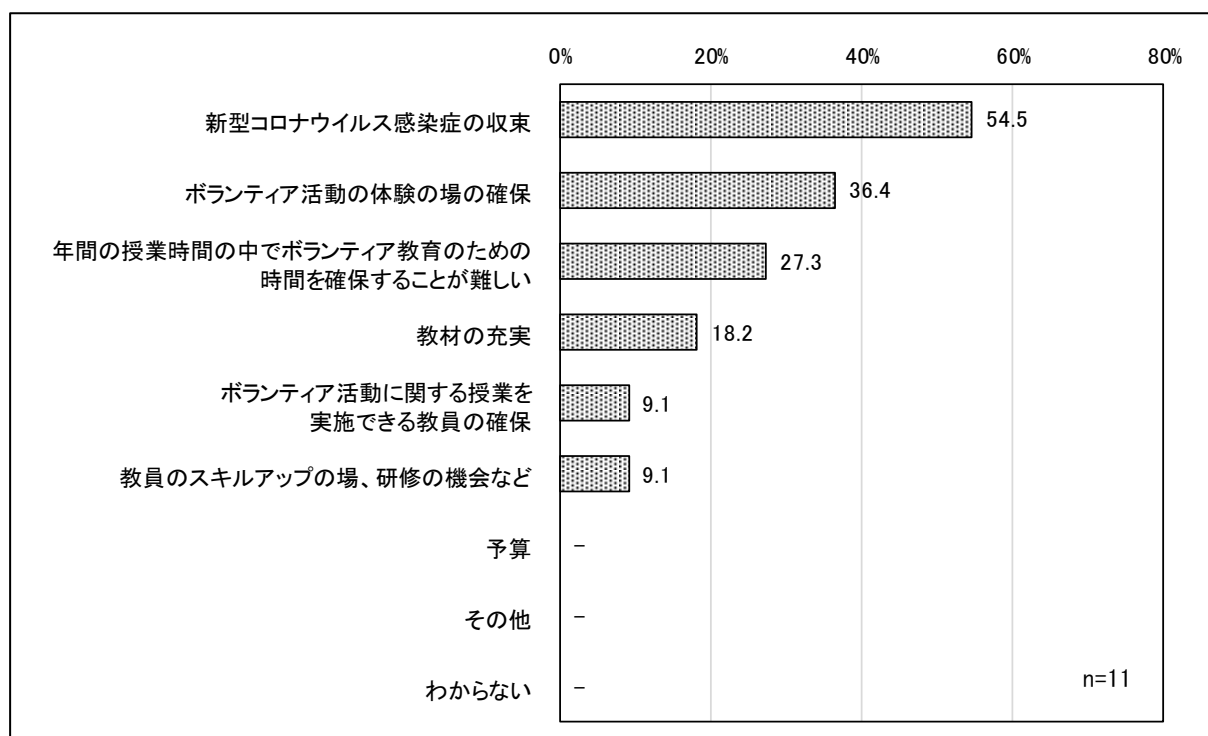
直近 1 年間に授業で生徒が参加したボランティア活動は、「まちづくり・地域貢献のための活動」が 63.6% で最も高かった。次いで、「自然や環境を守るための活動」が 36.4% であった。

1－5 授業でボランティア活動を取り入れるための課題

(Q1 で 1 と答えた方)

Q5 授業でボランティア活動を取り入れていくための課題（授業を行っていく上での課題）は何ですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅳ-4. 授業でボランティア活動を取り入れるための課題



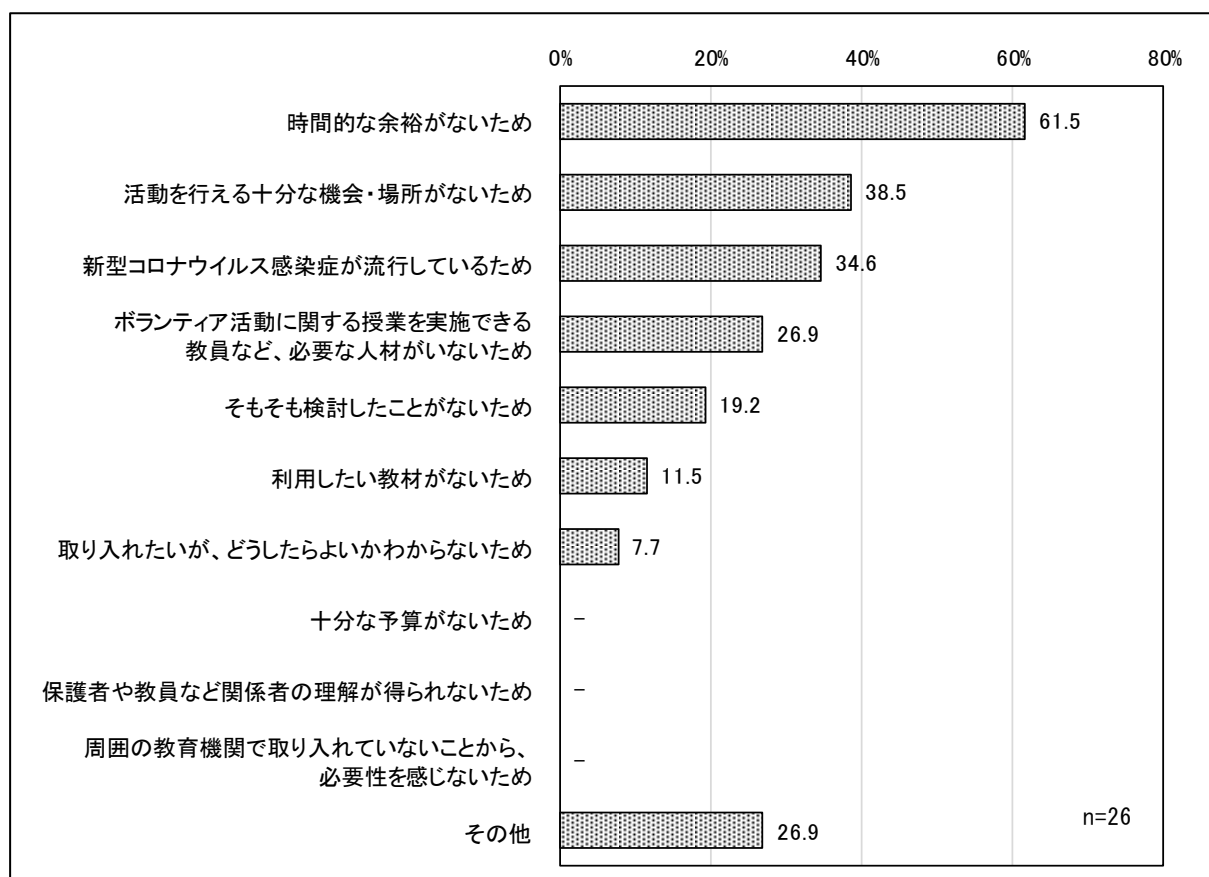
授業でボランティア活動を取り入れるための課題は、「新型コロナウイルス感染症の収束」が54.5%で最も高かった。次いで、「ボランティア活動の体験の場の確保」が36.4%、「年間の授業時間の中でボランティア教育のための時間を確保することが難しい」が27.3%であった。

1-6 授業にボランティア活動を取り入れていない理由

(Q1 で 2 と答えた方)

Q6 授業にボランティア活動を取り入れていない理由について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

図表Ⅳ-5. 授業にボランティア活動を取り入れていない理由

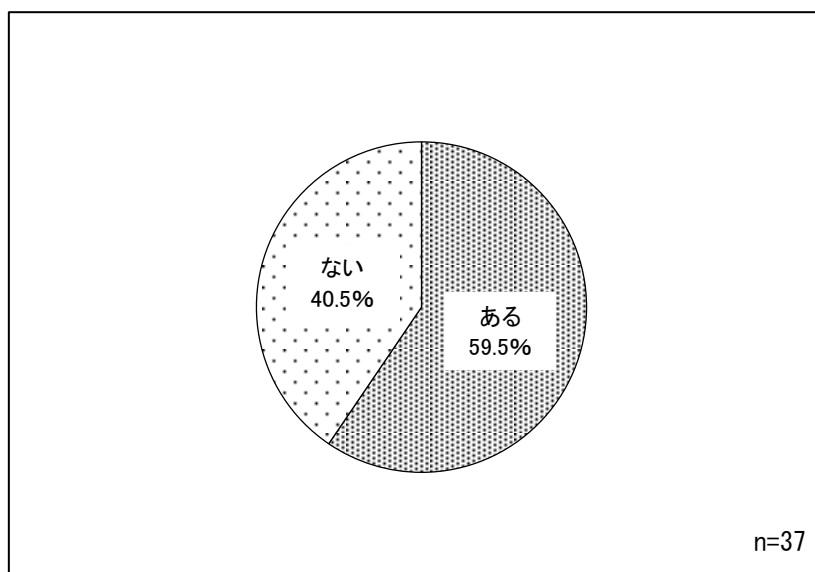


授業にボランティア活動を取り入れていない理由は、「時間的な余裕がないため」が 61.5%で最も高かった。次いで、「活動を行える十分な機会・場所がないため」が 38.5%、「新型コロナウイルス感染症が流行しているため」が 34.6%であった。

1-7 ボランティア活動を行う部活動の有無

Q7 ボランティア活動を行っている部活動などがありますか。

図表Ⅳ-6. ボランティア活動を行う部活動の有無



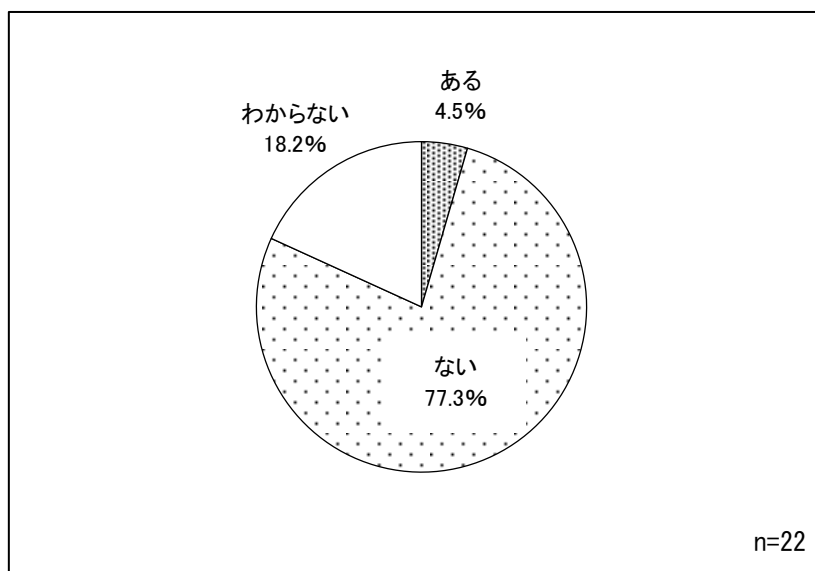
ボランティア活動を行う部活動の有無は、「ある」が 59.5%、「ない」が 40.5%であった。

1-8 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の波及効果

(Q7 で 1 と答えた方)

Q8 ボランティア活動を行っている部活動のうち、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、新たに開始もしくは充実したものはありますか。(単一回答)

図表Ⅳ-7. 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の波及効果



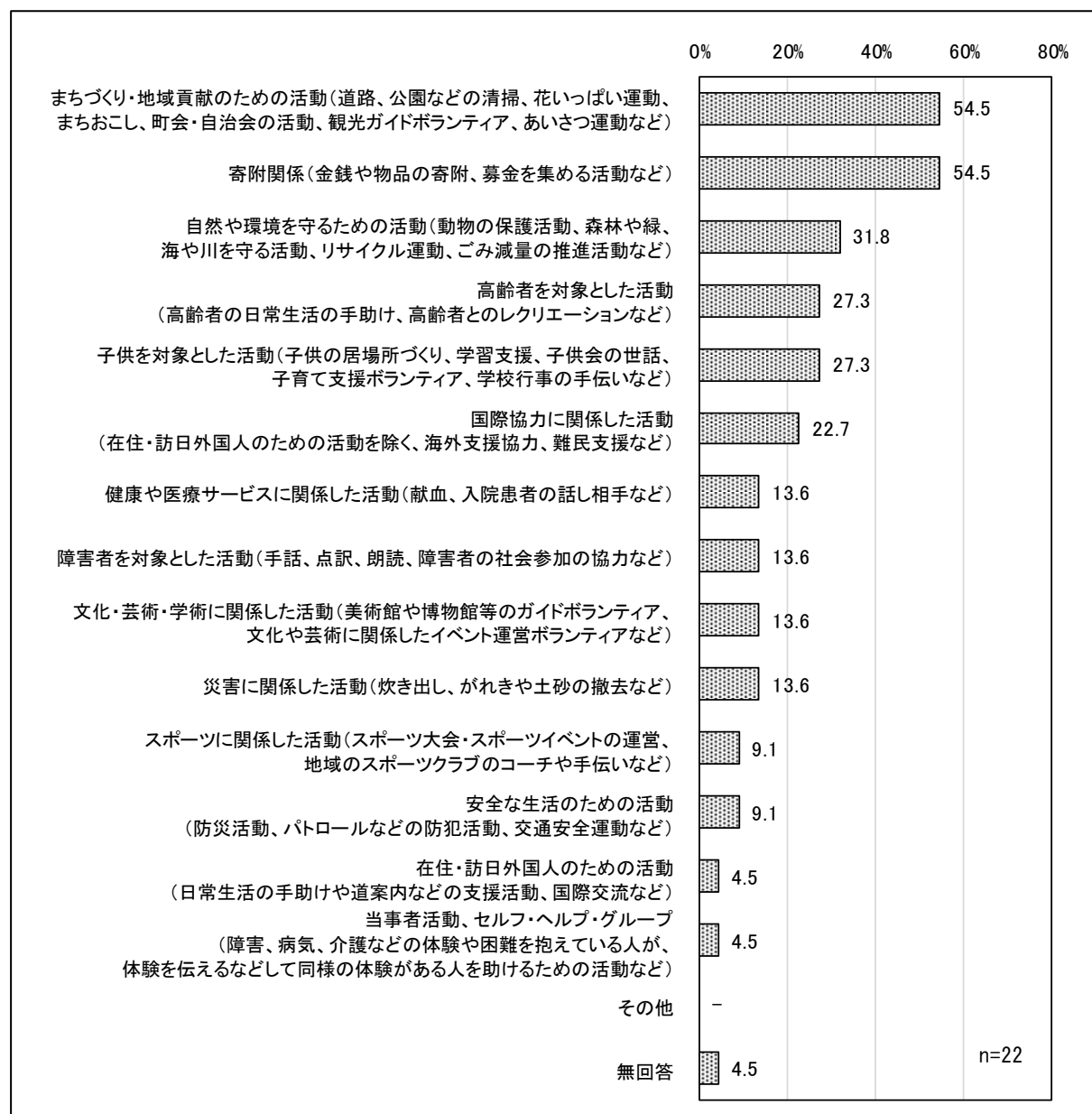
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、新たに開始もしくは充実したものは、「ある」が 4.5%、「ない」が 77.3%であった。

1-9 ボランティア活動を行う部活動の活動内容、団体数、生徒数、担当教員数

(Q7 で 1 と答えた方)

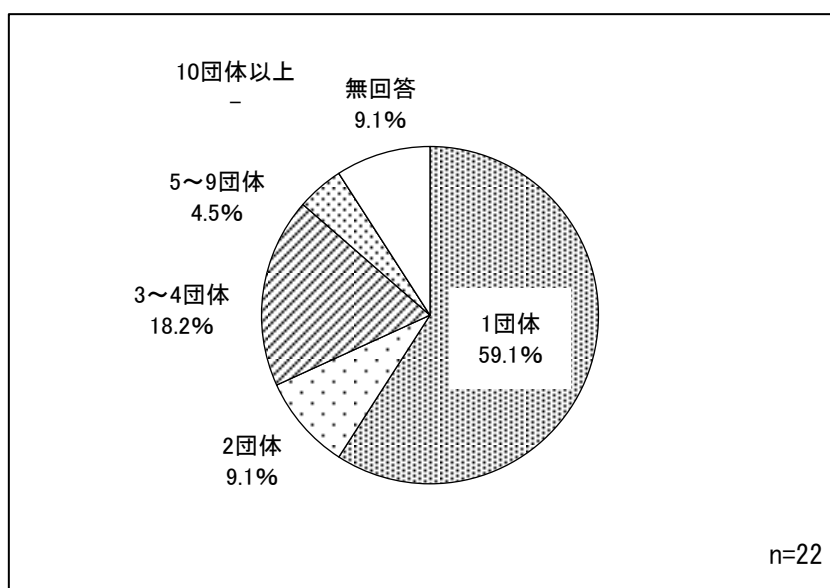
Q9 ボランティア活動を行っている部活動などの活動内容、団体数、生徒数、担当教員数をお答えください。

図表IV-8. ボランティア活動を行う部活動の活動内容



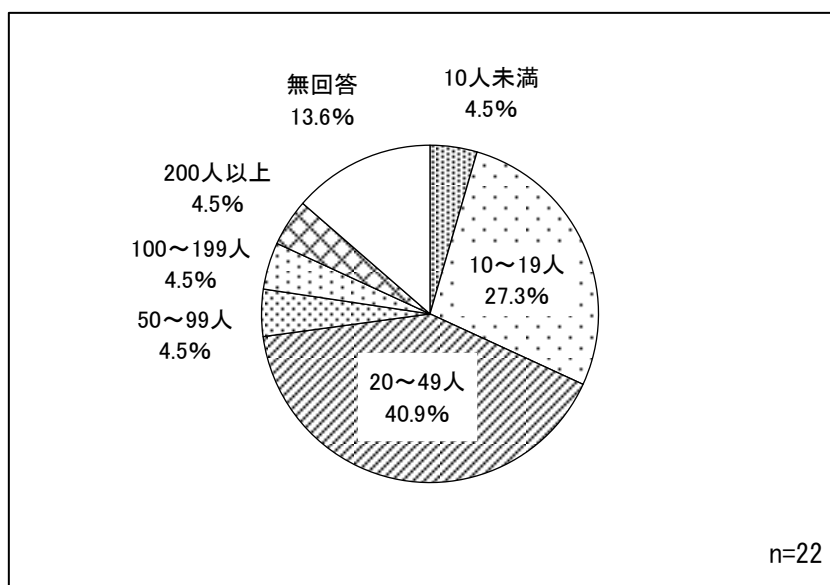
ボランティア活動を行う部活動の活動内容は、「まちづくり・地域貢献のための活動」と「寄附関係」がいずれも 54.5%、「自然や環境を守るための活動」が 31.8%であった。

図表Ⅳ-9. ボランティア活動を行う部活動の団体数



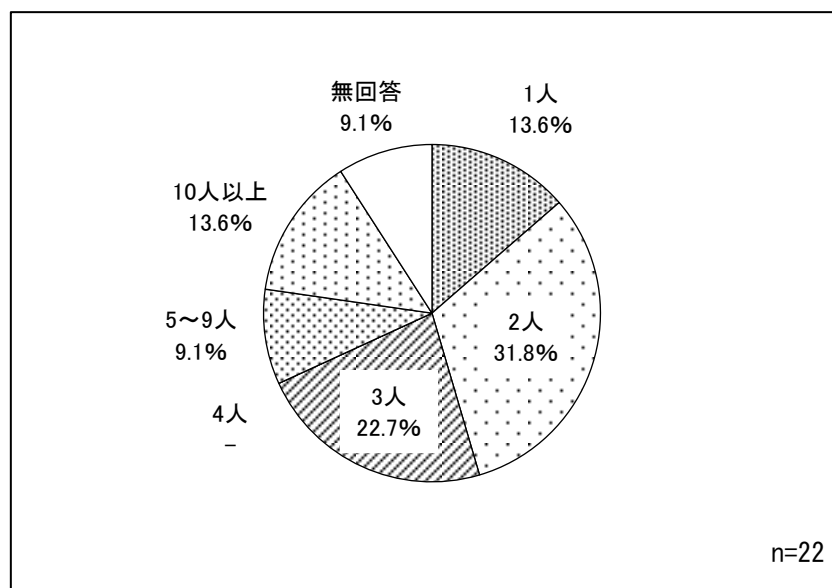
ボランティア活動を行う部活動の団体数は、「1 団体」が 59.1%、「2 団体」が 9.1%、「3～4 団体」が 18.2%、「5～9 団体」が 4.5%であった。

図表Ⅳ-10. ボランティア活動を行う部活動の生徒数



ボランティア活動を行う部活動の生徒数は、「10 人未満」が 4.5%、「10～19 人」が 27.3%、「20～49 人」が 40.9%、「50～99 人」と「100～199 人」と「200 人以上」がいずれも 4.5%であった。

図表Ⅳ-11. ボランティア活動を行う部活動の担当教員数



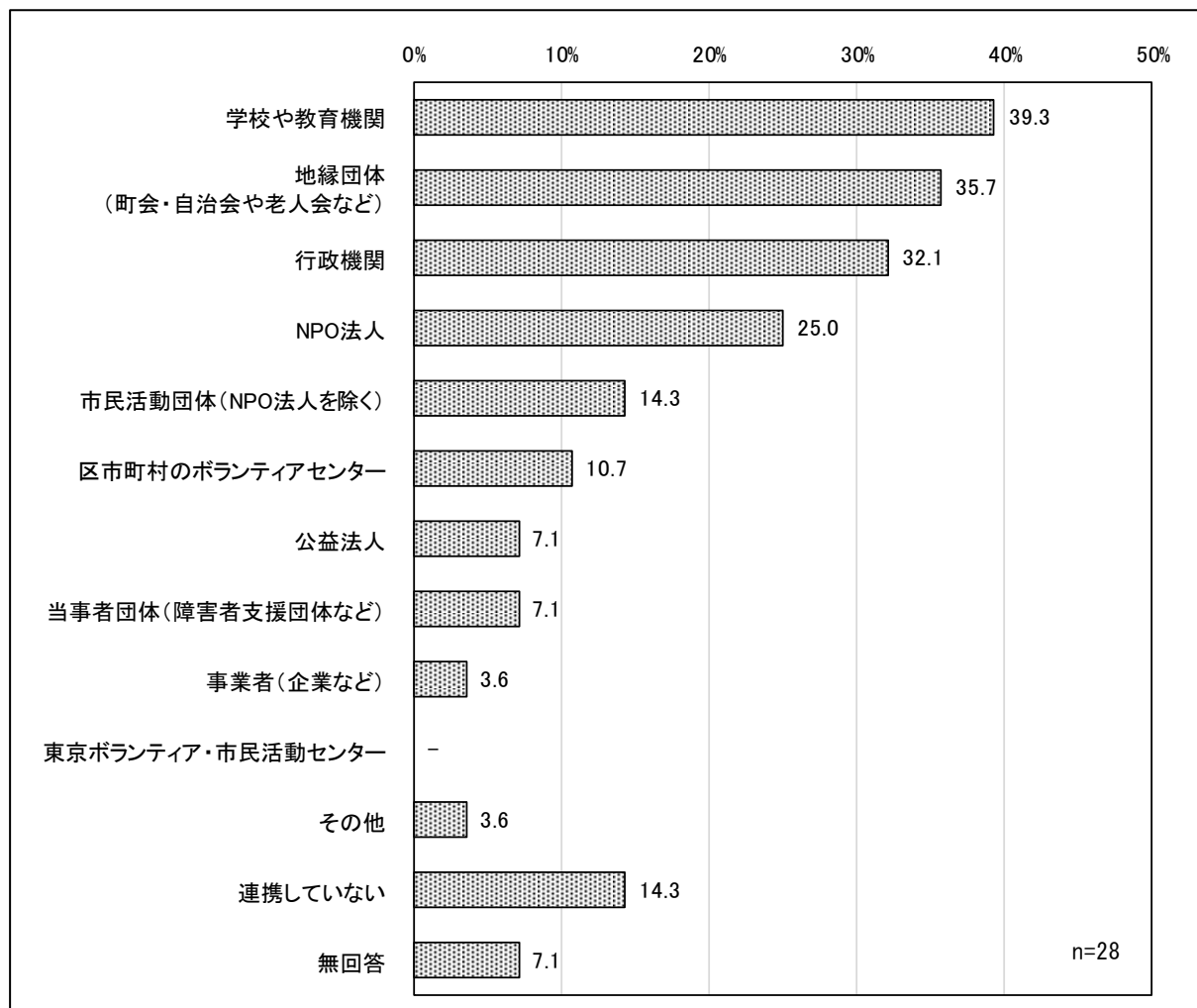
ボランティア活動を行う部活動の担当教員数は、「1人」が13.6%、「2人」が31.8%、「3人」が22.7%、「5～9人」が9.1%、「10人以上」が13.6%であった。

1-10 連携団体

(Q1 または Q7 で 1 と答えた方)

Q10 ボランティア活動を行っている授業や部活動などは、活動にあたり外部の団体と連携していますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

図表Ⅳ-12. 連携団体



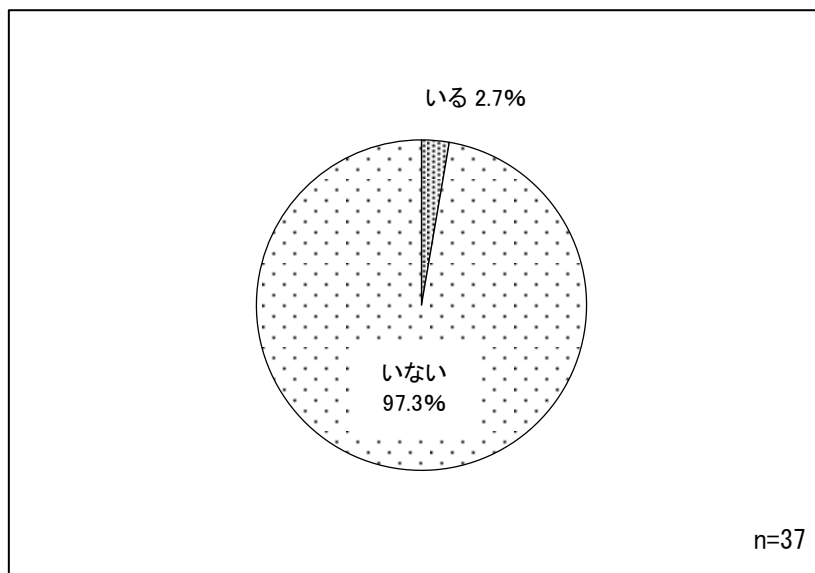
ボランティア活動を行っている授業や部活動などで連携している団体は、「学校や教育機関」が 39.3% で最も高かった。次いで、「地縁団体 (町会・自治会や老人会など)」が 35.7%、「行政機関」が 32.1% であった。

1-11 ボランティアコーディネーターの有無

Q11 ボランティアコーディネーター※として活動できる人はいますか。

※ボランティアコーディネーター：ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側を調整する人材

図表IV-13. ボランティアコーディネーターの有無

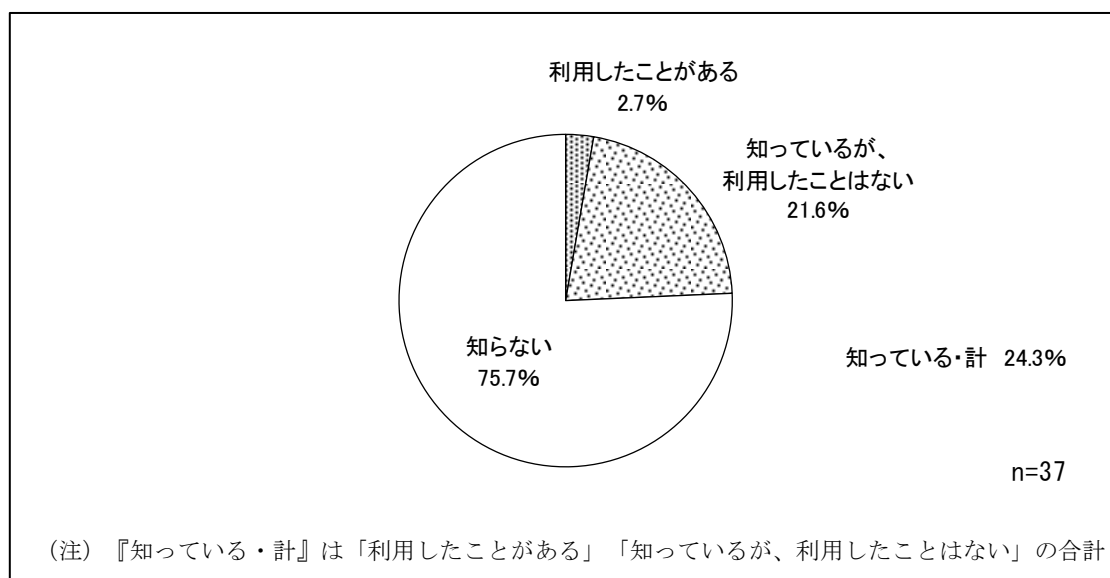


ボランティアコーディネーターの有無は、「いる」が2.7%、「いない」が97.3%であった。

1-12 東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験

Q12 東京ボランティア・市民活動センター（飯田橋セントラルプラザ内）をご存じですか。また、利用したことはありますか。（単一回答）

図表IV-14. 東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験

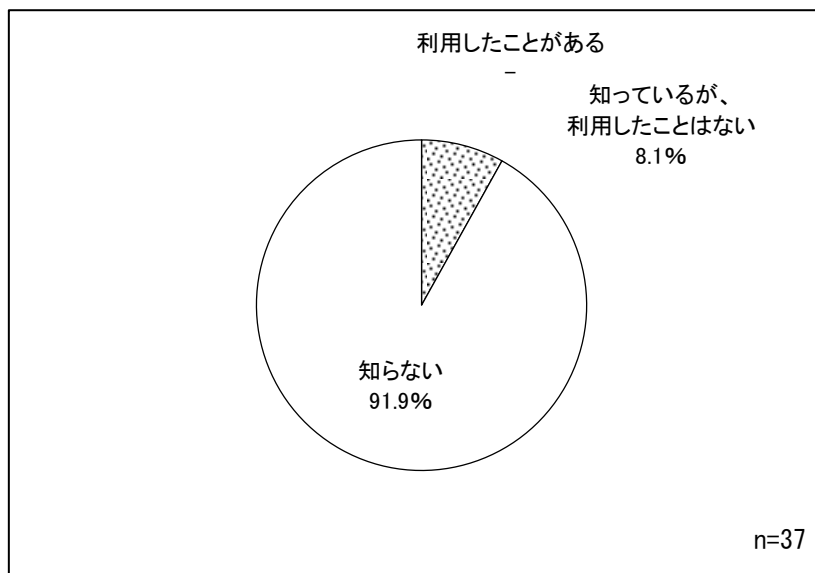


東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験は、「利用したことがある」が2.7%、「知っているが、利用したことはない」が21.6%で、この2項目を合わせた『知っている・計』は24.3%であった。一方、「知らない」は75.7%であった。

1-13 「ボラ市民ウェブ」の認知度及び利用経験

Q13 東京ボランティア・市民活動センターのウェブサイト「ボラ市民ウェブ」はご存じですか。また、利用したことはありますか。(単一回答)

図表IV-15. 「ボラ市民ウェブ」の認知度及び利用経験

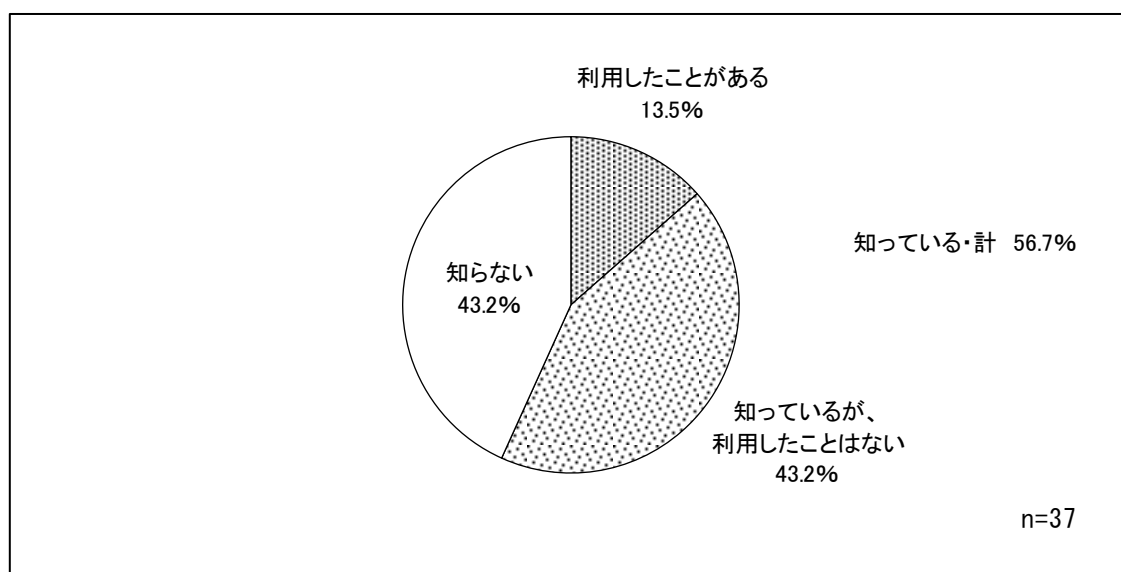


「ボラ市民ウェブ」の認知度及び利用経験は、「知っているが、利用したことはない」が8.1%、「知らない」が91.9%であった。

1-14 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験

Q14 区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。(単一回答)

図表IV-16. 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験

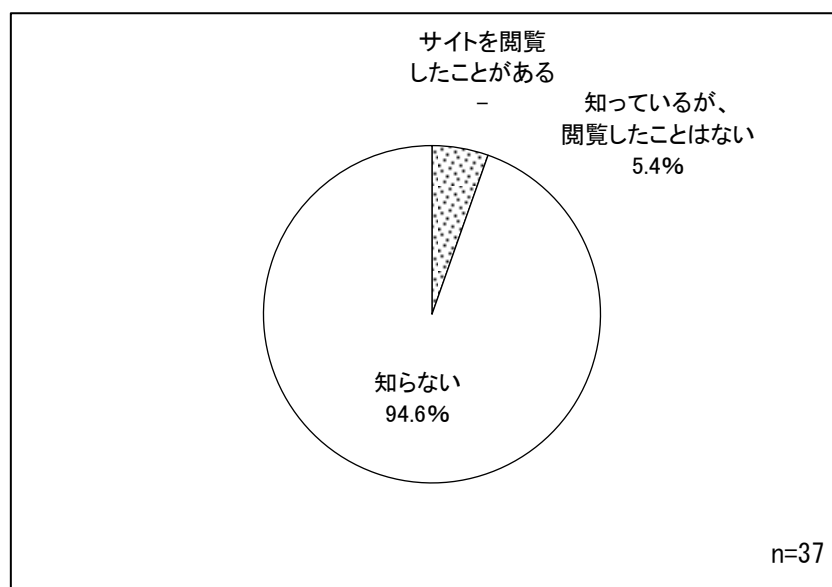


社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験は、「利用したことがある」が13.5%、「知っているが、利用したことはない」が43.2%で、この2項目を合わせた『知っている・計』は56.7%であった。一方、「知らない」は43.2%であった。

1-15 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験

Q15 東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア活動情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存じですか。また、閲覧したことはありますか。（単一回答）

図表Ⅳ-17. 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験



「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験は、「知っているが、閲覧したことはない」が5.4%、「知らない」が94.6%であった。

1-16 今後の取組意向

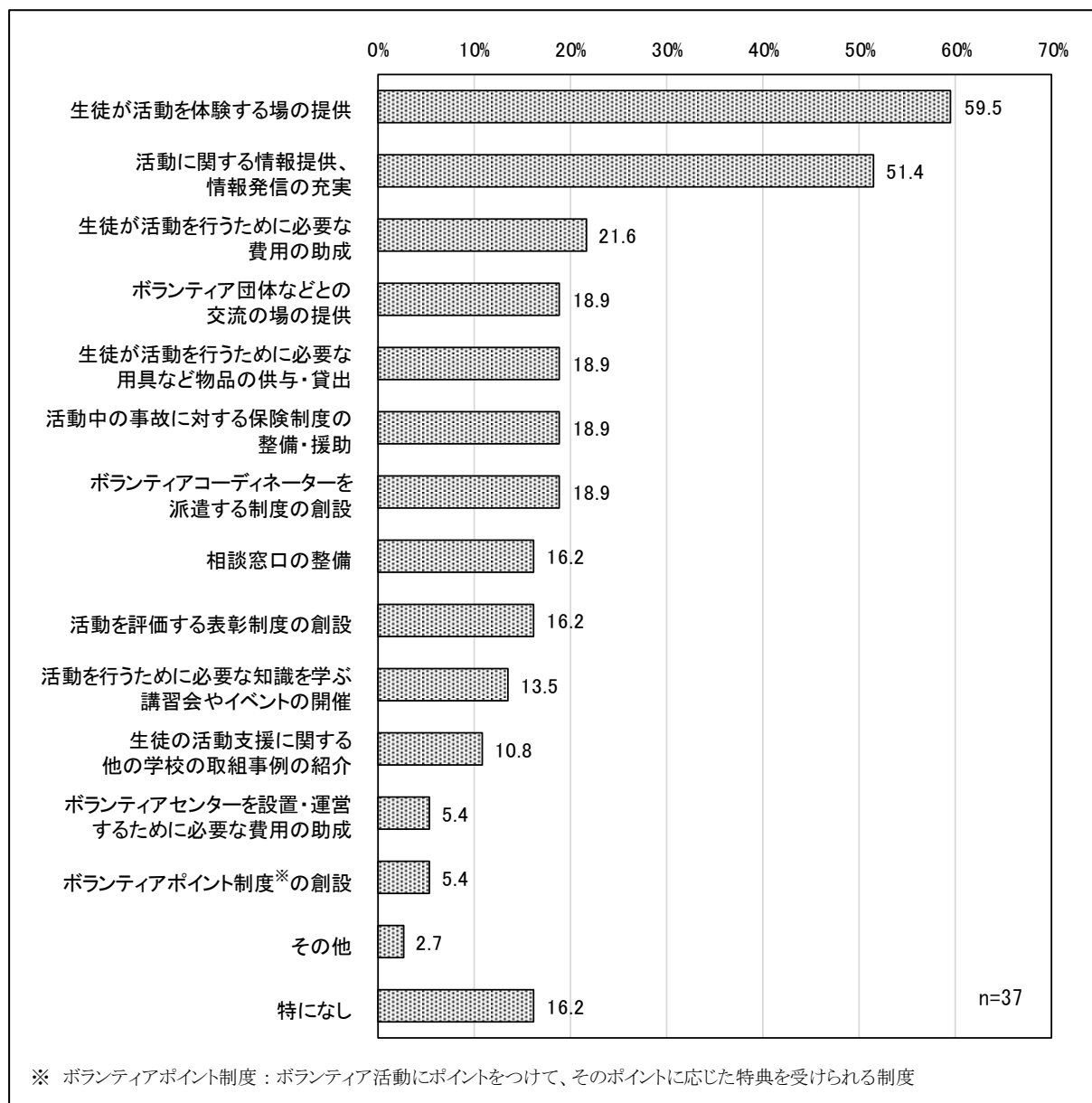
Q16 ボランティア活動に対する今後の取組の意向があれば、ご自由にお書きください。

記述内容
現在は特定のクラスのみがボランティアに参加しているが、学校全体で参加できる体制を整えていきたい。
地域のお祭りのお手伝いや児童館のお手伝い、地域清掃を検討している。
地域と関わるボランティア活動が盛んな学校であったが、コロナの影響でできていなかった。今年は、少しずつ活動を再開しているところである。
学校全体では希望生徒のみで桜並木清掃を実施しています。
できることを無理のない範囲で行っていく。
継続して、地域清掃ボランティア活動を実施していく。
20年前までは、地元の公園の清掃活動をやったりボランティア部が各施設を訪問してボランティア活動を行っていましたが、在籍生徒数が減少し、そういう活動は現在学校単位では実施していません。

1-17 ボランティア活動に関して望む支援

Q17 ボランティア活動に関して、どのような支援があったらよいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表Ⅳ-18. ボランティア活動に関して望む支援



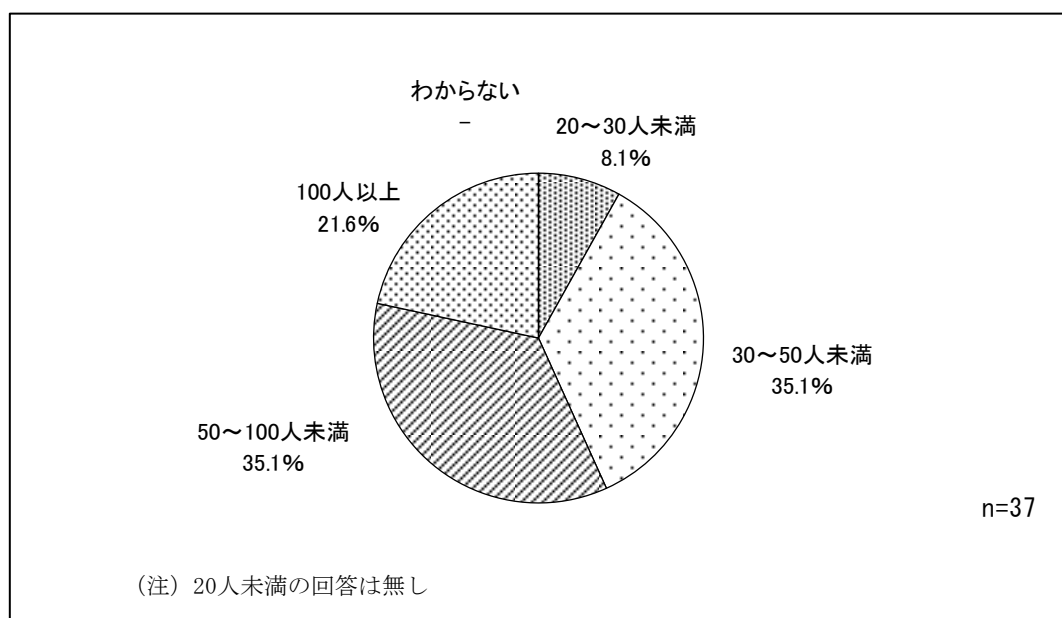
ボランティア活動に関して望む支援は、「生徒が活動を体験する場の提供」が 59.5% で最も高かった。次いで、「活動に関する情報提供、情報発信の充実」が 51.4%、「生徒が活動を行うために必要な費用の助成」が 21.6% であった。

2 学校の概要について

2-1 総職員数

Q18 貴校の職員（教職員など含む）の総数は何人ですか。（単一回答）

図表IV-19. 総職員数

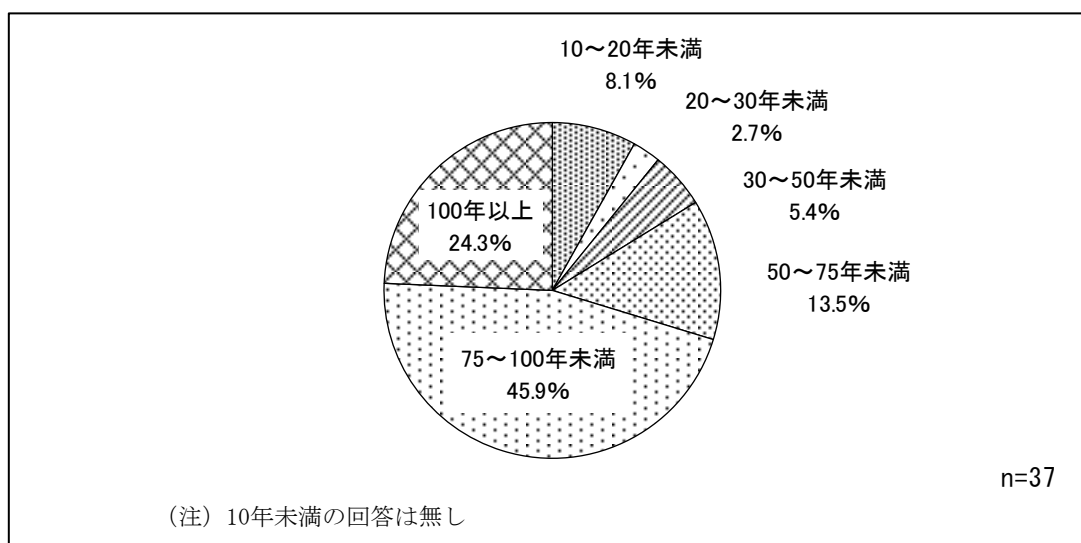


総職員数は、「20～30 人未満」が 8.1%、「30～50 人未満」と「50～100 人未満」がいずれも 35.1%、「100 人以上」が 21.6%であった。

2-2 設立からの経過年数

Q19 貴校は設立から何年経っていますか。（単一回答）

図表IV-20. 設立からの経過年数

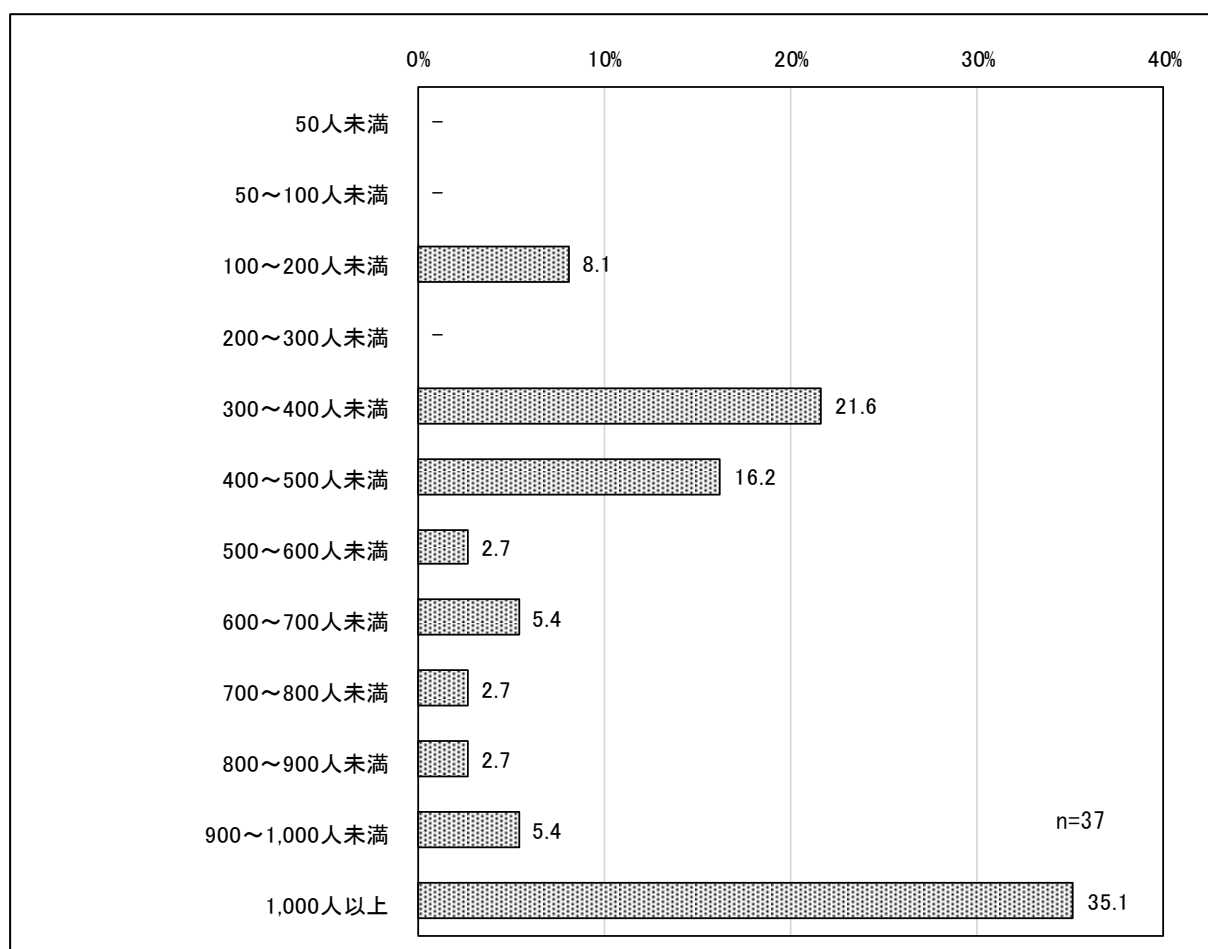


設立からの経過年数は、「10～20 年未満」が 8.1%、「20～30 年未満」が 2.7%、「30～50 年未満」が 5.4%、「50～75 年未満」が 13.5%、「75～100 年未満」が 45.9%、「100 年以上」が 24.3%であった。

2－3 生徒数

Q20 貴校の生徒数は何人ですか。(単一回答)

図表Ⅳ-21. 生徒数



生徒数は、「100～200 人未満」が 8.1%、「300～400 人未満」が 21.6%、「400～500 人未満」が 16.2%、「500～600 人未満」が 2.7%、「600～700 人未満」が 5.4%、「700～800 人未満」と「800～900 人未満」がいずれも 2.7%、「900～1,000 人未満」が 5.4%、「1,000 人以上」が 35.1%であった。

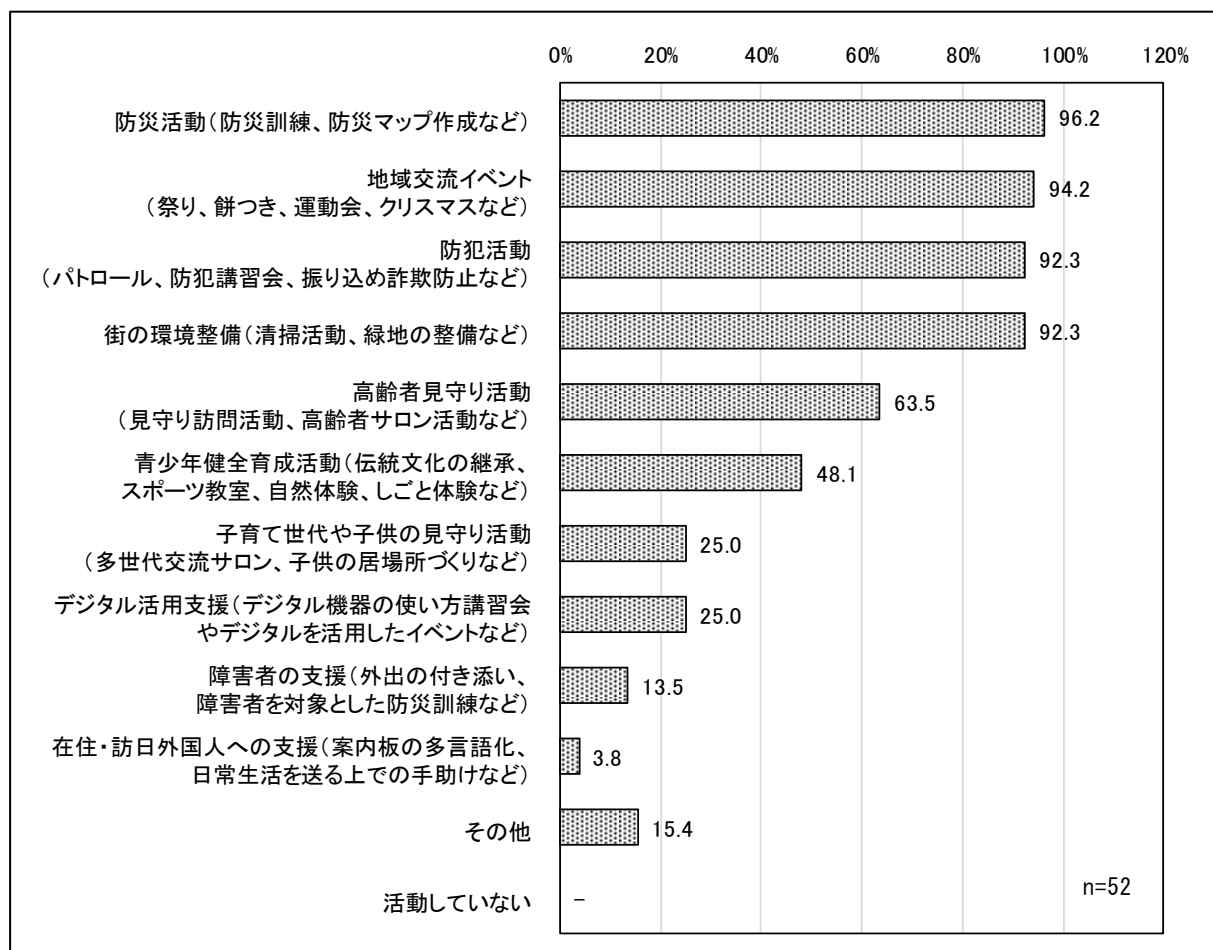
V. 町会自治会向け調査

1 団体の活動について

1-1 活動内容

Q1 貴団体の活動内容について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

図表 V-1. 活動内容



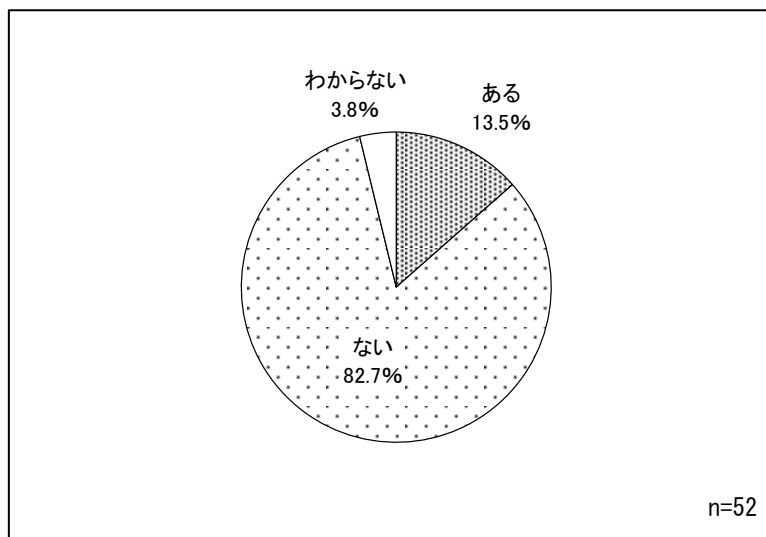
活動内容は、「防災活動」が 96.2% で最も高かった。次いで、「地域交流イベント」が 94.2%、「防犯活動」と「街の環境整備」がいずれも 92.3% であった。

1-2 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の波及効果

(Q1 で 1～11 と答えた方)

Q2 選択した活動のうち、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、新たに開始もしくは充実したものはありますか。(単一回答)

図表V-2. 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の波及効果

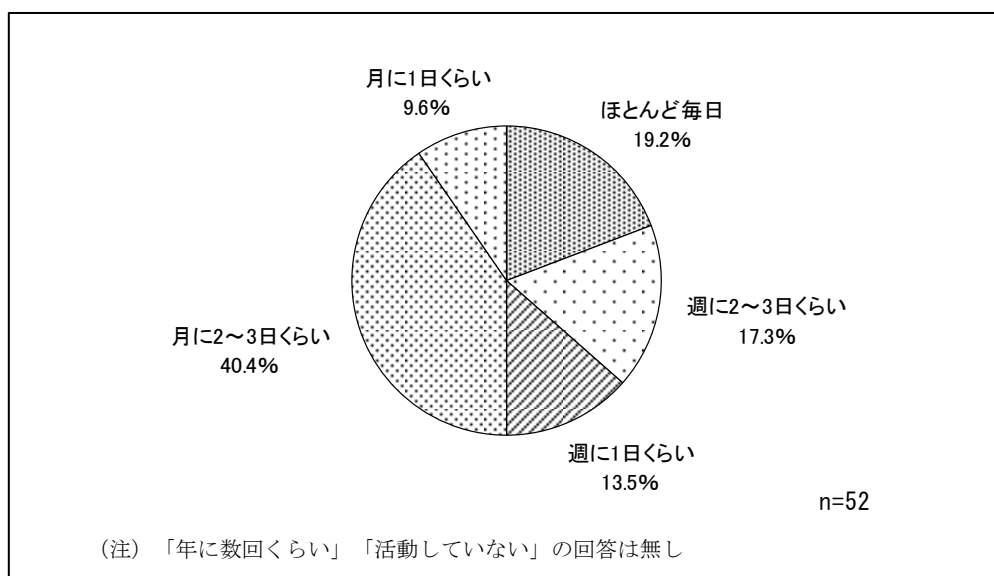


東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、新たに開始もしくは充実したものは、「ある」が13.5%、「ない」が82.7%であった。

1-3 活動状況

Q3 貴団体の活動状況についてお答えください。(単一回答)

図表V-3. 活動状況

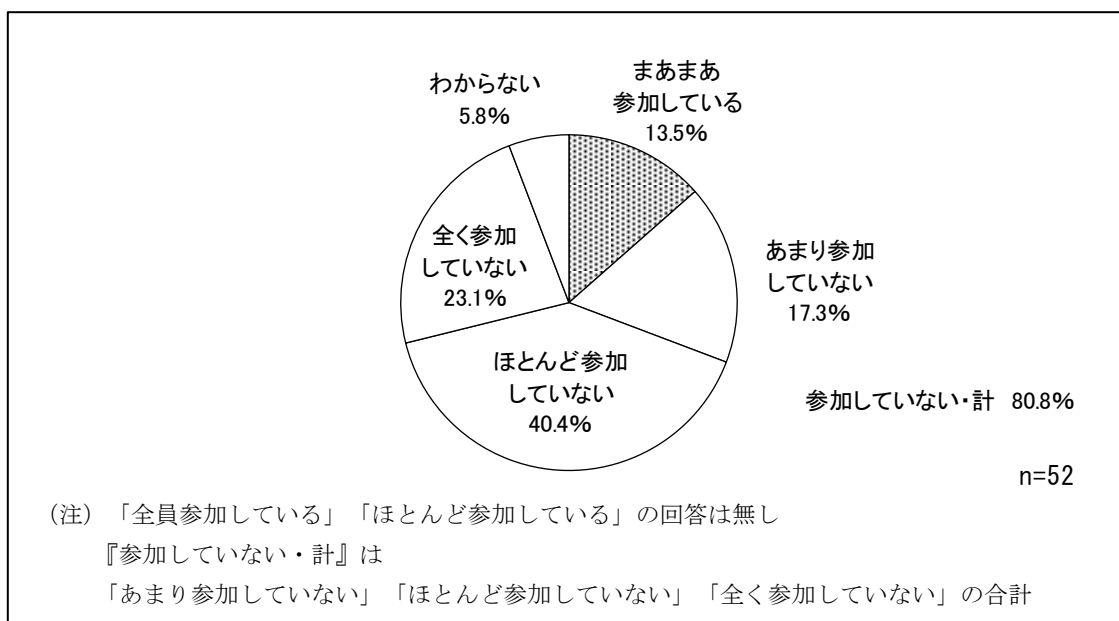


活動状況は、「ほとんど毎日」が19.2%、「週に2～3日くらい」が17.3%、「週に1日くらい」が13.5%、「月に2～3日くらい」が40.4%、「月に1日くらい」が9.6%であった。

1-4 外国人の参加状況

Q4 貴団体区域内に住んでいる外国人の活動参加状況についてお答えください。(単一回答)

図表V-4. 外国人の参加状況



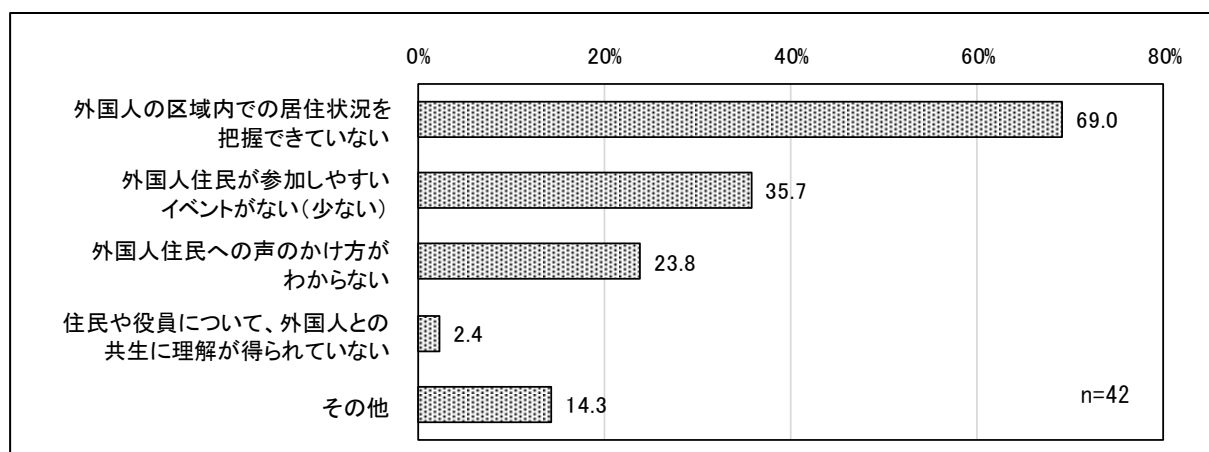
外国人の参加状況は、「まあまあ参加している」が13.5%、「あまり参加していない」が17.3%、「ほとんど参加していない」が40.4%、「全く参加していない」が23.1%であった。

1-5 外国人の参加にあたり、妨げとなっていること

(Q4で4~6と答えた方)

Q5 外国人の貴団体活動への参加にあたり、妨げとなっていることについて、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

図表V-5. 外国人の参加にあたり、妨げとなっていること

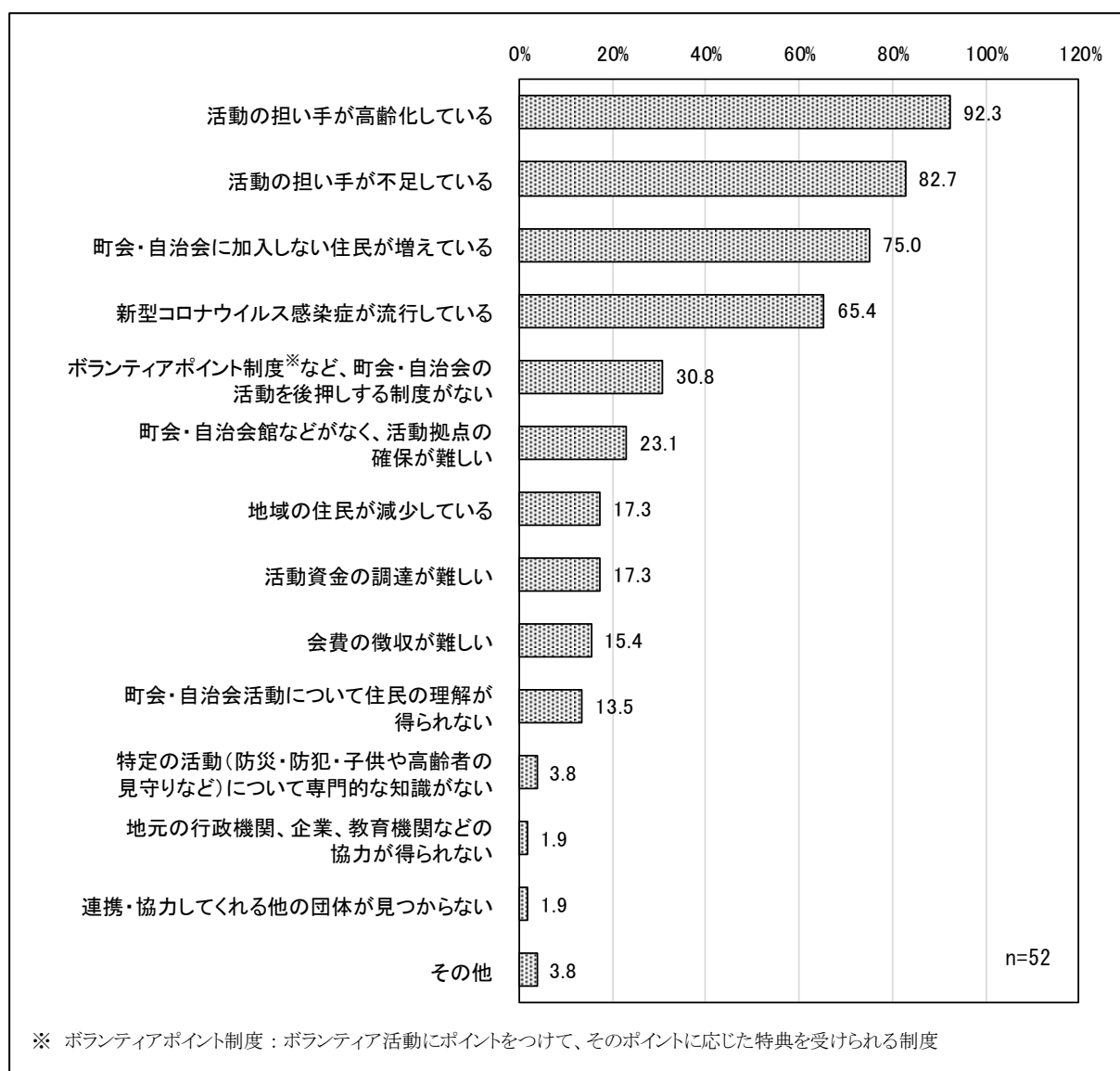


外国人の参加にあたり、妨げとなっていることは、「外国人の区域内での居住状況を把握できていない」が69.0%で最も高かった。次いで、「外国人住民が参加しやすいイベントがない(少ない)」が35.7%、「外国人住民への声のかけ方がわからない」が23.8%であった。

1-6 活動を行うにあたっての課題

Q6 団体として活動を行うにあたっての課題について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表 V-6. 活動を行うにあたっての課題



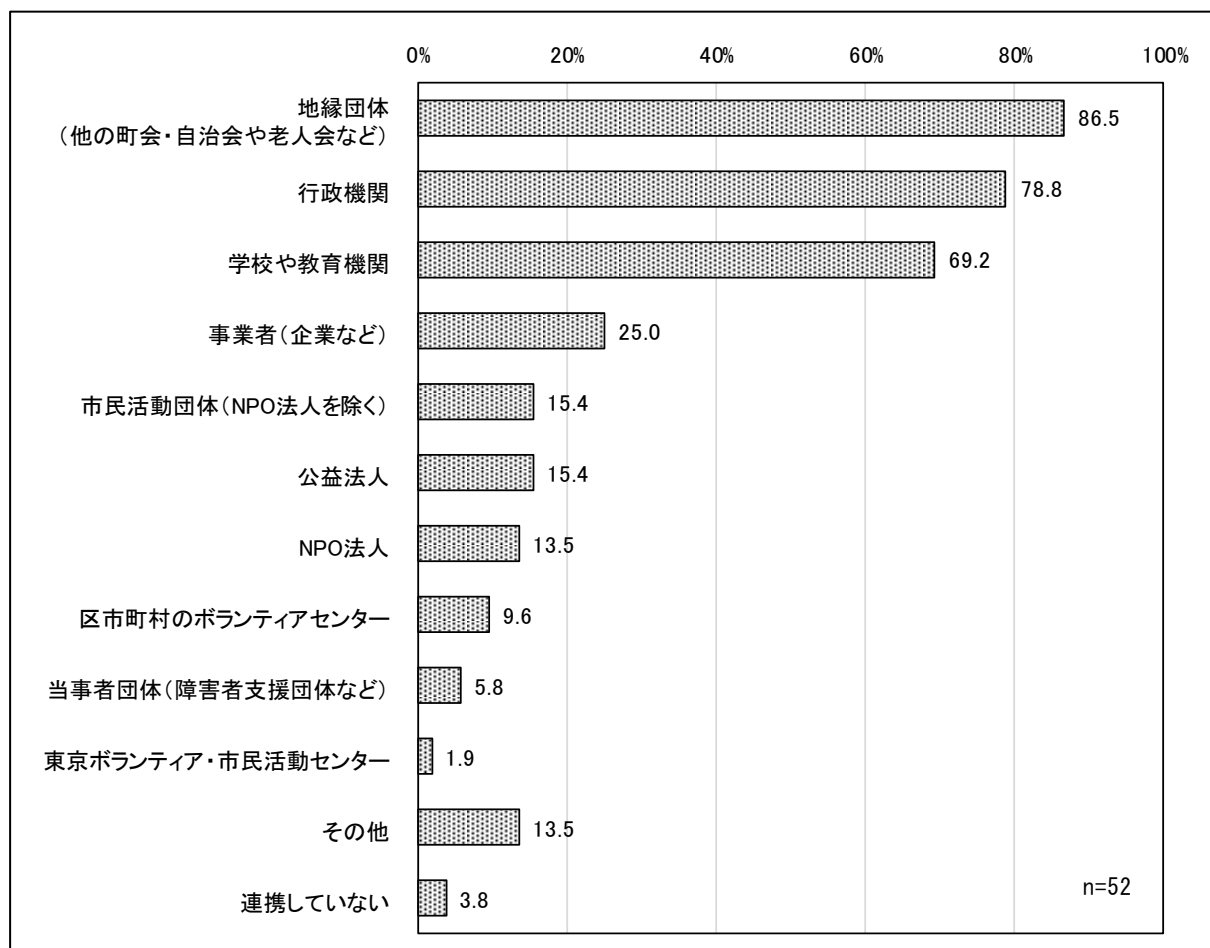
活動を行うにあたっての課題は、「活動の担い手が高齢化している」が92.3%で最も高かった。次いで、「活動の担い手が不足している」が82.7%、「町会・自治会に加入しない住民が増えている」が75.0%であった。

2 他の団体との連携について

2-1 連携団体

Q7 貴団体の活動の企画や実施にあたって、連携している団体はありますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表 V-7. 連携団体



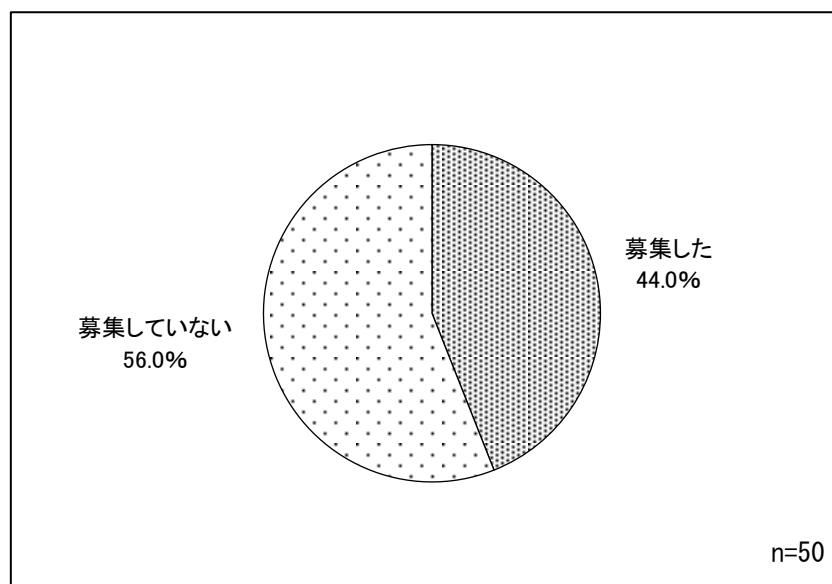
活動の企画や実施にあたって連携している団体は、「地縁団体（他の町会・自治会や老人会など）」が86.5%で最も高かった。次いで、「行政機関」が78.8%、「学校や教育機関」が69.2%であった。

2-2 連携した団体のボランティア募集の有無、参加人数及び活動内容

(Q7 で 1～11 と答えた方)

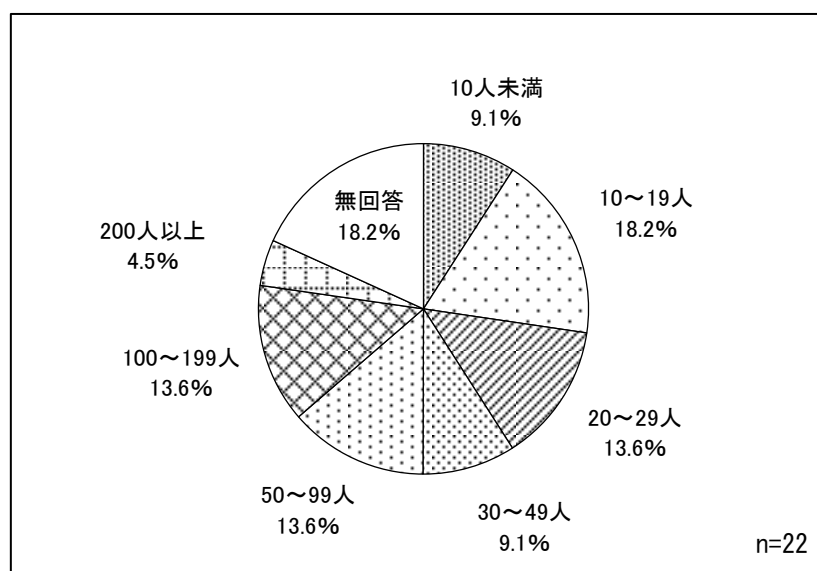
Q8 他の団体と連携した活動において、連携した団体はボランティアの募集を行いましたか。行った場合は、おおよその参加人数及び活動内容をお答えください。

図表V-8. 連携した団体のボランティア募集の有無



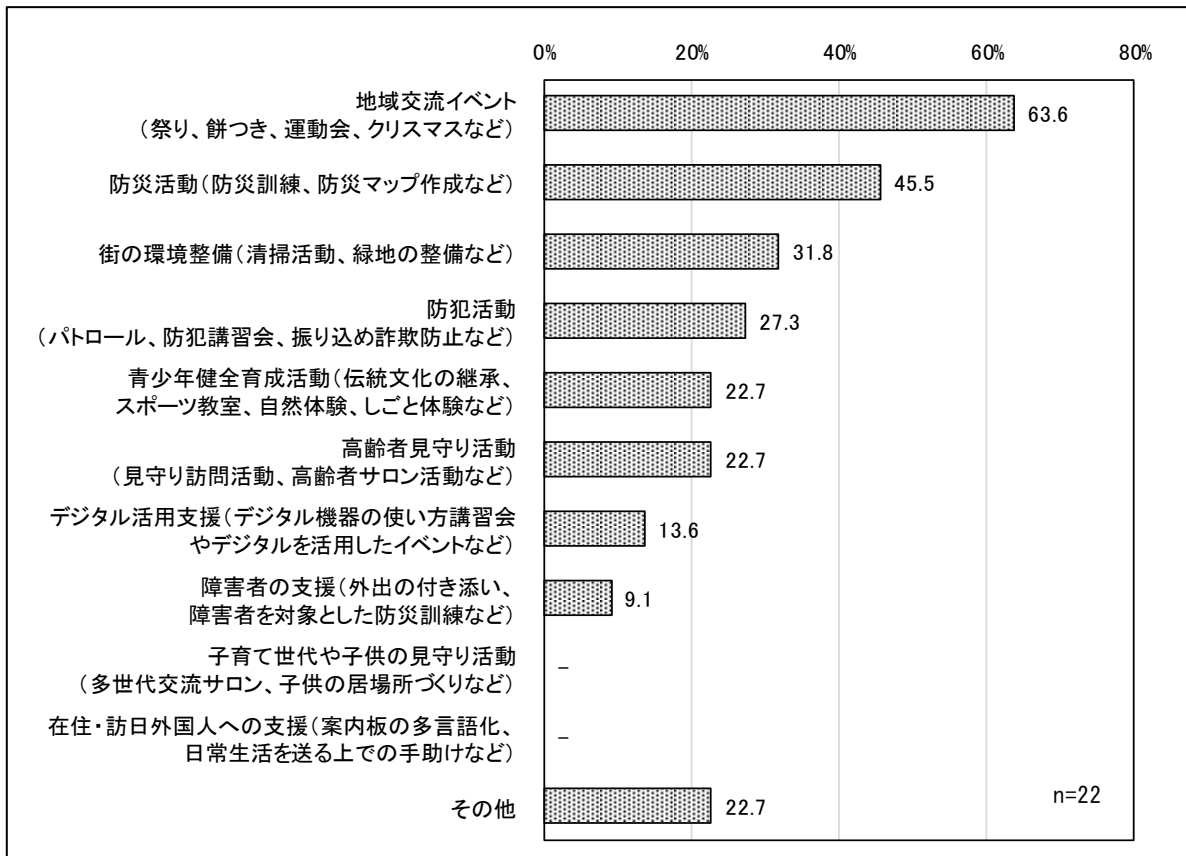
連携した団体のボランティア募集の有無は、「募集した」が 44.0%、「募集していない」が 56.0%であった。

図表V-9. ボランティアを募集した連携団体の参加人数



ボランティアを募集した連携団体のボランティア参加人数は、「10 人未満」が 9.1%、「10～19 人」が 18.2%、「20～29 人」が 13.6%、「30～49 人」が 9.1%、「50～99 人」と「100～199 人」がいずれも 13.6%、「200 人以上」が 4.5%であった。

図表 V-10. ボランティアを募集した連携団体の活動内容



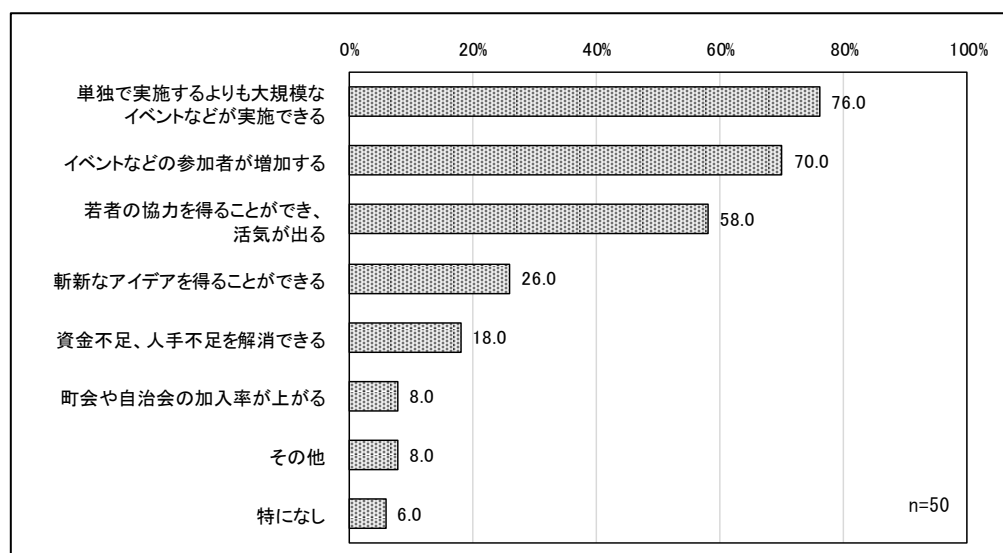
ボランティアを募集した連携団体の活動内容は、「地域交流イベント」が63.6%で最も高かった。次いで、「防災活動」が45.5%、「街の環境整備」が31.8%であった。

2-3 連携してよかった点や課題

(Q7 で 1～11 と答えた方)

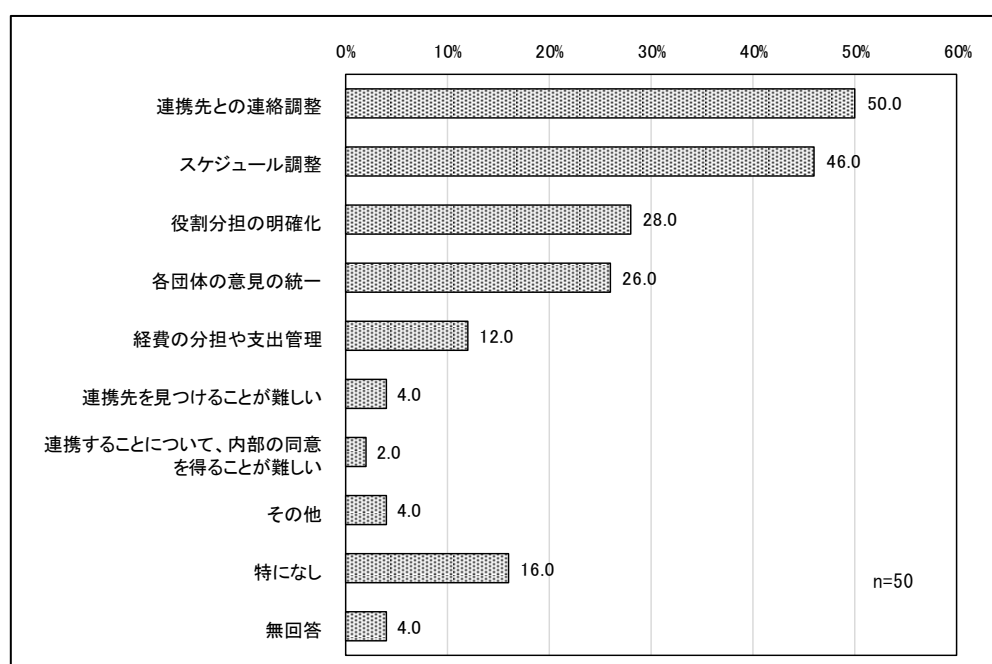
Q9 他の団体と連携してよかった点や課題について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

図表 V-11. 連携してよかった点



連携してよかった点は、「単独で実施するよりも大規模なイベントなどが実施できる」が 76.0%で最も高かった。次いで、「イベントなどの参加者が増加する」が 70.0%、「若者の協力を得ることができ、活気が出る」が 58.0%であった。

図表 V-12. 連携する上での課題



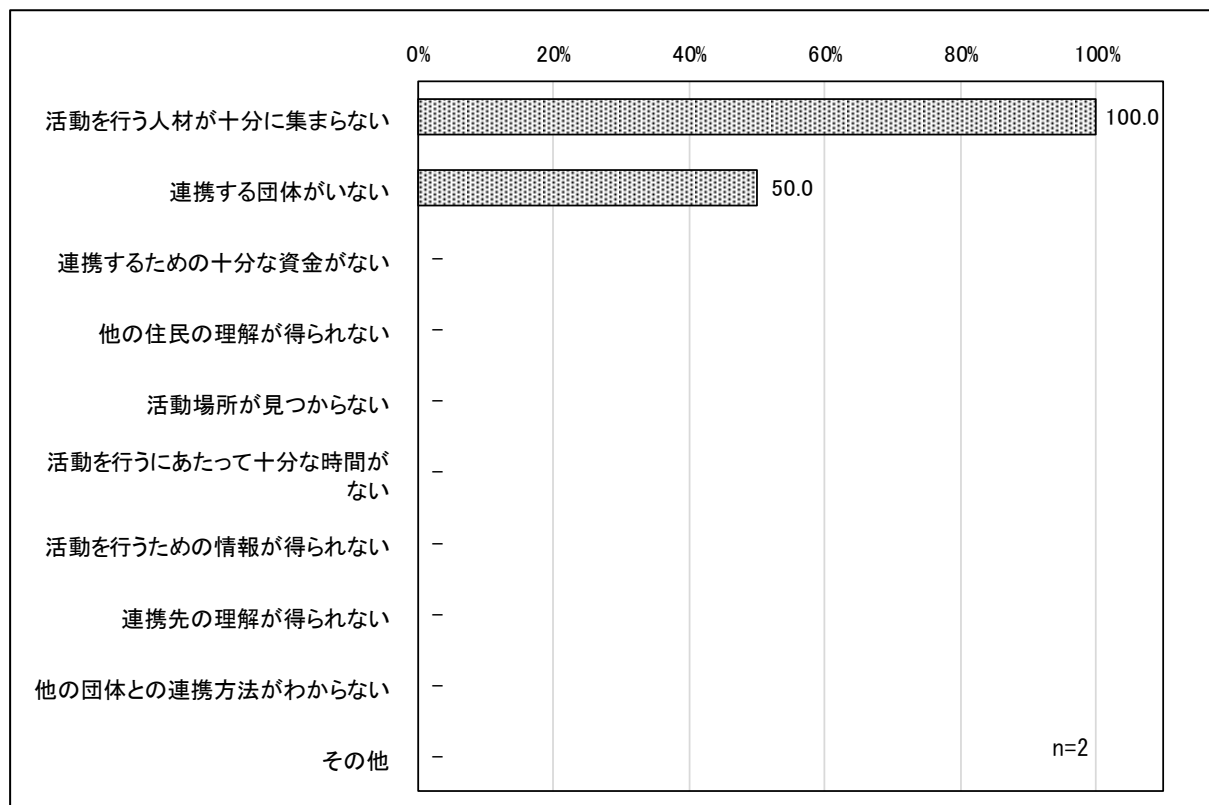
連携する上での課題は、「連携先との連絡調整」が 50.0%で最も高かった。次いで、「スケジュール調整」が 46.0%、「役割分担の明確化」が 28.0%であった。

2-4 連携の妨げとなること

(Q7 で 12 と答えた方)

Q10 今後他の団体と連携して活動を行う場合、妨げとなることは何ですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

図表 V-13. 連携の妨げとなること

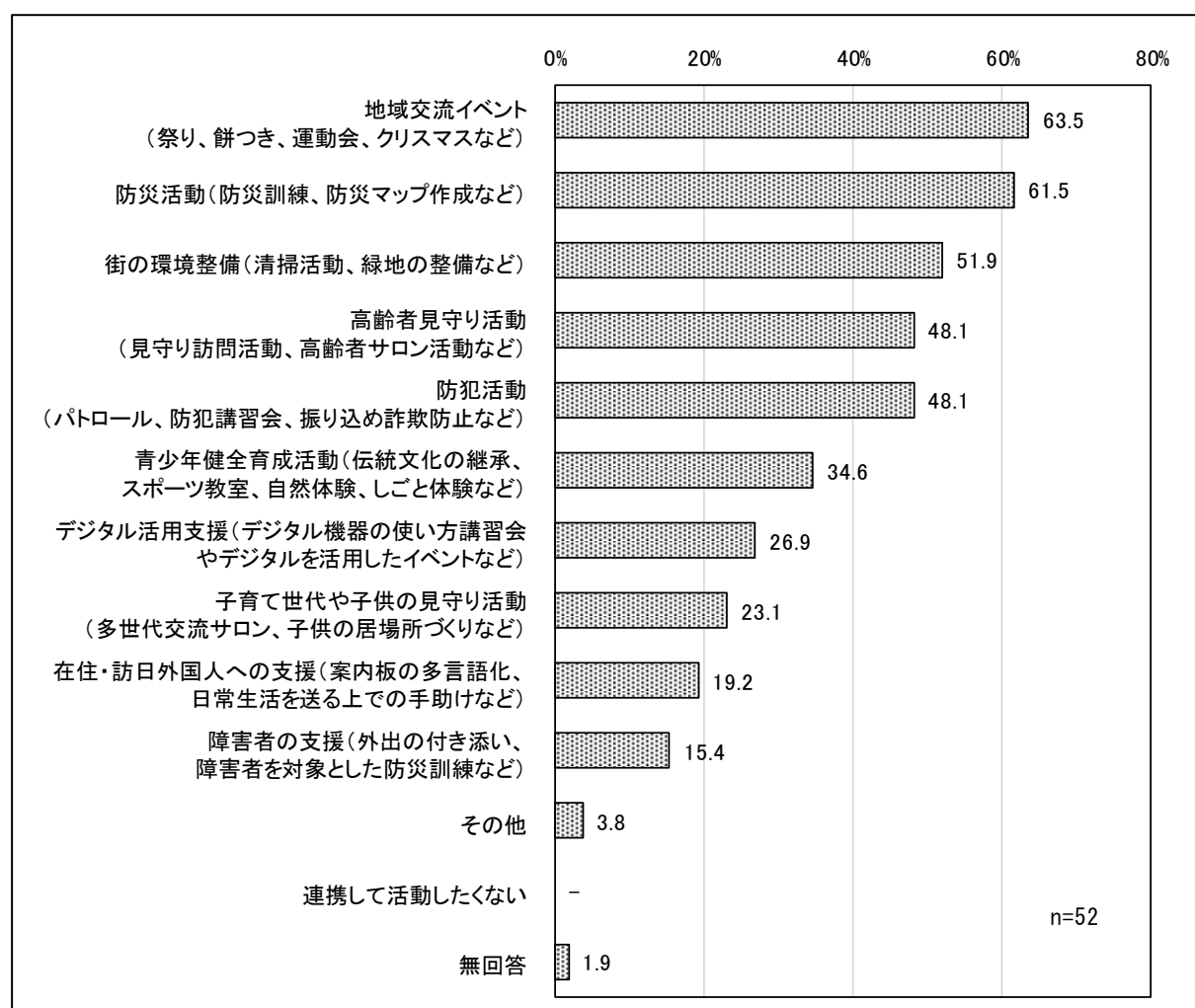


連携の妨げとなることは、「活動を行う人材が十分に集まらない」が 100.0%、「連携する団体がいない」が 50.0%であった。

2-5 今後連携して行いたい活動分野

Q11 今後どのような分野で他の団体と連携して活動を行ってみたいですか。(複数回答)

図表 V-14. 今後連携して行いたい活動分野



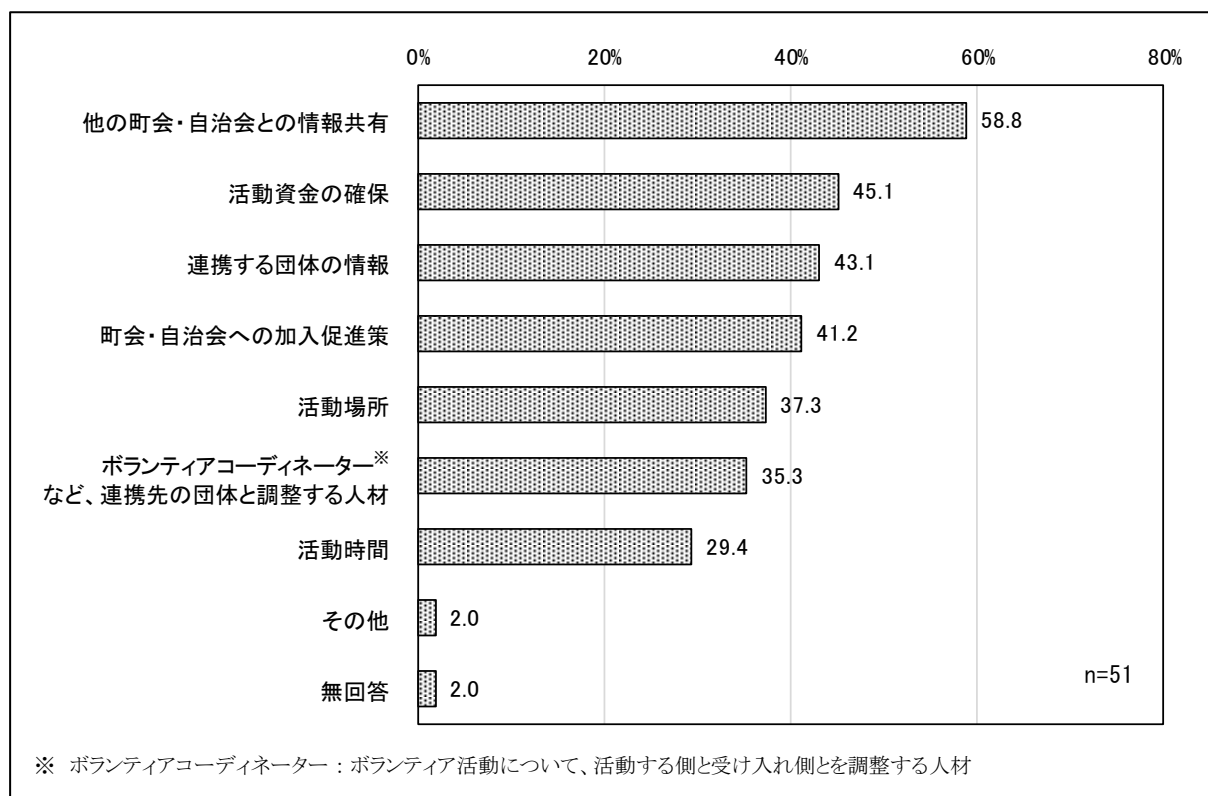
今後連携して行いたい活動分野は、「地域交流イベント」が 63.5%で最も高かった。次いで、「防災活動」が 61.5%、「街の環境整備」が 51.9%であった。

2-6 連携の継続に必要なこと

(Q11 で 1～11 と答えた方)

Q12 他の団体と連携していくために必要なことは何だと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

図表 V-15. 連携の継続に必要なこと

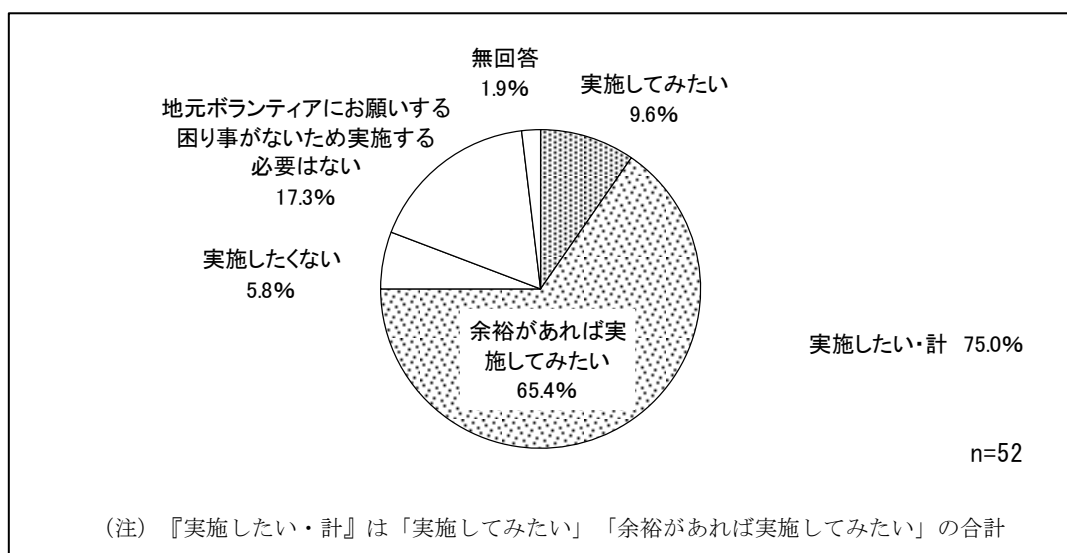


連携の継続に必要なことは、「他の町会・自治会との情報共有」が 58.8%で最も高かった。次いで、「活動資金の確保」が 45.1%、「連携する団体の情報」が 43.1%であった。

2-7 地元ボランティアとの連携について

Q13 東京都では、“ちょっとした困りごと”を抱える町会・自治会と、それをお手伝いする地元ボランティアとを区市町村がコーディネーターとなってつなげる取組を一部の区市と連携して実施しています。このような取組を実施してみたいですか。現在、既に連携している場合は、今後についてお答えください。（単一回答）

図表V-16. 地元ボランティアとの連携について

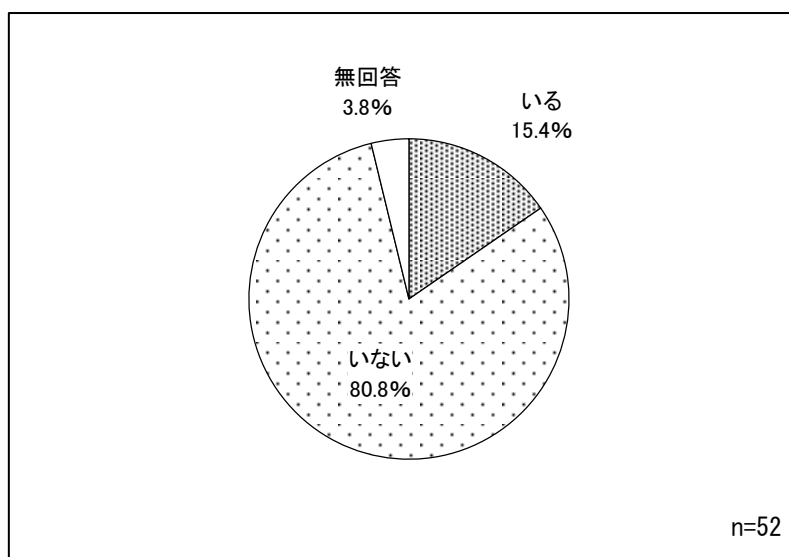


地元ボランティアとの連携については、「実施してみたい」が9.6%、「余裕があれば実施してみたい」が65.4%、「実施したくない」が5.8%、「地元ボランティアにお願いする困り事がないため実施する必要はない」が17.3%であった。

2-8 ボランティアコーディネーターの有無

Q14 ボランティアコーディネーターとして活動できる人はいますか。

図表V-17. ボランティアコーディネーターの有無



ボランティアコーディネーターの有無は、「いる」が15.4%、「いない」が80.8%であった。

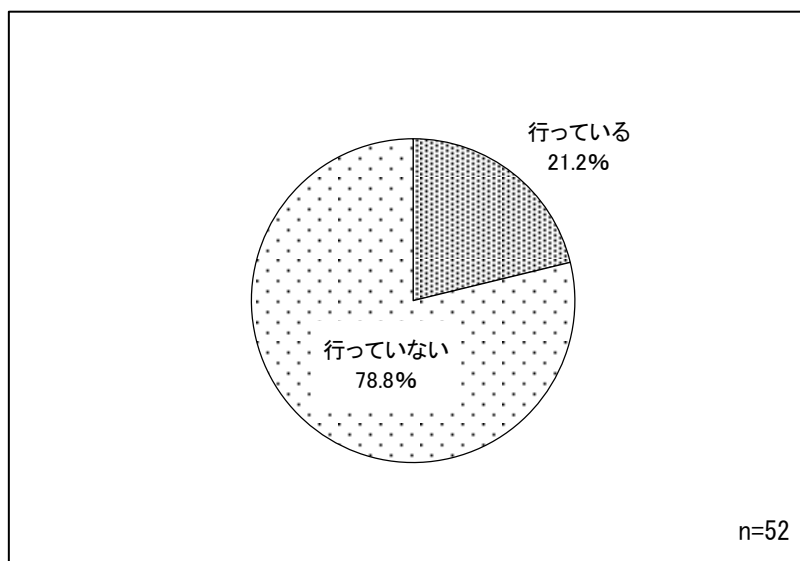
3 その他の活動などについて

3-1 サードプレイスを設ける取組の有無

Q15 貴団体では、地域の人々が気軽に集まって交流できるような場所で、家庭や職場とは異なるもの（サードプレイス）を設ける取組を行っていますか。

（例）空き家、地域の学校などを利用した高齢者サロン、子育て支援拠点など
「行っている」と答えた方は、どのような活動内容か、具体的にお書きください。

図表V-18. サードプレイスを設ける取組の有無



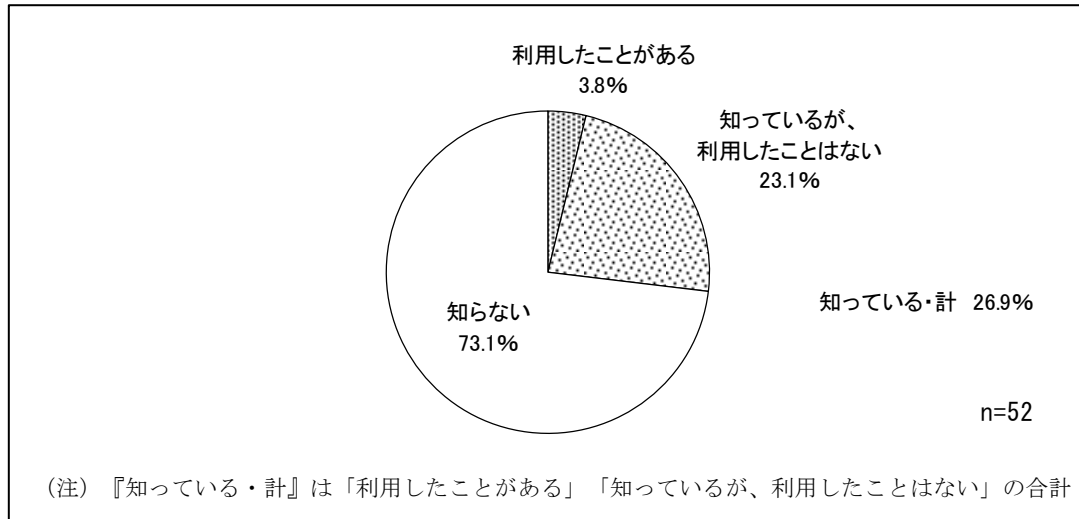
サードプレイスを設ける取組の有無は、「行っている」が21.2%、「行っていない」が78.8%であった。取組を行っている団体の具体的な活動内容は以下のとおり。

記述内容
まち中サロン等、高齢者や地域での交流を求めている方が、自由に出入りできる場所を提供している。
自治会館を開放して高齢者が気楽に立ち寄れる喫茶室
高齢者向け各種サークル、子供向けの映画会やクリスマス会、スマホなどITの高齢者セミナー、会員に対する会場提供など
町会会館を利用したスマホ教室、年末フラワーアレンジメント
高齢の方達の交流会（歩こう会など7つくらいの部に分かれ活動している）
町会会館を利用している。
「お庭カフェ」。近所の庭先、駐車場を利用した「昔の井戸端会議」的な催しを定期的に実施。
高齢者サロン。通いの場としてのイベント（体操、手芸、スマホ教室、映画会等）。
「花と緑の会」

3-2 東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験

Q16 東京ボランティア・市民活動センター（飯田橋セントラルプラザ内）をご存じですか。また、利用したことはありますか。（単一回答）

図表 V-19. 東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験

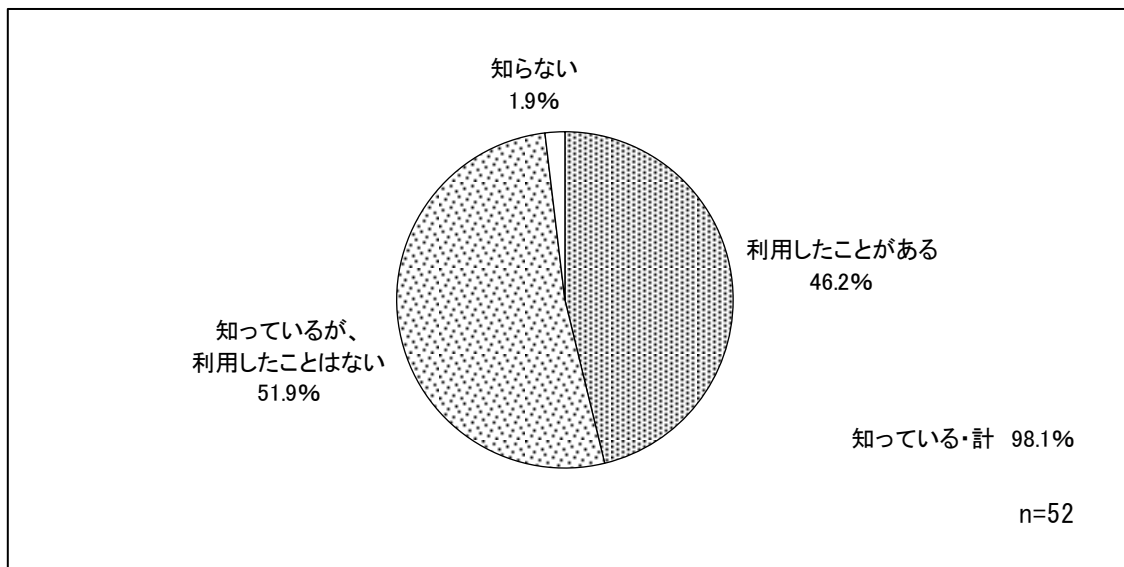


東京ボランティア・市民活動センターの認知度及び利用経験は、「利用したことがある」が3.8%、「知っているが、利用したことはない」が23.1%で、この2項目を合わせた『知っている・計』は26.9%であった。一方、「知らない」は73.1%であった。

3-3 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験

Q17 区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。（単一回答）

図表 V-20. 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験

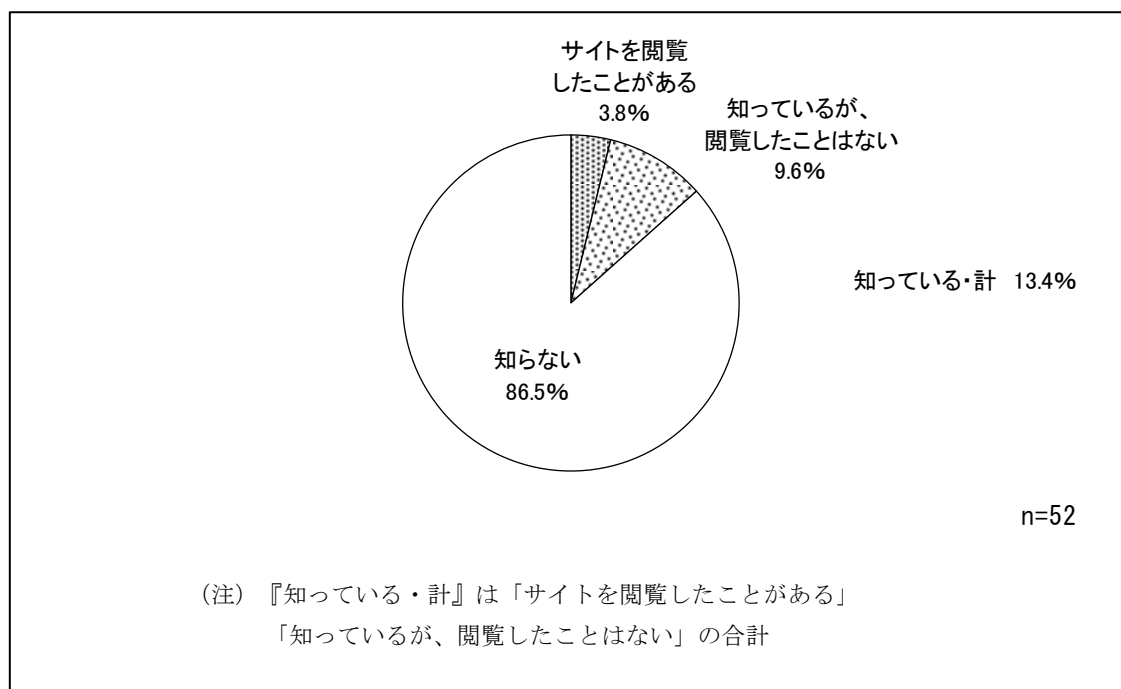


社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度及び利用経験は、「利用したことがある」が46.2%、「知っているが、利用したことはない」が51.9%で、この2項目を合わせた『知っている・計』は98.1%であった。一方、「知らない」は1.9%であった。

3-4 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験

Q18 東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア活動情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存じですか。また、閲覧したことはありますか。（単一回答）

図表V-21. 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験



「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度及び閲覧経験は、「サイトを閲覧したことがある」が3.8%、「知っているが、閲覧したことはない」が9.6%で、この2項目を合わせた『知っている・計』は13.4%であった。一方、「知らない」は86.5%であった。

3-5 今後の取組意向

Q19 ボランティア活動（町会・自治会活動を含む）に対する今後の取組の意向があれば、ご自由にお書きください。

記述内容
地域の高齢化、一人住まいの方が増えて自治会活動が以前より活動が制約されている。また、コロナ禍において各種イベント等が開催できず、人との繋がりが難しくなっている。今後、住まいでの近所付き合いを大事にできるように、自治会会員同士で話し合える機会を増やしたい。
町会費の値上げ。次の世代の役員を作る。町内行事の参加者が毎回同じメンバー。他町会との情報交換。
ボランティアの担い手を増やす。「ちょいボラ」も受け入れる。
コロナ禍により、様々な活動が停止していたため、活動経験者も減り、住民の意識が停滞している。コロナ前とは違うアピール、活動方法を工夫していかなければならなくなっている。
ITを利用した会員間の情報共有や情報発信
府中市にはボランティアコーディネーター組織として「プラッツ」があり、講師の派遣や相談で助かっています。また、防災関係なら市の防災センター、デジタル化や一般ではプラッツ、自治会町会の活動では自治会連合会です。これらは継続して進めていきます。課題として、解決方法が見つからないのは、会員減ではなく「自治会活動者の減少」です。自主活動の余裕がないこと。理由の1つは、「70歳まで働く、両親が正規で働かなければならない」「達成感のある自由なボランティアには参加」「自治会は責任のあるボランティアなので消極的な参加」などです。
マンション建設後の住民・管理組合の加入が期待できない。これらの集合住宅の町会費徴収や会員加入がほしい。
町会の役員等になりうる跡継ぎの育成が必要と考えられる。
無料では長続きが難しい。経済的サポートのシステム作りを希望。
役員の高齢化、女性が私一人の為、組織編成をしたい。
活動を支援する団体や人材の情報発信を積極的にお願い致します。
コロナ禍で思うように活動できなかったが、やっと従来の活動ができるかと期待しています。
マンションに住んでいる若い世代に町会に加入いただいてボランティア活動を助けてもらいたいと考え、4月からマンションの管理組合に打診したいと思っている。
加入促進。

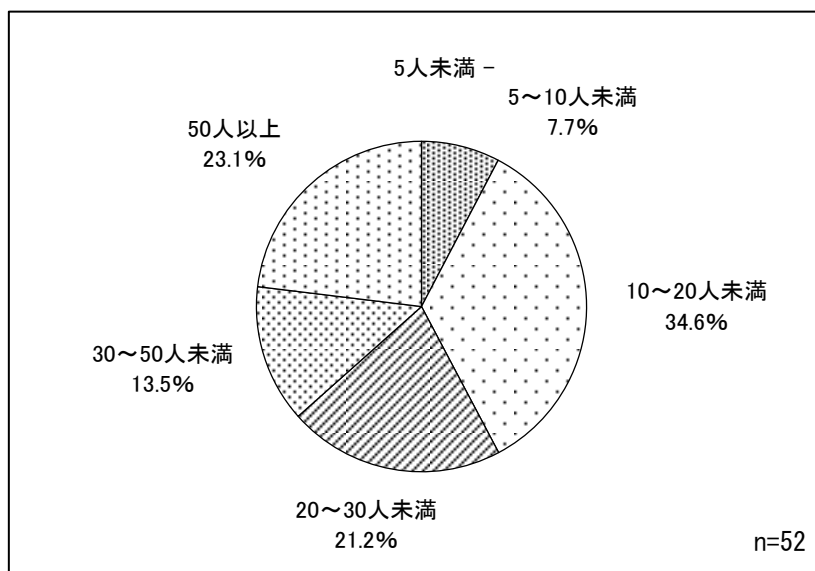
全国的に自治会町会の加入率の低下傾向が明白な状況の中、加入促進が乏しいとしたら、町会、自治会が住民、民意の代表でなくなると考えられる。行政が町会、自治会との連携を考慮頂けるなら、真剣に加入率低下の是正対策を検討頂きたい。
担い手の不足と高齢化が課題。
高齢者の見守りと同じく、子育て世代に対して見守りを行っていききたい。
マンションが増えてきたので、そこの住人は地元の町会に対して興味がなく、無関係の様子が見える。
コロナ禍で活動の制約がある中で、出来る活動を行っている。少しでも活動を継続していくことが重要と考え、少しでも活動をしている。
町会会員の減少を食い止め、会員の増加を図りたい。また、若年層の取り組みも図りたい。
自治会内の世代交代。近隣商店街、町会とのより積極的な交流。
若い世代の町内会への参加を推進していく。
高齢世帯に対する困りごと相談（チョットした手助け）
自治会内でのこまり事解決の助けあい組織を運営している。様々な外部団体も協力してくれている。この「片倉台福祉ネットワーク」の充実と存続を願っている。
社会福祉協議会を母体としてきずなサロンを開設して5年経ちました。現在コロナ禍でできない月もあり、イベント等、おしゃべりを中心に参加者を増やして、高齢者が多いですが、若い人も参加出来るよう工夫して参りたい。最初は高齢者の居場所づくりとして発足をしました。
コロナ収束の折には、夏祭りの復活、運動会の復活となるようにしていきたい。
インセンティブを配慮しないと、活動の継続は難しい。
新たに設置される地域コミュニティー施設や防火防災の施設を活用していく具体的な方途を立てていく。町会の集会・事務を可能とする場所の確保。
新たにはない。現況の活動を遂行する。

4 団体の概要について

4-1 役員数

Q20 貴団体の役員数は何人ですか。(単一回答)

図表 V-22. 役員数

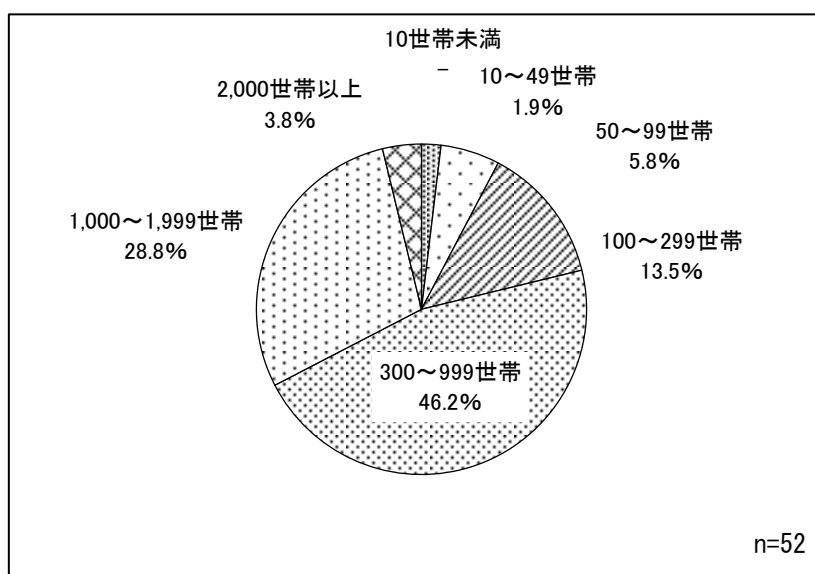


役員数は、「5～10人未満」が7.7%、「10～20人未満」が34.6%、「20～30人未満」が21.2%、「30～50人未満」が13.5%、「50人以上」が23.1%であった。

4-2 加入世帯数

Q21 貴団体に加入している世帯数はどのくらいですか。(単一回答)

図表 V-23. 加入世帯数

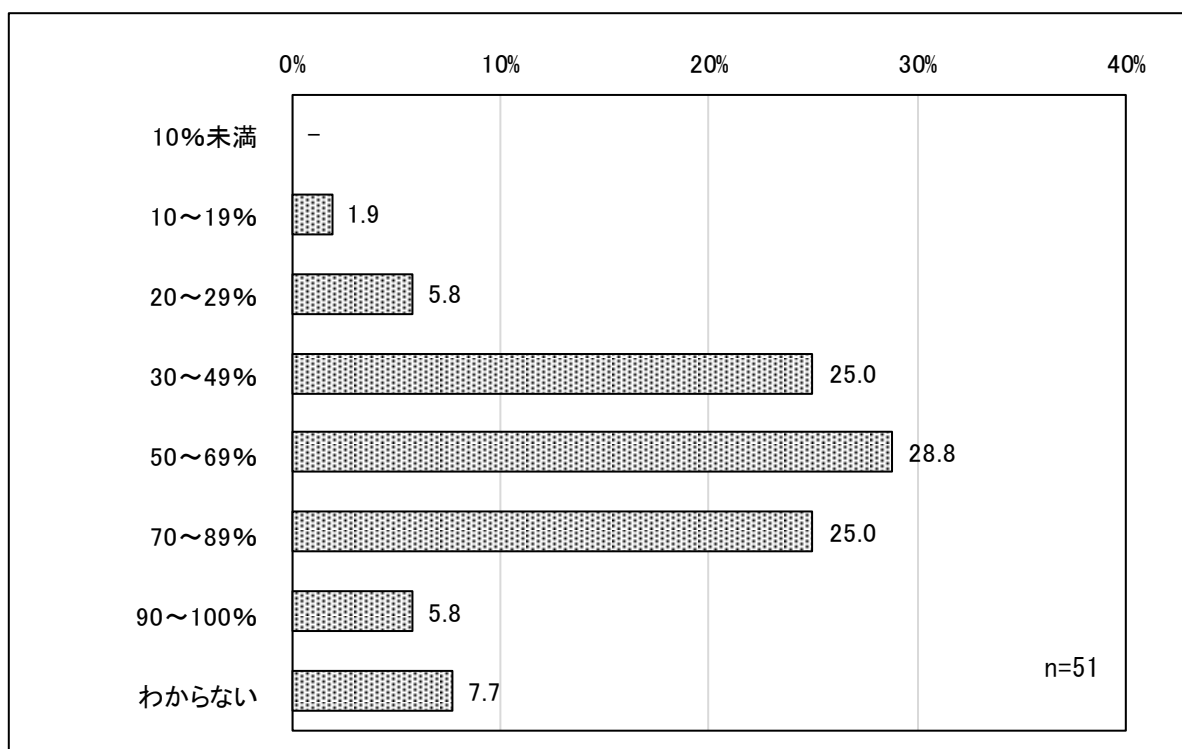


加入世帯数は、「10～49世帯」が1.9%、「50～99世帯」が5.8%、「100～299世帯」が13.5%、「300～999世帯」が46.2%、「1,000～1,999世帯」が28.8%、「2,000世帯以上」が3.8%であった。

4－3 加入率

Q22 住民の貴団体への加入率はどのくらいですか。(単一回答)

図表 V-24. 加入率

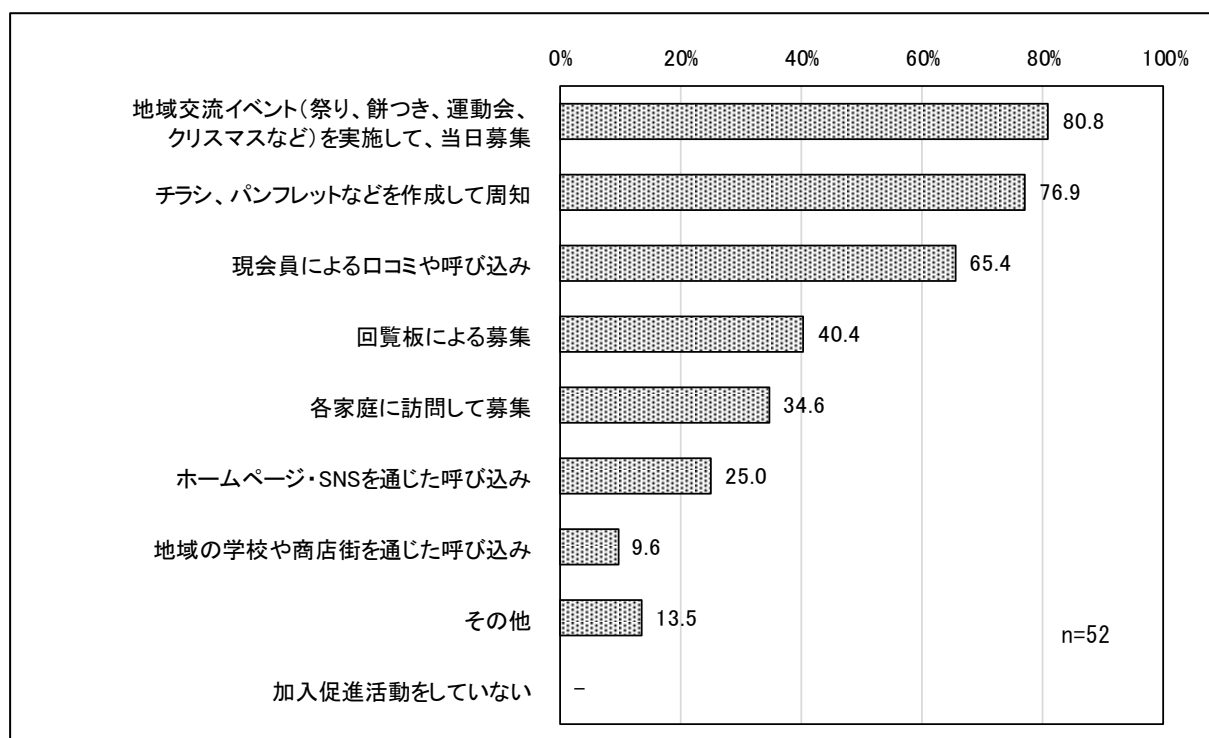


加入率は、「10～19%」が1.9%、「20～29%」が5.8%、「30～49%」が25.0%、「50～69%」が28.8%、「70～89%」が25.0%、「90～100%」が5.8%であった。

4－4 加入促進の取組

Q23 貴団体は加入促進のためにどのような取組を行っていますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

図表 V-25. 加入促進の取組

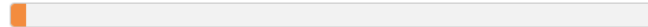


加入促進の取組は、「地域交流イベントを実施して、当日募集」が80.8%で最も高かった。次いで、「チラシ、パンフレットなどを作成して周知」が76.9%、「現会員による口コミや呼び込み」が65.4%であった。

都民調査 調査票

令和4年度 都民等のボランティア活動等に関する実態調査

- 回答は匿名で、個人が特定されることはありません。
- 回答を取り消したい場合は、同じ選択肢を再度クリック（タップ）することで取り消すことができます。
- ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。前のページに戻りたい場合は、画面下部の「前へ」を押してください。
- * の付いた質問は回答必須です。いずれかの選択肢を選んで「次へ」を押してください。
- 回答の内容によっては質問番号が連続しない場合がありますが、気にせず回答を続けてください。

 2%

次へ

令和4年度 都民等のボランティア活動等に関する実態調査

* F0 あなたの居住都道府県をお知らせください。

 5%

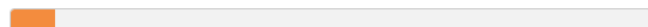
前へ

次へ

令和4年度 都民等のボランティア活動等に関する実態調査

* F1 あなたの性別をお知らせください。

- ☐ 男性
- ☐ 女性
- ☐ その他
- ☐ 答えたくない

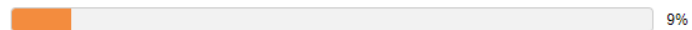
 7%

前へ

次へ

* F2 あなたの年齢はいくつですか。

- ☐ 15歳未満
- ☐ 15～19歳
- ☐ 20～24歳
- ☐ 25～29歳
- ☐ 30～34歳
- ☐ 35～39歳
- ☐ 40～44歳
- ☐ 45～49歳
- ☐ 50～54歳
- ☐ 55～59歳
- ☐ 60～64歳
- ☐ 65～69歳
- ☐ 70歳以上



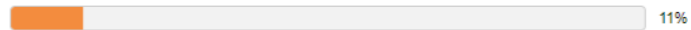
前へ

次へ

令和4年度 都民等のボランティア活動等に関する実態調査

* F3 あなたの仕事は何ですか。

- ☐ 自営業
- ☐ 家族従業（家業手伝い）
- ☐ 勤め（全日）
- ☐ 勤め（短時間）
- ☐ 主婦・主夫
- ☐ 学生
- ☐ 無職
- ☐ その他（具体的に）



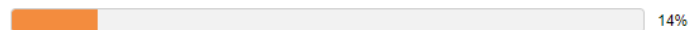
前へ

次へ

令和4年度 都民等のボランティア活動等に関する実態調査

* F4 あなたは、結婚していますか。

- ☐ 未婚
- ☐ 既婚（配偶者有）
- ☐ 既婚（離別・死別）



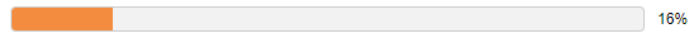
前へ

次へ

令和4年度 都民等のボランティア活動等に関する実態調査

* F4-1 夫婦（またはあなたと配偶者）とも働いていますか。

- ☐ はい
- ☐ いいえ



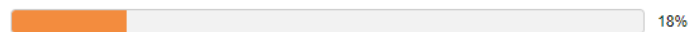
前へ

次へ

令和4年度 都民等のボランティア活動等に関する実態調査

* F5 お子さんは何人いますか。（同居・別居は問いません。）

- ☐ いない
- ☐ 1人
- ☐ 2人
- ☐ 3人
- ☐ 4人
- ☐ 5人以上



前へ

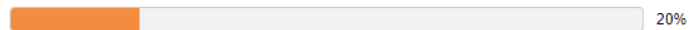
次へ

令和4年度 都民等のボランティア活動等に関する実態調査

*** F5-1** お子さんは、次のいずれに該当しますか。すべてのお子さんについてお答えください。（複数選択可）

※複数のお子さんが同じ選択肢に該当する場合、お子さんの人数とチェック数が異なっても構いません。

- ☐ 0歳～小学校入学前
- ☐ 小学生
- ☐ 中学生
- ☐ 高校生
- ☐ 専門学生
- ☐ 大学生・大学院生
- ☐ 学校教育終了
- ☐ その他（具体的に）



20%

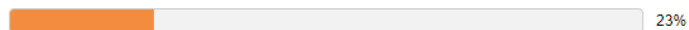
前へ

次へ

令和4年度 都民等のボランティア活動等に関する実態調査

*** F6** 現在一緒に住んでいる家族はあなたを含めて何人ですか。

- ☐ 1人
- ☐ 2人
- ☐ 3人
- ☐ 4人
- ☐ 5人
- ☐ 6人
- ☐ 7人以上



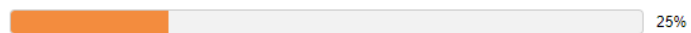
23%

前へ

次へ

*** F7 あなたの年収はいくらですか。**

- ☐ 収入なし
- ☐ 200万円未満
- ☐ 200～300万円台
- ☐ 400～500万円台
- ☐ 600～700万円台
- ☐ 800～900万円台
- ☐ 1,000万円以上
- ☐ わからない
- ☐ 答えたくない



前へ

次へ

1 ボランティアについて

*** Q1 あなたはボランティア活動（名称にかかわらず、報酬を目的としない社会貢献活動と考えてください）に関心がありますか。次の中から1つだけお答えください。**

ただし、ボランティア活動とは、下記の1～15に掲げる活動及び金銭や物品の寄附を指します。

1. 町会・自治会の活動
2. PTAの活動や学校行事の手伝い
3. まちづくり・地域貢献のための活動（道路や公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこし、観光ガイドボランティアなど）
4. 子供を対象とした活動（子供の居場所づくり、学習支援、子供会の世話、子育て支援ボランティアなど）
5. 高齢者を対象とした活動（高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど）
6. 健康や医療サービスに関係した活動（献血、入院患者の話し相手など）
7. 安全な生活のための活動（防災活動、パトロールなどの防犯活動、交通安全運動など）
8. 自然や環境を守るための活動（保護動物の保護活動、森林や緑、海や川を守る活動、リサイクル運動、ごみ減量の推進活動など）
9. スポーツに関係した活動（スポーツ大会・スポーツイベントの運営、地域のスポーツクラブのコーチや手伝いなど）
10. 文化・芸術・学術に関係した活動（文化や芸術に関係したイベント運営ボランティアなど）
11. 災害に関係した活動（炊き出し、募金を集める活動など）
12. 障害者を対象とした活動（手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など）
13. 在住・訪日外国人のための活動（日常生活の手助けや道案内などの支援活動、国際交流など）
14. 国際協力に関係した活動（在住・訪日外国人のための活動を除く、海外支援協力、難民支援など）
15. 当事者活動、セルフ・ヘルプ・グループ（障害、病気、介護などの体験や困難を抱えている人が、体験を伝えるなどして同様の体験がある人を助けるための活動）

- ☐ とても関心がある
- ☐ どちらかといえば関心がある
- ☐ どちらかといえば関心がない
- ☐ 全く関心がない
- ☐ わからない



前へ

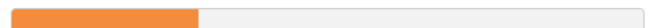
次へ

令和4年度 都民等のボランティア活動等に関する実態調査

*** Q2 あなたは直近1年間（令和3年11月1日から令和4年10月31日まで）にボランティア活動（寄附は除く）に参加しましたか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）**

- ☐ 町会・自治会の活動
- ☐ PTAの活動や学校行事の手伝い
- ☐ まちづくり・地域貢献のための活動（道路や公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこし、観光ガイドボランティアなど）
- ☐ 子供を対象とした活動（子供の居場所づくり、学習支援、子供会の世話、子育て支援ボランティアなど）
- ☐ 高齢者を対象とした活動（高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど）
- ☐ 健康や医療サービスに関係した活動（献血、入院患者の話し相手など）
- ☐ 安全な生活のための活動（防災活動、パトロールなどの防犯活動、交通安全運動など）
- ☐ 自然や環境を守るための活動（動物の保護活動、森林や緑、海や川を守る活動、リサイクル運動、ごみ減量の推進活動など）
- ☐ スポーツに関係した活動（スポーツ大会・スポーツイベントの運営、地域のスポーツクラブのコーチや手伝いなど）
- ☐ 文化・芸術・学術に関係した活動（文化や芸術に関係したイベント運営ボランティアなど）
- ☐ 災害に関係した活動（炊き出し、募金を集める活動など）
- ☐ 障害者を対象とした活動（手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など）
- ☐ 在住・訪日外国人のための活動（日常生活の手助けや道案内などの支援活動、国際交流など）
- ☐ 国際協力に関係した活動（在住・訪日外国人のための活動を除く、海外支援協力、難民支援など）
- ☐ 当事者活動、セルフ・ヘルプ・グループ（障害、病気、介護などの体験や困難を抱えている人が、体験を伝えるなどして同様の体験がある人を助けるための活動など）
- ☐ その他
- ☐ 直近1年間はないが、2～3年前には参加したことがある
- ☐ 直近2～3年以内には参加したことはないが、過去には参加したことがある
- ☐ 今まで全くボランティア活動などには参加したことがない

「その他」を選択した方は、行ったボランティア活動の内容について具体的にご記入ください。

 30%

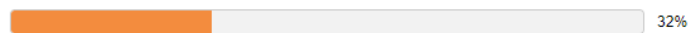
前へ

次へ

令和4年度 都民等のボランティア活動等に関する実態調査

*** Q3** 直近に参加したボランティア活動の満足度について、次の中から1つだけお答えください。（複数の活動を実施されている方は、そのうち中心的に行っている活動についてお答えください。）

- ☐ とても満足している
- ☐ どちらかといえば満足している
- ☐ どちらかといえば満足していない
- ☐ 満足していない
- ☐ わからない



32%

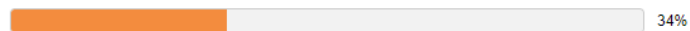
前へ

次へ

令和4年度 都民等のボランティア活動等に関する実態調査

*** Q4** あなたのボランティア活動の開始時期について、次の中から1つだけお答えください。

- ☐ 直近1年間にボランティア活動を始めた
- ☐ 直近3年以内にボランティア活動を始めた
- ☐ 3年以上前からボランティア活動に参加している
- ☐ わからない



34%

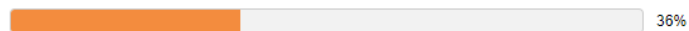
前へ

次へ

*** Q5 あなたがボランティア活動をしている理由について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）**

- ☐ やりがいや、社会の役に立てている実感があるから
- ☐ もともと興味のある活動だったから
- ☐ 周りの人が続けているから
- ☐ 自分の技術や能力、経験を活動に活かせるから
- ☐ 余暇時間を有意義に過ごせるから
- ☐ 身近に放っておけない問題や課題があるから
- ☐ 就職や進学に有利になると考えるから
- ☐ 様々な立場の人と交流できるから
- ☐ 活動を通じて知識や経験、気づきを得られるから
- ☐ 活動先に通いやすいから
- ☐ 活動の頻度がちょうどよいから
- ☐ 都合がよい時間帯に活動できるから
- ☐ その他（具体的に）

- ☐ 特に理由はない



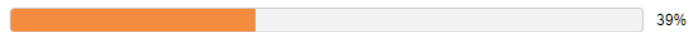
前へ

次へ

令和4年度 都民等のボランティア活動等に関する実態調査

*** Q6** あなたは直近1年間でどの程度ボランティア活動に参加しましたか。次の中から1つだけお答えください。

- ☐ ほとんど毎日
- ☐ 週に2～3日くらい
- ☐ 週に1日くらい
- ☐ 月に2～3日くらい
- ☐ 月に1日くらい
- ☐ 年に数回くらい
- ☐ わからない



前へ

次へ

令和4年度 都民等のボランティア活動等に関する実態調査

*** Q7** あなたは直近1年間で1回につき平均どのくらいの時間、ボランティア活動に参加しましたか。次の中から1つだけお答えください。（複数の活動を実施されている方は、そのうち中心行的に行っている活動についてお答えください。）

- ☐ 1時間未満
- ☐ 1～2時間程度
- ☐ 3～4時間程度
- ☐ 5時間以上
- ☐ わからない



前へ

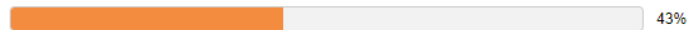
次へ

令和4年度 都民等のボランティア活動等に関する実態調査

*** Q8 あなたは、ボランティア活動を団体などに加入して行っていますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）**

- ☐ ボランティアを目的とする団体に加入して行っている（セルフ・ヘルプ・グループを含む）
- ☐ 地域社会とのつながりが強い町会などの組織に加入して行っている
- ☐ その他の団体に加入して行っている
→具体的な団体の種類（各種協会、博物館・美術館など）を記載してください。

- ☐ いかなる団体にも加入せず個人で行っている



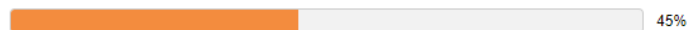
前へ

次へ

令和4年度 都民等のボランティア活動等に関する実態調査

*** Q9 あなたは、どのようにボランティア活動に参加していますか。次の中から1つだけお答えください。**

- ☐ 実際に現地に行って参加している（人と対面する活動など）
- ☐ 現地には行かずに参加している（郵便やオンラインツール等を用いたリモートの活動など）
- ☐ 上記の両方の方法で参加している



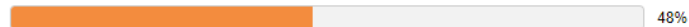
前へ

次へ

令和4年度 都民等のボランティア活動等に関する実態調査

*** Q10** あなたは、現地でボランティア活動に参加する際に、どこでボランティア活動に参加していますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

- ☐ 現在住んでいる区市町村
- ☐ 以前住んでいた区市町村
- ☐ 現在、通勤・通学で定期的な往来がある区市町村
- ☐ 以前、通勤・通学で定期的な往来があった区市町村
- ☐ その他（具体的に）



前へ

次へ

令和4年度 都民等のボランティア活動等に関する実態調査

*** Q11** あなたは、現地に赴かず、オンラインツールなどを用いてボランティア活動に参加する際には、どこでボランティア活動に参加していますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

- ☐ 自宅
- ☐ カフェ
- ☐ 勤務先
- ☐ 学校
- ☐ 公共施設（図書館・公民館など）
- ☐ 町会・自治会
- ☐ その他（具体的に）



前へ

次へ

令和4年度 都民等のボランティア活動等に関する実態調査

*** Q12 あなたが参加したボランティア活動において、一度でも交通費、食費やその他実費の支給はありましたか。次の中からそれぞれ1つずつお答えください。**

	あった	なかった	わからない
(1) 交通費	☐	☐	☐
(2) 食費	☐	☐	☐
(3) 材料費	☐	☐	☐
(4) ボランティア保 険	☐	☐	☐
(5) その他	☐	☐	☐



52%

前へ

次へ

*** Q13 あなたはボランティア活動の情報をどこから入手しましたか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）**

- ☐ 家族・親戚・知人・友人の話を直接聞いて
- ☐ テレビ・ラジオを視聴して
- ☐ 新聞や雑誌などを見て
- ☐ 独自に募集をしているボランティア団体のホームページ、メールマガジンを見て
- ☐ 都内や国内のボランティア団体の募集情報を多数紹介する情報サイトやメールマガジンを見て
- ☐ SNS（Twitter、Instagram、Facebook、YouTubeなど）を見て
- ☐ 学校、職場、団体が紹介しているものを見て
- ☐ 公共機関などに置いてあるチラシやポスター、車内広告などを見て
- ☐ 都や区市町村の広報誌などを見て
- ☐ 地域の回覧板や掲示板（インターネットやSNSを除く）を見て
- ☐ その他（具体的に）



55%

前へ

次へ

*** Q14 あなたがボランティア活動に参加したきっかけは何ですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）**

- ☐ 家族・親戚・知人・友人の話を直接聞いて
- ☐ 通っている学校での授業や活動、行事を通じて
- ☐ 勤め先での研修や活動を通じて
- ☐ 自治会や子供会など地域の活動を通じて
- ☐ 所属する団体やサークルなどの活動を通じて
- ☐ ボランティアや地域活動に関わる講座や研修会の参加を通じて
- ☐ SNS（Twitter、Instagram、Facebook、YouTubeなど）を通じて
- ☐ インターネットや電子メールを通じて
- ☐ 新聞、雑誌、ポスター、チラシなどを見て
- ☐ その他（具体的に）

- ☐ 特にきっかけはない



前へ

次へ

令和4年度 都民等のボランティア活動等に関する実態調査

*** Q15 あなたがボランティア活動に参加した理由は何ですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）**

- ☐ 何か社会の役に立ちたかったから
- ☐ 興味を持ったから
- ☐ 自分の技術や能力、経験を活動に活かしたかったから
- ☐ 就職や進学に有利になると考えたから
- ☐ 余暇時間を有意義に過ごしたいから
- ☐ 身近に放っておけない問題や課題があったから
- ☐ 活動を通じて友人や仲間を増やしたいから
- ☐ 周りの人がやっているから
- ☐ その他（具体的に）

- ☐ 特に理由はない



59%

前へ

次へ

令和4年度 都民等のボランティア活動等に関する実態調査

*** Q16 あなたは直近1年間でボランティア活動に参加しようと思いましたか。次の中から1つだけお答えください。**

- ☐ 参加しようと思った
- ☐ 参加しようと思わなかった
- ☐ わからない



61%

前へ

次へ

*** Q17 あなたがボランティア活動に参加しようと思ったのに、参加しなかったのはなぜですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）**

- ☐ 活動する日や時間の都合がつかなかったから
- ☐ 仕事・学業・家事などで時間的余裕がなかったから
- ☐ 参加方法などの情報が得られなかったから
- ☐ 趣味など自分の楽しみに時間を使いたかったから
- ☐ 健康上の理由から
- ☐ 興味のある活動がなかったから
- ☐ 報酬が得られなかった（安かった）から
- ☐ 経済的負担が大きかったから
- ☐ 周囲（家族・職場）の理解が得られなかったから
- ☐ 一緒に参加できる仲間がいなかったから
- ☐ 専門的な能力がなかったから
- ☐ 参加のしづらさや抵抗感を感じたから
- ☐ 活動が中止・延期になったから
- ☐ 募集定員を超えて（募集が締め切られて）しまったから
- ☐ 参加を断られたから
- ☐ 新型コロナウイルス感染症が流行していたから
- ☐ 参加したいと思う活動場所が自分のニーズにあわなかったから
- ☐ その他（具体的に）
- ☐ 特に理由はない



前へ

次へ

*** Q18 新型コロナウイルス感染症の流行により参加しなかったのは、具体的にどのような理由からですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）**

- ☐ 自分が新型コロナウイルス感染症に罹患していたから
- ☐ 自分が新型コロナウイルス感染症に感染することを予防するため
- ☐ 新型コロナウイルス感染症が拡大することを防ぐため
- ☐ 周囲（家族・職場）の理解が得られなかったから
- ☐ 個人として行っていたボランティア活動が、緊急事態宣言等の影響で中断せざるを得なかったから
- ☐ 参加していたボランティア団体等が活動を休止したから
- ☐ 参加していたボランティア団体等が解散したから
- ☐ その他（具体的に）



前へ

次へ

*** Q19 あなたがボランティア活動に参加しようと思わなかったのはなぜですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）**

- ☐ 仕事・学業・家事などで時間的余裕がないから
- ☐ 参加方法などの情報が得られないから
- ☐ 趣味など自分の楽しみに時間を使いたいから
- ☐ 健康上の理由から
- ☐ 興味のある活動がないから
- ☐ 報酬が得られない（安い）から
- ☐ 経済的負担が大きいから
- ☐ 周囲（家族・職場）の理解が得られないから
- ☐ 一緒に参加できる仲間がないから
- ☐ 専門的な能力がないから
- ☐ 参加のしづらさや抵抗感を感じるから
- ☐ 新型コロナウイルス感染症が流行しているから
- ☐ その他（具体的に）

- ☐ 特に理由はない



前へ

次へ

*** Q20 新型コロナウイルス感染症の流行により、参加しようと思わなかったのはなぜですか。（複数選択可）**

- ☐ 自分が新型コロナウイルス感染症に感染することを予防するため
- ☐ 新型コロナウイルス感染症が拡大することを防ぐため
- ☐ 個人として行っていたボランティア活動が、緊急事態宣言等の影響で中断せざるを得なかったから
- ☐ 参加していたボランティア団体等が活動を休止したから
- ☐ 参加していたボランティア団体等が解散したから
- ☐ その他（具体的に）



前へ

次へ

*** Q21 あなたが今後ボランティア活動に参加する場合、どのようなボランティア活動に参加したいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）**

- ☐ 町会・自治会の活動
- ☐ PTAの活動や学校行事の手伝い
- ☐ まちづくり・地域貢献のための活動（道路や公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこし、観光ガイドボランティアなど）
- ☐ 子供を対象とした活動（子供の居場所づくり、学習支援、子供会の世話、子育て支援ボランティアなど）
- ☐ 高齢者を対象とした活動（高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど）
- ☐ 健康や医療サービスに関係した活動（献血、入院患者の話し相手など）
- ☐ 安全な生活のための活動（防災活動、パトロールなどの防犯活動、交通安全運動など）
- ☐ 自然や環境を守るための活動（動物の保護活動、森林や緑、海や川を守る活動、リサイクル運動、ごみ減量の推進活動など）
- ☐ スポーツに関係した活動（スポーツ大会・スポーツイベントの運営、地域のスポーツクラブのコーチや手伝いなど）
- ☐ 文化・芸術・学術に関係した活動（文化や芸術に関係したイベント運営ボランティアなど）
- ☐ 災害に関係した活動（炊き出し、募金を集める活動など）
- ☐ 障害者を対象とした活動（手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など）
- ☐ 在住・訪日外国人のための活動（日常生活の手助けや道案内などの支援活動、国際交流など）
- ☐ 国際協力に関係した活動（在住・訪日外国人のための活動を除く、海外支援協力、難民支援など）
- ☐ 当事者活動、セルフ・ヘルプ・グループ（障害、病気、介護などの体験や困難を抱えている人が、体験を伝えるなどして同様の体験がある人を助けるための活動など）
- ☐ その他（具体的に）
- ☐ 参加したいボランティア活動はない

 73%

前へ

次へ

令和4年度 都民等のボランティア活動等に関する実態調査

*** Q22** 前問であなたが選択したボランティア活動について、あなたはどのように参加しようと思いますか。次の中から当てはまるものを1つだけお答えください。

- ☐ 実際に現地に行って参加する（人と対面する活動など）
- ☐ 自宅やカフェ等、現地に行かずにすむ場所から参加する（郵便やオンラインツール等を用いたリモートの活動など）
- ☐ 上記の両方の方法で参加する



前へ

次へ

令和4年度 都民等のボランティア活動等に関する実態調査

*** Q23** あなたは東京2020大会でボランティアが大会運営のサポートや役割を担い、大会を盛り上げたことをご存じですか。

- ☐ 知っている
- ☐ 知らない



前へ

次へ

*** Q24 東京2020大会でボランティアが活躍したことを知って、ご自身のボランティア活動に対する意識や行動に変化はありましたか。**

- ☐ 東京2020大会を契機に新たにボランティア活動を始め、現在も継続している
- ☐ 東京2020大会前と比較し、活動頻度が増えるなどボランティア活動が充実した
- ☐ 今後ボランティアとして活動したいと考えている
- ☐ 特に変化はない



前へ

次へ

3 ボランティアセンター・市民活動センターについて

*** Q25** あなたは東京ボランティア・市民活動センター（飯田橋セントラルプラザ内）や、センターが運営するウェブサイト「ボラ市民ウェブ」をご存じですか。また、利用したことはありますか。次の中からそれぞれ1つずつお答えください。

	利用したことがある	知っているが、利用したことはない	知らない
東京ボランティア・市民活動センター（飯田橋セントラルプラザ内）	☐	☐	☐
ウェブサイト「ボラ市民ウェブ」	☐	☐	☐



前へ

次へ

*** Q26** あなたは東京ボランティア・市民活動センターもしくは「ボラ市民ウェブ」を利用して満足されましたか。次の中から1つだけお答えください。

- ☐ とても満足している
- ☐ どちらかといえば満足している
- ☐ どちらかといえば満足していない
- ☐ 満足していない
- ☐ わからない



前へ

次へ

*** Q27** 区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。次の中から1つだけお答えください。

- ☐ 利用したことがある
- ☐ 知っているが、利用したことはない
- ☐ 知らない



前へ

次へ

4 東京都のボランティア活動推進に関する施策について

*** Q28** 東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。

このサイトでは、ボランティア活動情報をチェックすることができるほか、ユーザー登録をすれば、ボランティアに関する最新情報をメールで受け取ったり、ユーザー同士で交流したりできます。あなたはこの「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存じですか。また、閲覧したことはありますか。次の中から1つだけお答えください。

- ☐ サイトを閲覧したことがある
- ☐ 知っているが、閲覧したことはない
- ☐ 知らない



前へ

次へ

5 寄附について

*** Q29 あなたは寄附をしたことがありますか。金銭・物品について、それぞれ1つずつお答えください。**
ただし、「金銭の寄附」は下記の1～8に掲げる方法、「物品の寄附」は食材・衣類・電子機器等の物品の無償での提供を指します。

1. 街頭での募金
2. 設置されている募金箱への寄附（街頭募金を除く）
3. 直接手渡し
4. 銀行やコンビニエンスストア等での振込・口座引落
5. クレジットカード等の利用（ポイント等の利用を含む）
6. 商品の購入を通じた寄附（寄附付き商品、フェアトレード製品、被災地産品の購入など）
7. 給与からの天引き
8. クラウドファンディング（ただし、対価性のある還元をもたらすものを除く）

	直近1年間にしたことがある	1年以上前にしたことがある	今までしたことがない
金銭の寄附	☐	☐	☐
物品の寄附	☐	☐	☐



前へ

次へ

*** Q30 あなたは直近1年間にどのような対象あるいは分野に寄附をしましたか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）**

- ☐ 共同募金（赤い羽根）
- ☐ 緊急災害支援
- ☐ 日本赤十字社
- ☐ 国際協力
- ☐ 町会・自治会などの地縁団体
- ☐ 宗教関連（賽銭を除く）
- ☐ 自然・環境関連
- ☐ 保健・医療・福祉
- ☐ 子供・青少年育成
- ☐ 教育・研究
- ☐ まちづくり・まちおこし
- ☐ 国や都や区市町村など
- ☐ 文化・芸術
- ☐ スポーツ
- ☐ 政治献金
- ☐ 業界団体・商業団体・労働組合
- ☐ 権利擁護・権利支援
- ☐ 雇用促進・雇用支援
- ☐ その他（具体的に）



前へ

次へ

令和4年度 都民等のボランティア活動等に関する実態調査

*** Q31 あなたはどのような方法で金銭の寄附をしましたか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）**

- ☐ 街頭での募金
- ☐ 設置されている募金箱（街頭募金を除く）
- ☐ 直接手渡し
- ☐ 銀行やコンビニエンスストア等での振込・口座引落
- ☐ クレジットカード等の利用（ポイント等の利用を含む）
- ☐ 商品の購入を通じた寄附（寄附付き商品、フェアトレード製品、被災地産品の購入など）
- ☐ 給与からの天引き
- ☐ クラウドファンディング（ただし、対価性のある還元をもたらすものを除く）
- ☐ その他（具体的に）

 95%

前へ

次へ

令和4年度 都民等のボランティア活動等に関する実態調査

*** Q32 あなたは直近1年間で合計どのくらい寄附をしましたか。次の中から1つだけお答えください。**

- ☐ 1～10円未満
- ☐ 10～100円未満
- ☐ 100～1,000円未満
- ☐ 1,000～10,000円未満
- ☐ 10,000～50,000円未満
- ☐ 50,000～100,000円未満
- ☐ 100,000円以上
- ☐ わからない
- ☐ 答えたくない

 98%

前へ

次へ

6 ボランティア活動への参加のための支援について

*** Q33 あなたはボランティア活動参加に関して、どのような支援があったらよいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）**

- ☐ ボランティア活動に関する普及活動（ボランティア団体の活動紹介のイベントなど）
- ☐ ボランティア同士が交流・情報交換できる機会の提供
- ☐ ホームページや情報誌、SNSなどによるボランティア活動の情報提供
- ☐ ボランティア活動の相談窓口の整備
- ☐ ボランティア活動の技術や知識を得るための研修会、講習会の開催
- ☐ ボランティア活動の体験・参加機会の提供
- ☐ ボランティア活動中の事故に対する保険制度の整備・援助
- ☐ ボランティア団体への設備・金銭的支援（ミーティングなどの活動場所の整備や活動資金の補助など）
- ☐ ボランティア団体の交流会の実施
- ☐ 表彰などボランティア活動を評価する制度の創設
- ☐ ボランティア活動にポイントをつけて、そのポイントに応じて特典を受けられる制度の創設
- ☐ ボランティア活動希望者とボランティア団体をマッチングする仕組み
- ☐ 児童・青少年に対するボランティア活動に関する教育
- ☐ ボランティア活動はそもそも自主的な活動であるので、ボランティア活動に取り組む人の自発性に委ねて、支援等は最小限にするのがよい
- ☐ その他（具体的に）

- ☐ 特に望むことはない

 100%

前へ

完了

団体調査 調査票

都民等のボランティア活動等に関する実態調査
調査票（企業）

それぞれの質問について、当てはまる選択肢の番号に○を記入してください。

1 ボランティア活動について

(すべての方)

Q1 貴社が社会貢献活動として実施しているボランティア活動等※で、当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可) ※名称にかかわらず、報酬を目的としない社会貢献活動と考えてください

1. 健康や医療サービスに関係した活動（献血、入院患者の話し相手など）
2. 高齢者を対象とした活動（高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど）
3. 障害者を対象とした活動（手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など）
4. 子供を対象とした活動（子供の居場所づくり、学習支援、子供会の世話、子育て支援ボランティア、学校行事の手伝いなど）
5. スポーツに関係した活動（スポーツ大会・スポーツイベントの運営、地域のスポーツクラブのコーチや手伝いなど）
6. 文化・芸術・学術に関係した活動（美術館や博物館等のガイドボランティア、文化や芸術に関係したイベント運営ボランティアなど）
7. まちづくり・地域貢献のための活動（道路や公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこし、町会・自治会の活動、観光ガイドボランティアなど）
8. 安全な生活のための活動（防災活動、パトロールなどの防犯活動、交通安全運動など）
9. 自然や環境を守るための活動（動物の保護活動、森林や緑、海や川を守る活動、リサイクル運動、ごみ減量の推進活動など）
10. 災害に関係した活動（炊き出し、がれきや土砂の撤去など）
11. 在住・訪日外国人のための活動（日常生活の手助けや道案内などの支援活動、国際交流など）
12. 国際協力に関係した活動（在住・訪日外国人のための活動を除く、海外支援協力、難民支援など）
13. 寄附関係（金銭や物品の寄附、募金を集める活動など）
14. 当事者活動、セルフ・ヘルプ・グループ（障害、病気、介護などの体験や困難を抱えている人が、体験を伝えるなどして同様の体験がある人を助けるための活動など）
15. その他（具体的に：）
16. 実施していない

(すべての方)

Q2 従業員（常勤に限る）のボランティア活動を推奨・推進するために行っているもので、当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 従業員ボランティアを推奨・推進する担当・組織を設置している（CSR 室など）
2. ボランティア休暇制度を設けている
3. 従業員のボランティア活動の実績を社内広報などで紹介している
4. 社内にボランティアコーディネーター※¹を置いている
5. 従業員が参加するためのボランティア活動を企画・実施している
6. 従業員向けにボランティア活動に関する研修会、講習会などを開催している
7. 活動時の交通費や宿泊費、保険料などの経費を負担（一部負担を含む）している
8. 従業員のボランティア活動に対する表彰制度を導入している
9. ボランティアポイント制度※²を導入している
10. 寄附や活動支援のための給付天引きシステムを導入している
11. マッチングギフト制度※³を導入している
12. 退職者のボランティア活動を推進する取組をしている
13. 新任研修などの従業員研修において、ボランティア活動に関する内容を組み込んでいる
14. 活動にあたって、社内でのチラシやメルマガなどでの周知、会議室の利用を認めている
15. 活動にあたって、社内でのパソコンやメールなどの利用を認めている
16. その他（具体的に： _____）
17. 特に何もしていない ⇒ Q12 へお進みください

※1 ボランティアコーディネーター

ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側とを調整する人材

※2 ボランティアポイント制度

ボランティア活動にポイントをつけて、そのポイントに応じた特典を受けられる制度

※3 マッチングギフト制度

従業員による寄附などに、集まった金額の一定比率を上乗せして寄附する制度

(Q2 で 1～16 と答えた方)

Q3 選択した取組のうち、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、新たに開始もしくは充実したものはありますか。(1つに○)

1. ある

2. ない

3. わからない

(Q2 で 1～16 と答えた方)

Q4 従業員のボランティア活動を推奨・推進する取組を始めたきっかけについて、当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

1. 他社が行っているボランティア活動に共感したため
2. 行政機関のボランティア推進施策に影響を受けたため
3. ボランティア活動を行っている団体からの誘いがあったため
4. 外部の講座や研修会に参加して
5. SNS を通じて
6. 新聞、雑誌、ポスター、チラシ、インターネット（SNS を除く）などを見て
7. 経営層の判断・指示
8. その他（具体的に： _____）
9. 特にきっかけはない

(Q2 で 1～16 と答えた方)

Q5 従業員のボランティア活動の推奨・推進に取り組んでいる理由について、当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

1. 企業の社会的責任として必要と考えるため
2. 企業価値、企業ブランドの向上のため
3. 新たな取引先の開拓などビジネスチャンスが得られるため
4. 株主や投資家・金融機関などからの要請に応えるため
5. 社内にボランティア活動に熱心な従業員がいるため
6. 従業員の実行力の向上や新たな発想につながるなど、人材育成に有効であるため
7. 災害被災地支援をするため
8. 地域の行事などに参加する必要があるため
9. その他（具体的に： _____）

(Q2 で 1～16 と答えた方)

Q6 今後、従業員のボランティア活動を進めていくにあたり、課題と考えていることはありますか。
次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

1. 企画などを行う人材（コーディネーターなど）の不足
2. 担当者が専門的な能力や知識を学ぶ機会の確保
3. 経営への戦略的位置づけ
4. 経営層の理解
5. 社員など、社内での理解・協力
6. 株主をはじめとする利害関係者の理解
7. 活動を行っていくための十分な情報
8. ボランティア活動の対象となる地域などの課題把握
9. ボランティア団体などの連携先の確保
10. 新型コロナウイルス感染症の収束
11. その他（具体的に： _____）
12. 課題はない

(Q2 で「1. 従業員ボランティアを推奨・推進する担当・組織を設置している（CSR 室など）」と答えた方)

Q7 従業員のボランティア活動を推奨・推進する組織の構成人数と、当該組織などへの経営層
（担当役員など）の関与についてお答えください。(それぞれ 1 つずつに○)

構成人数	1. 3 人以下	2. 4～5 人	3. 6～10 人
	4. 11～20 人	5. 21 人以上	
経営層の関与	1. 積極的に関与している	2. ある程度関与している	
	3. あまり関与していない	4. 関与していない	

(Q2 で「2. ボランティア休暇制度を設けている」と答えた方)

Q8 ボランティア休暇制度を直近の 1 年間で利用したことがある従業員は何人ですか。(1 つに○)

注：直近で取りまとめた 1 年間の休暇利用状況であれば、期間はいつでも結構です。

1. 10 人以下	2. 11～20 人	3. 21～50 人
4. 51～100 人	5. 101 人以上	6. 利用者なし

Q9 従業員の専門性（職業を通じて培った技能や知識、経験など）を活かしたボランティア活動（プロボノ）を企画・実施していますか。

1. 企画・実施している	2. 企画・実施していない
--------------	---------------

Q10 ボランティア活動の企画・実施にあたって、連携して行っている団体があれば、当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 市民活動団体（NPO 法人を除く）	7. 学校や教育機関
2. NPO 法人	8. 東京ボランティア・市民活動センター
3. 公益法人	9. 区市町村のボランティアセンター
4. 地縁団体（町会・自治会や老人会など）	10. 行政機関
5. 当事者団体（障害者支援団体など）	11. その他
6. 事業者（企業など）	（具体的に： _____）
	12. 連携していない

Q11 ボランティア活動の企画・実施にあたって、今後連携したい団体があれば、当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 市民活動団体（NPO 法人を除く）
2. NPO 法人
3. 公益法人
4. 地縁団体（町会・自治会や老人会など）
5. 当事者団体（障害者支援団体など）
6. 事業者（企業など）
7. 学校や教育機関
8. 東京ボランティア・市民活動センター
9. 区市町村のボランティアセンター
10. 行政機関
11. その他
（具体的に： ）
12. 連携は考えていない

(Q2 で「17. 特に何もしていない」と答えた方)

Q12 従業員のボランティア活動の推奨・推進に取り組んでいない理由について、当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

1. 企業の役割ではないため
2. 取り組むこと自体を考えたことがないため
3. 利益につながらないため
4. 経済的、又は人的に余裕がないため
5. 取り組み方がわからないため
6. 企画などを行う人材（コーディネーターなど）がいないため
7. ボランティア活動に関する情報がいないため
8. 経営層の理解が得られないため
9. 社内の協力が得られないため
10. 株主や投資家・金融機関などの理解が得られないため
11. 新型コロナウイルス感染症が流行しているため
12. その他（具体的に： _____）

(Q12 で 3～12 と答えた方)

Q13 Q12 で回答した理由が解決されれば、従業員のボランティア活動の推奨・推進に取り組んでみたいと思いますか。(1つに○)

- | | | |
|-------------|-------------|----------|
| 1. 取り組んでみたい | 2. 取り組みたくない | 3. わからない |
|-------------|-------------|----------|

(すべての方)

Q14 貴社には、従業員によって設立・運営されているボランティア活動を行うための組織（サークルなど）がありますか。（1つに○）

- | | | |
|-------|-------|----------|
| 1. ある | 2. ない | 3. わからない |
|-------|-------|----------|

(Q14 で 1 と答えた方)

Q15 貴社は、従業員によって設立・運営されているボランティア活動を行うための組織（サークルなど）の活動を支援していますか。（1つに○）

- | |
|----------------------|
| 1. 経済的な支援を行っている |
| 2. 経済的な支援以外の支援を行っている |
| 3. 支援していない |

(すべての方)

Q16 東京ボランティア・市民活動センター（飯田橋セントラルプラザ内）をご存じですか。また、利用したことはありますか。（1つに○）

- | |
|---------------------|
| 1. 利用したことがある |
| 2. 知っているが、利用したことはない |
| 3. 知らない |

(すべての方)

Q17 区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。（1つに○）

- | |
|---------------------|
| 1. 利用したことがある |
| 2. 知っているが、利用したことはない |
| 3. 知らない |

(すべての方)

Q18 東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存じですか。また、閲覧したことはありますか。(1つに○)

1. サイトを閲覧したことがある
2. 知っているが、閲覧したことはない
3. 知らない

(すべての方)

Q19 ボランティア活動に対する今後の取組の意向があれば、ご自由にお書きください。

(すべての方)

Q20 従業員のボランティア活動を推奨・推進するために、どのような支援があったらよいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

1. 活動に関する情報提供、情報発信の充実
2. 相談窓口の整備
3. 活動を行うために必要な知識を学ぶ講習会やイベントの開催
4. 従業員の活動支援に関する他の企業などの取組事例の紹介
5. ボランティア団体などとの交流の場の提供
6. 従業員がボランティア活動を体験する場の提供
7. 活動を行うために必要な費用の助成
8. 活動を行うために必要な用具など物品の供与・貸出
9. 活動中の事故に対する保険制度の整備・援助
10. ボランティアコーディネーターを派遣する制度の創設
11. 活動を評価する表彰制度の創設
12. ボランティアポイント制度の創設
13. その他 (具体的に: _____)
14. 特になし

2 貴社について（すべての方）

Q21 貴社の総従業員数は何人ですか。（1つに○）

- | | | |
|---------------|-----------------|--------------|
| 1. 10人未満 | 2. 10～50人未満 | 3. 50～100人未満 |
| 4. 100～500人未満 | 5. 500～1,000人未満 | 6. 1,000人以上 |

Q22 貴社は設立から何年経っていますか。（1つに○）

- | | | | |
|-------------|-------------|-----------|------------|
| 1. 1年未満 | 2. 1～4年未満 | 3. 4～6年未満 | 4. 6～10年未満 |
| 5. 10～20年未満 | 6. 20～30年未満 | 7. 30年以上 | |

Q23 貴社の業種は何ですか。複数該当する場合は、最も売上高が大きいものについてお答えください。（1つに○）

- | | |
|------------------|------------------------|
| 1. 農業、林業、漁業 | 12. 金融業、保険業 |
| 2. 鉱業、採石業、砂利採取業 | 13. 不動産業、物品賃貸業 |
| 3. 建設業 | 14. 飲食業 |
| 4. 製造業（素材関連） | 15. 宿泊業 |
| 5. 製造業（機械関連） | 16. 医療・福祉（介護・社会福祉事業） |
| 6. 製造業（消費関連） | 17. 医療・福祉（介護・社会福祉事業以外） |
| 7. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 18. 教育・学習支援業 |
| 8. 情報通信業 | 19. 学術研究、専門・技術サービス業 |
| 9. 運輸業 | 20. 生活関連サービス業、娯楽業 |
| 10. 卸売業 | 21. 複合サービス事業（郵便局、協同組合） |
| 11. 小売業 | 22. その他サービス業 |
| | 23. 上記以外の業種 |
| | （具体的に： _____） |

Q24 貴社が事業を行っている地域についてお答えください。(1つに○)

- | | | | | |
|--------|----------|-------|-------|--------|
| 1. 町丁内 | 2. 区市町村内 | 3. 都内 | 4. 国内 | 5. 国内外 |
|--------|----------|-------|-------|--------|

Q25 貴社の従業員の平均勤続年数は何年ですか。(1つに○)

- | |
|-------------|
| 1. 1年未満 |
| 2. 1～5年未満 |
| 3. 5～10年未満 |
| 4. 10～20年未満 |
| 5. 20年以上 |

Q26 貴社の従業員の平均賃金はいくらですか。(1つに○)

- | |
|------------------|
| 1. 200万円未満 |
| 2. 200～400万円未満 |
| 3. 400～600万円未満 |
| 4. 600～800万円未満 |
| 5. 800～1,000万円未満 |
| 6. 1,000万円以上 |

Q27 貴社の資本金をお答えください。(1つに○)

- | |
|------------------|
| 1. 1000万円未満 |
| 2. 1000～5000万円未満 |
| 3. 5000万円～1億円未満 |
| 4. 1～5億円未満 |
| 5. 5～10億円未満 |
| 6. 10～100億円未満 |
| 7. 100億円以上 |

ご協力ありがとうございました。

都民等のボランティア活動等に関する実態調査 調査票（NPO 法人）

それぞれの質問について、当てはまる選択肢の番号に○を記入してください。

1 ボランティア活動について

（すべての方）

Q1 貴団体が団体として企画・実施しているボランティア活動[※]で、当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可） ※名称にかかわらず、報酬を目的としない社会貢献活動と考えてください

1. 健康や医療サービスに関係した活動（献血、入院患者の話し相手など）
2. 高齢者を対象とした活動（高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど）
3. 障害者を対象とした活動（手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など）
4. 子供を対象とした活動（子供の居場所づくり、学習支援、子供会の世話、子育て支援ボランティア、学校行事の手伝いなど）
5. スポーツに関係した活動（スポーツ大会・スポーツイベントの運営、地域のスポーツクラブのコーチや手伝いなど）
6. 文化・芸術・学術に関係した活動（美術館や博物館等のガイドボランティア、文化や芸術に関係したイベント運営ボランティアなど）
7. まちづくり・地域貢献のための活動（道路や公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこし、町会・自治会の活動、観光ガイドボランティアなど）
8. 安全な生活のための活動（防災活動、パトロールなどの防犯活動、交通安全運動など）
9. 自然や環境を守るための活動（動物の保護活動、森林や緑、海や川を守る活動、リサイクル運動、ごみ減量の推進活動など）
10. 災害に関係した活動（炊き出し、がれきや土砂の撤去など）
11. 在住・訪日外国人のための活動（日常生活の手助けや道案内などの支援活動、国際交流など）
12. 国際協力に関係した活動（在住・訪日外国人のための活動を除く、海外支援協力、難民支援など）
13. 寄附関係（金銭や物品の寄附、募金を集める活動など）
14. 当事者活動、セルフ・ヘルプ・グループ（障害、病気、介護などの体験や困難を抱えている人が、体験を伝えるなどして同様の体験がある人を助けるための活動など）
15. その他（具体的に： _____）
16. 企画・実施していない ⇒ Q9 へお進みください

(Q1 で 1～15 の方)

Q2 選択した活動のうち、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、新たに開始もしくは充実したものはありますか。(1つに○)

- | | | |
|-------|-------|----------|
| 1. ある | 2. ない | 3. わからない |
|-------|-------|----------|

(Q1 で 1～15 の方)

Q3 ボランティア活動(社会貢献活動)の企画・実施にあたって、連携している団体がありますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 市民活動団体(NPO 法人を除く) | 7. 学校や教育機関 |
| 2. NPO 法人 | 8. 東京ボランティア・市民活動センター |
| 3. 公益法人 | 9. 区市町村のボランティアセンター |
| 4. 地縁団体(町会・自治会や老人会など) | 10. 行政機関 |
| 5. 当事者団体(障害者支援団体など) | 11. その他 |
| 6. 事業者(企業など) | (具体的に:) |
| | 12. 連携していない |

(Q1 で 1～15 の方)

Q4 ボランティアコーディネーター※を配置していますか。

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 配置している | 2. 配置していない |
|-----------|------------|

※ボランティアコーディネーター：ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側とを調整する人材

(Q1 で 1～15 の方)

Q5 貴団体のボランティア活動(社会貢献活動)を企画・実施する際に、ボランティアは参加していますか。現場でボランティア活動をしている方(管理、運営、総務、庶務等に係るものは除く。)についてお答えください。

- | | |
|-----------|--------------------------|
| 1. 参加している | 2. 参加していない ⇒ Q8 へお進みください |
|-----------|--------------------------|

(Q5 で 1 の方)

Q6 ボランティアが参加する活動について、年間の活動頻度及び 1 回あたりのボランティア活動人数・時間をお答えください。(複数の活動を企画・実施している場合は、そのうち中心的に行っている活動についてお答えください。)(それぞれ 1 つずつに○)

年間の活動頻度	1. 年 1 回程度 2. 年 2～6 回程度 3. 月 1、2 回程度 4. 週 1 回程度 5. 週 2 回以上
1 回あたりの活動人数	1. 5 人以下 2. 6～10 人 3. 11～20 人 4. 21～30 人 5. 31 人以上
1 回あたりの平均活動時間	1. 1 時間未満 2. 1～2 時間程度 3. 3～4 時間程度 4. 5 時間以上 5. わからない

(Q5 で 1 の方)

Q7 ボランティアの参加人数を増やしていくためにはどのようなことが必要ですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

1. ボランティア希望者の情報 2. 外部に働きかける広報ツール 3. 時間的な余裕 4. ボランティア活動を企画・実施する人材 5. ボランティア活動を企画・実施するためのノウハウ 6. 職員のスキルアップ 7. ボランティア活動の対象となる地域の課題などの把握 8. 資金 9. 新型コロナウイルス感染症の収束 10. その他 (具体的に :) 11. わからない

(Q5 で 2 の方)

Q8 ボランティアが参加していない理由について、当てはまるものをすべてお答えください。

(複数選択可)

1. 団体の設立理念や実施事業にそぐわないため
2. 経済的に余裕がないため
3. ボランティア活動を企画・実施する人材がないため
4. ボランティア活動の企画・実施方法がわからないため
5. ボランティア活動を企画・実施する時間的余裕がないため
6. ボランティア活動の対象となる地域の課題などがわからないため
7. ボランティアが参加するために、募集など外部に働きかける広報ツールがないため
8. ボランティアが参加しなくても、事業を行えるため
9. 新型コロナウイルス感染症が流行しているため
10. 活動は有償で行うものであるため
11. その他（具体的に： _____ ）

(すべての方)

Q9 東京ボランティア・市民活動センター（飯田橋セントラルプラザ内）をご存じですか。また、利用したことはありますか。（1つに○）

- | | | |
|--------------|---------------------|---------|
| 1. 利用したことがある | 2. 知っているが、利用したことはない | 3. 知らない |
|--------------|---------------------|---------|

(すべての方)

Q10 東京ボランティア・市民活動センターのウェブサイト「ボラ市民ウェブ」をご存じですか。また、利用したことはありますか。（1つに○）

- | | | |
|--------------|---------------------|---------|
| 1. 利用したことがある | 2. 知っているが、利用したことはない | 3. 知らない |
|--------------|---------------------|---------|

(Q9 または Q10 で 1 の方)

Q11 利用して、満足されましたか。（1つに○）

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. とても満足している | 2. どちらかといえば満足している |
| 3. どちらかといえば満足していない | 4. 満足していない |
| 5. わからない | |

(すべての方)

Q12 区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。（1つに○）

- | | | |
|--------------|---------------------|---------|
| 1. 利用したことがある | 2. 知っているが、利用したことはない | 3. 知らない |
|--------------|---------------------|---------|

(すべての方)

Q13 東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存じですか。また、閲覧したことはありますか。（1つに○）

- | | | |
|------------------|---------------------|---------|
| 1. サイトを閲覧したことがある | 2. 知っているが、閲覧したことはない | 3. 知らない |
|------------------|---------------------|---------|

(Q13 で 1 の方)

Q14 「東京ボランティアレガシーネットワーク」を利用して満足されましたか。（1つに○）

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. とても満足している | 2. どちらかといえば満足している |
| 3. どちらかといえば満足していない | 4. 満足していない |
| 5. わからない | |

(Q1 で 1～15 の方)

Q15 貴団体のボランティア活動（社会貢献活動）を推進するにあたっての課題をすべてお答えください。

(複数選択可)

1. 経済的負担が大きすぎる
2. ボランティア活動を企画・推進する人材が十分にいない
3. ボランティア活動に参加する人材が十分にいない
4. 地域の理解が得られない
5. 利害関係者の理解が得られない
6. 団体内の関係者の理解が得られない
7. 活動を行うための十分な時間がない
8. 活動を行うための情報が得られない
9. ボランティアコーディネーターがいない
10. 連携できる他の団体が見つからない
11. 新型コロナウイルス感染症が流行している
12. その他（具体的に：

)

(すべての方)

Q16 ボランティア活動に対する今後の取組の意向があれば、ご自由にお書きください。

(すべての方)

Q17 ボランティア活動に関して、どのような支援があったらよいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

1. 活動に関する情報提供、情報発信の充実
2. 相談窓口の整備
3. 活動を行うために必要な知識を学ぶ講習会やイベントの開催
4. 団体が行う情報発信の支援（行政広報誌や行政が運営するポータルサイトの利用など）
5. 団体間の交流の場の提供
6. ボランティア希望者との交流の場の提供
7. 活動を行うために必要な費用の助成
8. 活動を行うために必要な用具など物品の供与・貸出
9. 活動中の事故に対する保険制度の整備・援助
10. ボランティアコーディネーター※1を派遣する制度の創設
11. 活動を評価する表彰制度の創設
12. ボランティアポイント制度※2の創設
13. その他（具体的に： _____ ）
14. 特になし

※1 ボランティアコーディネーター：ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側とを調整する人材

※2 ボランティアポイント制度：ボランティア活動にポイントをつけて、そのポイントに応じた特典を受けられる制度

2 貴団体について（すべての方）

Q18 貴団体の団体構成員の総数は何人になりますか。（1つに○）

- | | | |
|--------------|---------------|--------------|
| 1. 10 人未満 | 2. 10～20 人未満 | 3. 20～30 人未満 |
| 4. 30～50 人未満 | 5. 50～100 人未満 | 6. 100 人以上 |

Q19 貴団体は設立から何年経っていますか。（1つに○）

- | | | | |
|--------------|--------------|------------|-------------|
| 1. 1 年未満 | 2. 1～4 年未満 | 3. 4～6 年未満 | 4. 6～10 年未満 |
| 5. 10～20 年未満 | 6. 20～30 年未満 | 7. 30 年以上 | |

Q20 貴団体の活動分野は次のどれにあたりますか。（複数選択可）

- | |
|---------------------------------------|
| 1. 保健、医療又は福祉の増進を図る活動 |
| 2. 社会教育の推進を図る活動 |
| 3. まちづくりの推進を図る活動 |
| 4. 観光の振興を図る活動 |
| 5. 農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動 |
| 6. 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動 |
| 7. 環境の保全を図る活動 |
| 8. 災害救援活動 |
| 9. 地域安全活動 |
| 10. 人権の擁護又は平和の活動の推進を図る活動 |
| 11. 国際協力の活動 |
| 12. 男女共同参画社会の形成の促進を図る活動 |
| 13. 子どもの健全育成を図る活動 |
| 14. 情報化社会の発展を図る活動 |
| 15. 科学技術の振興を図る活動 |
| 16. 経済活動の活性化を図る活動 |
| 17. 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動 |
| 18. 消費者の保護を図る活動 |
| 19. 上記の活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動 |
| 20. 上記の活動に準ずる活動として都道府県又は指定都市の条例で定める活動 |

1. 貴団体ホームページ
2. 貴団体広報誌
3. 自治体ホームページ
4. 自治体広報誌
5. 東京ボランティア・市民活動センター
6. 区市町村のボランティアセンター
7. 様々な団体のボランティア募集情報を紹介する情報サイト
8. ボランティア情報誌
9. テレビ・ラジオ・新聞・雑誌
10. SNS
11. その他（具体的に：

ご協力ありがとうございました。

都民等のボランティア活動等に関する実態調査
調査票（大学）

それぞれの質問について、当てはまる選択肢の番号に○を記入してください。

1 ボランティア活動について

(すべての方)

Q1 貴学には、学生のボランティア活動※を支援する組織などがありますか。（1つに○）

※名称にかかわらず、報酬を目的としない社会貢献活動と考えてください

1. ボランティア活動支援部署（大学ボランティアセンターなど）を設置している
2. ボランティア活動支援部署（大学ボランティアセンターなど）は設置していないが、担当者を配置している
3. 支援する組織などはない ⇒ Q10 へお進みください

(Q1 で 1、2 の方)

Q2 設置しているボランティア活動支援部署（大学ボランティアセンター）などの名称・設置年度・職員数・設置したきっかけをお答えください。

(Q1で2と答えた方は、職員数と配置したきっかけをお答えください。)

名称	
設置年度	
職員数 （配置していない場合は「0」人と記入してください。）	教員：（ ）人 事務職員：（ ）人 ボランティアコーディネーター※など：（ ）人 学生スタッフ：（ ）人
きっかけ（複数選択可）	1. 教育機関もボランティア活動を推進する必要があると考えたため 2. 教育機関のイメージアップにつながるため 3. 学生の効果的な教育の場を創出できると考えたため 4. 学内にボランティア活動に熱心な学生や教職員がいたため 5. 地域の行事などにより推進することとしたため 6. 周囲の教育機関が設置しているため 7. 学長・部局長などの判断 8. その他（具体的に： ）

※ボランティアコーディネーター：ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側を調整する人材

(Q1 で 1、2 の方)

Q3 貴学のボランティア活動支援部署(大学ボランティアセンター)などで行っている取組のうち、当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

1. ボランティア活動情報の提供・紹介
2. 活動を希望する学生、サークルに対する相談・助言
3. 学生とボランティア活動とのマッチング
4. 学生が参加するためのボランティア活動の企画・実施
5. 学生コーディネーターの育成
6. ボランティア活動に関する研修会・講習会など
7. ボランティアサークルなどの活動支援
8. 学生、ボランティアサークルなどの活動の発表
9. 学外の団体などとの連携
10. ボランティアポイント制度※の導入
11. その他 (具体的に :)

※ボランティアポイント制度：ボランティア活動にポイントをつけて、そのポイントに応じて特典を受けられる制度

(Q1 で 1、2 の方)

Q4 Q3 で選択した取組のうち、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、新たに開始もしくは充実したものはありますか。(1つに○)

- | | | |
|-------|-------|----------|
| 1. ある | 2. ない | 3. わからない |
|-------|-------|----------|

(Q1 で 1、2 の方)

Q5 貴学で直近 1 年間（令和 3 年 11 月 1 日から令和 4 年 10 月 31 日まで）にボランティア活動支援部署（大学ボランティアセンター）などが紹介・実施をして、実際に学生が参加したボランティア活動について、当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 健康や医療サービスに関係した活動（献血、入院患者の話し相手など）
2. 高齢者を対象とした活動（高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど）
3. 障害者を対象とした活動（手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など）
4. 子供を対象とした活動（子供の居場所づくり、学習支援、子供会の世話、子育て支援ボランティア、学校行事の手伝いなど）
5. スポーツに関係した活動（スポーツ大会・スポーツイベントの運営、地域のスポーツクラブのコーチや手伝いなど）
6. 文化・芸術・学術に関係した活動（美術館や博物館等のガイドボランティア、文化や芸術に関係したイベント運営ボランティアなど）
7. まちづくり・地域貢献のための活動（道路や公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこし、町会・自治会の活動、観光ガイドボランティアなど）
8. 安全な生活のための活動（防災活動、パトロールなどの防犯活動、交通安全運動など）
9. 自然や環境を守るための活動（動物の保護活動、森林や緑、海や川を守る活動、リサイクル運動、ごみ減量の推進活動など）
10. 災害に関係した活動（炊き出し、がれきや土砂の撤去など）
11. 在住・訪日外国人のための活動（日常生活の手助けや道案内などの支援活動、国際交流など）
12. 国際協力に関係した活動（在住・訪日外国人のための活動を除く、海外支援協力、難民支援など）
13. 寄附関係（金銭や物品の寄附、募金を集める活動など）
14. 当事者活動、セルフ・ヘルプ・グループ（障害、病気、介護などの体験や困難を抱えている人が、体験を伝えるなどして同様の体験がある人を助けるための活動など）
15. その他（具体的に： _____）
16. 直近 1 年間はないが、2～3 年前には参加したことがある
17. 直近 2～3 年以内には参加したことはないが、過去には参加したことがある
18. 実施していない

(Q5 で 1～15 の方)

Q6 貴学のボランティア活動支援部署（大学ボランティアセンター）などが紹介・実施したボランティア活動（寄附関係を含まない）に直近 1 年間（令和 3 年 11 月 1 日から令和 4 年 10 月 31 日まで）で参加した学生数（延べ人数）は何人ですか。（1 つに○）

- | | | |
|---------------|----------------|------------------|
| 1. 10 人未満 | 2. 10～20 人未満 | 3. 20～50 人未満 |
| 4. 50～100 人未満 | 5. 100～500 人未満 | 6. 500～1,000 人未満 |
| 7. 1,000 人以上 | 8. わからない | |

(Q5 で 1～15 の方)

Q7 貴学のボランティア活動支援部署（大学ボランティアセンター）などが紹介・実施して実際に学生が参加したボランティア活動について、活動した地域はどこですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 東京 23 区部 | 6. アジア |
| 2. 多摩市町村部 | 7. アフリカ |
| 3. 東京島しょ地区 | 8. アジア・アフリカ以外の海外 |
| 4. 東京近郊（神奈川、埼玉、千葉） | 9. オンライン |
| 5. 国内（都内、東京近郊を除く） | 10. わからない |

(Q1 で 1、2 の方)

Q8 学生へのボランティア情報の周知方法について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

- | |
|-------------------------------|
| 1. チラシ、ポスター |
| 2. 貴学のホームページや学生ポータルサイト、メルマガ |
| 3. 様々な団体のボランティア募集情報を紹介する情報サイト |
| 4. SNS |
| 5. 学内放送・学内誌 |
| 6. 説明会等のイベントや講義の中で紹介 |
| 7. 口コミ |
| 8. その他（具体的に： _____） |
| 9. 実施していない |

(Q1 で 1、2 の方)

Q9 学内のボランティア活動を充実させていくための課題は何ですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

1. 予算
2. 人員
3. ボランティアコーディネーターなどの専門職の配置
4. 外部組織との連携の充実
5. 教職員など、学内の理解・協力
6. 学長、部局長などのリーダーシップ
7. ボランティアセンター職員のスキルアップ
8. 学生の理解・協力
9. 学生サークルなどの活動の充実や協力
10. 学生コーディネーターの育成
11. 学生が参加できるボランティア活動先の開拓
12. 学生に向けたボランティア情報の周知
13. 新型コロナウイルス感染症の収束
14. その他 (具体的に :)
15. わからない

(Q1 で 3 の方)

Q10 ボランティア活動支援部署(大学ボランティアセンター)などを設置していない理由について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

1. 学長や部局長などの理解が得られないため
2. 教員など関係者の理解が得られないため
3. 十分な予算がないため
4. ボランティアコーディネーター※など必要な人材がいないため
5. 活動を行える十分な機会・場所がないため
6. 設置したいが、どうしたらよいかわからないため
7. 設置しても学生が集まらないため
8. 教育活動と直接の関係がないため
9. 周囲の教育機関が設置をしていないため
10. そもそも設置すること自体考えたことがないため
11. 新型コロナウイルス感染症が流行しており、ボランティア活動自体の見込みが立たないため
12. その他 (具体的に :)

※ボランティアコーディネーター：ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側を調整する人材

(すべての方)

Q11 貴学に学生のボランティアサークルなどがありますか。(1つに○)

1. ボランティア活動を主目的とするサークルがある
2. 主目的ではないが、ボランティア活動に関わっているサークルがある
3. ない
4. わからない

(Q11 で 1 の方)

Q12 ボランティア活動を主目的とするサークルなどの活動内容、団体数、学生数をお答えください。

・活動内容（複数選択可）

1. 健康や医療サービスに関係した活動（献血、入院患者の話し相手など）
2. 高齢者を対象とした活動（高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど）
3. 障害者を対象とした活動（手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など）
4. 子供を対象とした活動（子供の居場所づくり、学習支援、子供会の世話、子育て支援ボランティア、学校行事の手伝いなど）
5. スポーツに関係した活動（スポーツ大会・スポーツイベントの運営、地域のスポーツクラブのコーチや手伝いなど）
6. 文化・芸術・学術に関係した活動（美術館や博物館等のガイドボランティア、文化や芸術に関係したイベント運営ボランティアなど）
7. まちづくり・地域貢献のための活動（道路や公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこし、町会・自治会の活動、観光ガイドボランティアなど）
8. 安全な生活のための活動（防災活動、パトロールなどの防犯活動、交通安全運動など）
9. 自然や環境を守るための活動（動物の保護活動、森林や緑、海や川を守る活動、リサイクル運動、ごみ減量の推進活動など）
10. 災害に関係した活動（炊き出し、がれきや土砂の撤去など）
11. 在住・訪日外国人のための活動（日常生活の手助けや道案内などの支援活動、国際交流など）
12. 国際協力に関係した活動（在住・訪日外国人のための活動を除く、海外支援協力、難民支援など）
13. 寄附関係（金銭や物品の寄附、募金を集める活動など）
14. 当事者活動、セルフ・ヘルプ・グループ（障害、病気、介護などの体験や困難を抱えている人が、体験を伝えるなどして同様の体験がある人を助けるための活動など）
15. その他（具体的に： _____）

・団体数 （ _____ ） 団体

・学生数 約（ _____ ） 人

(すべての方)

Q13 ボランティア活動の企画・実施にあたって、連携している団体はありますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1. 市民活動団体 (NPO 法人を除く) | 7. 学校や教育機関 |
| 2. NPO 法人 | 8. 東京ボランティア・市民活動センター |
| 3. 公益法人 | 9. 区市町村のボランティアセンター |
| 4. 地縁団体 (町会・自治会や老人会など) | 10. 行政機関 |
| 5. 当事者団体 (障害者支援団体など) | 11. その他 |
| 6. 事業者 (企業など) | (具体的に:) |
| | 12. 連携していない |

(すべての方)

Q14 ボランティア活動の企画・実施にあたって、今後連携したい団体があれば、当てはまるものをすべてお答えください。現在、既に連携していて、今後も引き続き連携したい場合も含めてお答えください。(複数選択可)

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1. 市民活動団体 (NPO 法人を除く) | 7. 学校や教育機関 |
| 2. NPO 法人 | 8. 東京ボランティア・市民活動センター |
| 3. 公益法人 | 9. 区市町村のボランティアセンター |
| 4. 地縁団体 (町会・自治会や老人会など) | 10. 行政機関 |
| 5. 当事者団体 (障害者支援団体など) | 11. その他 |
| 6. 事業者 (企業など) | (具体的に:) |
| | 12. 連携は考えていない |

(すべての方)

Q15 東京ボランティア・市民活動センター (飯田橋セントラルプラザ内) をご存じですか。また、利用したことはありますか。(1つに○)

- | | | |
|--------------|---------------------|---------|
| 1. 利用したことがある | 2. 知っているが、利用したことはない | 3. 知らない |
|--------------|---------------------|---------|

(すべての方)

Q16 東京ボランティア・市民活動センターのウェブサイト「ボラ市民ウェブ」はご存じですか。また、利用したことはありますか。（１つに○）

1. 利用したことがある 2. 知っているが、利用したことはない 3. 知らない

(すべての方)

Q17 区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。(1つに○)

1. 利用したことがある 2. 知っているが、利用したことはない 3. 知らない

(すべての方)

Q18 東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア活動情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存じですか。また、閲覧したことはありますか。（1つに○）

1. サイトを閲覧したことがある 2. 知っているが、閲覧したことはない 3. 知らない

(すべての方)

Q19 ボランティア活動に対する今後の取組の意向があれば、ご自由にお書きください。

--

(すべての方)

Q20 ボランティア活動に関して、どのような支援があったらよいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

1. 活動に関する情報提供、情報発信の充実
2. 相談窓口の整備
3. 活動を行うために必要な知識を学ぶ講習会やイベントの開催
4. 学生の活動支援に関する他の教育機関などの取組事例の紹介
5. ボランティア団体などとの交流の場の提供
6. 学生が活動を体験する場の提供
7. 学生が活動を行うために必要な費用の助成
8. ボランティアセンターを設置・運営するために必要な費用の助成
9. 学生が活動を行うために必要な用具など物品の供与・貸出
10. 活動中の事故に対する保険制度の整備・援助
11. ボランティアコーディネーターを派遣する制度の創設
12. 活動を評価する表彰制度の創設
13. ボランティアポイント制度※の創設
14. その他 (具体的に：)
15. 特になし

※ボランティアポイント制度：ボランティア活動にポイントをつけて、そのポイントに応じて特典を受けられる制度

2 貴学について（すべての方）

Q21 貴学の職員（教授など含む）の総数は何人ですか。（1つに○）

1. 10 人未満	2. 10～50 人未満	3. 50～100 人未満
4. 100～500 人未満	5. 500～1,000 人未満	6. 1,000 人以上
7. わからない		

Q22 貴学は設立から何年経っていますか。（1つに○）

1. 1 年未満	6. 20～30 年未満
2. 1～4 年未満	7. 30～50 年未満
3. 4～6 年未満	8. 50～75 年未満
4. 6～10 年未満	9. 75～100 年未満
5. 10～20 年未満	10. 100 年以上

Q23 貴学の学生数は何人ですか。（1つに○）

1. 100 人未満	2. 100～500 人未満	3. 500～1,000 人未満
4. 1,000～5,000 人未満	5. 5,000～10,000 人未満	6. 10,000～20,000 人未満
7. 20,000 人以上	8. わからない	

ご協力ありがとうございました。

それぞれの質問について、当てはまる選択肢の番号に○を記入してください。

(すべての方)

※名称にかかわらず、報酬を目的としない社会貢献活動と考えてください

- (Q1 で 1 の方)

・年間時間数

- ・教科名 ()

(Q1 で 1 の方)

1. ある 2. ない 3. わからない

(Q1 で 1 の方)

Q4 直近 1 年間（令和 3 年 11 月 1 日から令和 4 年 10 月 31 日まで）に授業で実際に生徒が参加したボランティア活動がある場合、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 健康や医療サービスに関係した活動（献血、入院患者の話し相手など）
2. 高齢者を対象とした活動（高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど）
3. 障害者を対象とした活動（手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など）
4. 子供を対象とした活動（子供の居場所づくり、学習支援、子供会の世話、子育て支援ボランティア、学校行事の手伝いなど）
5. スポーツに関係した活動（スポーツ大会・スポーツイベントの運営、地域のスポーツクラブのコーチや手伝いなど）
6. 文化・芸術・学術に関係した活動（美術館や博物館等のガイドボランティア、文化や芸術に関係したイベント運営ボランティアなど）
7. まちづくり・地域貢献のための活動（道路、公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこし、町会・自治会の活動、観光ガイドボランティア、あいさつ運動など）
8. 安全な生活のための活動（防災活動、パトロールなどの防犯活動、交通安全運動など）
9. 自然や環境を守るための活動（動物の保護活動、森林や緑、海や川を守る活動、リサイクル運動、ごみ減量の推進活動など）
10. 災害に関係した活動（炊き出し、がれきや土砂の撤去など）
11. 在住・訪日外国人のための活動（日常生活の手助けや道案内などの支援活動、国際交流など）
12. 国際協力に関係した活動（在住・訪日外国人のための活動を除く、海外支援協力、難民支援など）
13. 寄附関係（金銭や物品の寄附、募金を集める活動など）
14. 当事者活動、セルフ・ヘルプ・グループ（障害、病気、介護などの体験や困難を抱えている人が、体験を伝えるなどして同様の体験がある人を助けるための活動など）
15. その他（具体的に： _____）
16. 直近 1 年間はないが、2～3 年前には参加したことがある
17. 直近 2～3 年以内には参加したことはないが、過去には参加したことがある
18. 実施していない

(Q1 で 1 の方)

Q5 授業でボランティア活動を取り入れていくための課題（授業を行っていく上での課題）は何ですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 予算
2. ボランティア活動の体験の場の確保
3. ボランティア活動に関する授業を実施できる教員の確保
4. 教員のスキルアップの場、研修の機会など
5. 教材の充実
6. 年間の授業時間の中でボランティア教育のための時間を確保することが難しい
7. 新型コロナウイルス感染症の収束
8. その他（具体的に： ）
9. わからない

(Q1 で 2 の方)

Q6 授業にボランティア活動を取り入れていない理由について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

1. 十分な予算がないため
2. 保護者や教員など関係者の理解が得られないため
3. ボランティア活動に関する授業を実施できる教員など、必要な人材がないため
4. 活動を行える十分な機会・場所がないため
5. 利用したい教材がないため
6. そもそも検討したことがないため
7. 周囲の教育機関で取り入れていないことから、必要性を感じないため
8. 取り入れたいが、どうしたらよいかわからないため
9. 時間的な余裕がないため
10. 新型コロナウイルス感染症が流行しているため
11. その他（具体的に：

(すべての方)

Q7 ボランティア活動を行っている部活動などがありますか。

1. ある

2. ない

(Q7 で 1 の方)

Q8 ボランティア活動を行っている部活動のうち、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、新たに開始もしくは充実したものはありますか。(1つに○)

1. ある

2. ない

3. わからない

(Q7で1の方)

Q9 ボランティア活動を行っている部活動などの活動内容、団体数、生徒数、担当教員数をお答えください。

・活動内容（複数選択可）

1. 健康や医療サービスに関係した活動（献血、入院患者の話し相手など）
2. 高齢者を対象とした活動（高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど）
3. 障害者を対象とした活動（手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など）
4. 子供を対象とした活動（子供の居場所づくり、学習支援、子供会の世話、子育て支援ボランティア、学校行事の手伝いなど）
5. スポーツに関係した活動（スポーツ大会・スポーツイベントの運営、地域のスポーツクラブのコーチや手伝いなど）
6. 文化・芸術・学術に関係した活動（美術館や博物館等のガイドボランティア、文化や芸術に関係したイベント運営ボランティアなど）
7. まちづくり・地域貢献のための活動（道路、公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこし、町会・自治会の活動、観光ガイドボランティア、あいさつ運動など）
8. 安全な生活のための活動（防災活動、パトロールなどの防犯活動、交通安全運動など）
9. 自然や環境を守るための活動（動物の保護活動、森林や緑、海や川を守る活動、リサイクル運動、ごみ減量の推進活動など）
10. 災害に関係した活動（炊き出し、がれきや土砂の撤去など）
11. 在住・訪日外国人のための活動（日常生活の手助けや道案内などの支援活動、国際交流など）
12. 国際協力に関係した活動（在住・訪日外国人のための活動を除く、海外支援協力、難民支援など）
13. 寄附関係（金銭や物品の寄附、募金を集める活動など）
14. 当事者活動、セルフ・ヘルプ・グループ（障害、病気、介護などの体験や困難を抱えている人が、体験を伝えるなどして同様の体験がある人を助けるための活動など）
15. その他（具体的に： _____）

・団体数（ _____ ）団体

・生徒数（ _____ ）人（合計）

・担当教員数（ _____ ）人（合計）

(Q1 または Q7 で 1 の方)

Q10 ボランティア活動を行っている授業や部活動などは、活動にあたり外部の団体と連携していますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1. 市民活動団体 (NPO 法人を除く) | 7. 学校や教育機関 |
| 2. NPO 法人 | 8. 東京ボランティア・市民活動センター |
| 3. 公益法人 | 9. 区市町村のボランティアセンター |
| 4. 地縁団体 (町会・自治会や老人会など) | 10. 行政機関 |
| 5. 当事者団体 (障害者支援団体など) | 11. その他 |
| 6. 事業者 (企業など) | (具体的に :) |
| | 12. 連携していない |

(すべての方)

Q11 ボランティアコーディネーター※として活動できる人はいますか。

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

※ボランティアコーディネーター：ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側を調整する人材

(すべての方)

Q12 東京ボランティア・市民活動センター (飯田橋セントラルプラザ内) をご存じですか。また、利用したことはありますか。(1 つに○)

- | | | |
|--------------|---------------------|---------|
| 1. 利用したことがある | 2. 知っているが、利用したことはない | 3. 知らない |
|--------------|---------------------|---------|

(すべての方)

Q13 東京ボランティア・市民活動センターのウェブサイト「ボラ市民ウェブ」はご存じですか。また、利用したことはありますか。(1 つに○)

- | | | |
|--------------|---------------------|---------|
| 1. 利用したことがある | 2. 知っているが、利用したことはない | 3. 知らない |
|--------------|---------------------|---------|

(すべての方)

Q14 区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。(1 つに○)

- | | | |
|--------------|---------------------|---------|
| 1. 利用したことがある | 2. 知っているが、利用したことはない | 3. 知らない |
|--------------|---------------------|---------|

(すべての方)

Q15 東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア活動情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存じですか。また、閲覧したことはありますか。(1つに○)

- | | | |
|------------------|---------------------|---------|
| 1. サイトを閲覧したことがある | 2. 知っているが、閲覧したことはない | 3. 知らない |
|------------------|---------------------|---------|

(すべての方)

Q16 ボランティア活動に対する今後の取組の意向があれば、ご自由にお書きください。

--

(すべての方)

Q17 ボランティア活動に関して、どのような支援があったらよいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 活動に関する情報提供、情報発信の充実2. 相談窓口の整備3. 活動を行うために必要な知識を学ぶ講習会やイベントの開催4. 生徒の活動支援に関する他の学校の取組事例の紹介5. ボランティア団体などとの交流の場の提供6. 生徒が活動を体験する場の提供7. 生徒が活動を行うために必要な費用の助成8. ボランティアセンターを設置・運営するために必要な費用の助成9. 生徒が活動を行うために必要な用具など物品の供与・貸出10. 活動中の事故に対する保険制度の整備・援助11. ボランティアコーディネーターを派遣する制度の創設12. 活動を評価する表彰制度の創設13. ボランティアポイント制度※の創設14. その他 (具体的に：)15. 特になし |
|---|

※ボランティアポイント制度：ボランティア活動にポイントをつけて、そのポイントに応じて特典を受けられる制度

2 貴校について（すべての方）

Q18 貴校の職員（教職員など含む）の総数は何人ですか。（1つに○）

- | | | |
|--------------|---------------|--------------|
| 1. 10 人未満 | 2. 10～20 人未満 | 3. 20～30 人未満 |
| 4. 30～50 人未満 | 5. 50～100 人未満 | 6. 100 人以上 |
| 7. わからない | | |

Q19 貴校は設立から何年経っていますか。（1つに○）

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 1 年未満 | 6. 20～30 年未満 |
| 2. 1～4 年未満 | 7. 30～50 年未満 |
| 3. 4～6 年未満 | 8. 50～75 年未満 |
| 4. 6～10 年未満 | 9. 75～100 年未満 |
| 5. 10～20 年未満 | 10. 100 年以上 |

Q20 貴校の生徒数は何人ですか。（1つに○）

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1. 50 人未満 | 7. 500～600 人未満 |
| 2. 50～100 人未満 | 8. 600～700 人未満 |
| 3. 100～200 人未満 | 9. 700～800 人未満 |
| 4. 200～300 人未満 | 10. 800～900 人未満 |
| 5. 300～400 人未満 | 11. 900～1,000 人未満 |
| 6. 400～500 人未満 | 12. 1,000 人以上 |

ご協力ありがとうございました。

それぞれの質問について、当てはまる選択肢の番号に○を記入してください。

(すべての方)

(複数選択可)

- (Q1 で 1~11 の方)

1. ある 2. ない 3. わからない

(すべての方)

Q3 貴団体の活動状況についてお答えください。(1つに○)

- | | | |
|--------------|--------------|------------|
| 1. ほとんど毎日 | 2. 週に2～3日くらい | 3. 週に1日くらい |
| 4. 月に2～3日くらい | 5. 月に1日くらい | 6. 年に数回くらい |
| 7. 活動していない | | |

(すべての方)

Q4 貴団体区域内に住んでいる外国人の活動参加状況についてお答えください。(1つに○)

- | | | |
|---------------|----------------|---------------|
| 1. 全員参加している | 2. ほとんど参加している | 3. まあまあ参加している |
| 4. あまり参加していない | 5. ほとんど参加していない | 6. 全く参加していない |
| 7. わからない | | |

(Q4で4～6の方)

Q5 外国人の貴団体活動への参加にあたり、妨げとなっていることについて、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

- | |
|---------------------------------|
| 1. 外国人の区域内での居住状況を把握できていない |
| 2. 外国人住民への声のかけ方がわからない |
| 3. 外国人住民が参加しやすいイベントがない(少ない) |
| 4. 住民や役員について、外国人との共生に理解が得られていない |
| 5. その他(具体的に:) |

(すべての方)

Q6 団体として活動を行うにあたっての課題について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

1. 活動の担い手が不足している
2. 町会・自治会に加入しない住民が増えている
3. 地域の住民が減少している
4. 活動の担い手が高齢化している
5. 活動資金の調達が難しい
6. 会費の徴収が難しい
7. 町会・自治会館などがなく、活動拠点の確保が難しい
8. 町会・自治会活動について住民の理解が得られない
9. 特定の活動（防災・防犯・子供や高齢者の見守りなど）について専門的な知識がない
10. 地元の行政機関、企業、教育機関などの協力が得られない
11. 連携・協力してくれる他の団体が見つからない
12. 新型コロナウイルス感染症が流行している
13. ボランティアポイント制度※など、町会・自治会の活動を後押しする制度がない
14. その他（具体的に： ）

※ボランティアポイント制度：ボランティア活動にポイントをつけて、そのポイントに応じて特典を受けられる制度

2 他の団体との連携について

(すべての方)

Q7 貴団体の活動の企画や実施にあたって、連携している団体はありますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

1. 市民活動団体（NPO 法人を除く）
 2. NPO 法人
 3. 公益法人
 4. 地縁団体（他の町会・自治会や老人会など）
 5. 当事者団体（障害者支援団体など）
 6. 事業者（企業など）
 7. 学校や教育機関
 8. 東京ボランティア・市民活動センター
 9. 区市町村のボランティアセンター
 10. 行政機関
 11. その他（具体的
12. 連携していない ⇒ Q10 へお進みください

(Q7 で 1~11 の方)

Q8 他の団体と連携した活動において、連携した団体はボランティアの募集を行いましたか。行った場合は、おおよその参加人数及び活動内容をお答えください。

[illegible]

(Q7 で 1~11 の方)

Q9 他の団体と連携してよかった点や課題について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

[illegible]

(Q7で12の方)

Q10 今後他の団体と連携して活動を行う場合、妨げとなることは何ですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

1. 連携するための十分な資金がない
2. 活動を行う人材が十分に集まらない
3. 他の住民の理解が得られない
4. 活動場所が見つからない
5. 活動を行うにあたって十分な時間がない
6. 活動を行うための情報が得られない
7. 連携する団体がいない
8. 連携先の理解が得られない
9. 他の団体との連携方法がわからない
10. その他 (具体的に:)

(すべての方)

Q11 今後どのような分野で他の団体と連携して活動を行ってみたいですか。(複数選択可)

1. 地域交流イベント (祭り、餅つき、運動会、クリスマスなど)
2. 防災活動 (防災訓練、防災マップ作成など)
3. 青少年健全育成活動 (伝統文化の継承、スポーツ教室、自然体験、しごと体験など)
4. 高齢者見守り活動 (見守り訪問活動、高齢者サロン活動など)
5. 子育て世代や子供の見守り活動 (多世代交流サロン、子供の居場所づくりなど)
6. 障害者の支援 (外出の付き添い、障害者を対象とした防災訓練など)
7. 在住・訪日外国人への支援 (案内板の多言語化、日常生活を送る上での手助けなど)
8. 防犯活動 (パトロール、防犯講習会、振り込め詐欺防止など)
9. デジタル活用支援 (デジタル機器の使い方講習会やデジタルを活用したイベントなど)
10. 街の環境整備 (清掃活動、緑地の整備など)
11. その他 (具体的に:)
12. 連携して活動したくない

(Q11 で 1～11 の方)

Q12 他の団体と連携していくために必要なことは何だと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

1. 活動資金の確保
2. 町会・自治会への加入促進策
3. 他の町会・自治会との情報共有
4. 活動場所
5. 活動時間
6. 連携する団体の情報
7. ボランティアコーディネーター※など、連携先の団体と調整する人材
8. その他 (具体的に :)

※ボランティアコーディネーター：ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側を調整する人材

(すべての方)

Q13 東京都では、“ちょっとした困りごと”を抱える町会・自治会と、それをお手伝いする地元ボランティアとを区市町村がコーディネーターとなってつなげる取組を一部の区市と連携して実施しています。このような取組を実施してみたいですか。現在、既に連携している場合は、今後についてお答えください。(1つに○)

1. 実施してみたい
2. 余裕があれば実施してみたい
3. 実施したくない
4. 地元ボランティアにお願いする困り事がないため実施する必要はない

(すべての方)

Q14 ボランティアコーディネーター※として活動できる人はいますか。

1. いる
2. いない

※ボランティアコーディネーター：ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側を調整する人材

3 その他の活動などについて

(すべての方)

Q15 貴団体では、地域の人が気軽に集まって交流できるような場所で、家庭や職場とは異なるもの（サードプレイス）を設ける取組を行っていますか。

(例) 空き家、地域の学校などを利用した高齢者サロン、子育て支援拠点など

1. 行っている	2. 行っていない
◎「1.行っている」と答えた方は、どのような活動内容か、具体的にお書きください。	

(すべての方)

Q16 東京ボランティア・市民活動センター（飯田橋セントラルプラザ内）をご存じですか。また、利用したことはありますか。（1つに○）

1. 利用したことがある	2. 知っているが、利用したことはない	3. 知らない
--------------	---------------------	---------

(すべての方)

Q17 区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。（1つに○）

1. 利用したことがある	2. 知っているが、利用したことはない	3. 知らない
--------------	---------------------	---------

(すべての方)

Q18 東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア活動情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存じですか。また、閲覧したことはありますか。（1つに○）

1. サイトを閲覧したことがある	2. 知っているが、閲覧したことはない	3. 知らない
------------------	---------------------	---------

(すべての方)

Q19 ボランティア活動（町会・自治会活動を含む）に対する今後の取組の意向があれば、ご自由にお書きください。

--

4 貴団体について（すべての方）

Q20 貴団体の役員数は何人ですか。（1つに○）

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 1. 5人未満 | 2. 5～10人未満 | 3. 10～20人未満 |
| 4. 20～30人未満 | 5. 30～50人未満 | 6. 50人以上 |

Q21 貴団体に加入している世帯数はどのくらいですか。（1つに○）

- | | | |
|--------------|--------------|------------------|
| 1. 10世帯未満 | 2. 10～49世帯 | 3. 50～99世帯 |
| 4. 100～299世帯 | 5. 300～999世帯 | 6. 1,000～1,999世帯 |
| 7. 2,000世帯以上 | | |

Q22 住民の貴団体への加入率はどのくらいですか。（1つに○）

- | | | |
|------------|-----------|-----------|
| 1. 10%未満 | 2. 10～19% | 3. 20～29% |
| 4. 30～49% | 5. 50～69% | 6. 70～89% |
| 7. 90～100% | 8. わからない | |

Q23 貴団体は加入促進のためにどのような取組を行っていますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数選択可）

- | |
|---|
| 1. 地域交流イベント（祭り、餅つき、運動会、クリスマスなど）を実施して、当日募集 |
| 2. チラシ、パンフレットなどを作成して周知 |
| 3. 回覧板による募集 |
| 4. 各家庭に訪問して募集 |
| 5. 現会員による口コミや呼び込み |
| 6. 地域の学校や商店街を通じた呼び込み |
| 7. ホームページ・SNSを通じた呼び込み |
| 8. その他（具体的に： _____） |
| 9. 加入促進活動をしていない |

ご協力ありがとうございました。

「都民等のボランティア活動等に関する実態調査」

登録番号 (4) 139

令和 5 年 3 月発行

編集・発行 東京都生活文化スポーツ局都民生活部地域活動推進課
東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電 話 03 (5388) 3156

調査委託 株式会社リサーチ東京
東京都杉並区成田西 4-11-18
電 話 03 (3391) 8833

< お 願 い >

この報告書の内容を引用される場合、その旨を下記
にご連絡ください。なお、印刷物の場合はその掲載部
分の写しをお送りくだされば幸いです。

東京都生活文化スポーツ局
都民生活部地域活動推進課

〒163-8001 新宿区西新宿二丁目8番1号

電 話 03 (5388) 3156

FAX 03 (5388) 1331

E-mail : S1121202@section.metro.tokyo.jp